秋田県文化財調査報告書第304集

十二牲B遺跡

― 県営ほ場整備事業（金沢地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

2000・3

秋田県教育委員会

十二牲（じゅうにしょう）B遺跡

— 県営ほ場整備事業（金沢地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2000・3

秋田県教育委員会

1．須恵器壺（突帯付）

2．土師器甕（長胴丸底形）

序

豊かな自然は、そこに暮らす人々にとってそれだけで貴重な財産となります。また、そのような環境を生かしつつ、より豊かで住みやすい生活環境を創造するための開発も望まれるところであります。

本県には、この豊かな自然と共存しつつ悠久の歴史を築き上げてきた先人の数多くの遺産があります。埋蔵文化財もその一つとして保護され次世代へ正しく継承されるべきものであります。

このような中にあって、米どころ秋田県も各方面から諸策を展開し、時代の波に対応すべく絶え間ない取り組みがなされています。その一環として大規模な県営ほ場整備事業（金沢地区）が計画されました。

本事業地内には十二牲B遺跡があり、平成10年度に発掘調査を実施しました。その結果、平安時代の遺構や遺物が検出され、特に当時遺跡周辺で生産されていたと思われる土師器や須恵器が多数出土したことにより、平安時代の横手盆地における土器文化を推し測る上で貴重な資料を得ることができました。

本報告書は、これらの調査記録をまとめたものであります。本書が、埋蔵文化財の保護に広く活用され、郷土の歴史や文化を研究する資料として、多くの方々にご利用いただければ幸いに存じます。

最後に、本調査の実施並びに本書の刊行に際し、ご援助、ご協力を賜りました秋田県平鹿農林事務所、横手市中央土地改良区、横手市、横手市教育委員会をはじめ、関係各位に対し深い感謝の意を表する次第であります。

平成12年3月

秋田県教育委員会

教育長　小野寺　清

例　言

1．本書は、県営ほ場整備事業（金沢地区）に係る、秋田県横手市金沢中野字十二牲１外に所在する十二牲Ｂ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．本遺跡の発掘調査は、1998（平成10）年５月26日から10月６日まで秋田県教育委員会が実施した。

3．調査の内容については、すでにその一部が平成10年度『秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料』や平成10年度『秋田県埋蔵文化財センター年報17』などによって公表されているが、本報告書を正式なものとする。

4．本書に使用した地図は、国土地理院発行の２万５千分の１地形図「金沢本町」、横手市作製千分の１管内図「金沢地区地形図１」である。

5．本書に使用した土色表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』1998年版に拠った。

6．本遺跡の出土試料に関する自然科学分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その結果報告を本書第５章「自然科学的分析」として掲載した。

7．本書の作成にあたり、次の諸氏・諸機関よりご指導、ご教示を賜った。記して深謝の意を表する。（五十音順、敬称略）

利根川章彦、富田和夫、原　明芳、平川　南、広田和穂、山田真一、綿田弘実、渡辺　一

埼玉県鳩山町教育委員会、埼玉県埋蔵文化財調査事業団、長野県埋蔵文化財センター、長野県立歴史館、横手市教育委員会

8．本書の執筆は、第２章「遺跡の立地と環境」のうち第１節「遺跡の立地」を佐々木政任が行い、第５章「自然科学的分析」は、株式会社パリノ・サーヴェイの分析結果報告を掲載し、これ以外を照井洋子と山中徹の協力を得て、小林芳行が行った。

9．第６章での記述に関する参考文献は、第４章の第３節末に掲げた。

10．本書の編集は、本間美紀子の協力を得て、小林芳行が行った。

凡　例

1．本書に収載した地図及び遺構実測図に付した方位は、国家座標第Ｘ系による座標北を示す。本遺跡のグリッド杭座標原点ＭＡ50（Ｘ＝-69800.000,Ｙ＝-23800.000）とした位置における座標北と磁北との偏角は西偏7°30′である。

2．各遺構・遺物に付している略記号は下記のとおりである。

遺構　　ＳＡ：柱列　　ＳＢ：掘立柱建物跡　　ＳＤ：溝跡　　ＳＪ：窯跡　　ＳＫ：土坑

ＳＫＩ：竪穴状遺構　　ＳＫＰ：柱穴様ピット　　Ｐ：柱穴　　ＳＸ：その他の遺構

遺物　　RP：土器　　RS：礫

3．遺構番号は、種類に関係なく検出順に通し番号を付したが、後に検討の結果、遺構ではないと判断したものは欠番とした。

4．遺構の計測値のうち、深さについては確認面から最深部までの計測値とした。

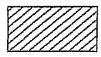
5．遺物実測図の番号は、各頁毎に一連番号を付し、遺物観察表、写真図版とも対応できるようになっている。ただし、実測図もしくは写真図版のみの掲載とした遺物もある。なお、遺構内遺物出土状況図の遺物番号は、丸囲み数字を用いて一連番号を付したが、これは遺構内遺物出土状況図毎に機械的に一連番号を付したもので、遺構内遺物出土状況図・遺物実測図対応一覧表によって遺物実測図と照合できるようになっている。

6．遺物観察表中の法量計測値については、遺物の各計測部位が一部欠損している場合は計測値に（　）を付し、推定値とした。

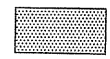
7．挿図中の須恵器断面は、土師器と区別するため黒く塗りつぶした。

8．土層番号に用いた数字は、ローマ数字を遺跡基本土層に、算用数字を遺構土層に使用して区別した。

9．挿図に使用したスクリーントーンは、下記のとおりである。それ以外については各挿図中に凡例を示してある。


地山

礫塊


釉薬

グライ化層

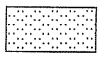
被熱痕

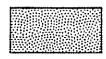
自然釉

炭化物

塗り（朱）

内面黒色処理


火山灰


塗り（黒）

目　次

巻頭図版
序
例言 …… ii
凡例 …… ii
本文目次 …… iv
挿図目次 …… v
表目次・図版目次 …… vi

第１章　はじめに …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査要項 …… 1
第２章　遺跡の環境 …… 3
　第１節　遺跡の位置と立地 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 6
第３章　発掘調査の概要 …… 9
　第１節　遺跡の概観 …… 9
　第２節　調査の方法 …… 10
　第３節　調査の経過 …… 15
第４章　調査の記録 …… 17
　第１節　検出遺構と出土遺物 …… 17
第５章　自然科学的分析 …… 116
第６章　まとめ …… 122

図版
報告書抄録
あとがき

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図 …… 4
第２図　地形区分図 …… 5
第３図　十二牲Ｂ遺跡と周辺遺跡位置図 …… 7
第４図　遺構配置概略図 …… 11
第５図　基本土層ベルト配置図 …… 12
第６図　調査区の基本層序（１） …… 13
第７図　調査区の基本層序（２） …… 14
第８図　SK01・SK12・SK13・SK32 …… 27
第９図　SKI02・SKI02　遺物出土状況図 …… 28
第10図　SD03（１） …… 29
第11図　SD03（２） …… 31
第12図　SD03（３） …… 32
第13図　SD03　遺物出土状況図 …… 33
第14図　SD07 …… 35
第15図　SD07　遺物出土状況図 …… 36
第16図　SKI09・SK10 …… 37
第17図　SKI09・SK10　遺物出土状況図 …… 38
第18図　SX15 …… 39
第19図　SX15　遺物出土状況図 …… 40
第20図　SJ18・SJ18　遺物出土状況図 …… 41
第21図　SB45（１） …… 42
第22図　SB45（２） …… 43
第23図　SA46 …… 44
第24図　SK01・SKI02・SK12　出土遺物 …… 45
第25図　SD03 出土遺物（１） …… 46
第26図　SD03 出土遺物（２） …… 47
第27図　SD03 出土遺物（３） …… 48
第28図　SD03 出土遺物（４） …… 49
第29図　SD03 出土遺物（５） …… 50
第30図　SD07 出土遺物 …… 51
第31図　SKI09 出土遺物（１） …… 52
第32図　SKI09 出土遺物（２） …… 53
第33図　SKI09 出土遺物（３）・SK10 出土遺物 …… 54
第34図　SX15 出土遺物（１） …… 55
第35図　SX15 出土遺物（２） …… 56
第36図　SX15 出土遺物（３） …… 57
第37図　SX15 出土遺物（４） …… 58
第38図　SX15 出土遺物（５） …… 59
第39図　SX15 出土遺物（６） …… 60
第40図　SX15 出土遺物（７） …… 61
第41図　SX15 出土遺物（８） …… 62
第42図　SX15 出土遺物（９） …… 63
第43図　SX15 出土遺物（10） …… 64
第44図　SX15 出土遺物（11） …… 65
第45図　SJ18 出土遺物（１） …… 66
第46図　SJ18 出土遺物（２） …… 67
第47図　SJ18 出土遺物（３） …… 68
第48図　SJ18 出土遺物（４） …… 69
第49図　SJ18 出土遺物（５） …… 70
第50図　SJ18 出土遺物（６） …… 71
第51図　SKP24・SA46P5 出土遺物 …… 72
第52図　SKP35 出土遺物 …… 73
第53図　遺構外出土遺物（１） …… 74
第54図　遺構外出土遺物（２） …… 75
第55図　遺構外出土遺物（３） …… 76
第56図　遺構外出土遺物（４） …… 77
第57図　遺構外出土遺物（５） …… 78
第58図　遺構外出土遺物（６） …… 79
第59図　遺構外出土遺物（７） …… 80
第60図　遺構外出土遺物（８） …… 81
第61図　遺構外出土遺物（９） …… 82
第62図　遺構外出土遺物（10） …… 83
第63図　遺構外出土遺物（11） …… 84
第64図　遺構外出土遺物（12） …… 85
第65図　遺構外出土遺物（13） …… 86
第66図　遺構外出土遺物（14） …… 87
第67図　遺構外出土遺物（15） …… 88
第68図　遺構外出土遺物（16） …… 89
第69図　遺構外出土遺物（17） …… 90
第70図　遺構外出土遺物（18） …… 91
第71図　遺構外出土遺物（19） …… 92
第72図　遺構外出土遺物（20） …… 93
第73図　遺構外出土遺物（21） …… 94
第74図　遺構外出土遺物（22） …… 95
第75図　遺構外出土遺物（23） …… 96
第76図　遺構外出土遺物（24） …… 97
第77図　遺構外出土遺物（25） …… 98
第78図　遺構外出土遺物（26） …… 99
第79図　遺構外出土遺物（27） …… 100
第80図　遺構外出土遺物（28） …… 101
第81図　遺構外出土遺物（29） …… 102
第82図　遺構外出土遺物（30） …… 103

第83図　遺構外出土遺物（31）……104
第84図　遺構外出土遺物（32）……105
第85図　遺構外出土遺物（33）……106
第86図　遺構外出土遺物（34）……107
第87図　遺構外出土遺物（35）……108
第88図　遺構外出土遺物（36）……109
第89図　遺構外出土遺物（37）……110
第90図　遺構外出土遺物（38）……111
第91図　遺構外出土遺物（39）……112
第92図　遺構外出土遺物（40）……113
第93図　遺構外出土遺物（41）……114
第94図　遺構外出土遺物（42）……115

表　目　次

第１表　十二牲Ｂ遺跡周辺の遺跡一覧 …… 7
第２表　主な検出遺構一覧（１） …… 18
第３表　主な検出遺構一覧（２） …… 19
第４表　主な検出遺構一覧（３） …… 20
第５表　遺物観察表（１） …… 21
第６表　遺物観察表（２） …… 22
第７表　遺物観察表（３） …… 23
第８表　遺物観察表（４） …… 24
第９表　遺物観察表（５） …… 25
第10表　遺構内遺物出土状況図・
　　遺物実測図対応一覧表 …… 26

図　版　目　次

巻頭図版１　１．須恵器壺（突帯付）
　　２．土師器甕（長胴丸底形）
図版１　１．遺跡遠景（金沢公園から眺望）
　　２．作業風景（南東から）SD03 掘り下げ
　　３．作業風景（南東から）SJ18 付近掘り下げ
図版２　１．基本土層Ｅ－Ｆ
　　２．SK01 土層断面（南西から）
　　３．SKI02 土層断面（北東から）
図版３　１．SD03 完掘状態（北西から）
　　２．SD07 土層断面（西から）
　　３．SKI09・SK10 完掘状態（西から）
図版４　１．SX15 木材出土状況（南東から）
　　２．SD07 完掘状態（南から）
図版５　１．SJ18 遺物出土状況（西から）
　　２．SJ18 完掘状態（西から）
　　３．SK32 半截状況（南から）
図版６　１．SB45P1 柱材出土状況（南東から）
　　２．SB45P2 柱材出土状況（南から）
　　３．SB45P3 柱材出土状況（南から）
　　４．SB45P4 柱材出土状況（南西から）
　　５．SB45P5 柱材出土状況（南から）
　　６．須恵器出土状況（SB45 付近、真上から）
図版７　１・２・３
図版８　１．須恵器甕と肩部刻書拡大
　　２．須恵器甕（口頸部）と肩部刻書「真公」拡大
　　３．須恵器甕（口頸部）の頸部に波状文
図版９　１．須恵器坏と外底面の墨書「寺」
　　２．須恵器坏と外底面の墨書「小」
　　３．須恵器甕（口頸部）の頸部に波状文
　　４．須恵器甕（口頸部）の頸部に波状文
図版10　１・２・３
図版11　１・２・３・４・５・６・７・８
図版12　１・２・３・４・５・６・７・８・９・10
図版13　１・２・３・４・５・６・７・８・９
図版14　１．漆器　黒（左）・朱（右）
　　２．漆器　黒（左）・朱（右）
　　３．漆器　黒（左）・朱（右）
　　４．漆器　黒（左）・朱（右）
　　５．漆器　黒（左）・朱（右）
図版 15　１－表・１－裏・２－表・２－裏・３・４・５・６・７・８
図版16　１．木簡（赤外線写真）・釈文
図版17　１・２・３・４・５・６・７・８・９・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19
図版18　１・２・３・４・５・６・７・８
図版19　１・２・３・４・５・６・７・８・９・10・11・12・13
図版20　テフラ（1，2）・植物珪酸体（３）
図版21　花粉化石
図版22　木材断面

第1章　はじめに

第1節　調査に至る経過

県営ほ場整備事業（金沢地区）の計画地域は、西奥羽最大の盆地であり秋田県の穀倉地帯でもある横手盆地の中央部から南東寄り、奥羽山脈西縁に掛けての横手市北部に位置する。この地域は、米作と果樹栽培を基幹とする農村地帯であるが、その生産基盤の整備状況は、区画や農道が狭く用排水路とも土水路のため漏水が顕著で、機械効率の低下及び維持管理に困窮しているのが現状である。

このことから本事業は、1996（平成8）年度から2000（平成12）年度まで5ヵ年計画で249haを計画面積として区画の拡大、用排水路の完全分離及び装工、農道の拡幅及び舗装、暗渠排水等の工事を行って農作業機械の大型化及び作業効率の向上を図り、生産コストの低減を実現することによって農作業受委託及び所有権移転等の流動化を促進し、農業構造の改善に資することを目指して策定され、現在実施中である。

本事業の計画区域内に、1985（昭和60）年度に実施された横手市教育委員会による分布調査の結果、周知の遺跡となっている十二牲Ｂ遺跡が存在することから、工事施行者である秋田県農政部は文化財保護法に基づき秋田県教育委員会に埋蔵文化財の分布調査を依頼した。秋田県教育委員会は、それを受けて1996（平成8）年4月18日から19日まで計画区域内の試掘を行い、今後範囲確認調査が必要であることと、範囲確認調査の結果、記録保存が必要な場合には発掘調査を実施すべきことを回答した。

以上のような経緯に基づき、1997（平成9）年度に十二牲Ｂ遺跡の範囲確認調査を実施し、1998（平成10）年度に十二牲Ｂ遺跡の発掘調査を実施するに至った。

第2節　調査要項

遺　跡　名	十二牲Ｂ遺跡（じゅうにしょうＢいせき）（遺跡略号　8ＪＮＳ－Ｂ）
所　在　地	秋田県横手市金沢中野字十二牲1外
調査期間	平成10年5月26日～10月6日
調査面積	7,580㎡
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当者	小　林　芳　行（秋田県埋蔵文化財センター調査課　学芸主事）
	照　井　洋　子（秋田県埋蔵文化財センター調査課　非常勤職員）
	山　中　　徹（秋田県埋蔵文化財センター調査課　非常勤職員）
総務担当者	菅　原　　晃（秋田県埋蔵文化財センター総務課　主査）
	佐　藤　幸　嗣（秋田県埋蔵文化財センター総務課　主事）
	（平成11年3月転出　現　秋田県教育庁福利課　主事）
	八文字　　隆（秋田県埋蔵文化財センター総務課　主事）

調査協力機関　　秋田県平鹿農林事務所
横手市中央土地改良区
横手市教育委員会

参考文献

1．秋田県平鹿農林事務所 「県営ほ場整備事業金沢地区の概要」 1995（平成７）年
2．横手市教育委員会 『秋田県横手市　遺跡詳細分布調査報告書』 横手市文化財調査報告 11　1986（昭和 61）年
3．秋田県教育委員会 『秋田県遺跡地図（県南版）』 1987（昭和 62）年
4．秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第 270 集　1997（平成９）年

第２章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置と立地

秋田県横手市は県南部、奥羽山脈の西縁で横手盆地の中央東に位置する。北を仙南村と六郷町、東を山内村、南を平鹿町、西を大雄村と接し、面積 110.57㎢、人口 41,055 人（2000 年２月現在）の地方都市である。市南部の秋田道横手インターの開通により、中心部から南に郊外型の店舗が並び、開発が進行中であるが、市北部は農地の割合が多く開発の波は激しくない。

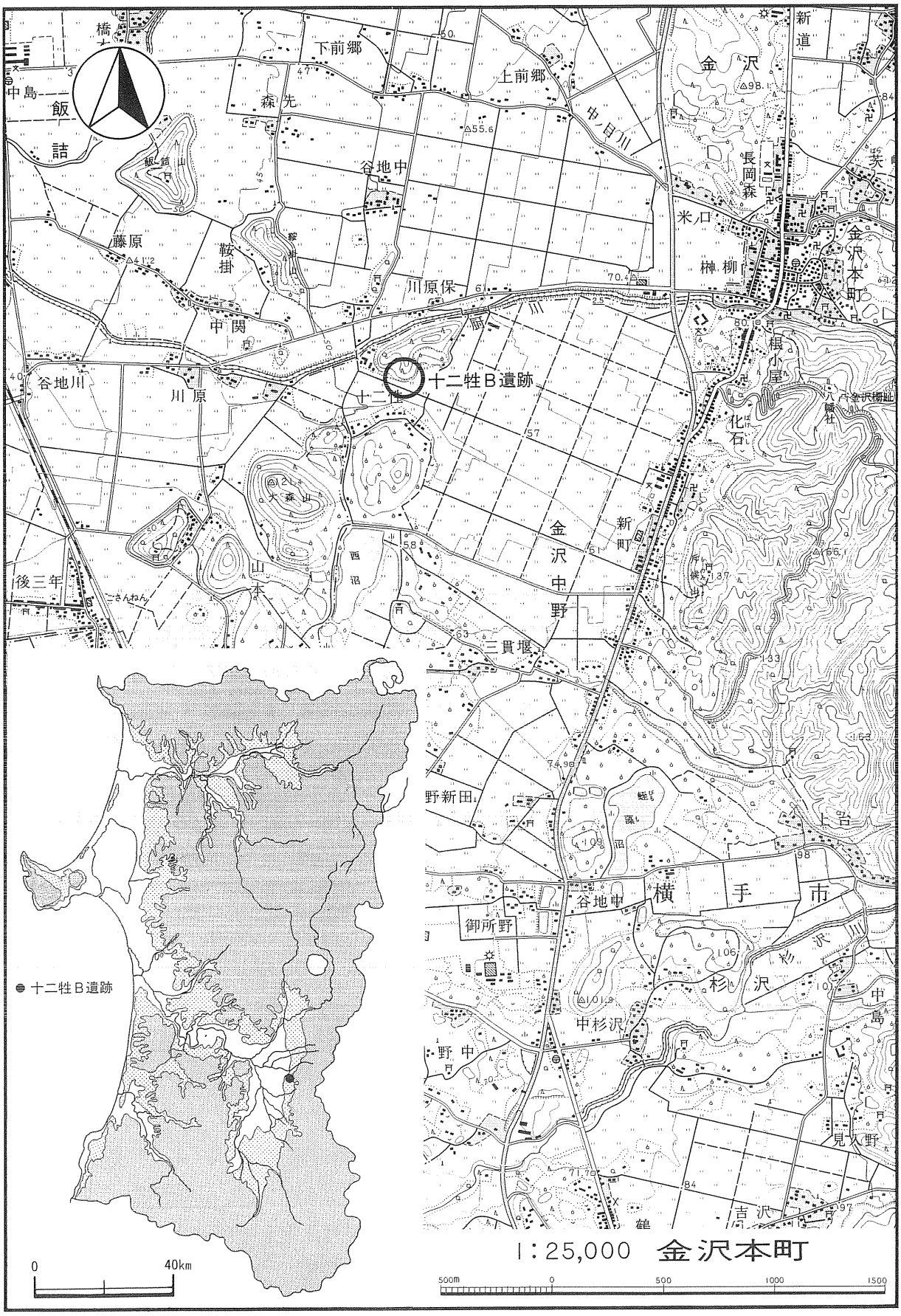
十二牲Ｂ遺跡は、横手市北部の金沢中野地区に所在し、北緯 39°22′15″、東経 140°33′26″、ＪＲ東日本奥羽本線後三年駅の北東方向約 1.6㎞に位置する。付近の主要幹線道路は、遺跡の東を南北にはしる国道 13 号線が最も通行量が多い。同地区の北西部は、仙北郡仙南村に隣接しており、東方の奥羽山脈中に源を発して西流する厨川が北の市町村境となる。

一般に日本の平野（平地）は河川の運搬・浸食作用を起源として成立し、沖積平野と称される。本遺跡が含まれる横手盆地もこのひとつである。横手盆地は西奥羽盆地最大の盆地で、南北の長さ約 60㎞、東西の幅約 15㎞で総面積約 900㎢の南北に狭長な形状である。奥羽山脈は第四紀の大規模な地殻変動による隆起地域であり、侵食量も大きく急峻な地形を呈している。横手盆地の東縁は、真昼岳断層崖によって奥羽脊梁山脈に接する。西縁は、姫神・大森断層崖によって、丘陵性の出羽山地に接している。盆地北部の角館付近では、分離段丘が多い。南部の国見岳断層崖と、東鳥海断層崖もきわめて明瞭である。こうした周囲の地形との対比から、横手盆地は断層を伴った構造盆地であることがわかる。また、横手盆地の南東に接する金峰山山地の南端からは、中山丘陵が北西方向に延びている。流水の堆積作用により盆地面下に埋没しているが、大雄村田根森地区の北東 700ｍ、標高 37.1ｍの三角点においては埋没しきれずに露出している。この中山丘陵を含む横手盆地は、雄物川水系の大小河川が侵食した跡を刻み、平地と丘陵の漸移地帯では複合扇状地をはじめ、多彩な小地形がみられるため、地形学的に研究対象の宝庫である。

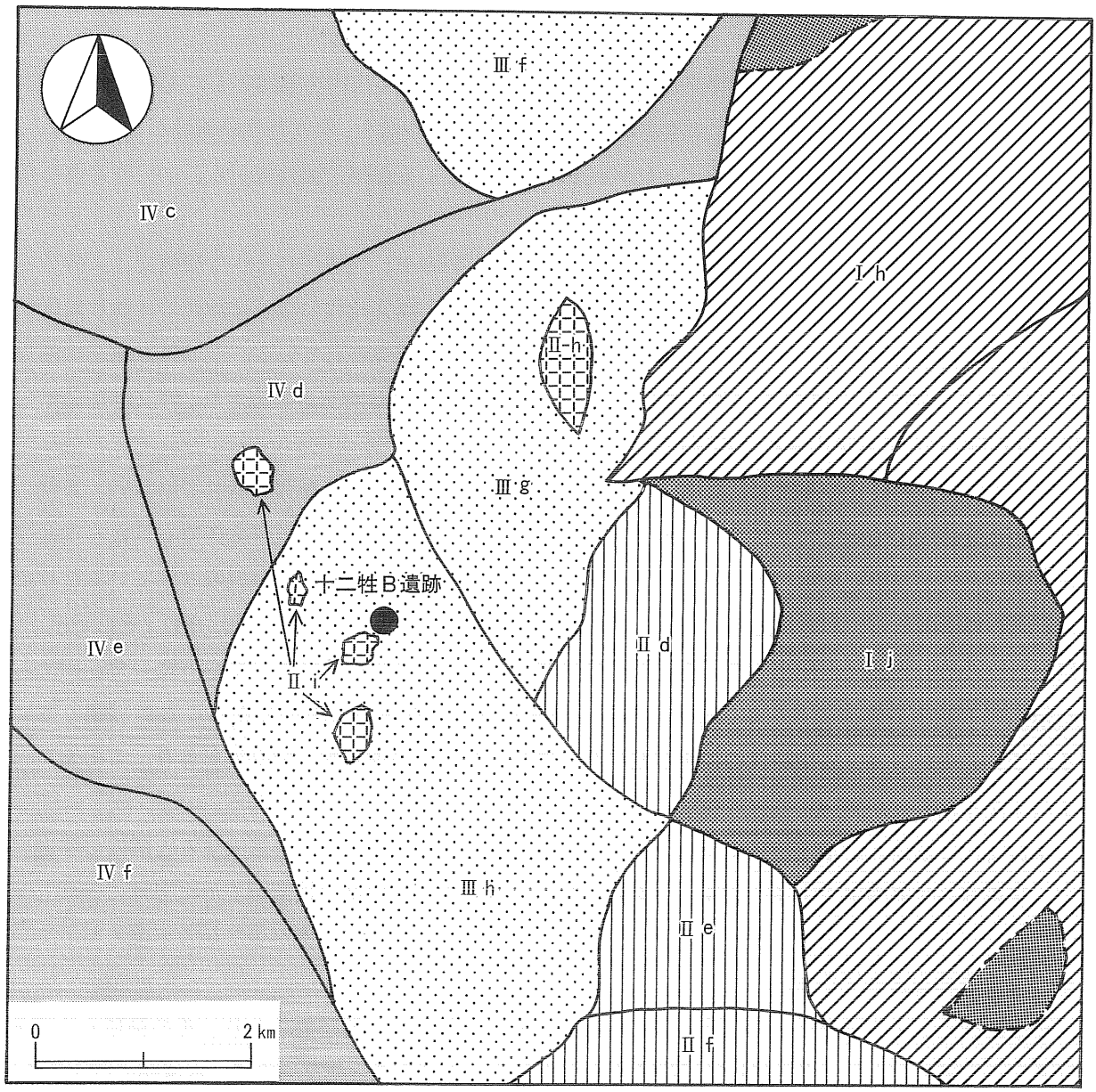
金沢中野地区周辺にも、奥羽山脈西縁の複合扇状地扇央から末端にかけて南から延びる中山丘陵の残丘が点在している。本遺跡は厨川左岸の湯森山（標高 92.4ｍ）と十二牲山（標高 90.6ｍ）と呼ばれる分離段丘（残丘）に挟まれた沖積地に立地している。

本遺跡付近は弥勒層（中新世）が下層、上層に千屋層（鮮新世）が位置し、湯森山と十二牲山に挟まれた沖積低地には砂礫（扇状地前延扇状堆積物）の堆積が奥羽山脈方向へ筋状に延伸している。このことから、奥羽山脈西側丘陵地帯の谷口に展開する古い扇状地から進出し、新しい扇状地を形成した旧河川の存在がうかがえる。この旧河川は現表土面では確認されないが、地形図の等高線のうねりと調査で明らかになった河道跡からその痕跡を確認することができる。また、遺跡は新旧扇状地境界にあるため、古環境では古い扇状地の扇端に位置し、比較的水を得やすかったと考えられる。

表層土壌は強グライ土色の田川統で、本遺跡を含み、金沢中野地区に島状に分布している。一般的にグライ土壌は浸透性の低さから、地下水が高く保たれ、水稲の生産性に都合がよいとされる。田川統グライ土壌は稲作に適しており、この性質を利用した水稲耕作が主な土地利用の現況である。


十二牲Ｂ遺跡
十二牲
下前郷
上前郷
森先
谷地中
中ノ目川
金沢
新道
長岡森
米口
柳
金沢本町
藤原
鞍掛
川原保
中関
谷地川
川原
根小屋
化石
金沢城址
火森山
金沢中野
新町
山本
後三年
西沼
三貫堰
野新田
谷地中
横手市
御所野
杉沢川
杉沢
中杉沢
中島
見入野
吉沢
1:25,000　金沢本町
500m
0
500
1000
1500
十二牲Ｂ遺跡
0
40km

第１図　遺跡位置図



山　地　（中起伏）（小起伏）　丘陵地　（大起伏）（小起伏）　台　地　低　地

——— 地形区界線　－－－－ 地形分類界線

Ⅰ　山　地
（Ⅰｈ）四天地山地・（Ⅰｉ）御岳山山地・（Ⅰｊ）片倉山山地
Ⅱ　丘陵地
（Ⅱｄ）金沢丘陵群・（Ⅱｅ）中島丘陵群・（Ⅱｆ）吉沢丘陵群
（Ⅱｈ）長岡森丘陵地・（Ⅱｉ）後三年美入野丘阜群
Ⅲ　台　地
（Ⅲｆ）丸子川（六郷）扇状地・（Ⅲｇ）厨川、中ノ目川合成扇状地・（Ⅲｈ）杉沢川、吉沢川合成開析扇状地
Ⅳ　低　地
（Ⅳｃ）丸子川扇状地前延扇状構造低地・（Ⅳｄ）厨川扇状地前延扇状構造低地
（Ⅳｅ）横手川水系右岸低地・（Ⅳｆ）横手川水系左岸低地

第２図　地形区分図

第２節　歴史的環境

横手市教育委員会が作製した横手市遺跡分布地図によると、横手市内の遺跡として180ヵ所以上が掲載されている。このうち縄文時代の遺跡が最も多く100ヵ所を数え、平安時代の遺跡がこれに次ぐ。

ここでは、金沢地区を中心に横手市と仙南村の一部に所在する遺跡に触れながら、十二牲Ｂ遺跡を取り巻く歴史的環境について概観してみたいと思う。

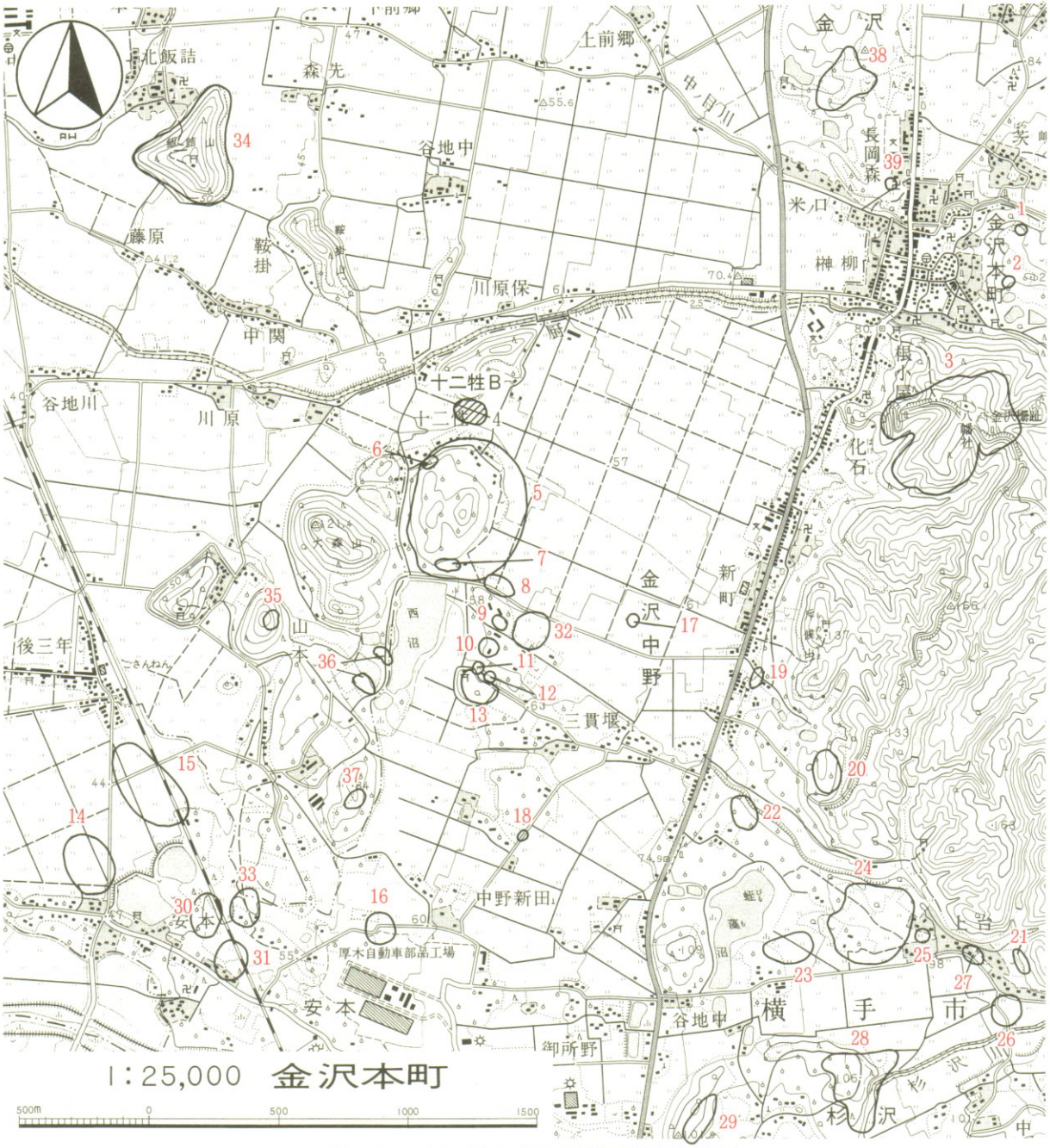
横手市の旧石器時代については発掘調査が行われていないので、当時どのような環境で、この地に人々の生活が存在したのかどうかはっきりとわかっていない。縄文時代の遺跡は前述のとおり豊富でこれまでに発掘調査を行ったほぼどの遺跡からも竪穴住居跡が発見されている。十二牲Ｂ遺跡の南東3kmに位置する中杉沢Ａ遺跡は、1969（昭和44）年から７次にわたる調査が実施され、縄文中期前葉の竪穴住居跡が26軒も検出された集落跡である。

横手市では弥生時代の遺跡は、これまでのところ手取清水遺跡しか発掘調査されていない。また、十二牲Ｂ遺跡周辺地域では弥生時代の遺跡はない。古墳時代の遺跡は、秋田県全体でもほとんど発掘調査された例がなく、横手市では田久保下遺跡とオホン清水Ｂ遺跡の２ヵ所が調査されているだけである。それによると、オホン清水Ｂ遺跡では貼床手法の施された竪穴住居跡が検出され、５世紀末～6世紀始めころの須恵器が出土している。この地域ではまだ須恵器生産の技術はなかったので、出土した須恵器の胎土や器形の分析が行われた結果、関東以西で生産されたものであることが判明している。この調査結果は、古墳時代の横手盆地においては、かなりの遠隔地との交流があり、この地にはまだなかった文化が着実に庶民の生活に入り込んでいたことを物語るものである。

奈良時代の遺跡は、横手市内では未発見であるが、横手盆地内まで範囲を拡大すると隣接の平鹿町で、須恵器の生産遺跡である竹原窯跡が調査されており、須恵器生産の技術がすでに当地に伝播していたことが確認され、大和朝廷による地方支配とともに中央の文化の影響が少なからず強くなっていたことが確実視されている。

平安時代になると前述のとおり横手市内だけでも縄文時代に次ぐ遺跡数となり、その種類も生産遺跡を中心に豊富になる。文字通り生活様式の向上を示すものであると考えられる。本遺跡の南東約1.5kmに物見窯跡があり、９世紀から10世紀前半までを操業期間とする須恵器窯４基が調査された。この他、未調査ではあるが、本遺跡の近傍には十二牲窯跡Ａ・Ｂ、下矢来沢窯跡、保土森窯跡の存在が知られている。また、本遺跡の南東約1.8kmには姥ヶ沢窯跡があり、農免農道工事計画路線にかかるため2000（平成12）年度に発掘調査が行われる予定である。これらの窯跡の調査が進めば本遺跡出土の遺物について何らかの方向性が与えられる可能性が高い。本遺跡の南約1kmに位置する保土森火葬墓出土の須恵器骨壺は、県指定有形文化財になっている。さらに、本遺跡の南東約2.5kmには上台Ａ遺跡があり、1999（平成11）年度に農免農道工事に伴って事前調査が行われた。その結果、平安時代の竪穴住居跡１軒、土師器焼成遺構４基などが検出されている。

平安時代後半の武家政権誕生要因の一つとして重要な位置付けになっている史実「後三年の役」で中核的位置を占める金沢柵跡は、本遺跡の東約1.8kmの丘陵にある。発掘調査は行われたが、出土遺物の多くは中世のもので、平安時代の柵跡としての遺構は検出されていない。なお、柵木の出土報告があるものの、正式な調査や木材の分析等は行われていない。



第３図　十二牲Ｂ遺跡と周辺遺跡位置図

第１表　十二牲Ｂ遺跡周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	老姥山経塚	経塚	平安～鎌倉	21	鞍石沢	遺物包含地	縄文
2	直坂経塚	経塚	平安～鎌倉	22	杉沢字谷地中Ｂ	遺物包含地	縄文
3	金沢城跡	館跡	平安～近世	23	杉沢字谷地中Ａ	遺物包含地	平安
4	十二牲Ｂ	遺物包含地	縄文・平安	24	上台Ａ	遺物包含地	縄文・平安
5	十二牲Ａ	遺物包含地	縄文・平安	25	金沢柵木Ⅲ	柵	平安以降
6	十二牲窯跡Ａ	窯跡	平安	26	上台Ｂ	遺物包含地	縄文・平安
7	十二牲窯跡Ｂ	窯跡	平安	27	上台Ｃ	遺物包含地	縄文
8	下矢来沢Ａ	遺物包含地	平安	28	中杉沢Ａ	集落	縄文
9	下矢来沢窯跡	窯跡	平安	29	中杉沢Ｂ	遺物包含地	縄文
10	下矢来沢Ｂ	遺物包含地	縄文	30	北野添Ａ	遺物包含地	縄文・平安
11	保土森窯跡	窯跡	平安	31	北野添Ｂ	遺物包含地	縄文・平安
12	保土森	集落	縄文	32	下矢来沢Ｃ	集落	平安
13	保土森火葬墓	墓	平安	33	北御所野	遺物包含地	縄文
14	中通西	遺物包含地	平安～中世	34	飯詰城	館跡	中世
15	本田下	遺物包含地	中世	35	東山本	経塚？	中世？
16	北御所野Ａ	遺物包含地	平安	36	飯詰竪穴群	竪穴群	縄文・平安
17	金沢柵木Ⅰ	遺物包含地	平安以降	37	東西法寺	遺物包含地	縄文・平安
18	金沢柵木Ⅱ	柵	平安以降	38	西長岡森	遺物包含地	縄文
19	物見窯跡	窯跡	平安	39	米ノ口	遺物包含地	縄文
20	姥ヶ沢窯跡	窯跡	平安				

参考文献

1．小田島　宏 「横手盆地南部沖積平野の微地形」『秋田地学』 第46号　1996（平成8）年
2．秋田県農政部農地整備課 『土地分類基本調査　六郷』 1988（昭和63）年
3．秋田県農政部農地整備課 『雄平仙中核都市建設計画地域　土地分類基本調査　横手』 1977（昭和52）年
3．秋田県 『秋田県総合地質図幅　六郷』 1976（昭和51）年
4．仙南村 『仙南村郷土史』 1992（平成4）年
5．横手市教育委員会 『秋田県横手市　遺跡詳細分布調査報告書』 横手市文化財調査報告11　1986（昭和61）年
6．秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第281集　1998（平成10）年
7．横手市教育委員会 『横手市遺跡分布地図』
8．横手市教育委員会 『郷土館窯跡第3次発掘調査報告書』 横手市文化財調査報告16　1999（平成11）年
9．横手市教育委員会 『中杉沢遺跡発掘調査概報』 横手市文化財調査報告1　1973（昭和48）年
10．横手市教育委員会 『第7次中杉沢遺跡発掘調査概報』 横手市文化財調査報告2　1974（昭和49）年
11．横手市教育委員会 『手取清水遺跡発掘調査報告書』 横手市文化財調査報告3　1974（昭和49）年
12．秋田県教育委員会 「田久保下遺跡」（第二分冊）『秋田ふるさと村建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第２２０集　１９９２（平成４）年
13．横手市教育委員会 『オホン清水第3次遺跡発掘調査報告書』 横手市文化財調査報告10　1984（昭和59）年
14．秋田県教育委員会 「竹原窯跡」『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書ＸＩ』 秋田県文化財調査報告書第209集　1991（平成3）年
15．杉渕　馨「物見窯跡について」『秋田地方史論集』 1981（昭和56）年
16．秋田県教育委員会 『秋田県の文化財』 1989（平成元）年
17．秋田県教育委員会 「上台Ａ遺跡」『農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ｉ』 秋田県文化財調査報告書第301集　2000（平成12）年
18．秋田県教育委員会・横手市教育委員会『金沢柵跡発掘調査概報』 秋田県文化財調査報告書第12集　1967（昭和42）年
19．秋田県教育委員会・横手市教育委員会『金沢柵跡発掘調査概報』 秋田県文化財調査報告書第23集　1971（昭和46）年
20．秋田県教育委員会・横手市教育委員会『金沢柵跡発掘調査概報』 秋田県文化財調査報告書第25集　1972（昭和47）年

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

十二牲Ｂ遺跡は、横手市北部の金沢中野地区に位置し、厨川左岸の湯森山（標高 92.4ｍ）と十二牲山（標高 90.6ｍ）と呼ばれる分離段丘（残丘）に挟まれた沖積地（標高 51～53ｍ）に立地している（図版 1-1）。

本遺跡付近は弥勒層（中新世）が下層、上層に千屋層（鮮新世）が位置し、湯森山と十二牲山に挟まれた沖積低地には砂礫（扇状地前延扇状堆積物）の堆積が奥羽山脈方向へ筋状に延伸している。このことから、奥羽山脈西側丘陵地帯の谷口に展開する古い扇状地から進出し、新しい扇状地を形成した旧河川の存在がうかがえる。この旧河川は現表土面では確認されないが、地形図の等高線のうねりと調査で明らかになった河道跡からその痕跡を確認することができる。なお現在、遺跡の西縁付近を仙北郡仙南村との市町村境になっている厨川が、東方の奥羽山脈中に源を発して西流する。また、遺跡は新旧扇状地境界にあるため、古環境では古い扇状地の扇端に位置し、比較的水を得やすかったと考えられる。

表層土壌は強グライ土色の田川統で、本遺跡を含み、金沢中野地区に島状に分布している。一般的にグライ土壌は浸透性の低さから、地下水が高く保たれ、水稲の生産性に都合がよいとされる。範囲確認調査においても須恵器や土師器の破片と共伴の独楽（木製品）が出土している。なお、田川統グライ土壌は稲作に適しており、この性質を利用した水稲耕作が、本遺跡を含む金沢中野地区の沖積低地一帯における主な土地利用の現況である。また、遺跡を挟む湯森山と十二牲山を含む遺跡周辺一帯に点在する分離段丘（残丘）では、段丘の傾斜地を利用しての果樹栽培が目立つ。十二牲山の北西麓には十二牲窯跡Ａ、南麓には十二牲窯跡Ｂの存在が確認されており、両窯跡とも平安時代の須恵器窯跡として位置付けられている。

この地域は、明治期から昭和期まで断続的に区画整理や用排水路の整備が行われてきた。特に暗渠排水の敷設状況は、調査区内だけでもかなり古いものから最近のものまで、一部重複して網の目のように張り巡らされている。その結果、遺跡全般に渡って上層面の削平と部分的な破壊が否めない状態であった。しかし、依然としてその生産基盤の整備状況は、区画や農道が狭く用排水路とも土水路のため漏水が顕著で、機械効率の低下及び維持管理に困窮しているのが現状であることから、この地域一帯のほ場整備は、遺跡がすっぽり入る形の 249haを計画面積として実施されることになった。

調査区は、湯森山の縁に沿って東西に弧状の 7,580㎡を範囲としているが、湯森山南東麓の調査区北東側については現代の耕地整理に伴う地形改変が著しく、遺構や遺物の遺存状況は非常に希薄であった。これに対して、湯森山南麓の調査区西側では、範囲確認調査においても高密度で須恵器や土師器の破片が出土する黒褐色土の平安時代遺物包含層を確認するとともに、溝跡の一部を検出していたので遺跡核心部と判断していたとおり、多量の須恵器や土師器及び木製品の出土と溝跡や土師器焼成遺構、掘立柱建物跡を中心とした 29 基の遺構を検出した（第４図）。この調査区西側部分（遺跡核心部）の基本層序は、東西に設定したトレンチ及びそれに直交する南北に設定したトレンチから以下のとお

り観察できた（第５図・第６図・第７図・図版 2-1）。

第Ⅰ層は、暗褐色土（10YR3/3）、一部暗オリーブ褐色土（2.5Y3/3）とオリーブ黒色土（5Y3/2）の腐植混入及び腐植との互層になっている表土層（現耕作土を含む）である。層厚は東寄りの部分で 20～25㎝を測り、調査区西端部の旧河道跡に向かって漸深し、最深部で 120㎝を測る。

第Ⅱ層は、黒色土（5Y2/1）、一部灰白色土（2.5YR8/2）及びグライ化した粘土の明緑灰色土（5G7/1）との互層になっている平安時代遺物包含層である。層厚は東寄りの部分で 15～25㎝を測り、第Ⅰ層同様に調査区西端部の旧河道跡に向かって漸深し、最深部で 60㎝を測る。旧河道跡にかかる区域を除いて、黒色土の単独層が分布する個所では遺物の混入が極端に多く、面的な火山灰の混入も横断的に認められる。

第Ⅲ層は、明緑灰色土（5G7/1）である。グライ化した非常に粘性の強い多量に水分を含んだ粘土の層である。厳密には漸移的な層位を伴っているが、本遺跡の立地する沖積低地においては広義の地山層と捉えている。

第２節　調査の方法

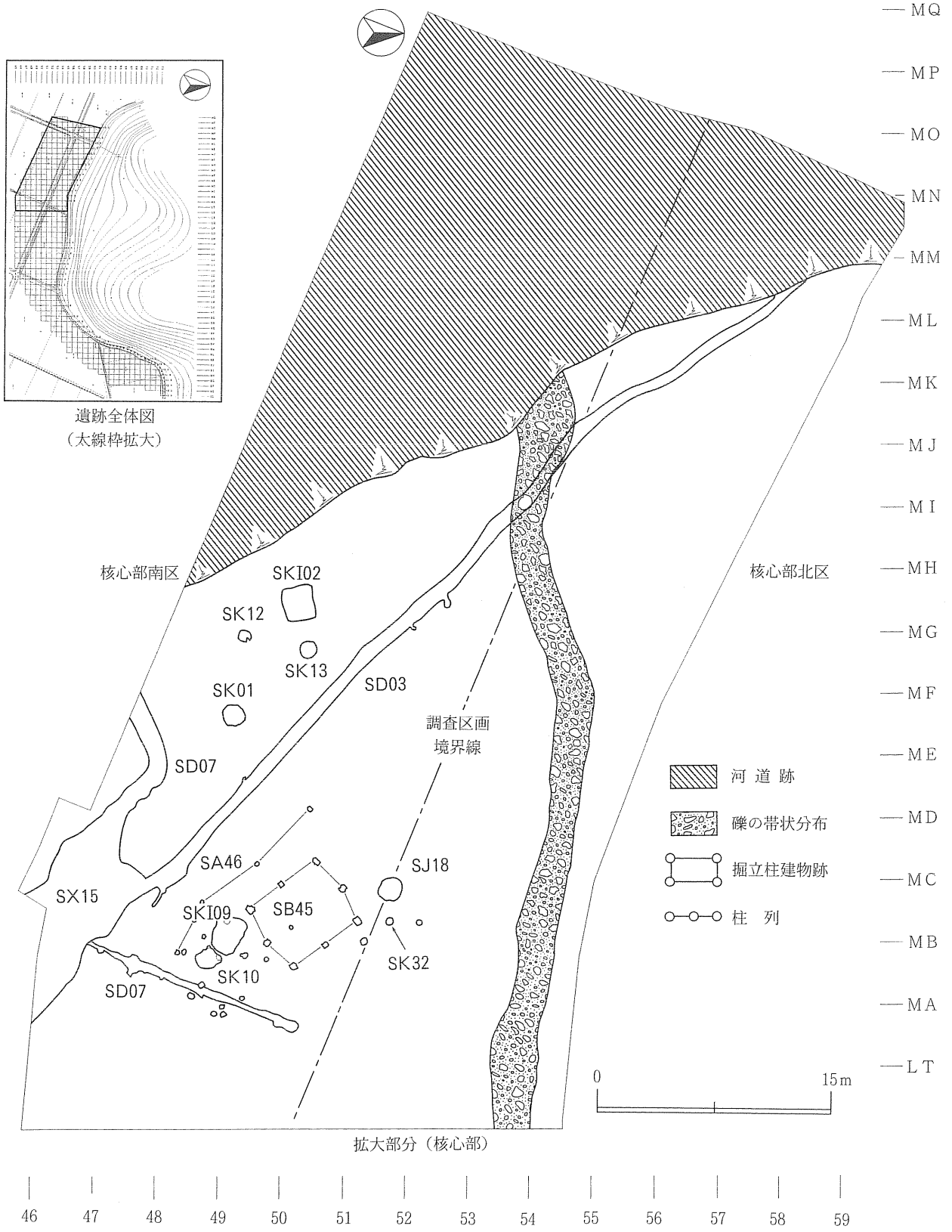
発掘調査はグリッド法を採用した。調査区内に任意の点１ヵ所（国家座標 X＝-69800.000, Y＝-23800.000）を選定し、グリッド原点 MA50 とした。この原点杭から磁北に合わせた南北基線と、これに直交する東西基線を設け、4m×4mのグリッドを設定した。また、グリッド杭には、東から西に向かって東西方向を表す KD・・・・・・KT・LA・・・・・・LT・MA・・・・・・MQ というアルファベットと、南から北に向かって昇順し南北方向を表す 45・46・・・・・・60 の２桁の数字を組み合わせた記号を付し、4m×4mの方眼杭の南東隅をグリッドの呼称とした。

表土除去は、調査区西側の遺跡核心部を人力で行い、それ以外は全て重機で行った。第Ⅱ層からの掘り下げは全て人力で行った。

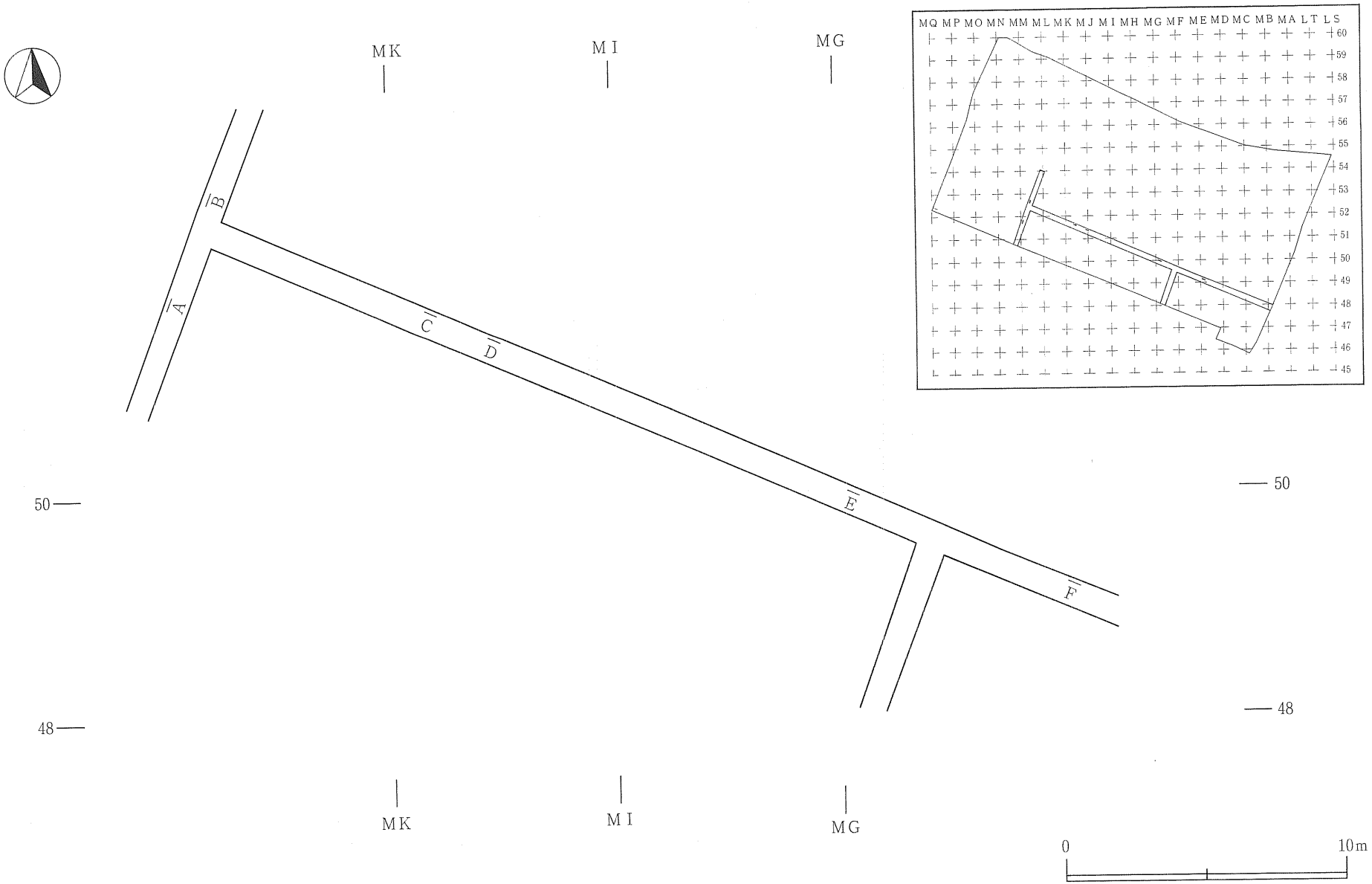
遺構の確認は、極力遺構の掘り込み面での検出に努めようとしたが、現代の耕地整理に伴う削平や非常に水捌けの悪い土壌で、しかも黒色土中の検出作業とあって困難を極めた。その結果、ほとんどの遺構は地山面での確認となった。

遺物は、遺構内出土については、出土遺構名・出土層位・遺物番号・出土年月日を記入し、遺構外出土については、出土グリッド・出土層位・遺物番号・出土年月日を記入したラベルとともに取り上げた。

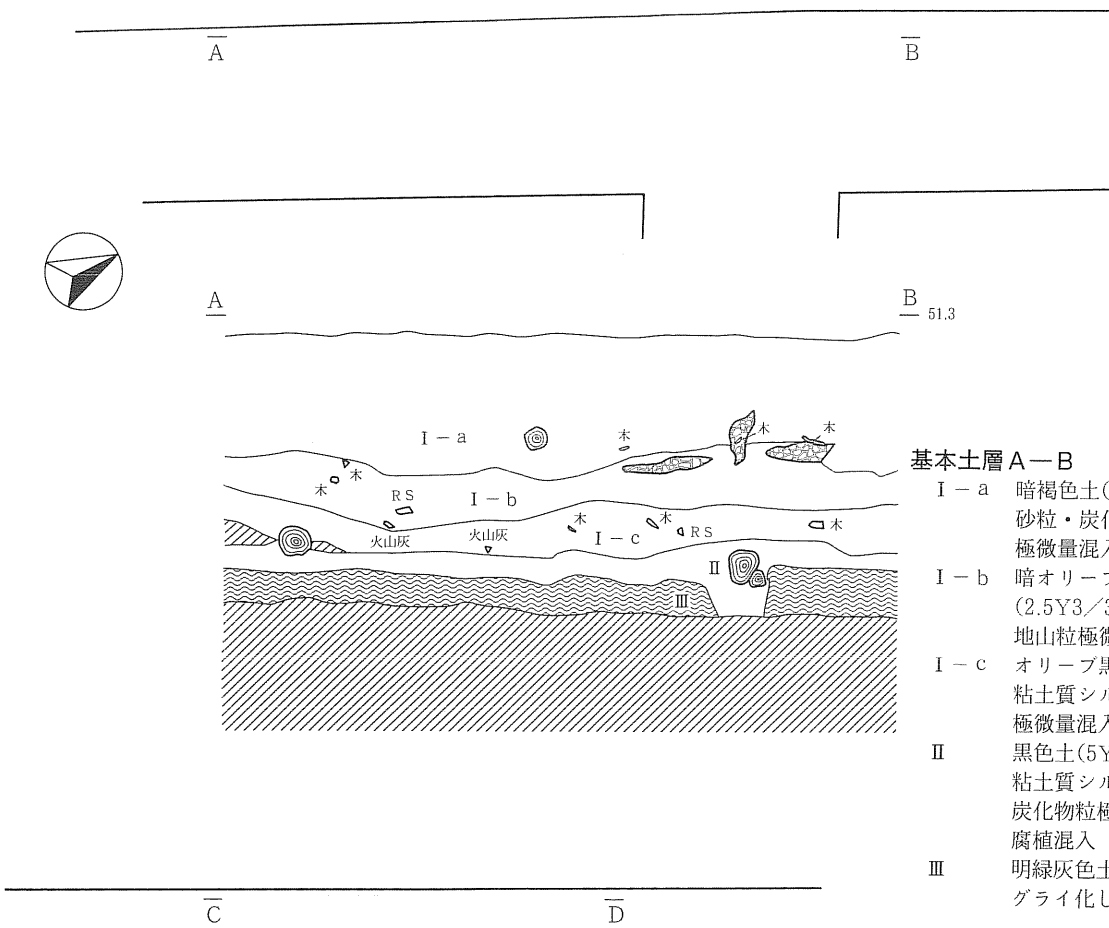
調査の記録は、主に図面と写真によった。図面は基本的には 1/20 の縮尺で作成したが、一部土坑や柱穴様ピットについては 1/10 とした。遺構の平面実測や遺物の出土地点測量は各グリッド杭を利用したが、実測作業の迅速化と省力化を図るため、一部トータルステーションを用いて光波測量を行い、図形化処理やドットマップ化処理を施して平面図を作成した。さらに、これらの遺構平面図と調査範囲図等から遺構配置図など必要な図面も作成した。検出遺構と遺物の出土状況の写真撮影は、35㎜のモノクロ・ネガカラー・カラーリバーサルフィルムを使用した。調査現場において大部分の出土遺物の洗浄を行い、残りは調査終了後、埋蔵文化財センター内で洗浄を行った。さらに、同センター内において注記・接合・実測・写真撮影等を行った。


遺跡全体図
（太線枠拡大）
核心部南区
核心部北区
SKI02
SK12
SK13
SK01
SD03
SD07
調査区画
境界線
SA46
SJ18
SX15
SKI09
SB45
SK10
SK32
SD07
河 道 跡
礫の帯状分布
掘立柱建物跡
柱　列
0
15m
拡大部分（核心部）
MQ
MP
MO
MN
MM
ML
MK
MJ
MI
MH
MG
MF
ME
MD
MC
MB
MA
LT
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59

第４図　遺構配置概略図



第5図　基本土層ベルト配置図



基本土層Ａ－Ｂ

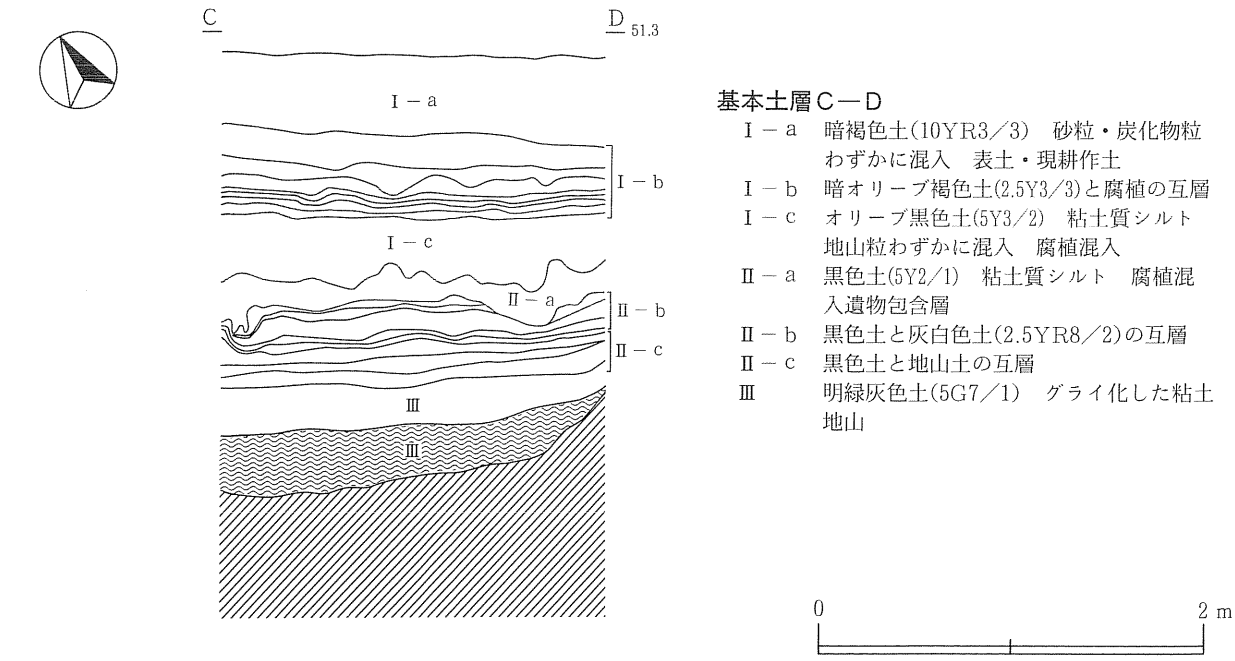
Ⅰ－ａ　暗褐色土(10YR3／3)　砂粒・炭化物粒極微量混入

Ⅰ－ｂ　暗オリーブ褐色土(2.5Y3／3)　シルト　地山粒極微量混入

Ⅰ－ｃ　オリーブ黒色土(5Y3／2)　粘土質シルト　地山粒極微量混入　腐植混入

Ⅱ　黒色土(5Y2／1)　粘土質シルト　地山粒・炭化物粒極微量混入　腐植混入　遺物包含層

Ⅲ　明緑灰色土(5G7／1)　グライ化した粘土　地山



基本土層Ｃ－Ｄ

Ⅰ－ａ　暗褐色土(10YR3／3)　砂粒・炭化物粒わずかに混入　表土・現耕作土

Ⅰ－ｂ　暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)と腐植の互層

Ⅰ－ｃ　オリーブ黒色土(5Y3／2)　粘土質シルト　地山粒わずかに混入　腐植混入

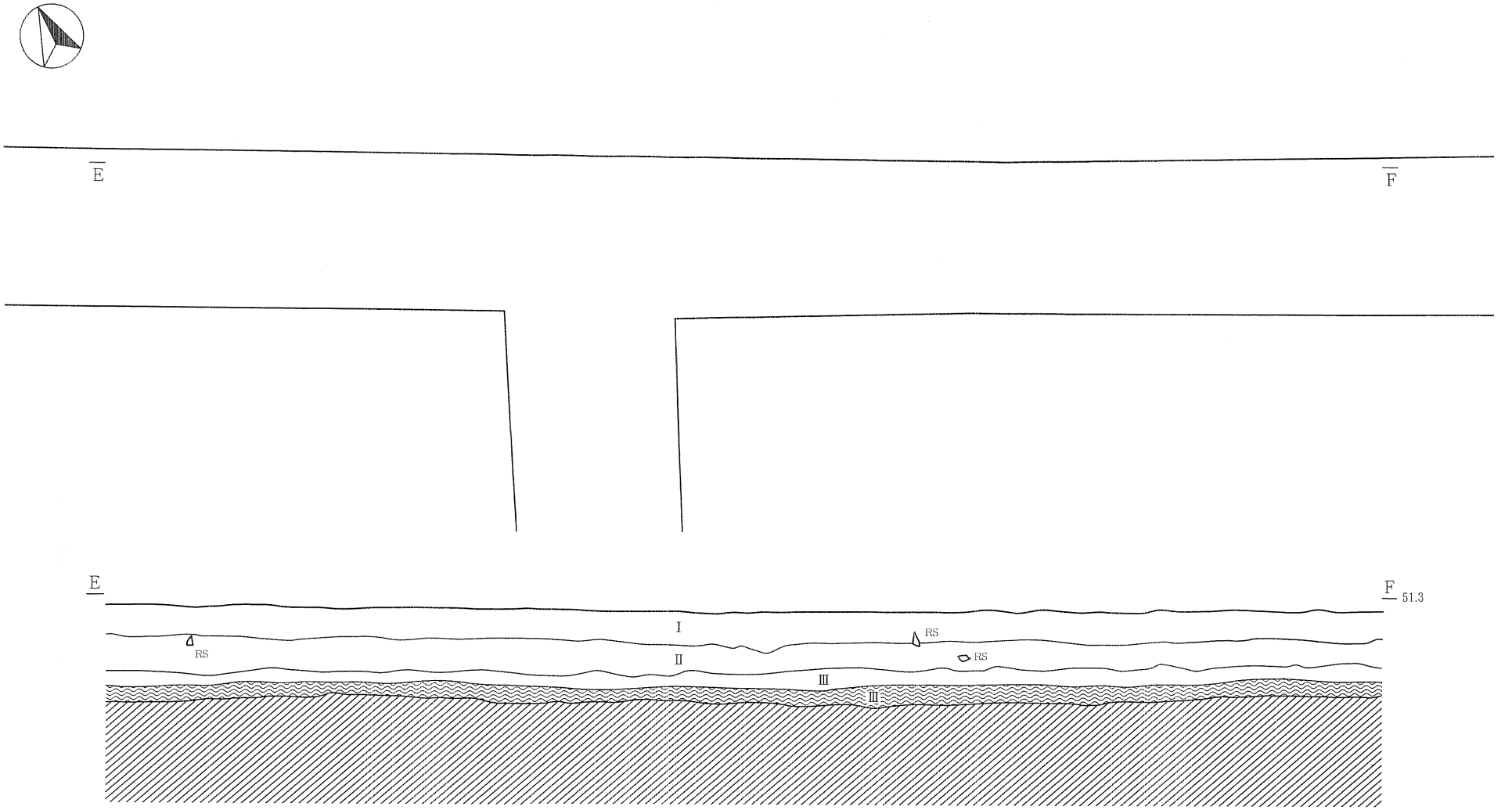
Ⅱ－ａ　黒色土(5Y2／1)　粘土質シルト　腐植混入遺物包含層

Ⅱ－ｂ　黒色土と灰白色土(2.5YR8／2)の互層

Ⅱ－ｃ　黒色土と地山土の互層

Ⅲ　明緑灰色土(5G7／1)　グライ化した粘土　地山

第６図　調査区の基本層序（１）



基本土層Ｅ－Ｆ
Ⅰ　暗褐色土(10YR3／3)　砂粒・炭化物粒わずかに混入　表土・現耕作土
Ⅱ　黒色土(5Y2／1)　地山粒・炭化物粒わずかに混入　遺物包含層
Ⅲ　明緑灰色土(5G7／1)　グライ化した粘土　地山

0　2 m

第７図　調査区の基本層序（２）

第3節　調査の経過

5月26日、三浦所長同席の下、作業員説明会を行う。センターから資材が到着し、整理収納する。重機による表土除去を開始する。ベルトコンベアーを配置する。秋田県平鹿農林事務所（原因者）の調査開始状況視察を受ける。27日、基本層序確認ベルトを設定。人力による表土除去を開始する。

6月2日、グリッド杭打設現地説明会を行う（5社参加）。人力による表土除去がほぼ完了する。5日、表土除去が完了した区域からグリッド杭の打設を開始する。8日、重機による表土除去及び一部排土整理が完了する。秋田県平鹿農林事務所と協議の結果、部分的な深掘り調査が可能となった。10日、グリッド杭の打設が完了する。いよいよ入梅なのか、どんよりと雨混じりの天気が続く。12日、調査区西側（遺跡核心部）で土坑らしき遺構のプランを一部確認する。同区域で完形の須恵器蓋と須恵器壺の口縁部及び2～3個体となる土器片の塊が出土する。前週末からの連日の雨模様で調査区内の浸水がひどく第Ⅱ層の掘り下げ調査が遅々として進まないため、水抜き用の排水路を掘削する。櫻田調査課長補佐が来跡し、横手市教育委員会の文化財担当者による本遺跡発掘調査への参加体制（週2～3回）について説明があった。16日、雨が降り止まず排水作業に困窮を極める中、暗渠の撤去を開始する。現場作業を午前で打ち切る。17日、調査区北東側のトレンチ調査を開始する。横手市教育委員会の神谷氏と石田氏が調査に参加する。この頃から、天気の良い日には時々ヘビやスズメバチに遭遇するようになり、十分な注意を喚起する。18日、トータルステーションでの実測作業を開始する。金沢公民館から担当者が来跡したので、本遺跡の発掘調査について概要を説明する。19日、第Ⅱ層の掘り下げ中に火山灰の点在分布が確認されたのでサンプル採取を開始する。栗澤文化財主査が来跡し、調査状況を視察する。これまでに不調のベルトコンベアー3台が使用不能となる。23日、SK02の一部を検出する。文化課の武藤学芸主事が来跡し、調査状況を視察する。横手市中央土地改良区の調査状況視察を受ける。24日、調査区北東側のトレンチ深掘り調査を開始する。25日、SK03の一部を検出する。秋田県平鹿農林事務所の調査状況視察を受け、仮設道路の設置方法とそれによる調査工程の調整について協議する。五十嵐学芸主事が来跡し、調査状況を視察する。29日、SK02改めSI02、SK03改めSX03とする。30日、基本土層断面の写真撮影を行う。横手市教育委員会の案内で、県文化財保護指導員の高橋氏と横手市文化財保護審議会委員（兼同市文化財保護協会会長）の川越氏が来跡したので、調査状況の説明を行う。

7月1日、基本土層の東西方向断面実測を完了する。2日、SK01とSI02の精査を開始する。3日、調査区西端部に貯水溝を掘削する。6日、SX03の精査を開始する。9日、雨模様の天気が続き、遺構精査が困難を極める中、排水作業に追われる日が続く。10日、江原嶋1遺跡調査現場からエンジンポンプ1台と水中ポンプ2台を借用する。13日、SX03改めSD03とする。14日、調査区北東側のトレンチ調査を完了する。調査区中央部のトレンチ調査を開始する。調査区南端部に排水溝を掘削する。15日、SD07を検出する。金沢公民館お達者教室の一行が調査を見学する。16日、調査区中央部のトレンチ調査を完了する。調査区西側の一部基本層序確認ベルトを残して地山面までの掘り下げ調査を開始する。17日、SI09とSK10を検出する。センター職員の健康診断のため現場作業を午前で打ち切る。21日、SK11とSK12を検出する。22日、SK01の精査を完了する。SK13とSK14及びSKP2基を検出する。23日、横手市中央土地改良区の調査状況視察を受ける。24日、櫻田調査課長補佐が来跡

し、調査区北東側のトレンチ調査（一部面的拡張調査）完了に伴って、この区域の調査終了について協議する。27日、仙南中学校の藤澤教諭が来跡し、調査状況を視察する。28日、櫻田調査課長補佐の指導下、SI02の土層断面転写剥ぎ取りを開始する。29日、SI02の土層断面転写剥ぎ取りを無事完了する。SK11を自然の凹みと判断し欠番にする。調査区西側東寄りの区域で、地山精査中にSKP数基を検出する。横手市教育委員会の石田氏が見学希望者3名を案内して来跡し、調査を見学する。調査区北東側の調査を終了する。30日、基本土層の南北方向断面実測を完了する。31日、基本土層の最深部断面実測を完了し、この部分が河道跡であることが判明した。全基本層序の確認を完了する。ベルトコンベアー1台が使用不能となる。調査区北東側を秋田県平鹿農林事務所に引き渡す。

8月3日、調査区西端部寄りの区域の地山精査を開始する。調査区北東側の調査終了全景写真撮影を行う。4日、調査区西側南西隅で墨書土器が出土する。金沢地区ふるさとの歴史探訪の会一行による見学会が開催される。農道下の調査開始に伴って、仮設道路の造成が完了する。7日、翌日よりお盆休暇に入るため機材の撤収格納と盗難防止策を施して現場を閉鎖する。17日、農道の剥ぎ取りが完了し、本格的に農道下の面的精査に入る。18日、調査区中央部の地山精査を開始する。19日、農道下の第Ⅱ層精査中に多量の須恵器と土師器が出土する。20日、調査区西側北部の除草を行い、粗掘りの準備を開始する。調査区西側の東端部でSX15とSD17を検出する。21日、調査区中央部で河道跡を検出する。SK12の精査を完了する。24日、調査区西側北部にベルトコンベアーを配置して粗掘りを開始する。25日、SK14改めSKP14の精査を開始する。26日、SK13の精査を完了する。調査区西側北部の粗掘り中に木簡が出土する。31日、調査区外の南側を西流する大堰と調査区中央部から出る排水路が1本につながり、効率的な排水が行われるようになる。

9月4日、SI02改めSKI02とSK10の精査を完了する。7日、SI09改めSKI09の精査を完了する。三浦所長と櫻田調査課長補佐が来跡し、調査状況を視察する。8日、船木調査課長が来跡し、調査状況を視察する。佐藤主事が来跡し、リース物品や購入物品の適正使用についてのチェックを行う。9日、富樫県教育庁参事（兼文化課長）と文化課の武藤学芸主事が来跡し、調査状況を視察する。10日、調査区西側北部の地山精査を開始する。11日、農道下の第Ⅱ層精査中にSJ18とSK32を検出する。14日、金沢中学校の上田教諭が調査見学のため来跡する。16日、台風5号の接近により未明から風雨が強くなり、現場作業終日中止とする。17日、調査区中央部の地山精査が完了したので地山地形測量を開始する。18日、SKP14・20の精査を完了する。21日、SKP21・22・23の精査を完了する。調査区中央部の地山地形測量を完了する。24日、ベルトコンベアーの撤収を完了する。調査区西側の地山地形測量を開始する。調査区中央部の調査を終了して、秋田県平鹿農林事務所に引き渡す。25日、調査区西側の地山地形測量を完了し、トータルステーションの屋外システム一式を業者に返却する。28日、SK31の精査中に遺構でないことが判明し欠番とする。SKP26の精査を完了する。29日、SK32は轆轤ピットであると判断する。SD03・07とSX17の精査を完了する。30日、大コンテナ38箱分の出土遺物をセンターへ搬送する。1tトラックをリース業者に返却する。

10月1日、ベルトコンベアー一式をリース業者に返却する。6日、SX15・SJ18・SK32及び全SKPの精査を完了して、調査終了の調査区全景写真撮影を行う。全発掘機材の撤収を完了し、一部のリース機器材を残して（翌日、業者に返却）センターへ搬送する。横手市教育委員会に調査終了の挨拶をし、秋田県平鹿農林事務所に調査区を引き渡して、十二牲B遺跡の発掘調査を終了した。

第4章　調査の記録

第1節　検出遺構と出土遺物

1　検出遺構

本遺跡で検出された遺構は、土師器焼成遺構1基、轆轤穴様ピット1基、掘立柱建物跡1棟、柱列1条、柱穴様ピット13基、竪穴状遺構2基、溝跡4条、土坑4基、河道跡1本、性格不明遺構1基の計29遺構である。これらの遺構は、調査区西側の遺跡核心部で検出された。土師器焼成遺構と轆轤穴様ピットは、第Ⅱ層の掘り下げ中に検出し、それ以外は全て第Ⅲ層上面で検出した。ほとんどの遺構で、確認面上か覆土上層に火山灰（To－a）の自然堆積が認められ、また、須恵器や土師器が出土することからこれらは平安時代（9～10世紀）の遺構と考える。

主な遺構は遺構配置概略図（第4図）と主な検出遺構一覧（第2～4表）に記したが、SB45とSA46は、調査終了後の平面図整理段階で柱穴の規則的な配置が判明したものである。SB45の北東から南東にかけての周辺域では、非常に密に須恵器と土師器を中心に遺物が出土しているが、SB45内からはほとんど遺物が出土しない空白域となっている。なお、遺構配置概略図でわかるように、SB45とSD03をちょうど等距離に隔てる位置にSA46がある。SD03が多量の遺物（須恵器・土師器・木製品）を捨てた水路跡と考えられることから、SA46はSB45の位置する側を居住区域とし、SD03の位置する側を非居住区域とする隔壁の役目を持った塀か柵の跡ではないかと推測される。

SX15は、調査区内で検出された全ての溝跡が合流する遺構であるが、その南東方向への延伸部分が調査区外になっているため、どのような性格の遺構か特定することができなかった。しかし、廃材と思われる加工木材や箸等の木製品、多様な器種の須恵器及び土師器が多量に出土していることなどから、SX15は導水して利用した水路が全て合流する水場的施設であった可能性は考えられる。

SJ18は、第Ⅱ層中の遺物密集出土区域の掘り下げ中に、SK32とともに偶然プランを検出したものである。SJ18からは多量の土師器が出土しているが、その大部分は破片で、復原可能なものでも歪みや剥離が著しく、焼成状態も悪い。したがって、これらSJ18から出土した土師器は焼成時の失敗作であると考える。また、SJ18の底面及び壁面に見られる茶褐色の被熱痕跡は、その色や硬さからSJ18の使用頻度が極端に低かったことを示すものと捉える。

2　出土遺物

本遺跡で出土した遺物は、須恵器・土師器・焼台・木製品等平安時代（9～10世紀）の包含層から出土したもの、中世から近世にかけてのものと思われる陶磁器・木製品・銭貨・銅製品、出土数は非常に少ないが縄文時代のものと思われる石器や石製品、そして遺構外であることと出土状況が極めて劣悪なため、時期の特定には至らなかった木簡や一部の木製品及び石製品等、総出土数は約5,000点を数える。その分布状況は、9割以上が調査区西側（遺跡核心部）の遺構内と遺構隣接周辺域に集中している。なお、核心部北側における遺構外出土遺物は、現代の地形改変痕跡（削平・撹乱）が著しい中での出土のため、原位置として記録するには極めて難があると認識した。

第2表　主な検出遺構一覧(1)

遺構番号	地　　区	確認面	確　認　状　況	切り合い関係	規　模・形　態	覆　土　の　特　徴	遺物等の出土状況	所見（時期・性格・特筆事項）
SK01	ME49	Ⅲ層	東西ベルト南側のⅢ層（地山）まで掘り下げたトレンチから、黒褐色の半分弱の円形プランを確認。ベルトにかかる断面から、深掘りしたと思われる。ベルト部分を精査した結果、残りの半分強の円形プランを確認。		直径1m44cm（北西-南東）、深さ29cm、中端の深さ22cmの円形プラン。全体ボウル状で底部は鍋底状。壁は凹凸あり。	自然堆積による黒色・黒褐色。壁の崩落により壁土の粘土が多量に混入した所は黄灰色。粘性は強、しまり有り。	一部深掘りした所はあるが、全体的に遺物は少なかった。遺構中央部底面に数個の石が検出された。	土坑とみなしたが、どのような土坑かはデータが不十分で明確にできない。
SKI02	MG50	Ⅲ層	東西ベルト南側のⅢ層（地山）まで掘り下げたトレンチから、黒褐色の三角形のプランを確認。ベルト部分を精査したところ、火山灰（半円形）を伴うプランを確認。残り部分を北側のトレンチから検出し、全体のプランを確認した。		一辺2m17cm（東-西）、深さ32cmの正方形。	自然堆積による黒色・黒褐色及び灰黄褐色土。Ⅳ層目に火山灰層があり断面にきれいな弧を描く。Ⅵ層目には径5～10mmくらいの炭が混じり、床直には炭が敷き詰められている。	内面黒色処理された土師器の甕（口縁部のみ）が出土。この他、土師器の破片が多数出土。	床直に多量の炭が検出されたが、壁面及び床直には焼土がみられないために、そこで火が使われて炭ができたとは考えられない。
SD03	核心部南区・北区	Ⅲ層	7/9にSX03の延伸拡張部分のプランを確認した。細長いプランが続くと考えられる。7/13にSX03改めSD03とし、延伸拡張部分プランを確認する。		北西に延びる幅平均80～90cm、深さ平均22cmの溝跡。北西に伸びる先端は、水が湧くぬかるみにぶつかるので調査不可能。南東部はSD07とSD17が合流するSX15とに合流する。	Ⅰ層、Ⅱ層に植物繊維が混入しているところが多い。Ⅲ層の底面では、グライ化しているところが多い。	礫の帯状分布と重なる所は遺物が少ないが、その他の所では多数出土。土師器坏（高台有・高台無）、須恵器坏・長頸壺・甕など完形品を含む。箸など木製品も出土。	溝跡の深さは非常に浅い。上部が削られているにしても、あまり深い溝跡ではない。
SD07	MD47・48 ME47・48	Ⅲ層	SD03の延伸拡張部分を精査中、幅約1mの帯状のプランを確認。		幅平均1m10～1m20cm、深さ平均35cmの溝で、調査区域外に延長していくプラン有り。	自然堆積による黒色・黒褐色土。植物の腐植土があり全体的に植物の繊維混入。	SD07上に大きな石が境界際に出土。境界外拡張部分から木材、ワラが一緒に出土。木材は大小多数出土。須恵器壺（ほぼ完形）など土師器を含む破片も数点出土。	当初SD03の延伸部分と見られていたが、調査区域外南西に延びる別の溝跡と思われる。

第3表　主な検出遺構一覧(2)

遺構番号	地　区	確認面	確認状況	切り合い関係	規模・形態	覆土の特徴	遺物等の出土状況	所見（時期・性格・特筆事項）
SKI09	MA49・MB49	Ⅲ層	北東隅と南西隅から面的掘り下げをしたところ、北東隅で隅丸の長方形プランを確認する。		長辺2m41cm（北西-南東）、短辺1m50cm（南西-北東）、深さ32cmの方形。遺構西側底部に径30cm、深さ18cmのピットがある。北東壁付近に小さなピットが2つある。	Ⅱ層に木片や炭化物が多く混入。	SK10隣接付近から腐朽が進んだ束状の植物茎が出土。土師器坏・甕、須恵器坏を含む多数の破片が、遺構内全体からまんべんなく出土。箸も1点出土。	西側床面にある深めのピットが本遺構に伴うものであるのか、または別の遺構のピットであるのか不明。また、腐朽が進んだ束状の植物茎もSK10に関わったものなのか、本遺構に伴ったものなのか不明である。
SK10	MA48	Ⅲ層	北東隅で隅丸の長方形プランを確認した際、それに隣接する円形プランを確認した。		長軸1m62cm（北東-南西）、短軸1m30cm（東-西）、深さ27cmの長円形。中央付近に径12cm、深さ20cmの柱穴様ピットがある。SKI09隣接付近のSK10北側に径30cmのくぼみ、西側に径16cm、深さ12cmの柱穴様ピットがある。	炭化物が混入した層と、壁からの崩落した粘土が混入した層からなる。	遺構東側から、腐朽が進んだ束状の植物茎の塊と木材片が出土。遺構内全体から、土師器と須恵器の破片がまんべんなく多数出土。	遺構の大きさや周りのピットなどから考えて性格は不明である。
SX15	MA46 MB46・47 MC46・47	Ⅲ層	南西隅境界外拡張部分を精査し、東側へ更に面的掘り下げをした結果、遺物多数出土、加工角材や杭列が検出されたため、遺構と確認。		一連の溝跡の集合遺構と考えられるが、規模・形態は不明。		加工角材（大）と丸材の並行杭列（2列）が出土した。指紋付須恵器坏が出土。焼台（須恵器片付着）も出土。この他、土師器坏・甕（内面黒色処理）、須恵器坏（高台有・高台無）・小形長頸壺・甕（大・中・小）・箸などの木製品が多数出土。	SX15は溝跡とその周辺の杭列及び角材（大）の集合した一連の遺構と考えられる。SD03、SD07、SD16など一連の溝跡の合流区域と思われる。
SD17	MA47・48・49 LT49・50	Ⅲ層	8/20、核心部南区と中央部（三角地帯）の境の土手取り外し部分と延長（農道下）部分から、幅約20cmの溝跡を確認。	杭列を伴った溝跡を柱穴様ピットが切っている。	幅約20cmの溝跡と、その両側に丸材の並行杭列及びホゾ穴のある丸材杭、角材杭それぞれ一本が明確に検出された。		木製品、木片4点出土。須恵器の破片も僅かに出土。	加工材（一部釘が打ってある）を使っての杭列が検出された。加工材は廃材を利用したものと思われる。溝の深さは浅く、SX15の方へ延びている。

第4表　主な検出遺構一覧(3)

遺構番号	地　　区	確認面	確　認　状　況	切り合い関係	規　模・形　態	覆　土　の　特　徴	遺物等の出土状況	所見（時期・性格・特筆事項）
SJ18	MB51	Ⅱ層	Ⅱ層中の出土遺物の中に土師器の細かい破片が多量に混じり、サブトレンチにかかった断面からも遺構であることがわかった。		径1m76cm（西-東）、深さ22cmの円形。緩やかな擂り鉢状の遺構で、土器片と、焼土と思われる赤土が層になって検出された。西側の一部がサブトレンチにかかって失われてしまっている。	大量の土器片のため覆土は薄いが、Ⅰ層は黒褐色、Ⅱ層は土器片層、Ⅲ層は炭、Ⅳ層は赤茶色の土になっている。粘土層に掘り込んでいないため、覆土と遺構の壁の区別がつきにくい。	大分部が大量の土師器の破片で、いくつか完形品（土師器坏・鉢・甕）が割れた状態で出土した。底部が欠損しているが、完形に近い状態に復原できる長胴丸底形の土師器甕が2点出土。この他に須恵器の破片も出土。	一部底面から壁面立ち上がりにかけて、被熱痕と思われるやや堅くしまった茶褐色の変色が確認できたので土師器焼成遺構（平窯）と考えられる。
SK32	MB51	Ⅱ層	黒色土のはっきりしたプランが確認されていたが、一部を掘りすぎて残った部分で確認した。		径40cm（西-東）、深さ19.5cmの円形プランで、炭化物の混じった黒色土の半分を取り除いてみると、プラン中央部にあたる所に小さな黒色土のはいったプランがあった。土を取り除くと轆轤の芯棒のようなピットである。芯棒の径約6cm。	炭化物の混じった黒色土。炭化物を取り除くと、Ⅱ層とⅢ層が混じった人為堆積で、中央に粘土層がある。	土師器の破片3点出土。	SK32は、SJ18に伴う轆轤ピットと考えられる。
SB45	MA49 MB49・50・51 MC50	Ⅲ層	Ⅲ層精査中、柱掘形と柱根の頂部を検出。		桁行2間×梁行2間の掘立柱建物跡。桁行は西側で見ると総長5.30m（北から2.7＋2.6）、東側では推定総長5.0m（北から2.6＋2.4）。梁行総長は4.80mだが棟柱が外方に張り出していて、北側で見ると東から2.40m、2.50mの柱間距離となる。柱堀形は6基が残存し、一辺34～57cmの方形ないしは円形で、深さは17～29.5cmある。P3・P6には径18cmで芯持ちの柱根が残る。	黒色土と地山土の混合土。	柱根の他には出土遺物なし。	建物位置と遺物出土位置が全く重複しないことから、この建物は確実に古代の遺構。桁行の方位とSA46、SD03の方位も平行することから、これらは時期的に同時存在であろう。
SA46	MA48 MB48・49 MC49 MD50	Ⅲ層	Ⅲ層精査中、柱掘形を検出。		SB45の北西側に平行する4間の柱列。総長12.50m（北から4.9＋4.2＋1.2＋2.3）あり、柱間は不揃いで、柱筋も通りが悪い。柱掘形はP1の場合、径30cm、深さ15cmの円形、P4の場合、一辺21.5cm、深さ15.5cmの正方形である。柱根および、柱痕跡は残存しない。	粘土混じりの黒色土。	P5より土師器の破片2点、須恵器の破片2点が出土した。	SB45に伴う板塀跡かと推定される。

第５表　遺物観察表(1)

挿図番号	図版番号	出土別	種別	器形	残存部位	切り離し	内面調整	外面調整	成形	胎土	焼成	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底径指数	高径指数	外傾度	高台高(cm)	高台径(cm)	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	備考
24－1	－	SK01	石製品	石皿	縁辺部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4.7	
24－2	－	SK102	木製品	杭	先端部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	直径(3.6)	
24－3	13－3	SK12	土師器	甕	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(22.9)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	内面黒色処理
25－1	－	SD03	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.7)	(6.4)	4.3	0.50	33.9	30	－	－	－	－	－	外面にヘラ圧痕？
25－2	－	SD03	須恵器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	5.4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
25－3	－	SD03	須恵器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	6.7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
25－4	－	SD03	須恵器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	5.1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
25－5	－	SD03	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(13.6)	(5.2)	4.45	－	－	－	－	－	－	－	－	
25－6	－	SD03	土師器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	(14.3)	5.8	4.6	0.41	32.2	35	－	－	－	－	－	両面黒色　燈明皿？
25－7	11－2	SD03	土師器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(14.0)	－	5.12	－	36.5	－	1.1	6.7	－	－	－	高台付　糊圧痕
26－1	－	SD03	須恵器	甕	口縁部	－	不明	不明	－	－	－	(41.2)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
26－2	－	SD03	須恵器	甕	口縁・肩部	－	不明	不明	－	細かい	良好	(21.0)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
27－1	－	SD03	須恵器	甕	口縁・底部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(20.0)	－	(51.8)	－	－	－	－	－	－	－	－	
28－1	10－1	SD03	須恵器	長頸壺	完形	不明	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	10.8	－	31.8	－	－	－	1.2	9.9	－	－	－	高台付　外面横ナデ
28－2	－	SD03	須恵器	甕	体部・底部	不明	不明	不明	－	細かい	良好	－	9.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	ヘラケズリ　底部ヘラケズリ
29－1	12－3	SD03	須恵器	蓋	完形	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(15.5)	－	(4.1)	－	－	－	－	－	－	－	－	擬宝珠つまみ付
29－2	－	SD03	須恵器	壺・甕類	肩部	－	不明	不明	－	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	外面に釉　粘土が付着
29－3	－	SD03	木製品	不明	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1.5	
29－4	15－3	SD03	木製品	箸	先端部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.4	折損　角箸　不定形の面取り
29－5	15－3	SD03	木製品	箸	先端部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	折損　角箸　不定形の面取り
29－6	15－3	SD03	木製品	箸	先端部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.4	折損　角箸　不定形の面取り
29－7	15－3	SD03	木製品	箸	先端部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.4	折損　角箸　不定形の面取り
29－8	18－2	SD03	石器	石鏃	完形	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1.7	1.3	0.3	
30－1	－	SD07	須恵器	壺	体部	－	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.6	下部ヘラケズリ？
30－2	－	SD07	須恵器	不明	不明	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.8	内外面にタタキ目
30－3	－	SD07	土師器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	砂粒含	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.6	
30－4	－	SD07	須恵器	不明	不明	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	
30－5	18－6	SD07	石器	凹石	完形	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	7.7	6.5	4.0	片面に凹み
31－1	－	SK109	須恵器	坏	底部	回転ヘラ	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	(10.1)	－	－	－	－	－	－	－	－	0.8	
31－2	－	SK109	須恵器	坏	底部	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	不良	－	7.6	－	－	－	－	－	－	－	－	0.6	焼成時の歪み（瞭間）
31－3	－	SK109	須恵器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	(7.0)	－	－	－	－	－	－	－	－	0.6	
31－4	－	SK109	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(11.6)	(5.9)	3.7	0.5	31.8	29	－	－	－	－	－	
31－5	－	SK109	須恵器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	(5.5)	－	－	－	－	－	－	－	－	0.8	
31－6	－	SK109	須恵器	坏	底部	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.4	
31－7	－	SK109	須恵器	坏	底部	回転ヘラ	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.6	
31－8	－	SK109	須恵器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.4	
31－9	－	SK109	須恵器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.6	
31－10	－	SK109	須恵器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.6	
31－11	－	SK109	須恵器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	
32－1	－	SK109	土師器	坏	完形	不明	不明	不明	ロクロ	砂粒含	良好	(14.3)	(5.0)	5.6	(0.34)	(39.1)	30.5	－	－	－	－	－	
32－2	－	SK109	土師器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	5.2	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	
32－3	－	SK109	土師器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	4.7	－	－	－	－	－	－	－	－	0.4	
32－4	－	SK109	土師器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	
32－5	－	SK109	土師器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	砂粒含	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.3	底部黒色
32－6	－	SK109	土師器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	砂粒含	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.4	
32－7	－	SK109	土師器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	砂粒含	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.3	
33－1	－	SK109	土師器	壺・甕類	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	砂粒含	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1.0	
33－2	－	SK109	土師器	壺・甕類	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	砂粒含	良好	(12.9)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.3	
33－3	15－3	SK109	木製品	箸	先端部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	折損　角箸　不定形の面取り
33－4	－	SK10	土師器	不明	底部	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	－	(6.4)	－	－	－	－	－	－	－	－	0.8	
34－1	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	小石含	良好	12.2	7.6	3.1	0.62	25.4	28.5	－	－	－	－	－	
34－2	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(11.4)	(6.6)	2.9	0.57	25.4	33.5	－	－	－	－	－	
34－3	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	12.1	8.2	3.4	0.67	28	28	－	－	－	－	－	指紋痕　口縁部内面に茶色の付着物
34－4	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	12.9	8.0	3.7	0.62	28.7	24	－	－	－	－	－	
34－5	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	小石含	不良	12.3	7.6	3.7	0.61	30.1	27	－	－	－	－	－	急激な熱変化で底部から二分割
34－6	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	13.1	7.5	3.5	0.57	26.7	36	－	－	－	－	－	
35－1	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.6)	(6.2)	3.5	(0.49)	(27.7)	30.5	－	－	－	－	－	切り離し後ナデ
35－2	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(11.5)	(4.4)	4.4	0.38	38.2	27	－	－	－	－	－	
35－3	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.9)	5.4	3.9	0.41	30.2	36	－	－	－	－	－	
35－4	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	(12.2)	5.5	3.8	(0.45)	(31.1)	36	－	－	－	－	－	内面底部付近に付着物
35－5	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.8)	6.8	3.9	(0.53)	(30.4)	30	－	－	－	－	－	
35－6	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	13.2	6.5	4.2	0.49	31.8	31	－	－	－	－	－	
36－1	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	12.7	7.0	3.9	0.55	30.7	30	－	－	－	－	－	
36－2	－	SX15	須恵器	坏	底部	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	－	(6.8)	－	－	－	－	－	－	－	－	0.6	
36－3	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	10.6	5.0	3.4	0.47	32.1	34	－	－	－	－	－	外面に黒い付着物
36－4	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.0)	(6.0)	3.5	(0.5)	(29.1)	35	－	－	－	－	－	外面は酸化して赤色　内面と口縁は還元されて黒色
36－5	11－3	SX15	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	12.3	5.7	3.8	0.46	30.8	35	－	－	－	－	－	
36－6	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	12.6	5.0	3.9	0.4	31	33	－	－	－	－	－	
36－7	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	(12.5)	5.5	4.9	0.4	39	28	－	－	－	－	－	
37－1	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	13.3	5.1	4.4	0.38	33.1	32	－	－	－	－	－	
37－2	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(14.0)	(6.0)	3.4	(0.42)	(24.2)	41	－	－	－	－	－	
37－3	－	SX15	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(14.0)	(5.8)	3.9	(0.41)	(27.8)	35.5	－	－	－	－	－	
37－4	11－6	SX15	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	10.6	－	5.4	－	－	－	0.3	5.0	－	－	－	高台付　火襷　口縁部に自然釉付着

第６表　遺物観察表(2)

挿図番号	図版番号	出土別	種別	器形	残存部位	切り離し	内面調整	外面調整	成形	胎土	焼成	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底径指数	高径指数	外傾度	高台高(cm)	高台径(cm)	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	備考
37－5	11－7	SX15	須恵器	鉢	完形	不明	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	15.0	－	－	－	－	－	－	7.5	－	－	－	高台付　外面縦方向にナデ痕　数ヵ所に糸切圧痕
37－6	12－4	SX15	須恵器	蓋	完形	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	不良	14.1	－	4.8	－	－	－	－	－	－	－	－	つまみ付　焼成時に歪み
37－7	13－2	SX15	須恵器	小型長頸壺	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	不良	3.5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	
38－1	－	SX15	須恵器	壺・甕類	口頸部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(10.3)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.4	頸部に波状文
38－2	－	SX15	須恵器	壺	口縁・体部	－	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(17.3)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.6	ヘラケズリ
39－1	－	SX15	須恵器	壺・甕類	体部・底部	不明	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	－	(9.8)	－	－	－	－	－	－	－	－	0.9	底部は砂底　外面立ち上がり付近に砂粒混入
39－2	－	SX15	須恵器	壺・甕類	体部・底部	不明	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	－	(11.4)	－	－	－	－	－	－	－	－	0.7	外面ヘラケズリ　砂底でヘラケズリ　底部付近指ナデ
40－1	－	SX15	須恵器	壺・甕類	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(36.6)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.7	
40－2	－	SX15	須恵器	壺	体部・底部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	ヘラケズリ
41－1	－	SX15	須恵器	壺・甕類	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.9	外面に砂粒及び灰釉？の塊付着
41－2	－	SX15	須恵器	不明	不明	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1.0	タタキ目
41－3	－	SX15	須恵器	甕	底部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1.0	甕の底部
42－1	－	SX15	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	12.0	4.3	4.3	0.36	35.8	28	－	－	－	－	－	
42－2	－	SX15	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	12.8	5.8	4.5	0.45	35.1	28	－	－	－	－	－	
42－3	－	SX15	土師器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	12.9	7.6	3.8	0.59	29.4	29	－	－	－	－	－	
42－4	－	SX15	土師器	坏	底部	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	－	(5.4)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	内面剥離
42－5	－	SX15	土師器	甕	完形	不明	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	(11.0)	5.5	8.7	0.5	79	－	－	－	－	－	－	
43－1	－	SX15	土師器	不明	底部	ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	粗い	良好	－	8.2	－	－	－	－	－	－	－	－	0.7	内面黒色処理
43－2	－	SX15	土師器	不明	底部	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	11.0	－	－	－	－	－	－	－	－	1.3	外面ヘラケズリ　内面黒色処理・ヘラミガキ
43－3	－	SX15	土師器	壺・甕類	体部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.9	外面ヘラミガキ　内面黒色処理・ヘラミガキ
43－4	－	SX15	木製品	不明	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.9	
43－5	15－3	SX15	木製品	箸	基部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.6	折損　角箸　不定形の面取り
43－6	15－3	SX15	木製品	箸	中央部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	両端折損　角箸　不定形の面取り
43－7	18－5	SX15	石器	凹石	2／3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	5.5	3.5	両面に凹み
44－1	19－7	SX15	焼台	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	20.4	22.5	4.7	自然釉と須恵器が多数付着
45－1	－	SJ18	土師器	坏	口縁部	－	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	不良	(11.8)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	外面剥離
45－2	－	SJ18	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	不良	(13.0)	(5.4)	5.0	(0.41)	(38.4)	27	－	－	－	－	－	底部中心部極薄
45－3	－	SJ18	土師器	坏	口縁部	－	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	不良	13.6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	一部剥離
45－4	－	SJ18	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	不良	(13.8)	6.0	5.15	(0.43)	(37.3)	33	－	－	－	－	－	外面剥離
45－5	11－5	SJ18	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	不良	13.0	5.1	5.6	0.39	43	25	－	－	－	－	－	一部剥離
45－6	－	SJ18	土師器	坏	口縁部	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	不良	14.0	－	6.0	－	42.9	23	－	－	－	－	－	外面 80％剥離
45－7	－	SJ18	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	不良	(14.9)	(5.3)	(5.6)	(0.35)	(37.5)	－	－	－	－	－	－	
46－1	－	SJ18	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	不良	14.4	5.5	5.8	0.38	40.2	30	－	－	－	－	－	一部剥離
46－2	－	SJ18	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	不良	(14.7)	4.8	5.9	0.32	40.1	29	－	－	－	－	－	
46－3	－	SJ18	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	不良	14.5	(5.4)	5.6	0.37	38.6	30	－	－	－	－	－	外面 80％剥離
46－4	－	SJ18	土師器	坏	口縁部	－	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	不良	(16.0)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
47－1	－	SJ18	土師器	甕	口縁部	－	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	不良	(16.0)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	
47－2	－	SJ18	土師器	甕	口縁部	－	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	不良	(13.7)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.4	
47－3	－	SJ18	土師器	甕	口縁・体部	－	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	不良	(15.8)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.4	
47－4	－	SJ18	土師器	甕	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	粗い	不良	(15.4)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.6	外面一部剥離
47－5	－	SJ18	土師器	甕	口縁・体部	－	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	不良	(15.4)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	
47－6	－	SJ18	土師器	甕	口縁・体部	－	不明	不明	ロクロ	小石含	不良	(14.8)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	外面の一部剥離
48－1	10－2	SJ18	土師器	甕	口縁・体部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	21.2	－	(28.6)	－	－	－	－	－	－	－	0.5	長胴丸底形
48－2	1－2	SJ18	土師器	甕	口縁・体部	－	不明	不明	ロクロ	砂粒含	良好	(20.4)	－	(38.0)	－	－	－	－	－	－	－	0.7	長胴丸底形
49－1	－	SJ18	土師器	鉢	口縁・体部	－	不明	不明	ロクロ	小石含	不良	(11.4)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.4	外面大部分剥離
49－2	－	SJ18	土師器	鉢	口縁・体部	－	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	不良	(10.0)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	外面剥離
49－3	13－4	SJ18	土師器	鉢	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	不良	9.8	4.3	6.6	0.44	67.3	－	－	－	－	－	－	一部剥離
49－4	－	SJ18	土師器	鉢	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	不良	10.1	4.1	6.0	0.41	59.4	－	－	－	－	－	－	一部剥離
49－5	－	SJ18	土師器	不明	底部	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	不良	－	7.1	－	－	－	－	－	－	－	－	0.7	
49－6	－	SJ18	土師器	不明	底部	－	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	－	(11.5)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	輪積痕？
50－1	－	SJ18	土師器	不明	不明	－	不明	不明	不明	砂粒含	不良	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.7	
50－2	－	SJ18	土師器	不明	不明	－	不明	不明	不明	粗い	不良	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.8	剥離
50－3	－	SJ18	土師器	不明	不明	－	不明	不明	不明	粗い	不良	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.9	内面にタタキ目
50－4	－	SJ18	土師器	不明	不明	－	不明	不明	ロクロ	砂粒含	不良	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	両面の一部剥離
51－1	－	SA46P5	須恵器	不明	不明	－	不明	不明	不明	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	
51－2	－	SA46P5	須恵器	不明	不明	－	不明	不明	不明	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	
51－3	－	SKP24	土師器	不明	不明	－	不明	不明	ロクロ	砂粒含	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.7	
51－4	－	SA46P5	土師器	不明	不明	－	不明	不明	不明	砂粒含	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.8	
51－5	－	SA46P5	土師器	不明	不明	－	不明	不明	不明	砂粒含	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.3	
52－1	－	SKP35	須恵器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	(4.9)	－	－	－	－	－	－	－	－	0.4	
52－2	－	SKP35	須恵器	坏	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
52－3	－	SKP35	須恵器	不明	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	
52－4	－	SKP35	土師器	不明	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	
52－5	－	SKP35	土師器	不明	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.3	
52－6	－	SKP35	土師器	坏	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.25	
52－7	－	SKP35	土師器	不明	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	
52－8	－	SKP35	須恵器	不明	不明	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1.0	
52－9	－	SKP35	土師器	不明	不明	－	不明	不明	ロクロ	小石含	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.6	
52－10	－	SKP35	土師器	不明	不明	－	不明	不明	ロクロ	砂粒含	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.9	
52－11	－	SKP35	土師器	不明	底部	－	不明	不明	不明	砂粒含	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.7	
52－12	－	SKP35	土師器	不明	不明	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.45	
52－13	－	SKP35	土師器	不明	不明	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	

第７表　遺物観察表(3)

挿図番号	図版番号	出土別	種別	器形	残存部位	切り離し	内面調整	外面調整	成形	胎土	焼成	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底径指数	高径指数	外傾度	高台高(cm)	高台径(cm)	縁(cm)	槌(cm)	厚さ(cm)	備考
53－1	9－2	遺構外	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(11.3)	6.4	3.15	0.57	27.9	28	—	—	—	—	—	底部に墨書「小」
53－2	9－1	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	12.4	6.5	4.8	0.52	38.7	27	—	—	—	—	—	底部に墨書「寺」
53－3	11－1	遺構外	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	13.0	8.4	3.7	0.65	28.5	30	—	—	—	—	—	
53－4	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	12.1	7.0	3.7	0.57	30.6	31	—	—	—	—	—	
53－5	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(13.2)	8.1	3.6	0.61	27.3	27	—	—	—	—	—	
53－6	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	12.7	8.2	3.45	0.65	27.1	27.5	—	—	—	—	—	焼成時の歪み（隙間）
53－7	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(14.4)	(8.6)	3.2	0.60	22.2	36	—	—	—	—	—	
54－1	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	(12.1)	(7.4)	(3.1)	0.61	25.6	28	—	—	—	—	—	
54－2	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(13.2)	7.1	3.4	0.54	25.7	37	—	—	—	—	—	
54－3	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.2)	5.4	4.1	0.44	36.1	31	—	—	—	—	—	
54－4	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.8)	(6.7)	3.5	0.52	27.3	34	—	—	—	—	—	
54－5	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.4)	7.0	3.8	0.56	30.6	29	—	—	—	—	—	
54－6	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	12.2	6.0	4.25	0.49	34.8	27	—	—	—	—	—	外面胴部から底部にナデ痕　内面底部に付着物
54－7	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.2)	(5.0)	4.3	0.41	35.2	28	—	—	—	—	—	
54－8	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	13.3	6.9	4.2	0.52	31.6	32	—	—	—	—	—	
54－9	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	12.6	4.9	4.2	0.39	33.4	30	—	—	—	—	—	外面底部にかけてヘラナデ
55－1	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(11.4)	4.8	3.8	0.42	33.3	33	—	—	—	—	—	
55－2	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.0)	5.2	3.7	0.43	30.8	32	—	—	—	—	—	
55－3	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	11.7	5.6	3.8	0.48	32.5	33	—	—	—	—	—	
55－4	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	12.5	4.7	3.9	0.38	31.2	33	—	—	—	—	—	
55－5	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.6)	5.2	3.8	0.41	30.1	34	—	—	—	—	—	
55－6	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	(13.0)	5.6	4.0	0.43	30.8	32	—	—	—	—	—	外面底部にかけて指ナデ
55－7	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(13.2)	5.4	3.9	0.41	29.5	32.5	—	—	—	—	—	内面に艶のある漆付着
55－8	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(13.1)	(5.1)	4.3	0.39	32.8	33	—	—	—	—	—	
55－9	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	小石含	良好	(13.4)	5.0	4.2	0.37	31.3	33	—	—	—	—	—	
55－10	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.9)	(5.0)	4.4	0.39	34.1	30	—	—	—	—	—	
56－1	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.7)	4.6	4.0	0.36	31.5	34	—	—	—	—	—	
56－2	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	12.7	5.3	3.5	0.42	27.6	35	—	—	—	—	—	
56－3	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	12.5	5.2	4.0	0.41	32	35	—	—	—	—	—	
56－4	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.7)	5.1	4.0	0.40	31.5	35	—	—	—	—	—	
56－5	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(13.0)	(4.7)	4.0	0.36	30.8	39	—	—	—	—	—	
56－6	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.9)	5.0	3.6	0.38	27.9	36	—	—	—	—	—	
56－7	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.8)	(5.0)	3.9	0.39	30.4	45	—	—	—	—	—	
56－8	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	13.0	5.2	4.05	0.4	31.1	36	—	—	—	—	—	
56－9	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(13.3)	6.0	4.1	0.45	30.8	34	—	—	—	—	—	
57－1	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	12.7	5.4	3.65	0.43	28.7	39	—	—	—	—	—	
57－2	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.6)	5.4	3.8	0.43	30.2	36.5	—	—	—	—	—	
57－3	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.9)	5.4	3.6	0.42	27.9	38	—	—	—	—	—	焼成時の歪み
57－4	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	13.7	5.6	4.1	0.41	29.9	44	—	—	—	—	—	
57－5	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	12.45	4.6	4.55	0.35	36.5	35	—	—	—	—	—	
57－6	—	遺構外	須恵器	坏	底部	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	粗い	良好	—	5.5	—	—	—	—	—	—	—	—	0.4	
57－7	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	(12.8)	5.6	3.3	0.44	25.8	48	—	—	—	—	—	
57－8	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(11.5)	(5.2)	6.1	0.45	53.0	19	—	—	—	—	—	
58－1	11－4	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.4)	—	5.9	—	47.6	—	0.7	5.4	—	—	—	高台付　一部自然釉付着
58－2	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	(10.7)	—	4.8	—	44.9	—	0.6	4.6	—	—	—	高台付
58－3	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(11.9)	—	4.8	—	40.3	—	0.5	4.6	—	—	—	高台付
58－4	—	遺構外	須恵器	坏	完形	不明	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(13.4)	—	7.1	—	53.0	—	0.65	(5.4)	—	—	—	高台付
58－5	11－8	遺構外	須恵器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	14.0	—	7.15	—	51.1	—	0.6	7.1	—	—	—	高台付
58－6	—	遺構外	須恵器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(14.6)	—	9.1	—	62.3	—	1.0	6.9	—	—	—	高台付
59－1	—	遺構外	須恵器	坏	底部	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	—	—	—	—	—	—	0.6	6.5	—	—	—	高台付　胎土に多数の気泡
59－2	—	遺構外	須恵器	坏	底部	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	—	6.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	高台付
59－3	—	遺構外	須恵器	坏	底部	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	—	—	—	—	—	—	—	6.2	—	—	—	高台付
59－4	—	遺構外	須恵器	坏	底部	回転糸	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	—	—	—	—	—	—	0.5	6.8	—	—	—	高台付
59－5	—	遺構外	須恵器	坏	底部	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	—	—	—	—	—	—	0.7	(7.0)	—	—	—	高台付
60－1	12－2	遺構外	須恵器	蓋	完形	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	11.5	—	4.75	—	41.3	—	—	—	—	—	—	擬宝珠つまみ付　自然釉付着
60－2	—	遺構外	須恵器	蓋	完形	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(15.9)	—	(3.3)	—	—	—	—	—	—	—	—	擬宝珠つまみ付
60－3	—	遺構外	須恵器	蓋	完形	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	12.2	—	5.2	—	—	—	—	—	—	—	—	擬宝珠つまみ付き　所々に細かい気泡　つまみ部分に墨？付着
60－4	—	遺構外	須恵器	蓋	つまみ部	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	擬宝珠つまみ付
60－5	12－1	遺構外	須恵器	蓋	完形	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	14.0	—	4.6	—	—	—	—	—	—	—	—	つまみ付き　表面に砂粒多量に付着
60－6	—	遺構外	須恵器	蓋	完形	不明	不明	不明	ロクロ	砂粒含	良好	(14.7)	—	3.9	—	—	—	—	—	—	—	—	擬宝珠つまみ付
60－7	—	遺構外	須恵器	蓋	完形	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(14.3)	—	4.0	—	—	—	—	—	—	—	—	つまみ付
60－8	12－5	遺構外	須恵器	蓋	完形	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(16.9)	—	4.0	—	—	—	—	—	—	—	—	つまみ付
60－9	—	遺構外	須恵器	蓋	つまみ・天井部	不明	不明	不明	ロクロ	粗い	良好	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	つまみ付
60－10	12－8	遺構外	須恵器	蓋	完形	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(16.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	擬宝珠つまみ付
60－11	—	遺構外	須恵器	蓋	つまみ・天井部	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	つまみ付き　つまみの付け根に亀裂
60－12	—	遺構外	須恵器	蓋	つまみ・天井部	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	つまみ付
61－1	12－7	遺構外	須恵器	蓋	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(12.7)	—	2.5	—	—	—	—	—	—	—	—	
61－2	12－9	遺構外	須恵器	蓋	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	12.7	—	1.7	—	—	—	—	—	—	—	—	3ヵ所に釉の塊付着
61－3	—	遺構外	須恵器	蓋	完形	－	不明	不明	ロクロ	砂粒含	良好	12.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	砂粒が多量に混入
61－4	12－10	遺構外	須恵器	蓋	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(4.8)	—	1.8	—	37	—	—	—	—	—	—	一対の有孔
61－5	12－6	遺構外	土師器	蓋	完形	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	13.6	—	3.1	—	—	—	—	—	—	—	—	つまみ付
62－1	—	遺構外	須恵器	蓋	口頸部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	2.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5	
62－2	—	遺構外	須恵器	小型壺	体部・底部	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	—	3.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	外面下部ヘラケズリ
62－3	13－6	遺構外	須恵器	小型壺	体部・底部	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	—	(4.5)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
62－4	—	遺構外	須恵器	壺	底部	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	—	—	—	—	—	—	0.6	5.3	—	—	—	高台付　自然釉付着

第８表　遺物観察表(4)

挿図番号	図版番号	出土別	種別	器形	残存部位	切り離し	内面調整	外面調整	成形	胎土	焼成	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底径指数	高径指数	外傾度	高台高(cm)	高台径(cm)	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	備考
62－5	－	遺構外	須恵器	小型長頸壺	頸部・体部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
62－6	19－4	遺構外	須恵器	不明	把手	－	－	－	－	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2.0	0.6	ヘラ削りで面取り　先端部に釉と灰の塊付着
62－7	19－6	遺構外	須恵器	不明	把手	－	－	－	－	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1.8	0.6	
62－8	19－5	遺構外	須恵器	不明	把手	－	－	－	－	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	4.2	1.9	0.8	ヘラ削りで面取り
62－9	19－2	遺構外	須恵器	不明	把手	－	－	－	－	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	5.1	2.2	1.0	ヘラナデ
62－10	19－3	遺構外	須恵器	不明	把手	－	－	－	－	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2.2	0.7	ヘラナデ　側面部ヘラ削りで面取り　先端部に指紋痕
63－1	－	遺構外	須恵器	甕	底部	不明	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	11.1	－	－	－	高台付　ヘラ跡
63－2	－	遺構外	須恵器	不明	底部	不明	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	－	9.5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	砂底　ヘラ削り痕
63－3	－	遺構外	須恵器	不明	体部	－	不明	不明	－	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
64－1	－	遺構外	須恵器	甕	底部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	丸底の砂底
65－1	8－2	遺構外	須恵器	壺・甕類	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(16.6)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	口縁部に「真公」の刻書（箆書）
65－2	－	遺構外	須恵器	不明	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	18.7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
65－3	－	遺構外	須恵器	不明	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(18.8)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
65－4	－	遺構外	須恵器	不明	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(19.4)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
65－5	－	遺構外	須恵器	不明	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(10.9)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
66－1	－	遺構外	須恵器	不明	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(20.6)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
66－2	8－3	遺構外	須恵器	壺	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	19.2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	口縁部の一部分に波状文
66－3	－	遺構外	須恵器	不明	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
66－4	－	遺構外	須恵器	甕	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(14.0)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	内面剥落
67－1	9－4	遺構外	須恵器	不明	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	(1.2)	波状文
67－2	－	遺構外	須恵器	不明	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(41.0)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	内面に茶色の付着物
67－3	－	遺構外	須恵器	不明	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(24.4)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
67－4	－	遺構外	須恵器	不明	口縁部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(23.7)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
68－1	13－1	遺構外	須恵器	長頸壺	口縁・体部	－	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(10.0)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
68－2	－	遺構外	須恵器	長頸壺	口頸部	－	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	(9.6)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	頸部と肩部を別々に成形後接合　接合面の外面は指ナデ　内面は整形なし
68－3	10－3	遺構外	須恵器	横瓶	体部	回転糸	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	内外面ケズリ
69－1	13－9	遺構外	須恵器	甕	口縁・体部	－	ナデ	－	ロクロ	砂粒含	良好	(18.3)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	ヘラケズリ
69－2	－	遺構外	須恵器	甕	体部	－	ナデ	－	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	粘土紐巻上げ痕　外面ヘラケズリ　内面弱いヘラナデ
70－1	13－7	遺構外	須恵器	甕	完形	不明	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	(19.1)	14.2	26.9	0.74	140	－	－	－	－	－	－	内外面立ち上がり横ナデ　外面底部ヘラケズリ　内面底部ヘラナデ
70－2	－	遺構外	須恵器	甕	完形	不明	－	－	ロクロ	砂粒含	良好	16.4	13.35	24.3	0.81	148	－	－	－	－	－	－	ヘラケズリ　底部ヘラケズリ　立ち上がりの角を指ナデ
71－1	1－1	遺構外	須恵器	短頸壺	体部・底部	不明	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	1.2	12.4	－	－	－	高台付　肩部に２筋の突帯　内外面横ナデ
72－1	8－1	遺構外	須恵器	甕	完形	－	－	－	ロクロ	細かい	良好	20.7	－	46.8	－	－	－	－	－	－	－	－	肩部に解読不明の刻書（箆書）
73－1	7－3	遺構外	須恵器	甕	完形	－	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	(19.0)	－	47.3	－	－	－	－	－	－	－	－	
74－1	7－1	遺構外	須恵器	甕	完形	－	－	－	－	細かい	良好	44.5	－	67.6	－	－	－	－	－	－	－	－	大甕
75－1	－	遺構外	須恵器	不明	肩部	－	－	－	－	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	(5.0)	肩部付近に３～４本の線
75－2	－	遺構外	須恵器	甕	不明	－	－	－	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	(6.0)	
75－3	－	遺構外	須恵器	不明	不明	－	－	－	－	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	(6.0)	
76－1	－	遺構外	須恵器	不明	不明	－	－	－	－	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	(8.0)	内外面にタタキ目
76－2	－	遺構外	須恵器	不明	不明	－	－	－	－	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	(1.0)	外面に釉　内面に車輪模様のタタキ目　艶のある黒色
76－3	－	遺構外	須恵器	不明	不明	－	－	－	－	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	(1.2)	内面に付着物
76－4	－	遺構外	須恵器	不明	不明	－	－	－	－	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	(8.0)	
77－1	－	遺構外	土師器	坏	完形	回転ヘラ	不明	不明	ロクロ	細かい	良好	12.7	7.8	3.6	0.61	28.3	24	－	－	－	－	－	
77－2	－	遺構外	土師器	坏	完形	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	11.6	5.3	3.5	0.45	30.2	36	－	－	－	－	－	
77－3	－	遺構外	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	(12.7)	5.0	4.2	0.39	33.1	27	－	－	－	－	－	
77－4	－	遺構外	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	(13.0)	4.9	4.4	0.38	33.8	36	－	－	－	－	－	微粒の炭化物付着
77－5	－	遺構外	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ		ロクロ	細かい	良好	(13.2)	4.4	4.3	0.33	32.6	41	－	－	－	－	－	外面底部にかけてヘラナデ
77－6	－	遺構外	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	13.2	5.1	4.15	0.39	31.4	38	－	－	－	－	－	
77－7	－	遺構外	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	細かい	良好	13.1	6.0	4.8	0.46	36.6	27	－	－	－	－	－	内面と口縁の一部に煤付着　燈明皿？
77－8	－	遺構外	土師器	坏	完形	回転糸	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	13.5	4.8	5.6	0.35	41.4	－	－	－	－	－	－	底部に黒い棒状のシミ
77－9	－	遺構外	土師器	坏	完形	回転糸	不明	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	16.8	5.8	7.2	0.35	42.9	26	－	－	－	－	－	内面が摩滅
78－1	－	遺構外	土師器	甕	完形	回転糸	不明	不明	ロクロ	砂粒含	良好	(14.2)	9.0	14.3	0.63	－	－	－	－	－	－	－	
78－2	13－8	遺構外	土師器	甕	口縁・体部	－	不明	不明	ロクロ	砂粒含	良好	16.3	－	(14.3)	－	－	－	－	－	－	－	－	
79－1	－	遺構外	土師器	不明	口縁・体部	－	ナデ	ナデ	ロクロ	粗い	良好	(19.0)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
79－2	－	遺構外	土師器	甕	口縁・体部	－	－	－	ロクロ	砂粒含	良好	(20.0)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
80－1	－	遺構外	土師器	甕	底部	回転糸	－	－	ロクロ	細かい	良好	－	7.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	内面黒色処理
80－2	－	遺構外	土師器	甕	底部	回転ヘラ	ナデ	ナデ	ロクロ	砂粒含	良好	－	7.2	5.2	－	－	－	－	－	－	－	－	内面黒色処理
80－3	－	遺構外	土師器	甕	口縁・体部	－	－	－	ロクロ	砂粒含	良好	(14.6)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
80－4	－	遺構外	土師器	甕	口縁・体部	－	－	－	ロクロ	細かい	良好	(17.6)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	内面黒色処理
80－5	－	遺構外	土師器	不明	底部	－	－	－	不明	砂粒含	－	－	(6.3)	(6.4)	－	－	－	－	－	－	－	－	荒い砂粒混入
80－6	19－1	遺構外	土師質土器	不明	底部	－	－	－	不明	砂粒含	良好	－	9.6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
81－1	－	遺構外	土師器	鉢	口縁・底部	不明	ナデ	－	ロクロ	砂粒含	良好	(34.7)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	ヘラケズリ
81－2	－	遺構外	土師器	鉢	完形	不明	ナデ	－	ロクロ	砂粒含	良好	(27.0)	(8.6)	14.1	0.31	52.2	－	－	－	－	－	－	下部ヘラケズリ
81－3	13－5	遺構外	土師器	壺	体部・底部	回転糸	－	－	ロクロ	細かい	良好	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	高台付？
82－1	17－7	遺構外	陶磁器	灰釉皿	口縁・底部	－	－	－	－	－	－	(11.0)	(6.0)	1.95	－	－	－	－	－	－	－	－	灰釉　瀬戸・美濃　16 世紀後半
82－2	17－3	遺構外	陶磁器	灰釉丸皿	口縁・底部	－	－	－	－	－	－	(9.1)	(4.5)	2.15	－	－	－	－	－	－	－	－	灰釉　瀬戸・美濃　16 世紀後半
82－3	17－2	遺構外	陶磁器	灰釉丸皿	口縁・底部	－	－	－	－	－	－	(10.6)	(5.6)	2.2	－	－	－	－	－	－	－	－	灰釉　瀬戸・美濃　16 世紀後半
82－4	17－6	遺構外	陶磁器	灰釉丸皿	底部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	灰釉　瀬戸・美濃　16 世紀前半
83－1	17－9	遺構外	陶磁器	不明	底部	－	－	－	－	－	－	－	(6.4)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
83－2	17－8	遺構外	陶磁器	不明	底部	－	－	－	－	－	－	－	4.3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
83－3	17－5	遺構外	陶磁器	不明	口縁・底部	－	－	－	－	－	－	(10.4)	(6.0)	2.7	－	－	－	－	－	－	－	－	
83－4	17－12	遺構外	陶磁器	不明	口縁・底部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
84－1	17－1	遺構外	陶磁器	灰釉陶器	口縁・底部	－	－	－	－	－	－	(11.0)	5.6	2.15	－	－	－	－	－	－	－	－	灰釉
84－2	17－4	遺構外	陶磁器	不明	底部	－	－	－	－	－	－	－	(4.6)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
84－3	17－15	遺構外	陶磁器	不明	口縁・底部	－	－	－	－	－	－	(16.1)	(6.7)	5.8	－	－	－	－	－	－	－	－	
85－1	17－13	遺構外	陶磁器	不明	底部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	底部に砂粒まばらに付着

第９表　遺物観察表(5)

挿図番号	図版番号	出土別	種別	器形	残存部位	切り離し	内面調整	外面調整	成形	胎土	焼成	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	底径指数	高径指数	外傾度	高台高（cm）	高台径（cm）	縦（cm）	横（cm）	厚さ（cm）	備　　考
85－２	17－14	遺構外	陶磁器	不明	底部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
85－３	17－16	遺構外	陶磁器	不明	底部	－	－	－	－	－	－	－	(6.0)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
85－４	17－18	遺構外	陶磁器	不明	口縁・底部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
85－５	17－11	遺構外	陶磁器	灰釉丸皿	口縁・底部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	灰釉　瀬戸・美濃　16 世紀前半
85－６	17－10	遺構外	陶磁器	志野皿	口縁・底部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	17 世紀第１四半期
85－７	17－17	遺構外	陶磁器	不明	口縁・底部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
85－８	－	遺構外	陶磁器	鉢	底部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	擂鉢？
86－１	18－１	遺構外	石器	掻器	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4.9	2.0	0.5	石匙？
86－２	18－８	遺構外	石製品	－	－	－	－	－	－	－	－			－	－	－	－	－	－	－	直径 2.6	0.75	碁石形
86－３	18－４	遺構外	石器	石斧	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4.5	2.5	1.1	
86－４	18－３	遺構外	石器	石斧	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	8.8	4.2	2.6	表面研磨
86－５	－	遺構外	石器	凹石	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	5.5	四面に凹み
87－１	18－７	遺構外	石器	砥石	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	12.0	7.1	1.5	砥石？
87－２	－	遺構外	焼台	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	16.2	15.5	8.8	一部に自然釉と灰　須恵器の破片付着
88－１	16－１	遺構外	木簡	札	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	22.5	1.9	0.8	釘穴？　表面削り　裏面未加工
88－２	14－５	遺構外	漆器	盆？	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.8	盆の底部？　朱塗り（表？）　黒塗り（裏？）
88－３	14－４	遺構外	漆器	椀	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	外面の塗りが剥離した部分にロクロ挽きの目
88－４	14－２	遺構外	漆器	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	片面黒塗り　片面朱塗り
88－５	14－１	遺構外	漆器	膳？	脚部？	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.7	朱塗り（表？）　黒塗り（裏？）
88－６	14－３	遺構外	漆器	椀	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	外面は黒塗り　内面は朱塗り
88－７	－	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	墨書「大」
88－８	－	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	釘の打ち込み１ヵ所
89－１	－	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	削り痕
89－２	－	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
89－３	－	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
89－４	－	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	11.6	1.3	0.9	
89－５	－	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
89－６	－	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
89－７	－	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	桶の底？　内面黒色
89－８	15－５	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	直径 (12.0)	0.7	曲げ物底板　木釘の打ち込み３ヵ所
90－１	－	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	桶の底？　多数の削り痕
90－２	－	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	釘の打ち込み４ヵ所
90－３	15－３	遺構外	木製品	箸	先端部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	折損　角箸　不定形の面取り
90－４	15－３	遺構外	木製品	箸	先端部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	折損　角箸　不定形の面取り
90－５	15－３	遺構外	木製品	箸	先端部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	折損　角箸　六角形の面取り
90－６	15－３	遺構外	木製品	箸	先端部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	折損　角箸　不定形の面取り
90－７	15－３	遺構外	木製品	箸	先端部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	折損　角箸　不定形の面取り
90－８	15－３	遺構外	木製品	箸	先端部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	折損　角箸　不定形の面取り
90－９	15－３	遺構外	木製品	箸	完形	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	18.0	－	－	角箸　不定形の面取り
90－10	15－３	遺構外	木製品	箸	先端部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	折損　角箸　不定形の面取り
91－１	15－１	遺構外	木製品	下駄	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	15.15	8.65	2.1	片方　ポックリ　女子用
91－２	15－２	遺構外	木製品	下駄	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	16.5	7.4	2.1	片方　陰卯下駄　台部のみ
91－３	15－７	遺構外	木製品	独楽	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	先端に玉房状の削り出し　基部に凹状の彫り込み
91－４	15－８	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
92－１	－	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	曲げ物側板　内面にケビキ　漆塗り
92－２	－	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	曲げ物側板　内面にケビキ　漆塗り
92－３	15－４	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	曲げ物側板　内面にケビキ　漆塗り
92－４	－	遺構外	木製品	不明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	曲げ物側板　内面にケビキ　漆塗り
92　５	15－６	遺構外	木製品	折敷	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	19.55	14.55	(0.45)	曲げ物底板　樺綴じ痕１ヵ所
93－１	－	遺構外	銭貨	－	完形	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	開元通寶
93－２	－	遺構外	銭貨	－	完形	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	開元通寶
93－３	－	遺構外	銭貨	－	完形	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	紹聖元寶
93－４	－	遺構外	銭貨	－	完形	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	天禧通寶
93－５	－	遺構外	銭貨	－	完形	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	紹興元寶
93－６	－	遺構外	銭貨	－	完形	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	紹平通寶
93－７	－	遺構外	銭貨	－	完形	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	寛永通寶
93－８	－	遺構外	銭貨	－	完形	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	寛永通寶
93－９	－	遺構外	銭貨	－	完形	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	寛永通寶
93－10	－	遺構外	銭貨	－	完形	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	寛永通寶
93－11	－	遺構外	銭貨	－	完形	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	寛永通寶
93－12	19－11	遺構外	銅製品	キセル	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	雁首部
93－13	19－10	遺構外	銅製品	キセル	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	吸い口
94－１	19－12	遺構外	ガラス製品	瓶	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	薬瓶（紺色）　浮き出しの文字
94－２	19－13	遺構外	ガラス製品	瓶	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	薬瓶（紺色）　浮き出しの文字
－	7－２	遺構外	須恵器	甕	体部・底部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
－	9－３	遺構外	須恵器	甕	口頸部	－	－	－	－	－	－	(41.5)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	頸部に波状文
－	17－19	遺構外	陶磁器	不明	口縁部	－	－	－	－	－	－	(16.1)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	図版 17－15 と同一個体
－	19－８	SK109	自然遺物	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	胡桃５点　穴あき１点
－	19－９	SK109	自然遺物	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	栃５点

参考文献

1．窯跡研究会　『古代の土師器生産と焼成遺構』　真陽社　1997（平成９）年

2．山田真一　「信濃の９世紀代の土器生産」『北陸古代土器研究』　第６号　北陸古代土器研究会　1997（平成９）年

3．日本道路公団名古屋建設局・長野県教育委員会・（財）長野県埋蔵文化財センター　『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書４　―松本市内その１―　総論編』（財）長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書４　1990（平成２）年

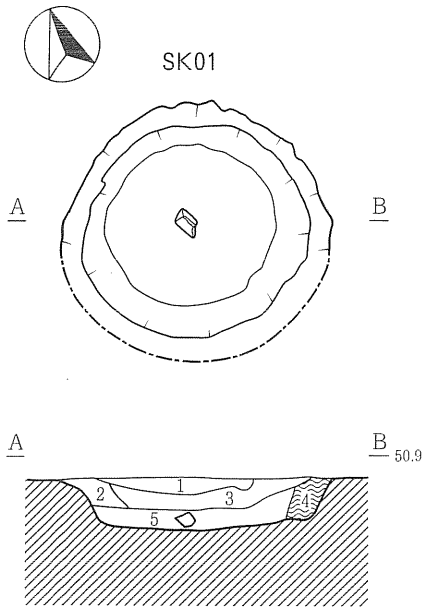
4．財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団　「森坂遺跡」『首都圏中央連絡自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告―Ⅷ―』　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第165集　1996（平成８）年

5．鳩山窯跡群遺跡調査会・鳩山町教育委員会　「埼玉県比企郡　鳩山窯跡群　Ⅲ」『鳩山窯跡群発掘調査報告書第３冊―工人集落編（１）―』　1991（平成３）年

6．鳩山窯跡群遺跡調査会・鳩山町教育委員会　「埼玉県比企郡　鳩山窯跡群　Ⅳ」『鳩山窯跡群発掘調査報告書第４冊―工人集落編（２）―』　1992（平成４）年

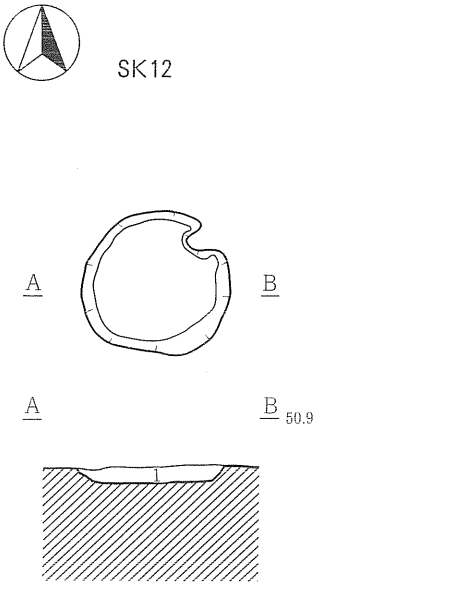
第 10 表　遺構内遺物出土状況図・遺物実測図対応一覧表

挿図タイトル	遺物番号	挿図タイトル	実測図番号
第９図　SKI02 遺物出土状況図	①	第 24 図　SK01・SKI02・SK12 出土遺物	3
第13図　SD03 遺物出土状況図	①	第 25 図　SD03 出土遺物(1)	7
	②	第 25 図　SD03 出土遺物(1)	5
	③	第 29 図　SD03 出土遺物(5)	1
	④	第 28 図　SD03 出土遺物(4)	1
	⑤	第 29 図　SD03 出土遺物(5)	2
	⑥	第 27 図　SD03 出土遺物(3)	1
	⑦	第 28 図　SD03 出土遺物(4)	2
第15図　SD07 遺物出土状況図	①	第 30 図　SD07 出土遺物	1
第17図　SKI09・SK10 遺物出土状況図	①	第 33 図　SKI09 出土遺物(3)・SK10 出土遺物	2
	②	第 32 図　SKI09 出土遺物(2)	1
	③	第 31 図　SKI09 出土遺物(1)	4
	④	第 31 図　SKI09 出土遺物(1)	1
	⑤	第 32 図　SKI09 出土遺物(2)	2
	⑥	第 31 図　SKI09 出土遺物(1)	3
	⑦	第 31 図　SKI09 出土遺物(1)	5
	⑧	第 31 図　SKI09 出土遺物(1)	2
	⑨	第 33 図　SKI09 出土遺物(3)・SK10 出土遺物	4
第19図　SX15 遺物出土状況図	①	第 42 図　SX15 出土遺物(9)	4
	②	第 34 図　SX15 出土遺物(1)	4
	③	第 35 図　SX15 出土遺物(2)	6
	④	第 35 図　SX15 出土遺物(2)	5
	⑤	第 43 図　SX15 出土遺物(10)	1
	⑥	第 37 図　SX15 出土遺物(4)	5
	⑦	第 39 図　SX15 出土遺物(6)	2
	⑧	第 42 図　SX15 出土遺物(9)	1
	⑨	第 37 図　SX15 出土遺物(4)	2
	⑩	第 37 図　SX15 出土遺物(4)	4
	⑪	第 34 図　SX15 出土遺物(1)	3
	⑫	第 36 図　SX15 出土遺物(3)	5
	⑬	第 37 図　SX15 出土遺物(4)	7
	⑭	第 37 図　SX15 出土遺物(4)	1
	⑮	第 42 図　SX15 出土遺物(9)	2
	⑯	第 42 図　SX15 出土遺物(9)	3
	⑰	第 36 図　SX15 出土遺物(3)	6
	⑱	第 35 図　SX15 出土遺物(2)	1
	⑲	第 35 図　SX15 出土遺物(2)	3
	⑳	第 43 図　SX15 出土遺物(10)	2
	㉑	第 43 図　SX15 出土遺物(10)	3
	㉒	第 36 図　SX15 出土遺物(3)	4
	㉓	第 40 図　SX15 出土遺物(7)	2
第20図　SJ18・SJ18 遺物出土状況図	①	第 49 図　SJ18 出土遺物(5)	3
	②	第 45 図　SJ18 出土遺物(1)	2
	③	第 45 図　SJ18 出土遺物(1)	4
	④	第 47 図　SJ18 出土遺物(3)	1
	⑤	第 48 図　SJ18 出土遺物(4)	1
	⑥	第 48 図　SJ18 出土遺物(4)	2



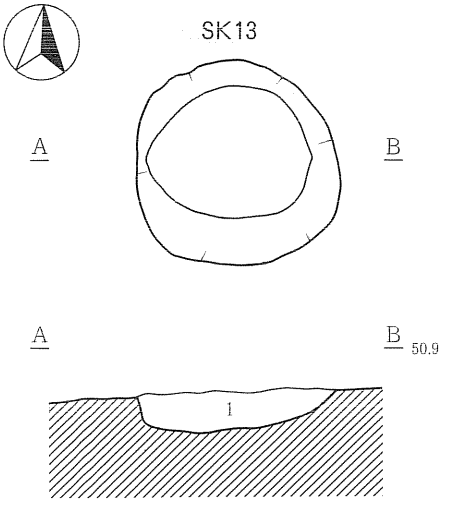
1　黒色土(10YR1.7／1)　粘性強　しまり極めて強い
2　黒褐色土(7.5YR3／1)　粘性強　しまり有り
　炭化物とグライ化した粘土粒子わずかに混入
3　黒色土(10YR2／1)　粘性強　しまり有り
4　黄灰色土(2.5Y4／1)　粘性強　しまり有り
　壁の崩落土（グライ化した粘土）が多量に混入
5　黒褐色土(10YR3／1)　しまり有り　湧水により水分を多量に含む

0　2 m



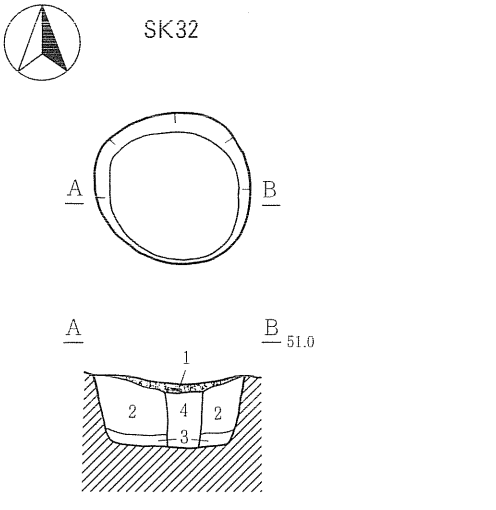
1　黒褐色土(10YR3／1)　粘性強　しまり強
　炭化物・腐植混入　地山粒が混入

0　2 m



1　黒褐色土(10YR3／1)　粘性強　しまり強
　炭化物・腐植混入　地山粒が混入

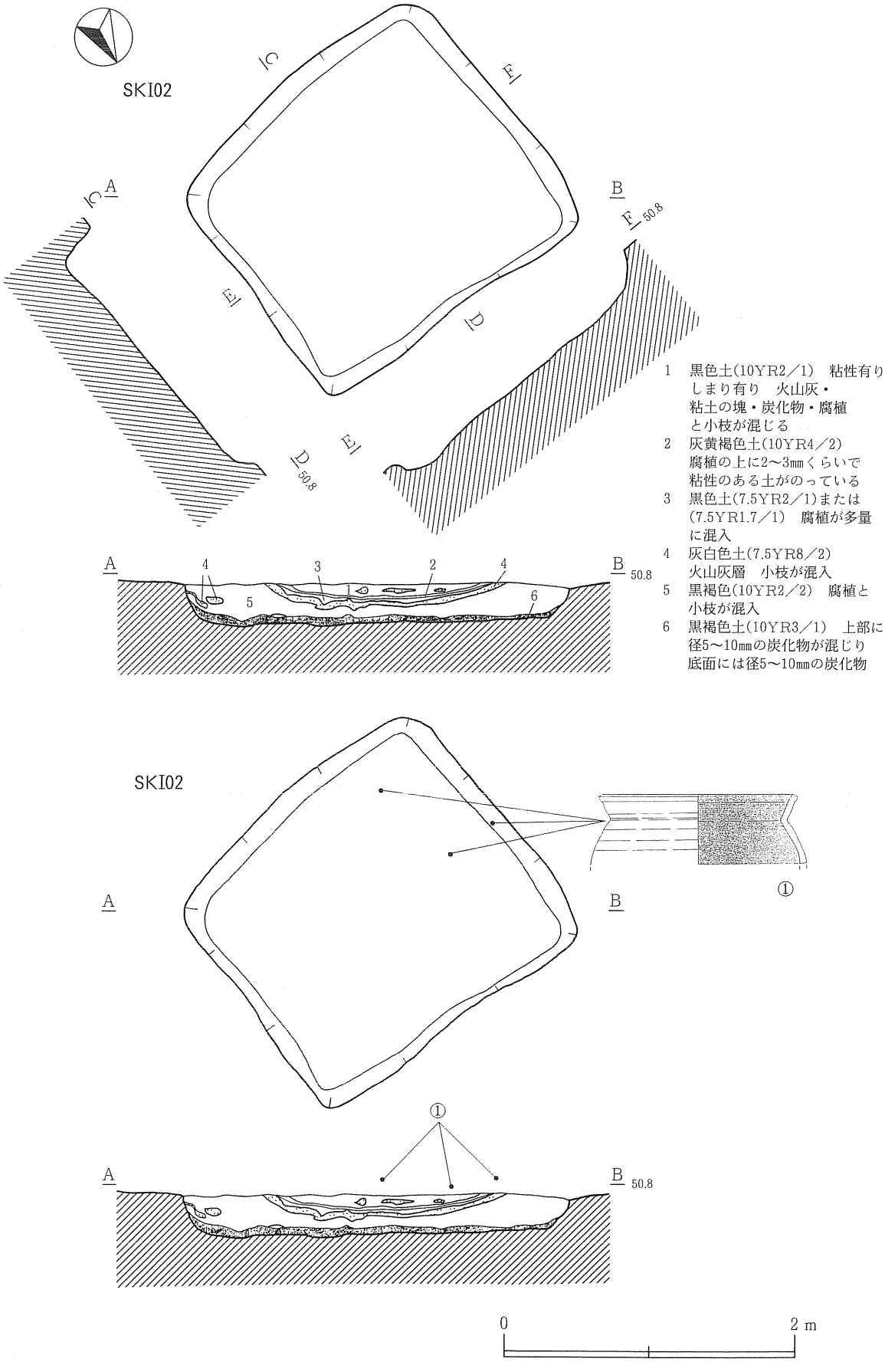
0　2 m



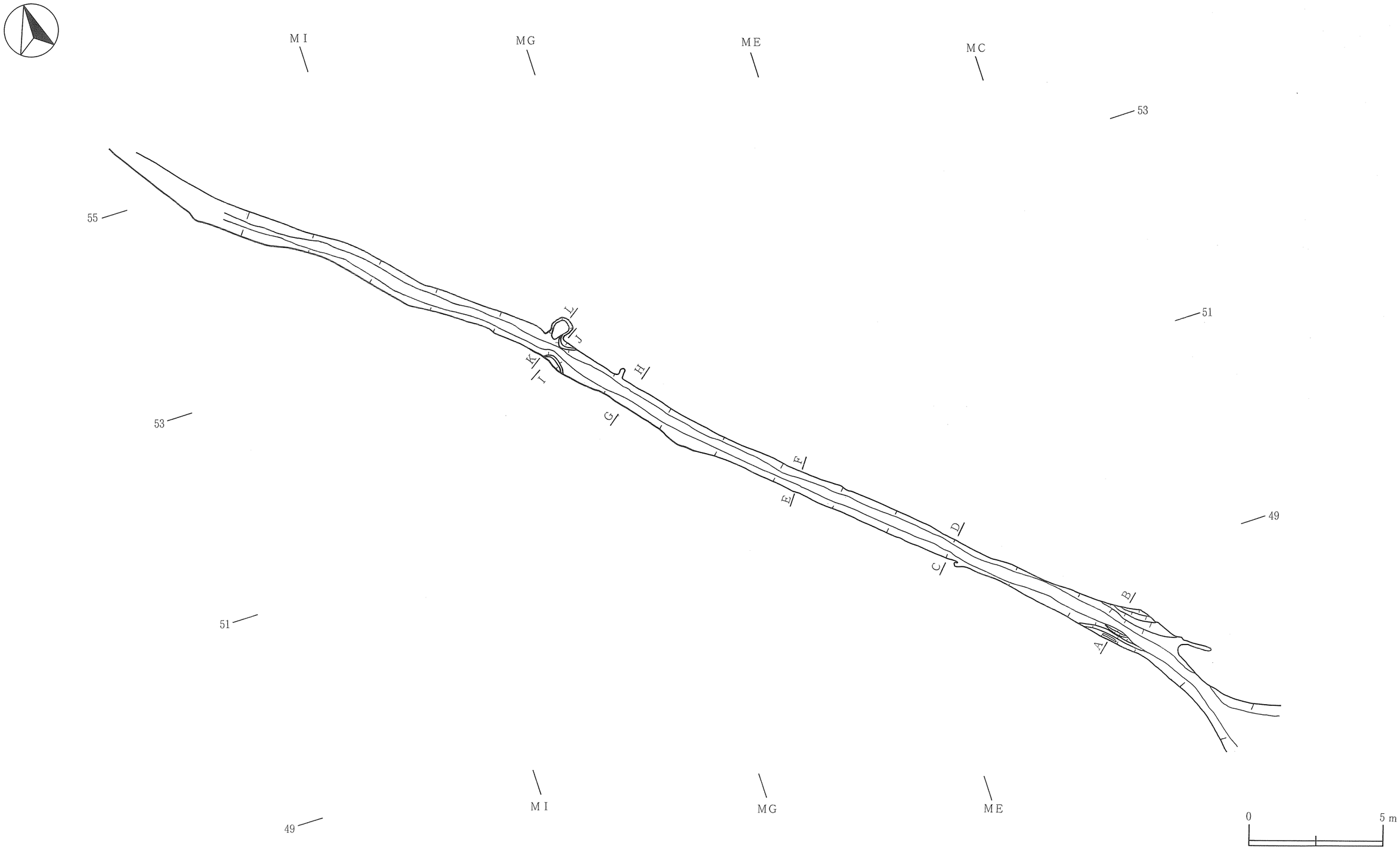
1　黒色土(10YR2／1)　多量の炭の塊と
　わずかに粘性塊混入
2　黒色土(5Y2／1)　粘土質シルト
　多量の灰白色粘土の塊混入
3　明緑灰色土(5G7／1)　粘性強　しまり有り
4　黒色土(10Y2／1)　炭化物の塊わずかに混入

0　1 m

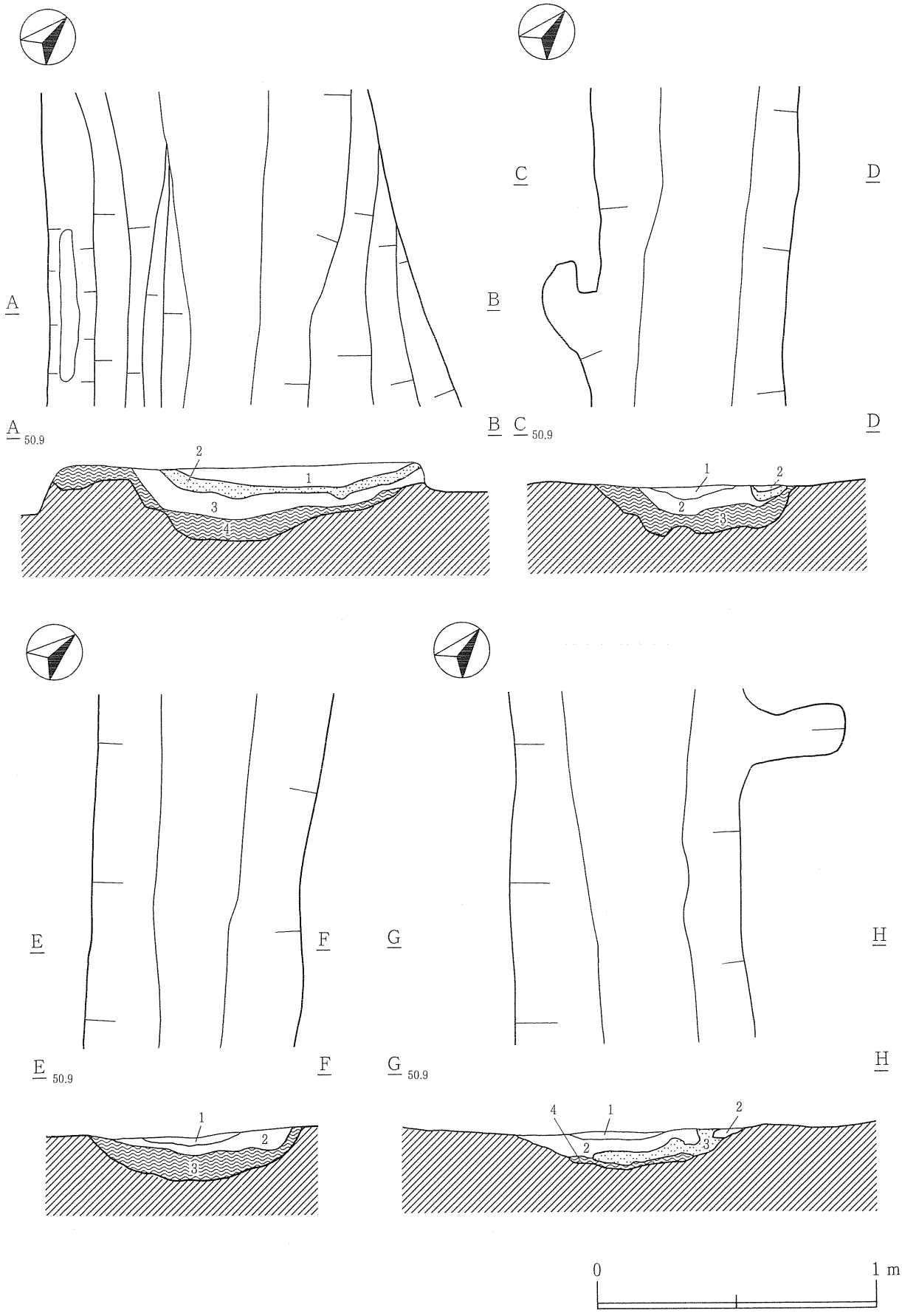
第８図　SK01・SK12・SK13・SK32



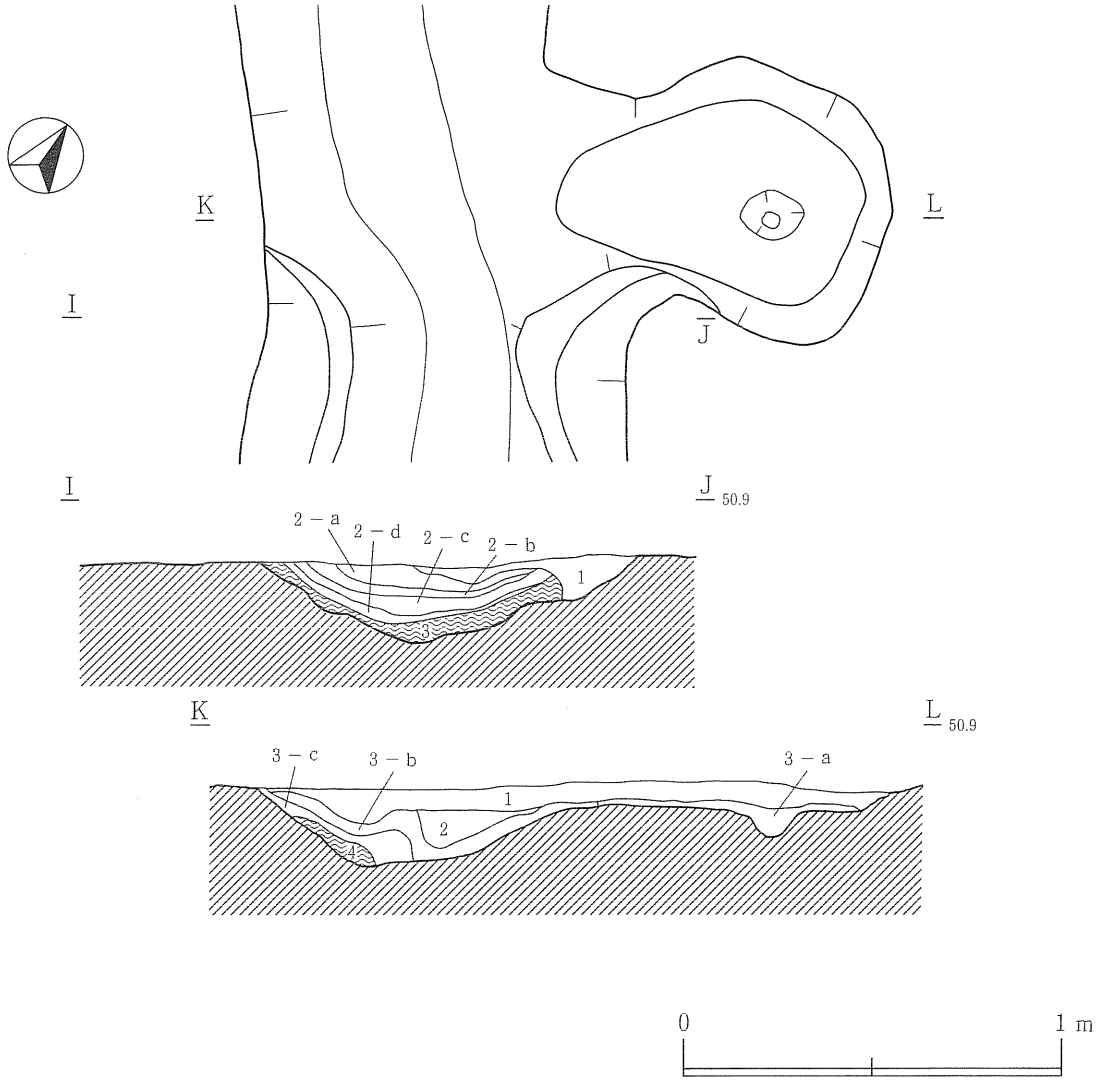
第９図　SKI02・SKI02遺物出土状況図



第10図　SD03（１）



第11図　SD03（２）



SD03A－B
1　黒褐色土(10YR3／1)　しまり有り　火山灰がわずかに混入　腐植混入
2　灰白色土(7.5YR8／2)　火山灰層　5、6ヶ所に火山灰の塊（径10㎜以上）
3　黒褐色土(10YR3／2)　粘性有り　しまり有り　グライ化した粘土混入
　腐植わずかに混入
4　黒褐色土(10YR3／1)　粘性有り　グライ化した粘土が多量に混入

SD03C－D
1　黒褐色土(10YR3／1)　粘性有り　しまり有り　炭化物混入
2　黒褐色土(10YR3／1)　火山灰の塊混入　炭化物及び腐植の混入
3　黒褐色土(10YR3／1)　粘性有り　火山灰わずかに混入
　グライ化した粘土が多量に混入　腐植混入

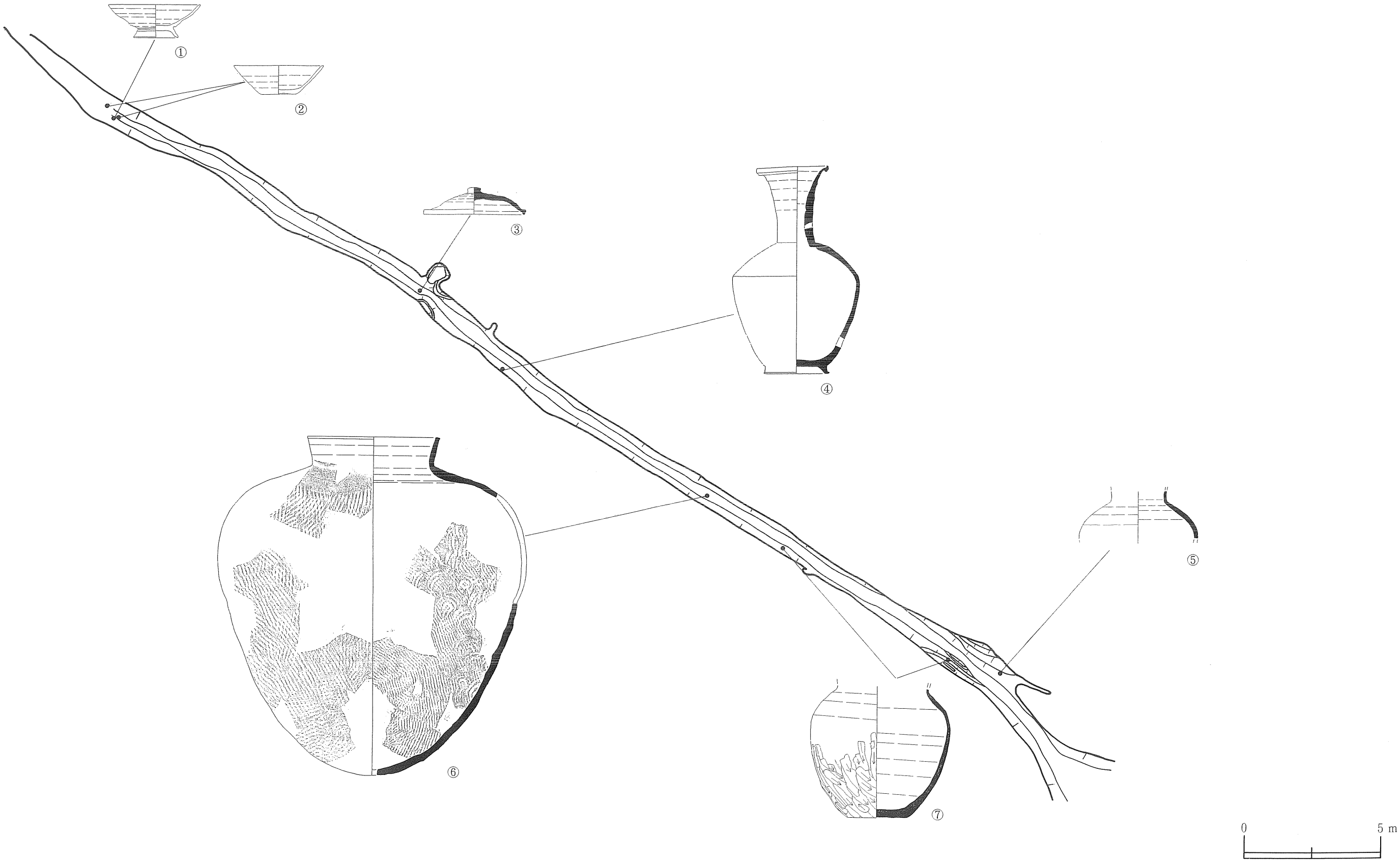
SD03E－F
1　黒褐色土(10YR3／1)　しまり有り　腐植混入
2　黒褐色土(10YR3／1)　粘性有り　しまり有り　火山灰わずかに混入
3　黒褐色土(10YR3／1)　粘性有り　火山灰及び腐植がわずかに混入
　グライ化した粘土が多量に混入

SD03G－H
1　黒褐色土(10YR3／1)　しまり有り
2　黒褐色土(10YR3／1)　しまり有り　火山灰わずかに混入　腐植も混入
3　灰白色土(7.5YR8／2)　火山灰層
4　黒褐色土(10YR3／1)　グライ化した粘土が多量に混入

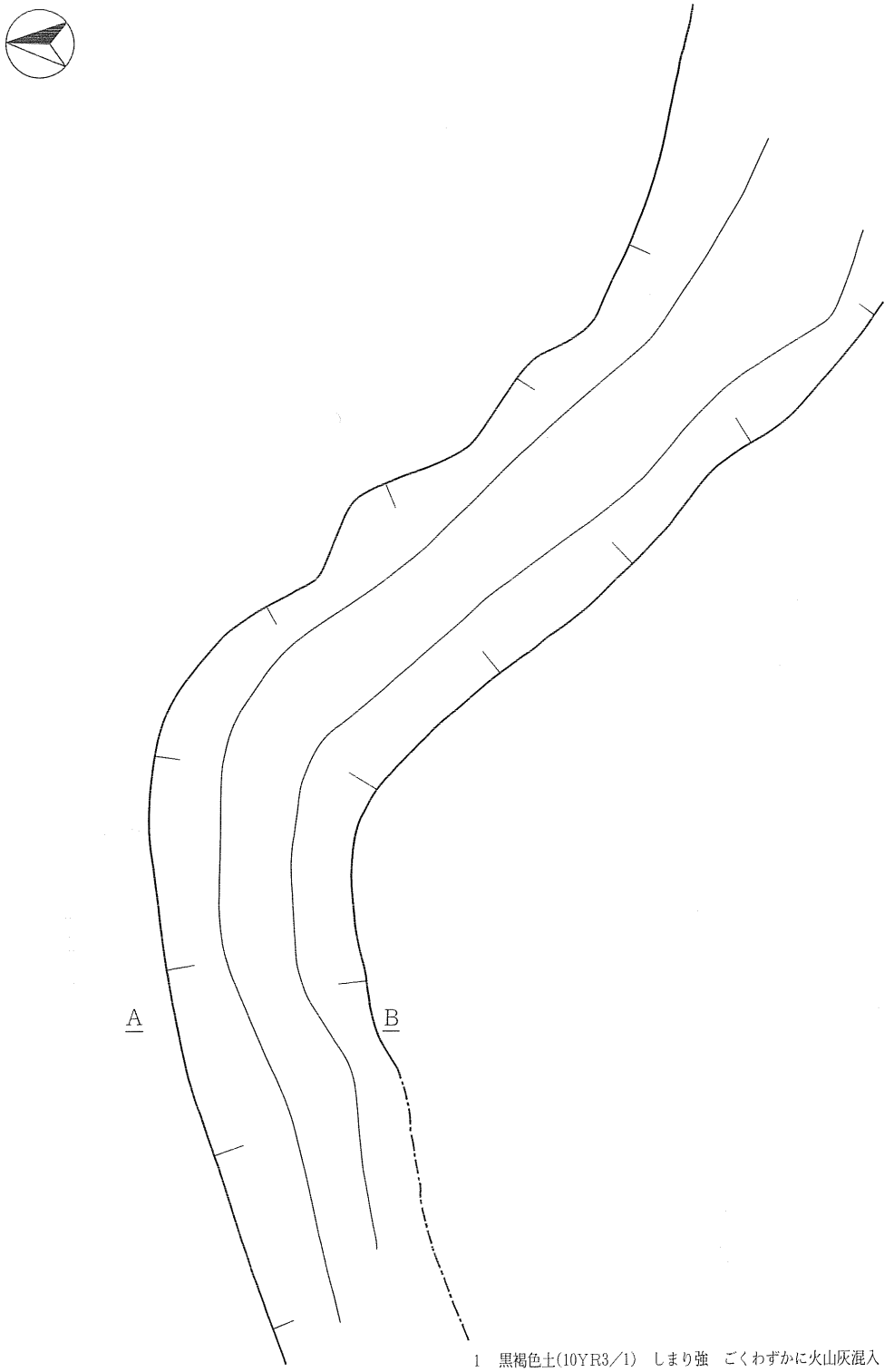
SD03I－J
1　黒色土(10YR2／1)　しまり有り　火山灰の塊混入
2－a　黒色土(10YR2／1)　しまり有り　火山灰がわずかに混入
2－b　しまり有り　腐植混入　火山灰わずかに混入
2－c　火山灰わずか混入
2－d　腐植混入　火山灰わずかに混入
3　黒褐色土(2.5Y3／2)　粘性有り　グライ化した粘土が多量に混入

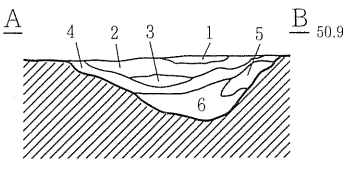
SD03K－L
1　黒褐色土(10YR3／1)　しまり有り　火山灰わずかに混入
2　黒褐色土(10YR3／1)　火山灰わずかに混入　グライ化した粘土混入
3－a　黒褐色土(2.5Y3／1)　粘性有り
3－b　黒褐色土(2.5Y3／1)　粘性有り　しまり有り　グライ化した粘土わずかに混入
3－c　黒褐色土(2.5Y3／1)　粘性有り　しまり有り　グライ化した粘土混入
4　黒褐色土(2.5Y3／2)　粘性有り　グライ化した粘土が多量に混入

第12図　SD03（３）



第13図　SD03遺物出土状況図

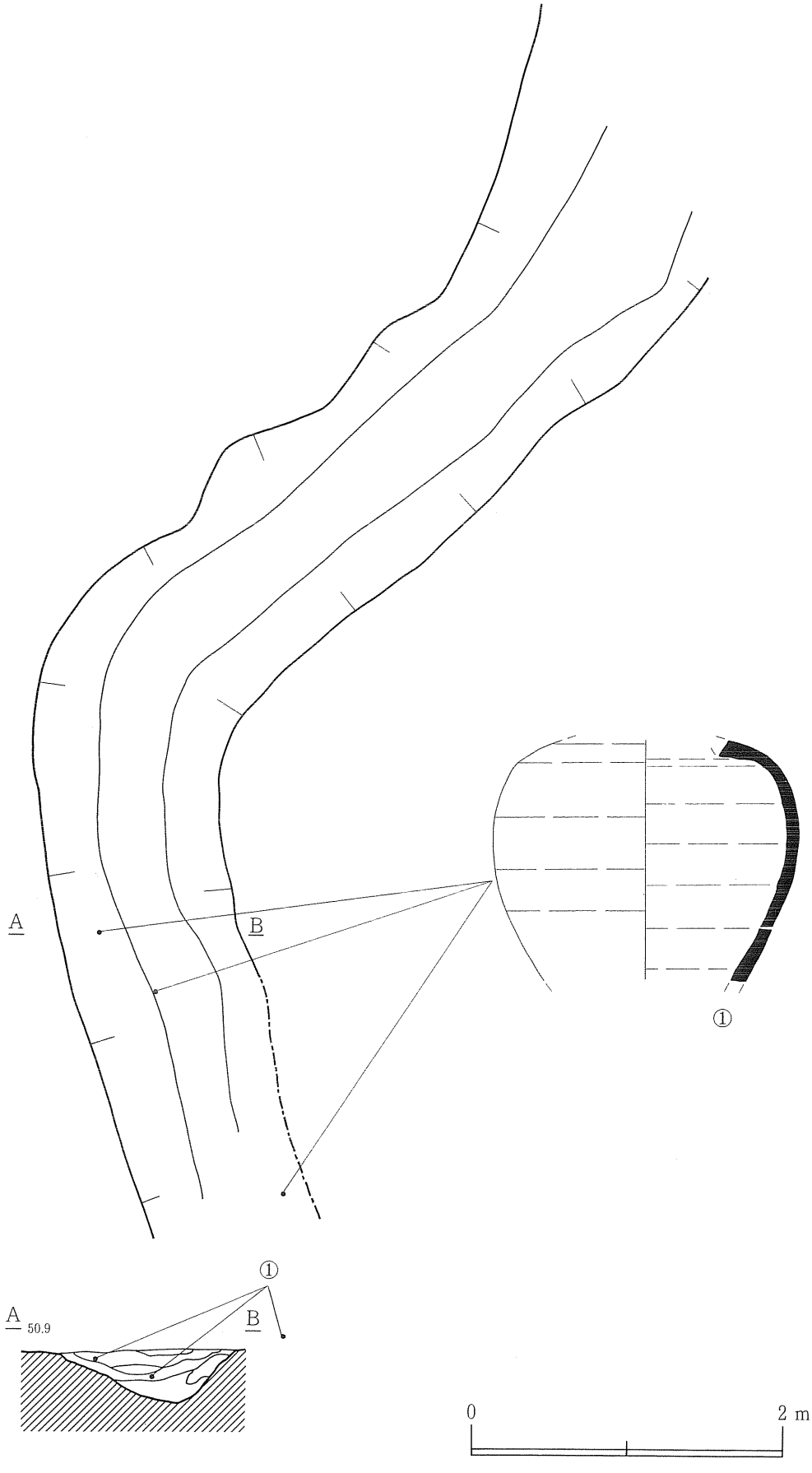




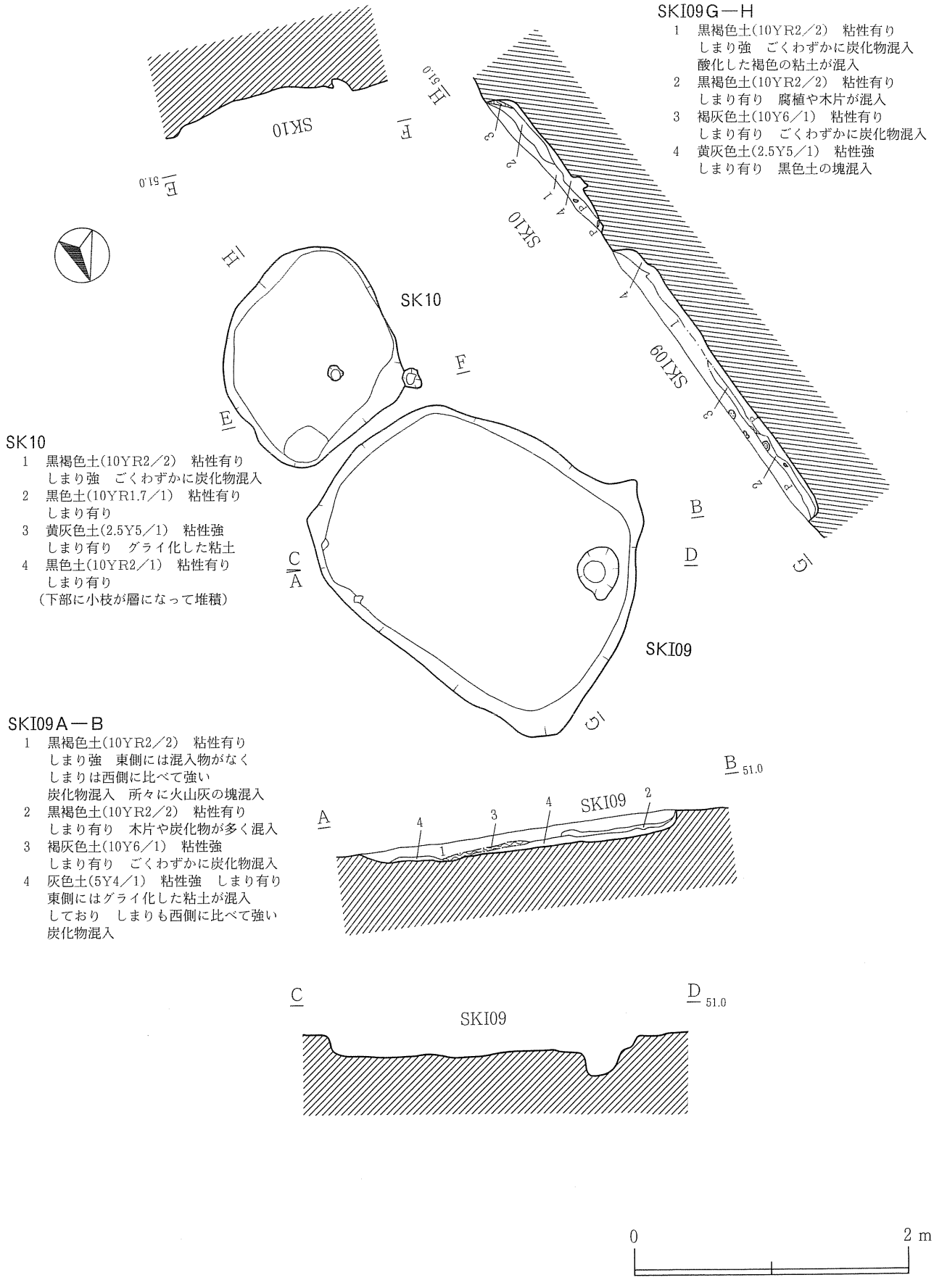
1　黒褐色土(10YR3／1)　しまり強　ごくわずかに火山灰混入　(径2～5㎜)の黒色土混入
2　黒色土(10YR2／1)　しまり有り　腐植が多量に混入
3　黒褐色土(10YR3／1)　粘性有り　腐植混入（2層より少ない）
4　黒褐色土(10YR3／2)　粘性有り　ごくわずかに火山灰混入　わずかに腐植混入
5　黒褐色土(10YR3／1)　粘性有り　わずかに腐植混入
6　黒褐色土(10YR3／2)　粘性有り　わずかに腐植混入

0　2 m

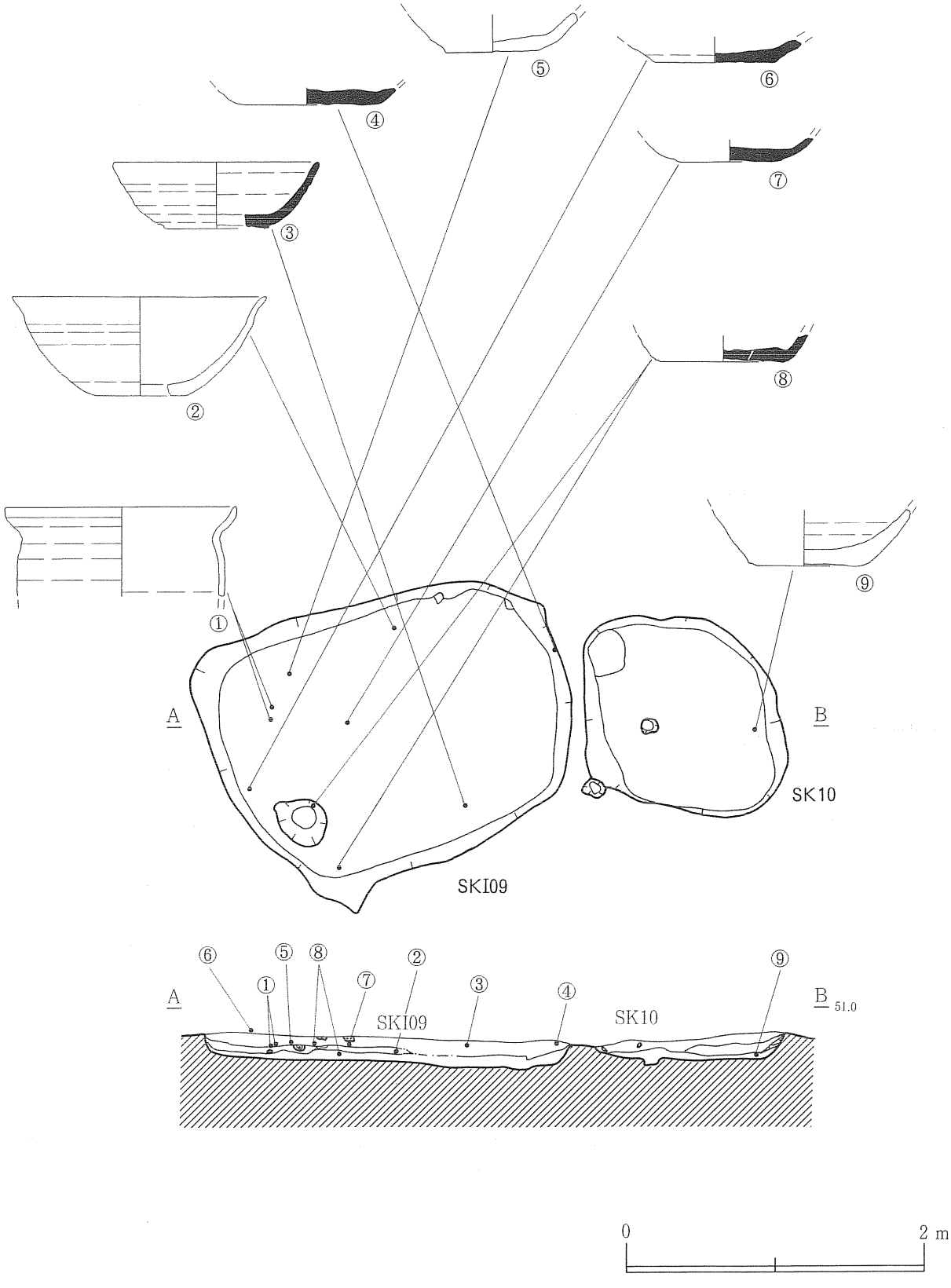
第14図　SD07



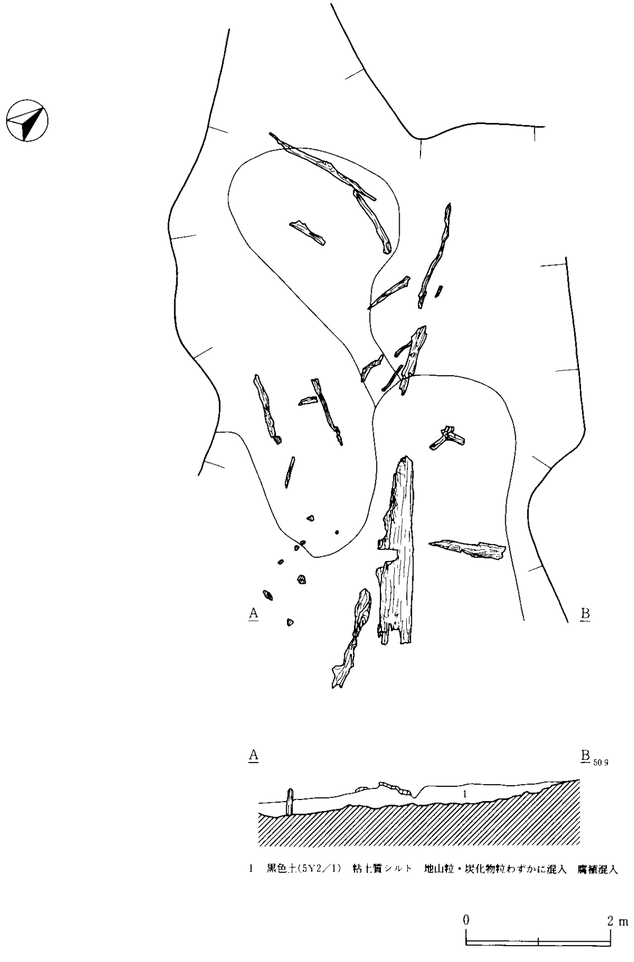
第15図　SD07遺物出土状況図



第16図　SKI09・SK10

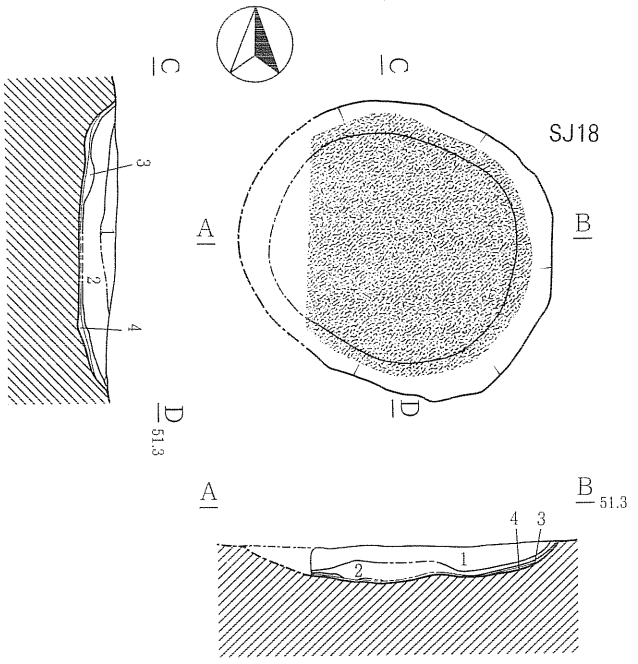


第17図　SKI09・SK10遺物出土状況図

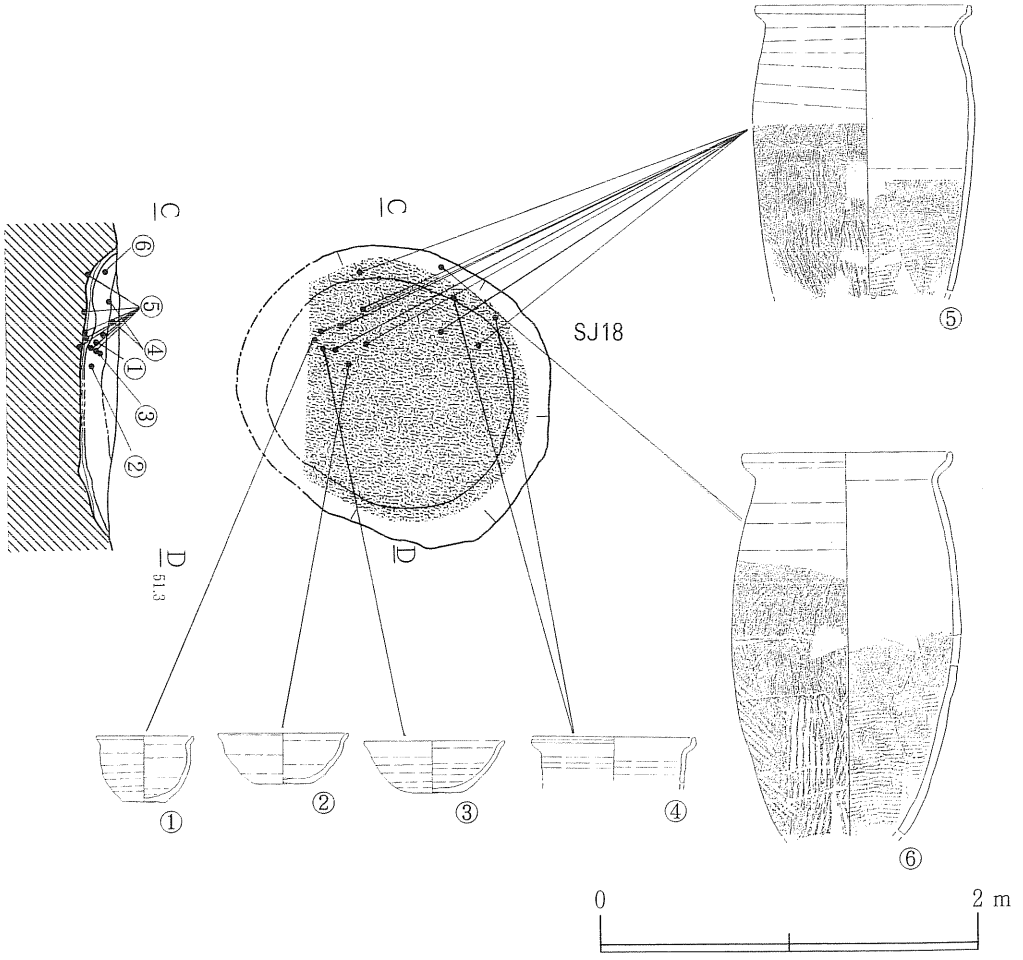


第18図　SX15

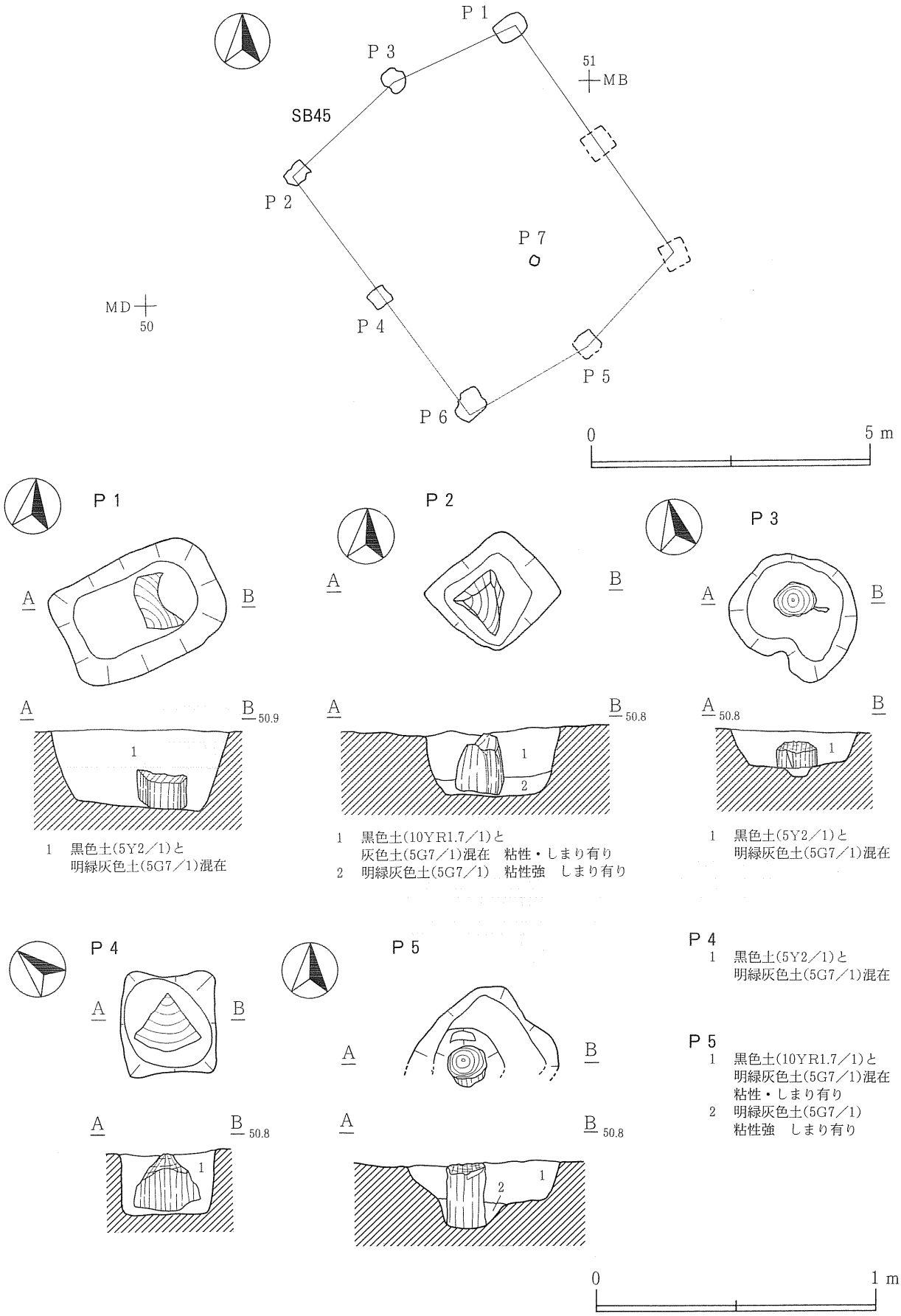
第19図　SX15遺物出土状況図



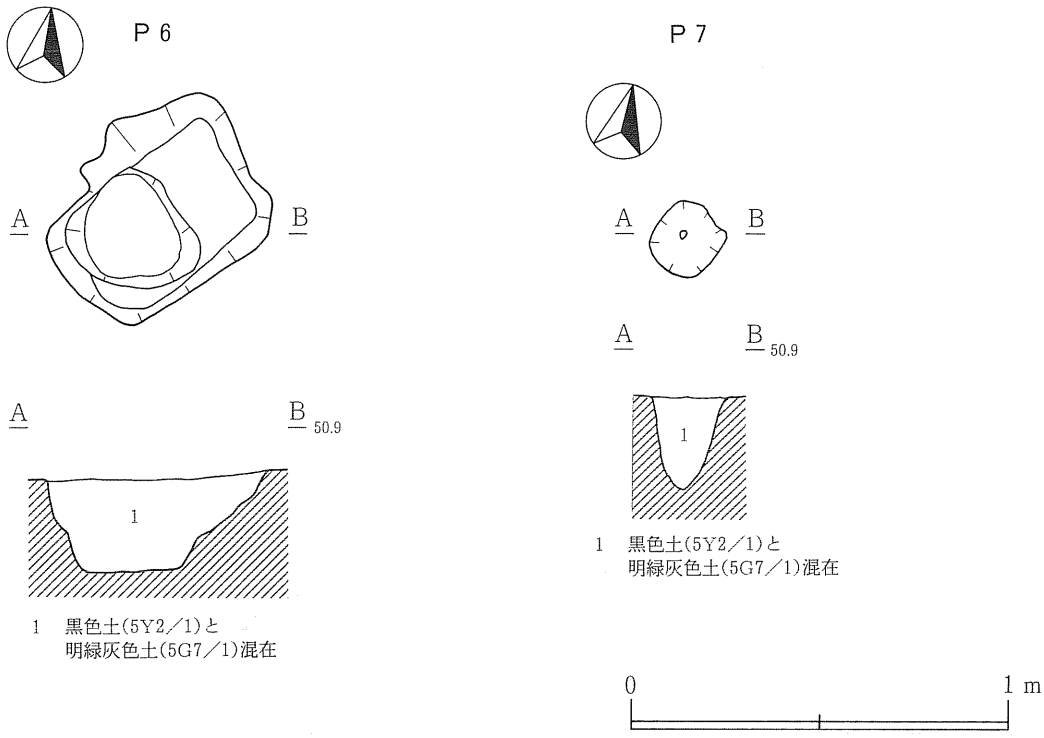
1　黒色土(7.5YR2／1)　粘土塊の混入
2　土器片が層状に密集
3　炭化物が薄く層状に密集
4　明褐色土(7.5YR5／6)　淡い焼土粒が分布



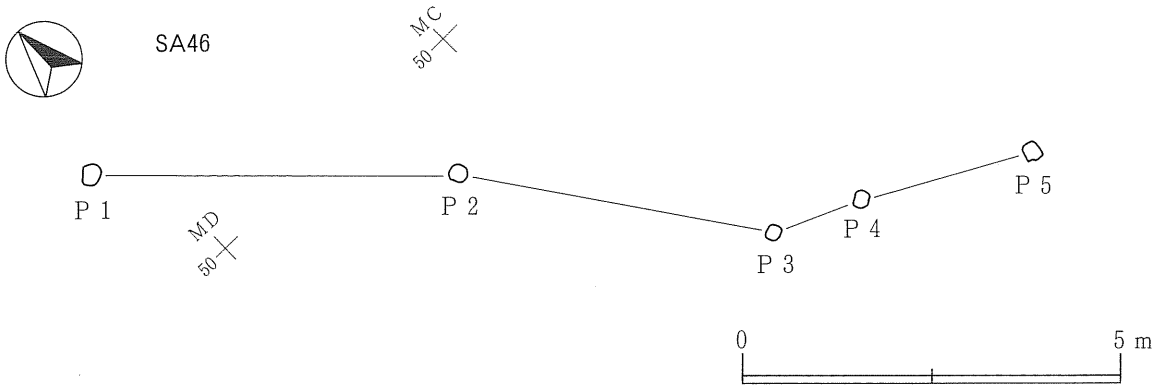
第20図　SJ18・SJ18遺物出土状況図

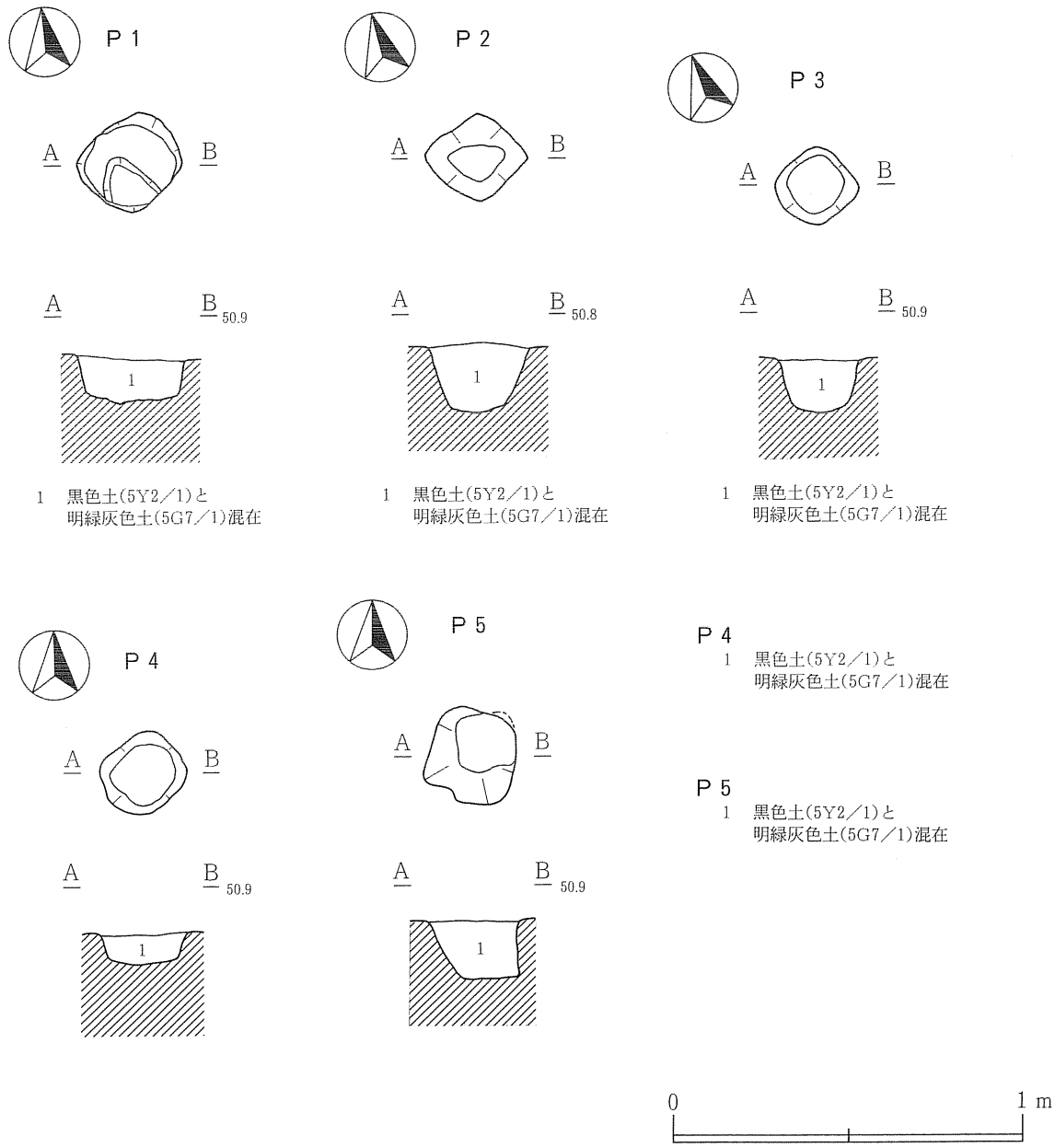

P 1
P 3
51
MB
SB45
P 2
P 7
MD
50
P 4
P 5
P 6
0
5 m
P 1
A
B
A
B 50.9
1
1　黒色土(5Y2／1)と
明緑灰色土(5G7／1)混在
P 2
A
B
A
B 50.8
1
2
1　黒色土(10YR1.7／1)と
灰色土(5G7／1)混在　粘性・しまり有り
2　明緑灰色土(5G7／1)　粘性強　しまり有り
P 3
A
B
A 50.8
B
1
1　黒色土(5Y2／1)と
明緑灰色土(5G7／1)混在
P 4
A
B
A
B 50.8
1
P 5
A
B
A
B 50.8
1
2
P 4
1　黒色土(5Y2／1)と
明緑灰色土(5G7／1)混在
P 5
1　黒色土(10YR1.7／1)と
明緑灰色土(5G7／1)混在
粘性・しまり有り
2　明緑灰色土(5G7／1)
粘性強　しまり有り
0
1 m

第21図　SB45（１）

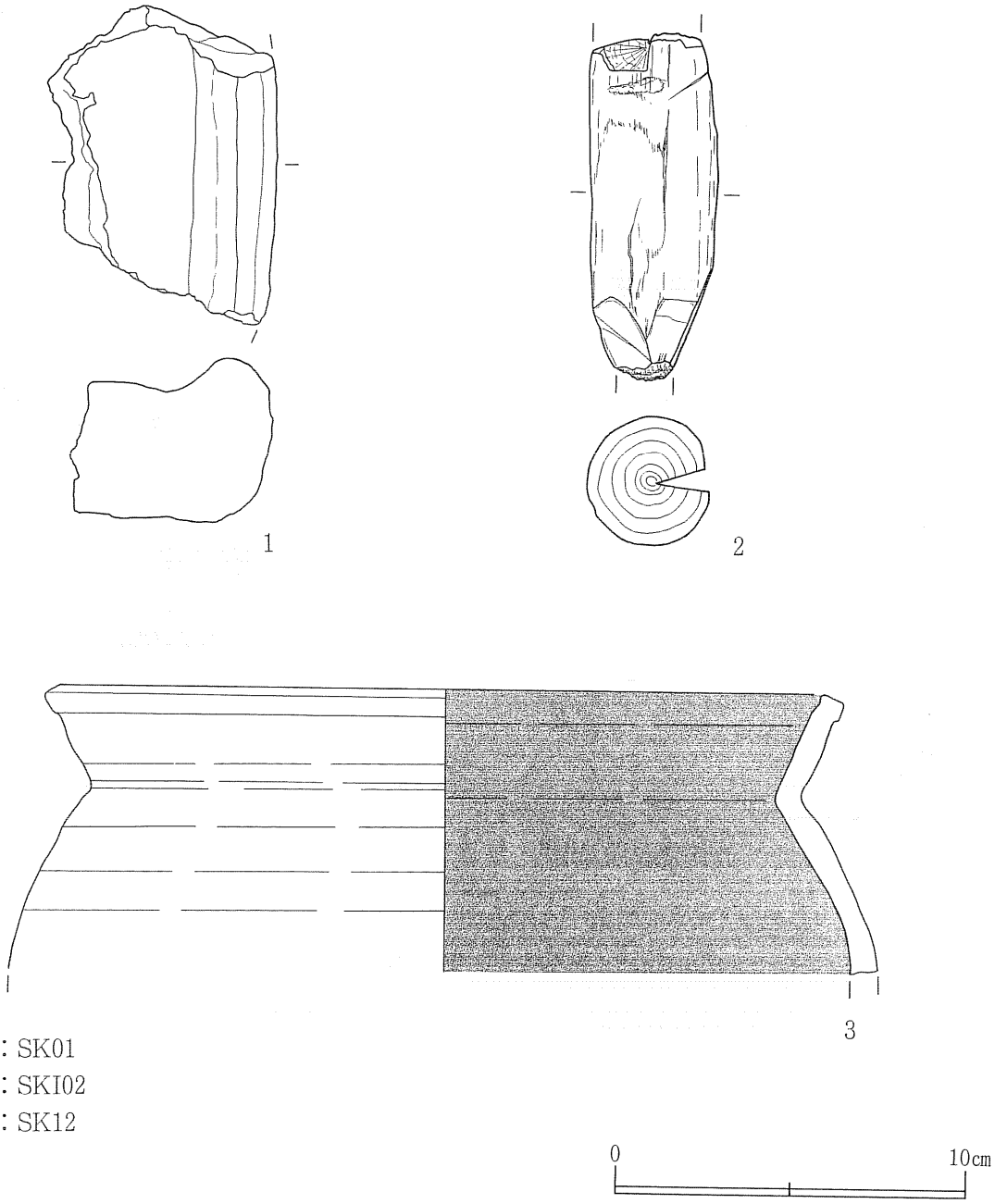

P 6
A
B
A
B
50.9
1
1　黒色土(5Y2／1)と
明緑灰色土(5G7／1)混在
P 7
A
B
A
B
50.9
1
1　黒色土(5Y2／1)と
明緑灰色土(5G7／1)混在
0
1 m

第22図　SB45（２）

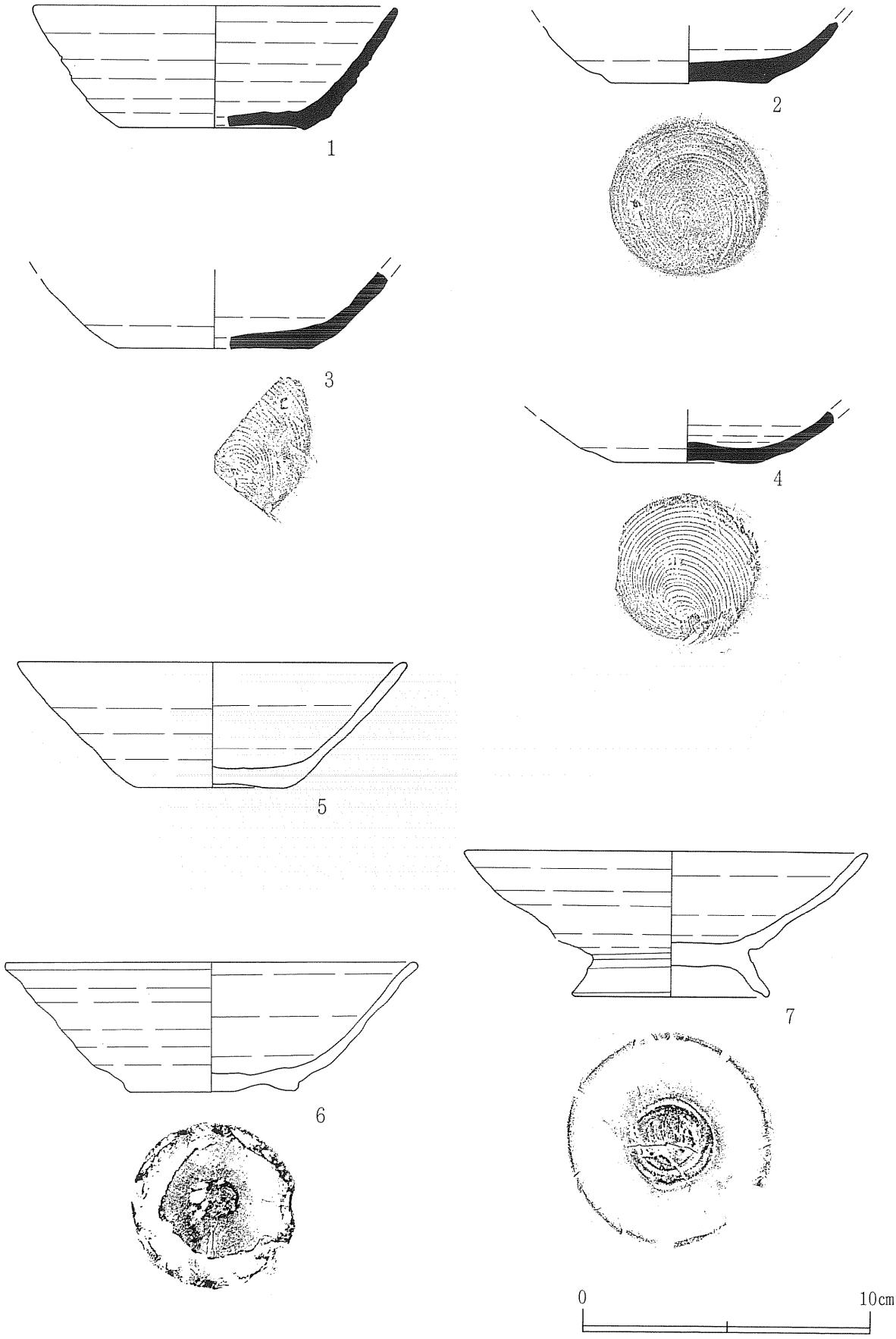

SA46
MC
50
P 1
P 2
P 3
P 4
P 5
MD
50
0
5 m


P 1
A
B
A
B 50.9
1
1　黒色土(5Y2／1)と
明緑灰色土(5G7／1)混在
P 2
A
B
A
B 50.8
1
1　黒色土(5Y2／1)と
明緑灰色土(5G7／1)混在
P 3
A
B
A
B 50.9
1
1　黒色土(5Y2／1)と
明緑灰色土(5G7／1)混在
P 4
A
B
A
B 50.9
1
P 5
A
B
A
B 50.9
1
P 4
1　黒色土(5Y2／1)と
明緑灰色土(5G7／1)混在
P 5
1　黒色土(5Y2／1)と
明緑灰色土(5G7／1)混在
0
1 m

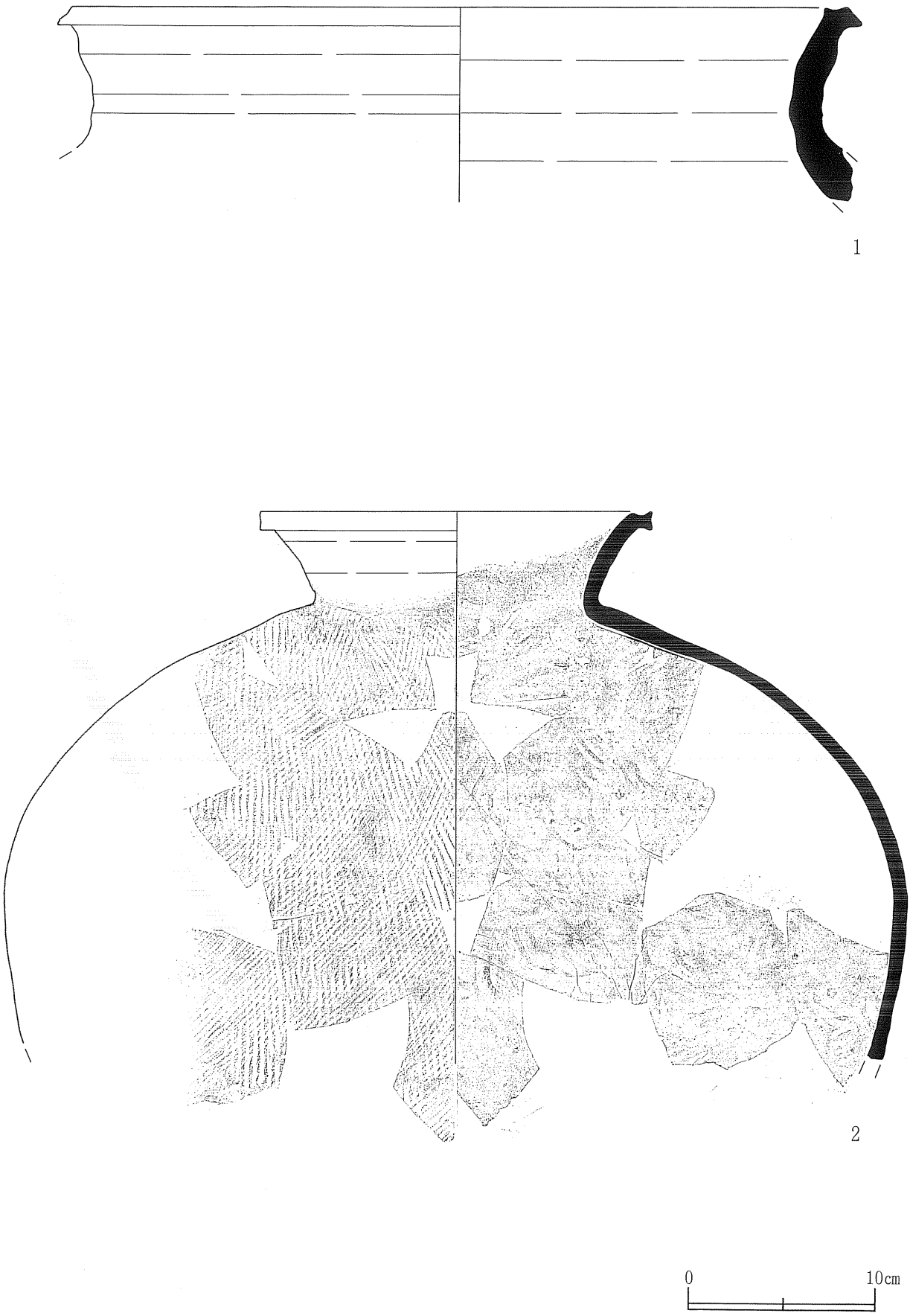
第23図　SA46



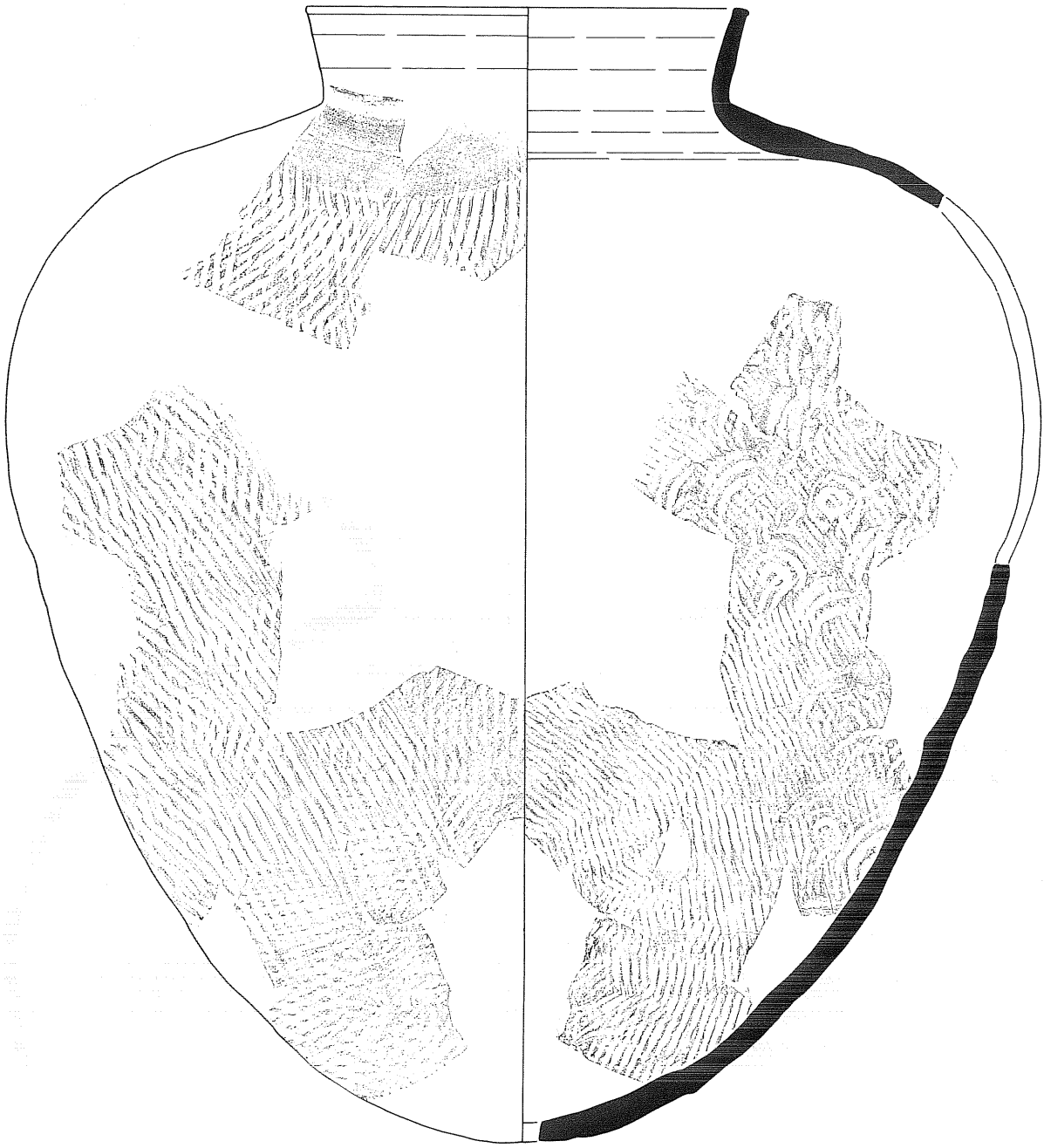
第24図　SK01・SKI02・SK12出土遺物



第25図　SD03出土遺物（１）



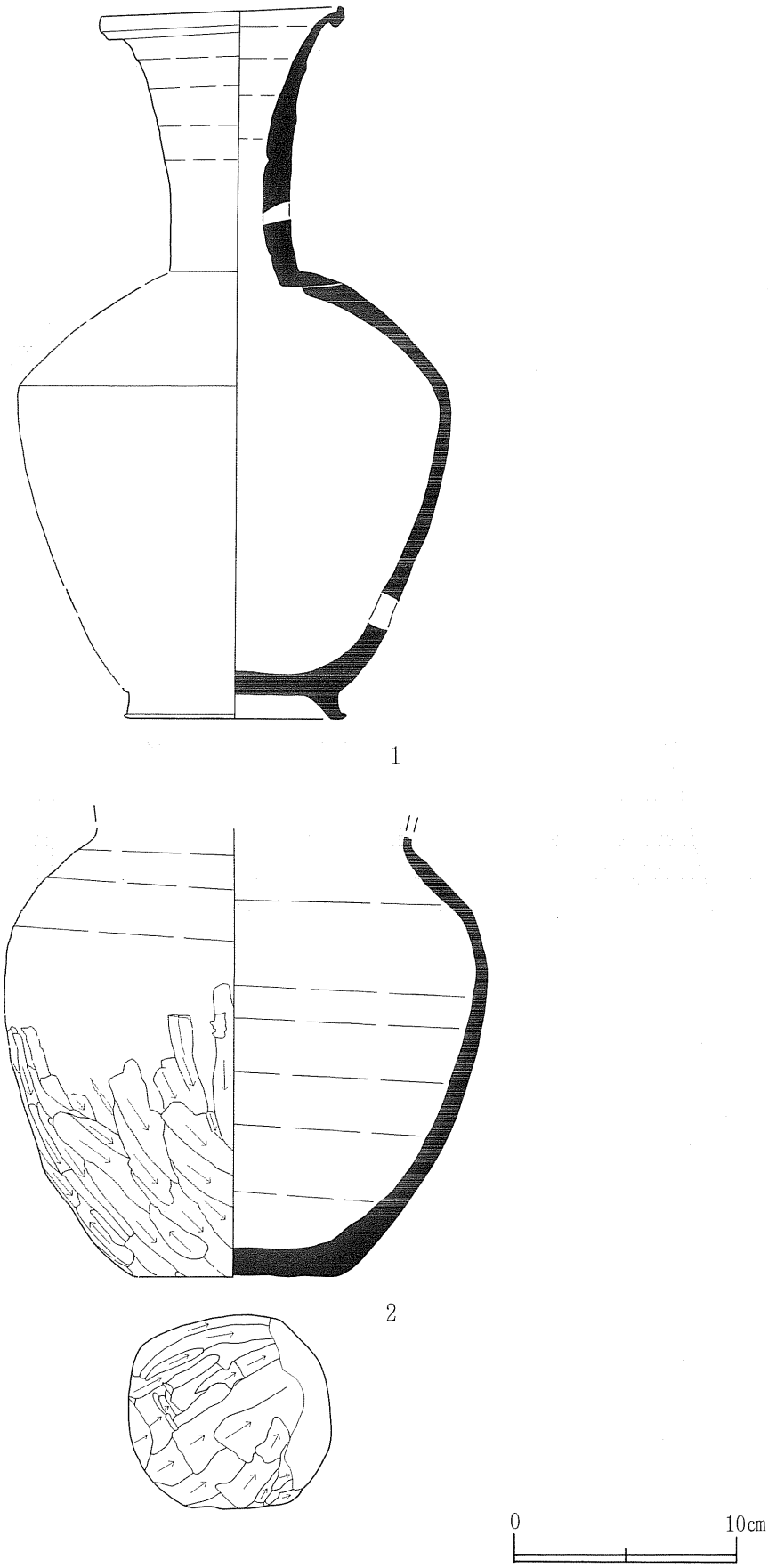
第26図　SD03出土遺物（２）



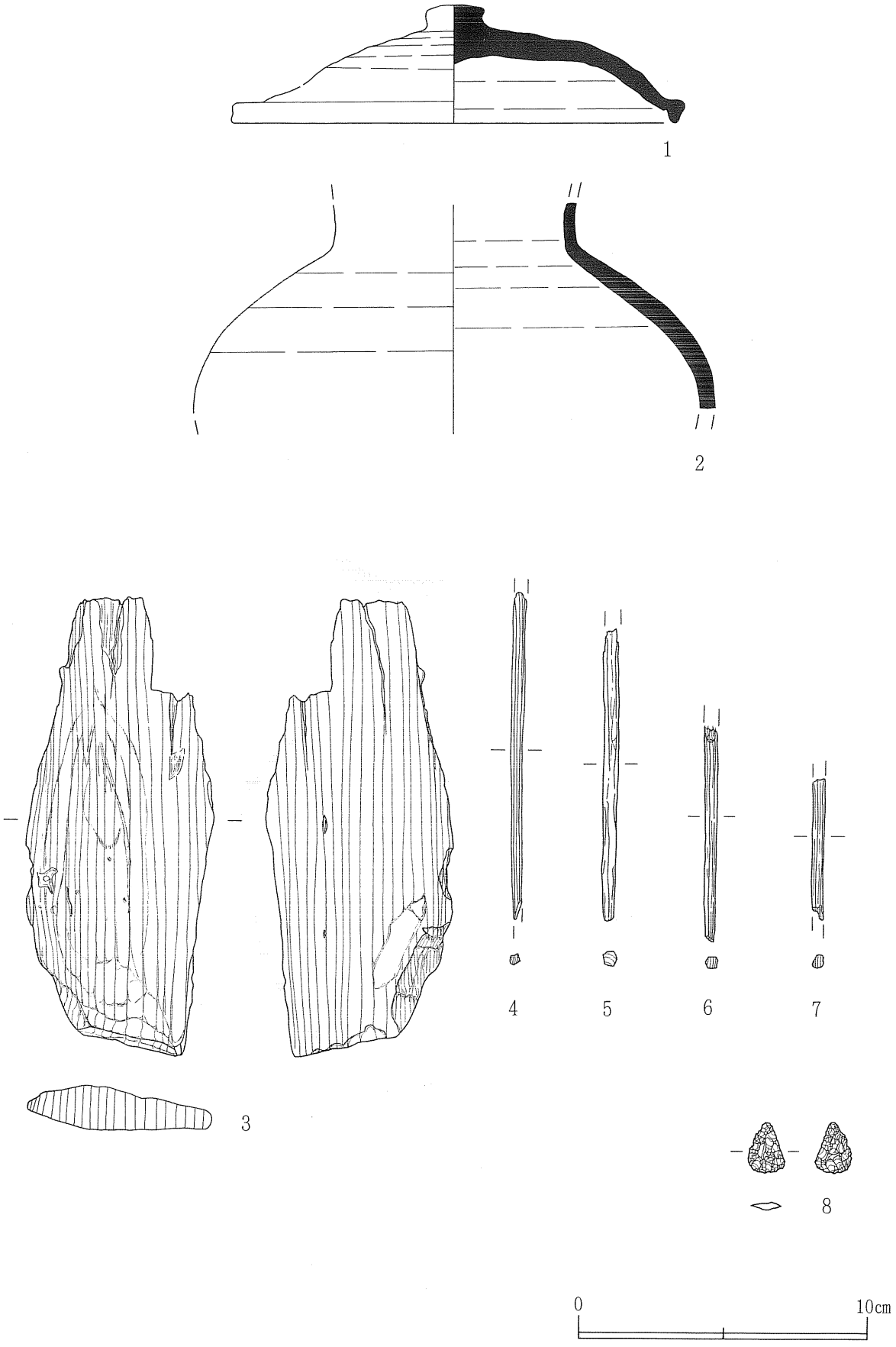
1

0　10cm

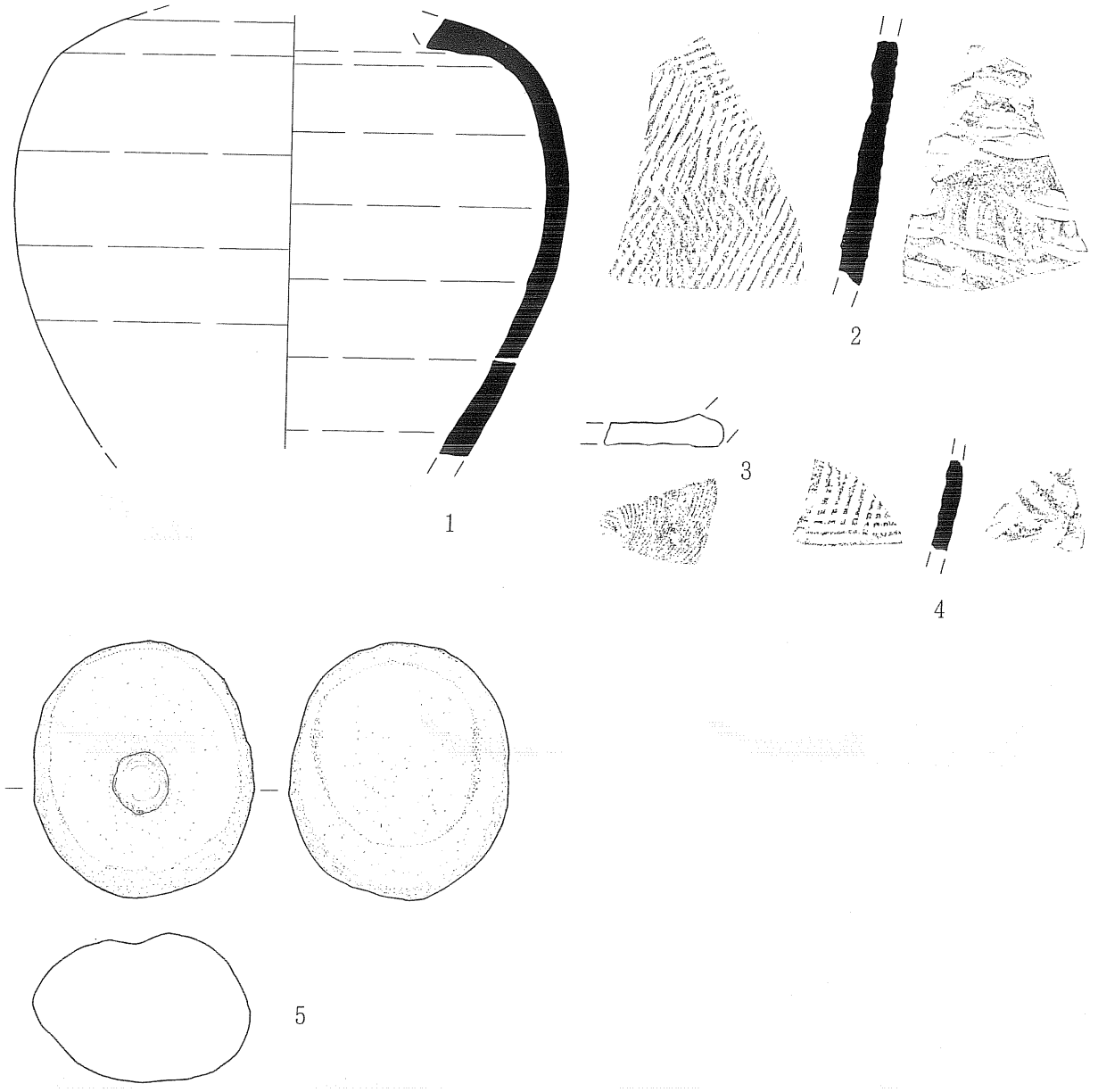
第27図　SD03出土遺物（３）



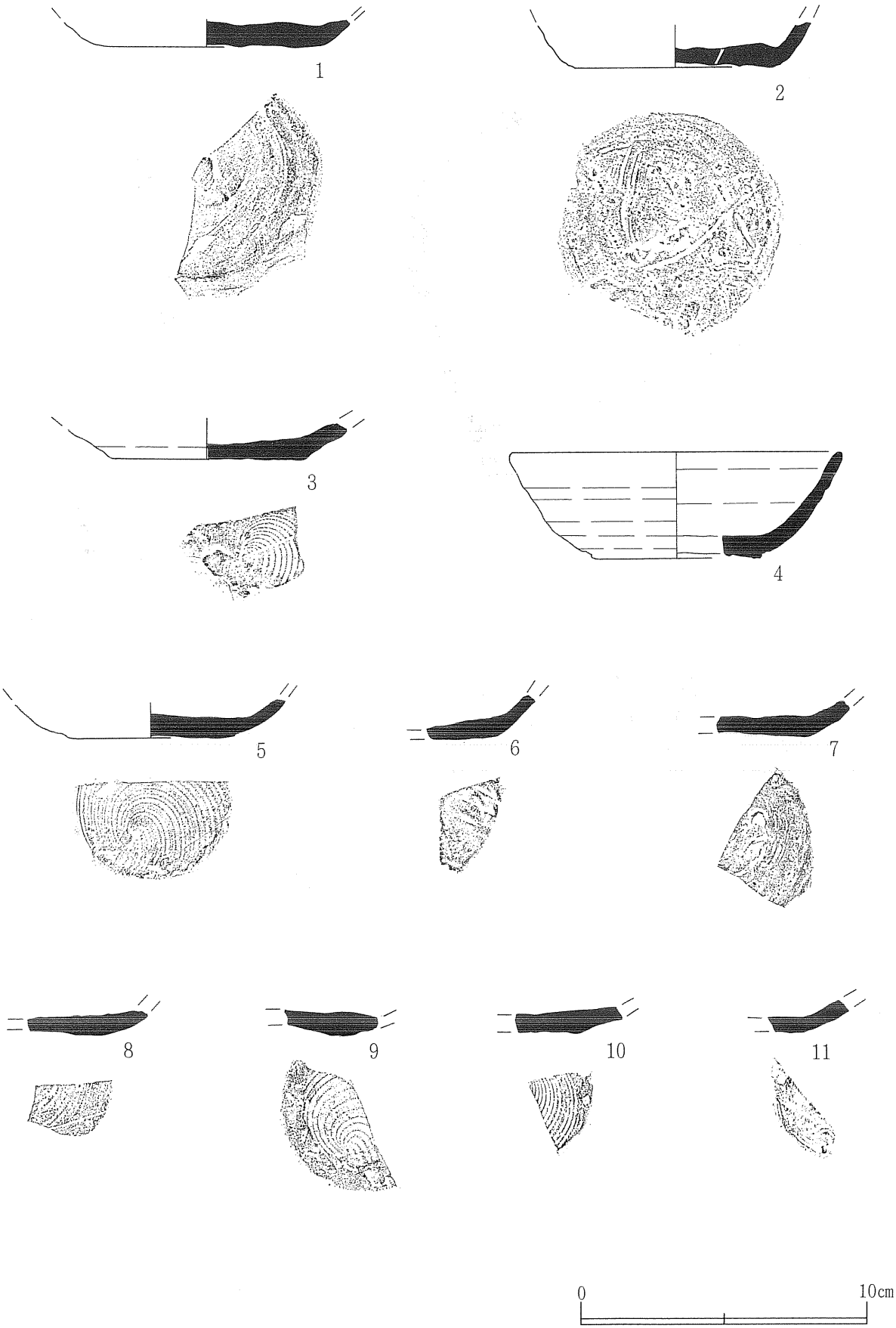
第28図　SD03出土遺物（４）



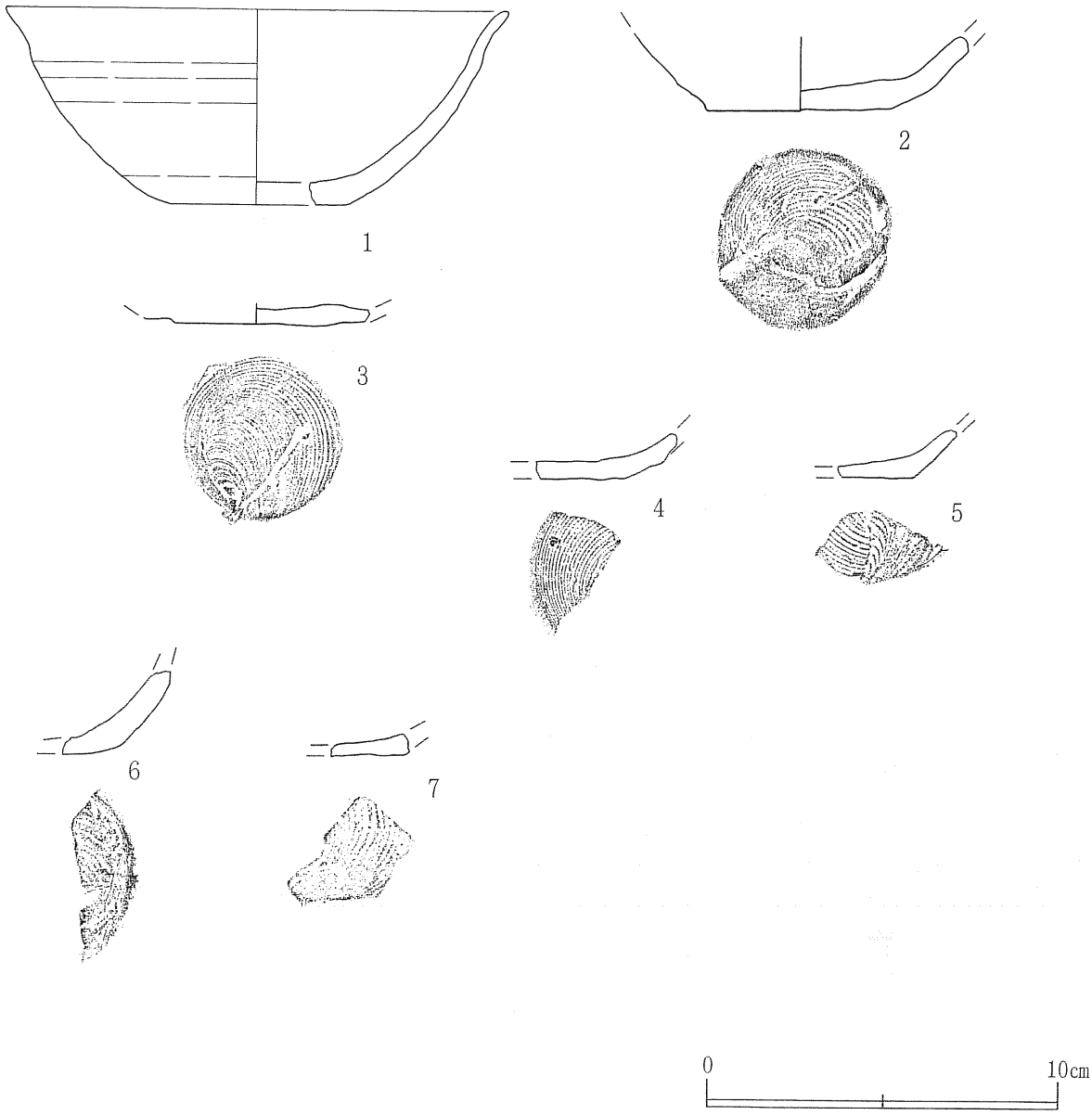
第29図　SD03出土遺物（５）



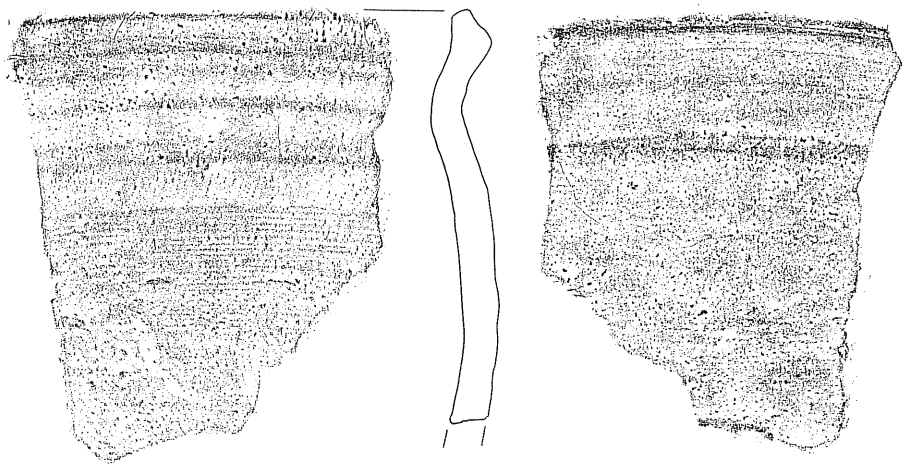
第30図　SD07出土遺物



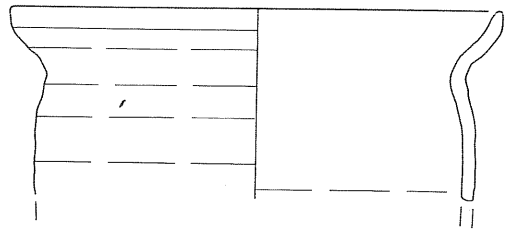
第31図　SKI09出土遺物（１）



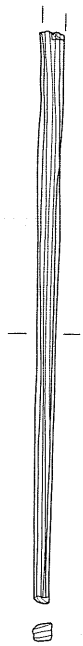
第32図　SKI09出土遺物（２）



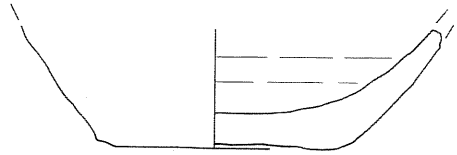
1



2



3

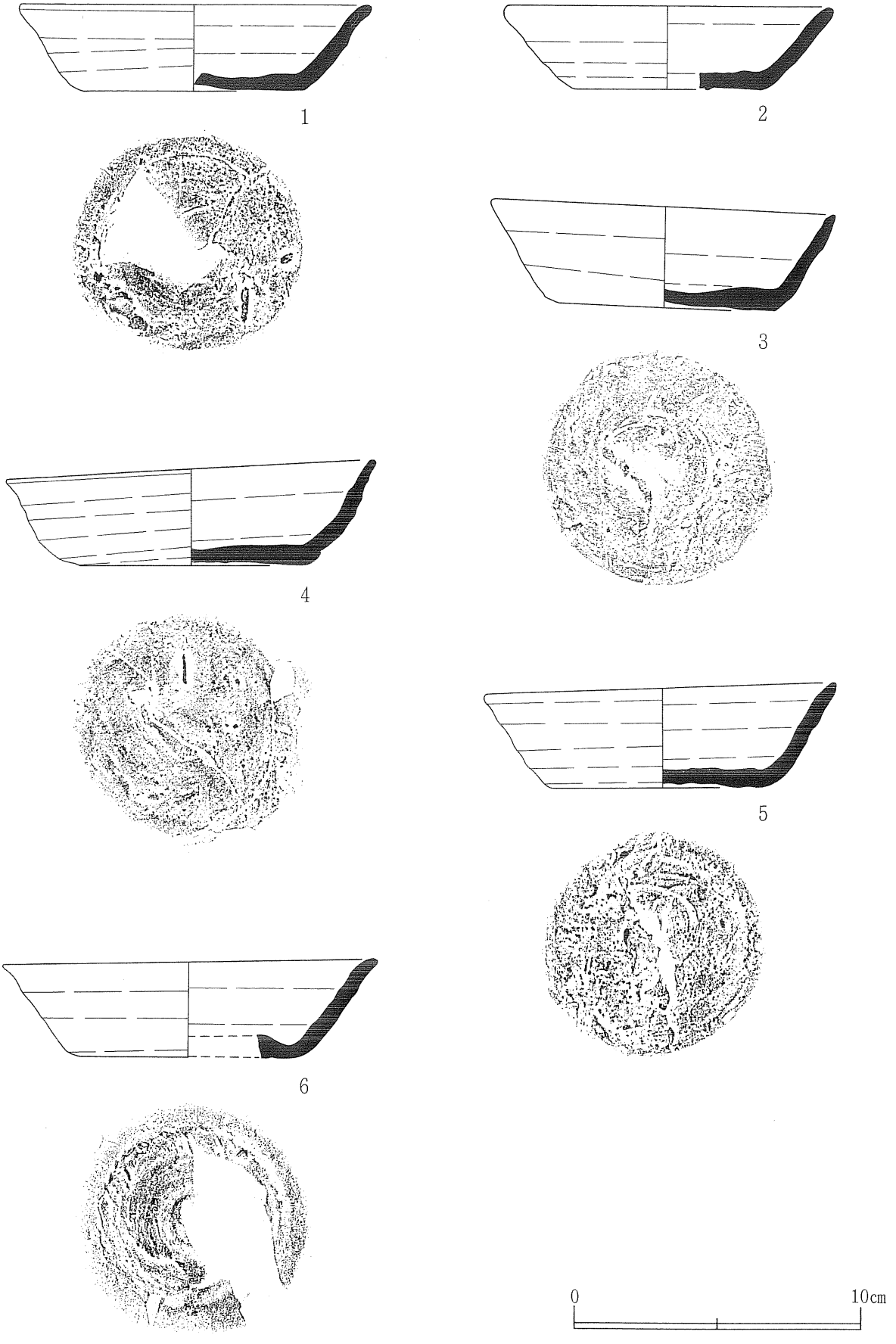


4

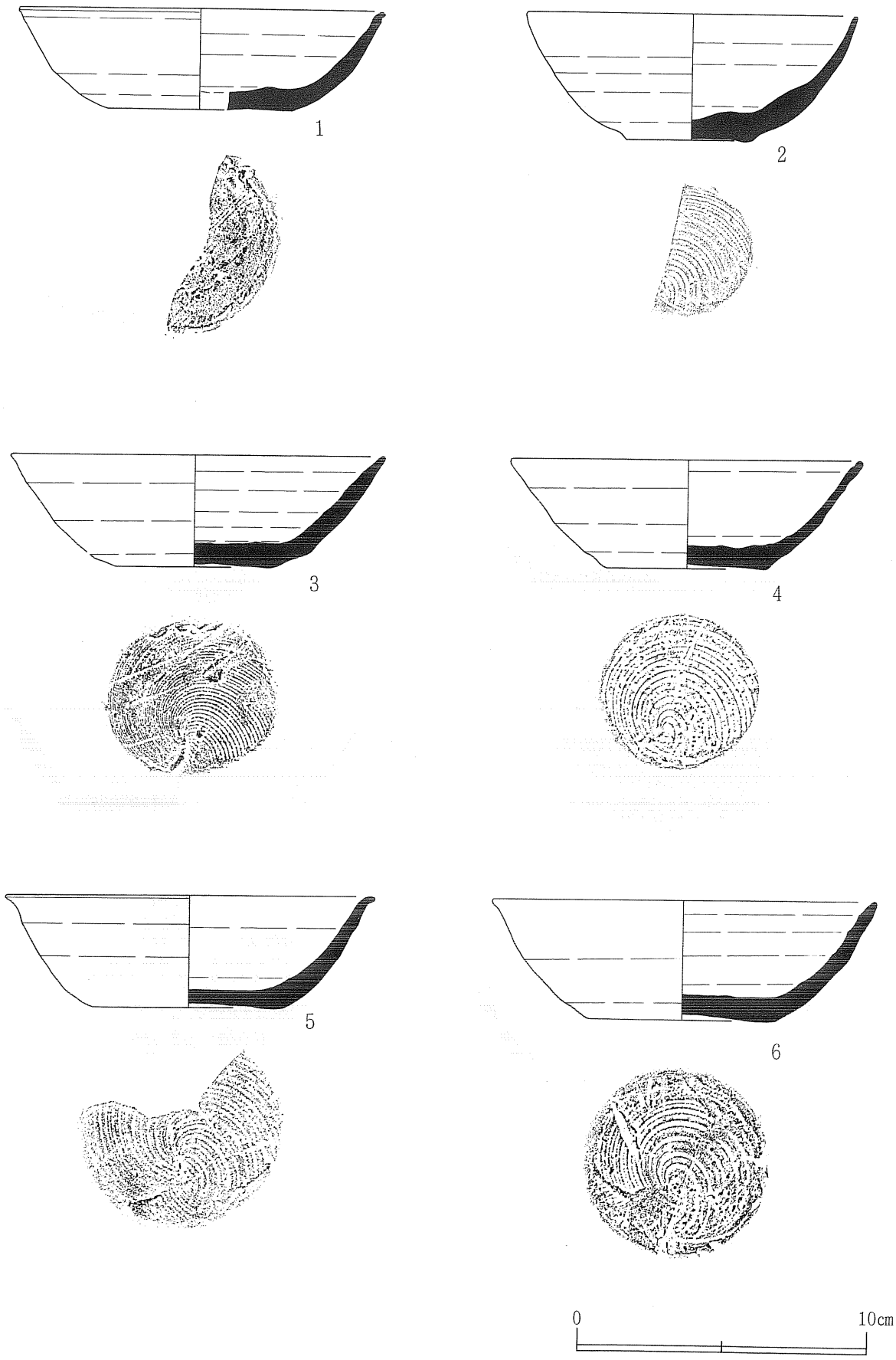
1・2・3：SKI09
4：SK10

0　10cm

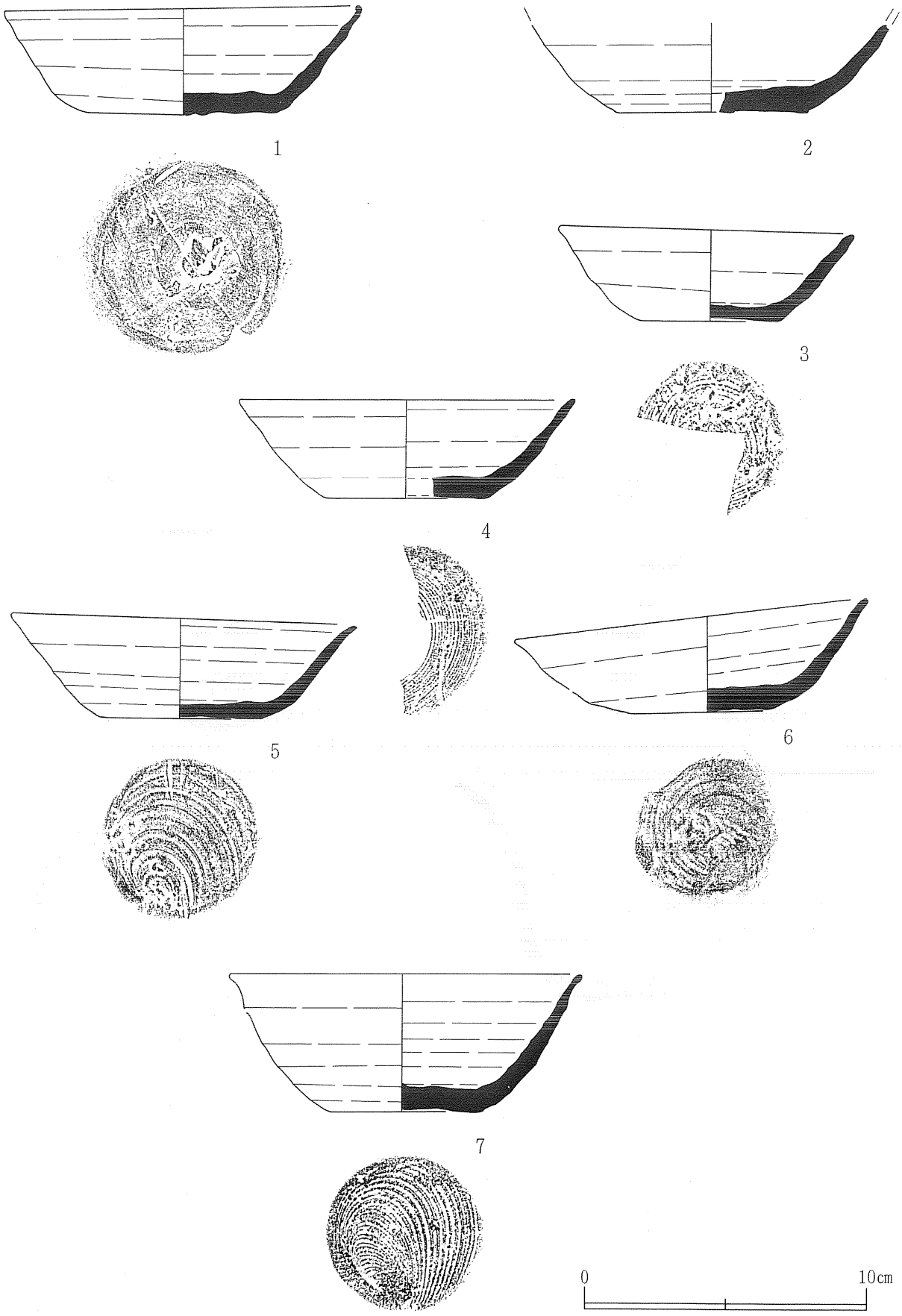
第33図　SKI09出土遺物（３）・SK10出土遺物



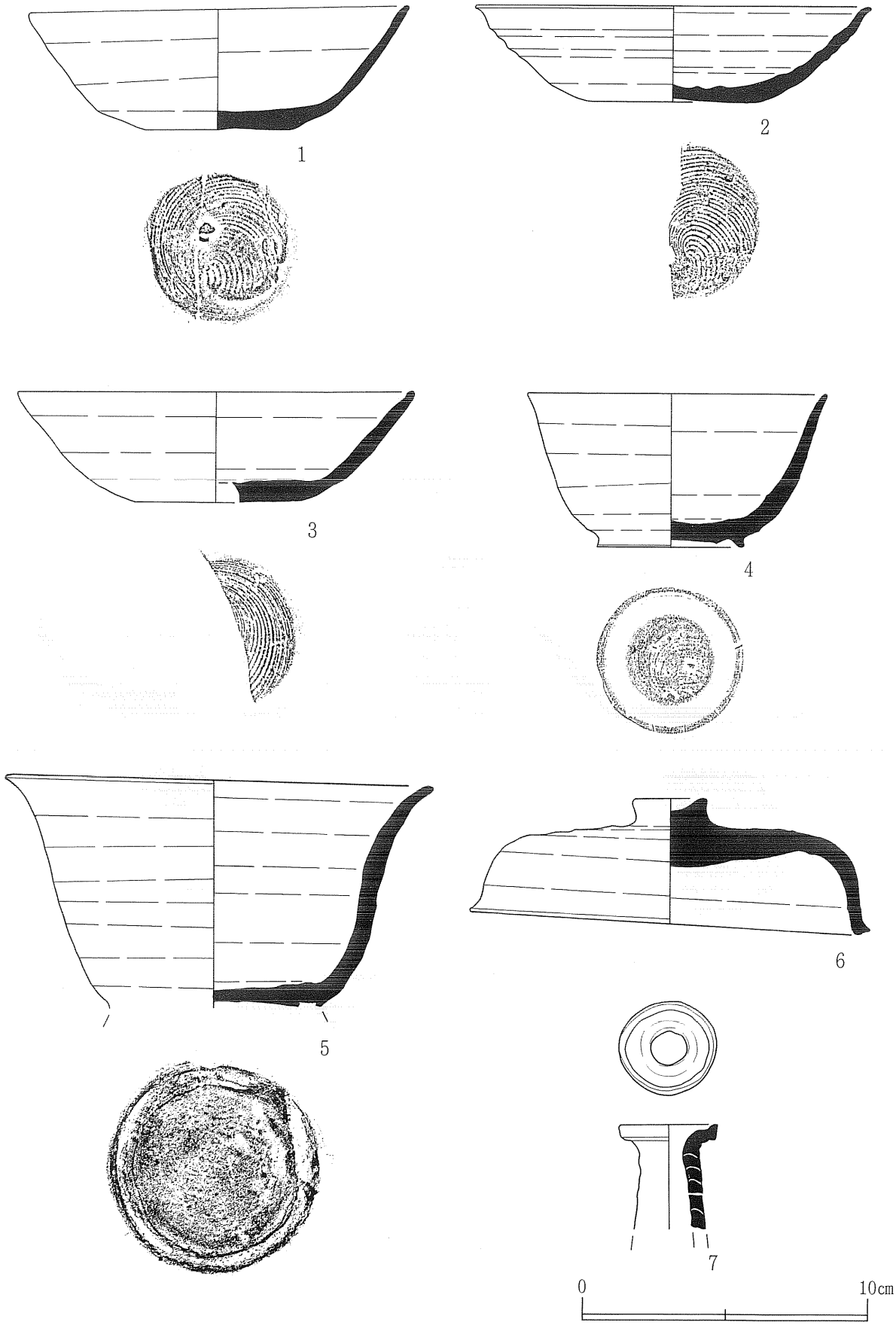
第34図　SX15出土遺物（１）



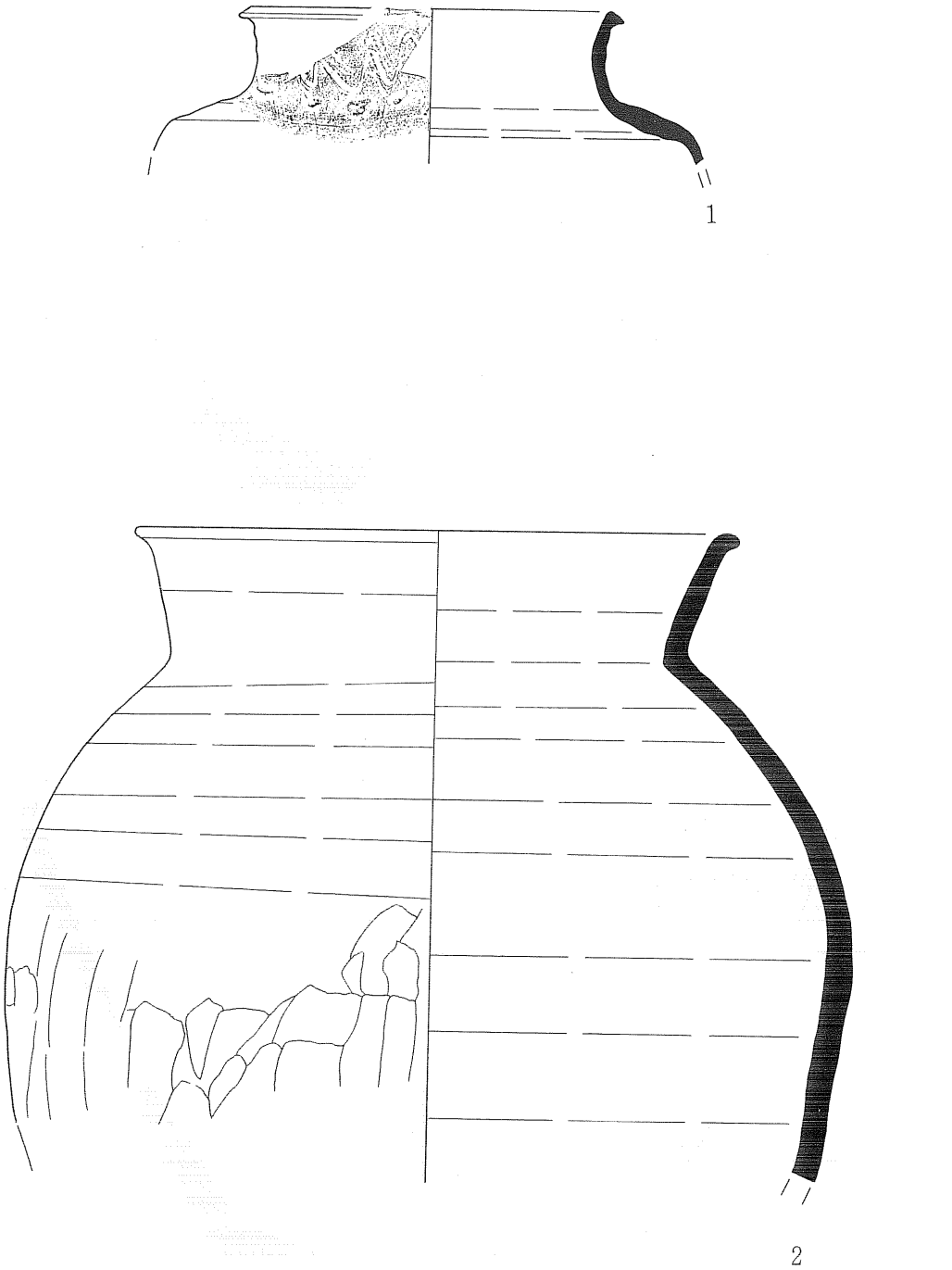
第35図　SX15出土遺物（２）



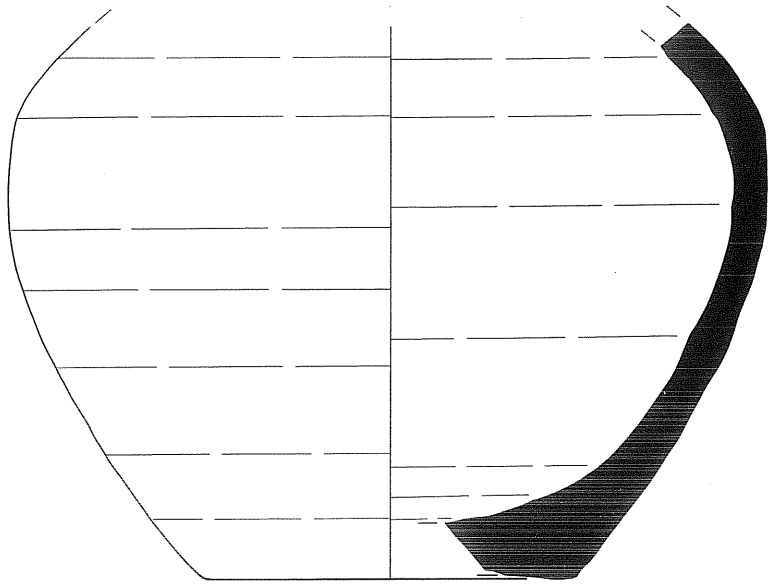
第36図　SX15出土遺物（３）



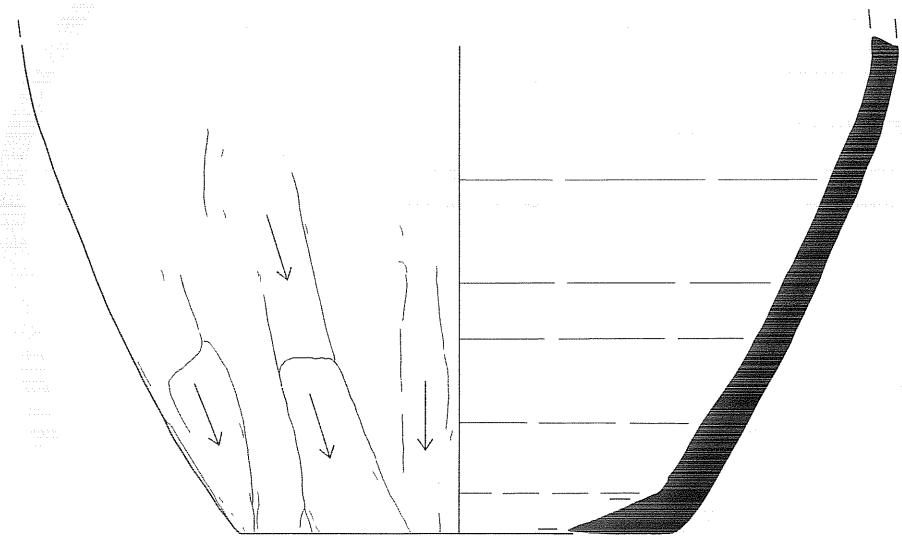
第37図　SX15出土遺物（４）



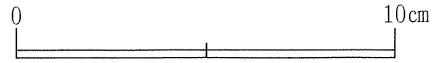
第38図　SX15出土遺物（５）



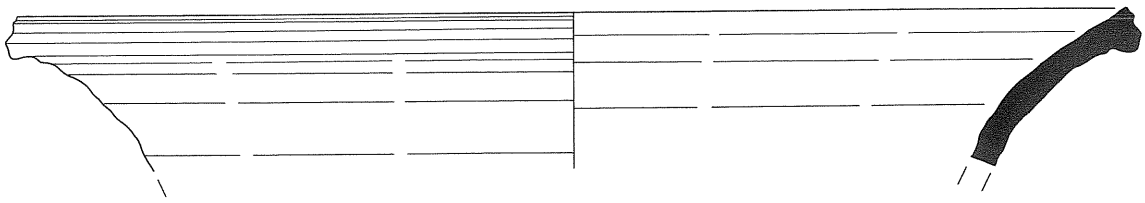
1



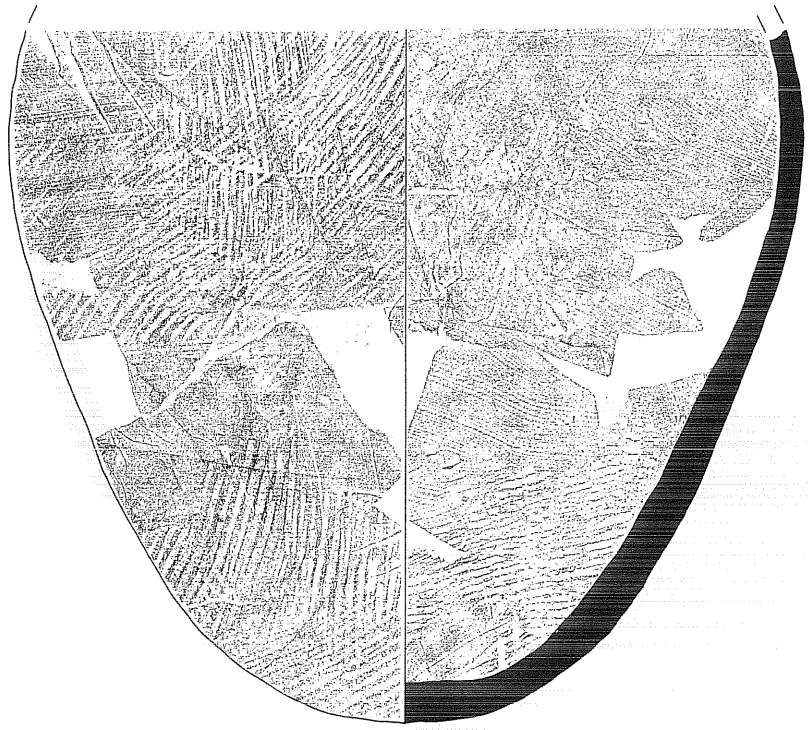
2



第39図　SX15出土遺物（６）



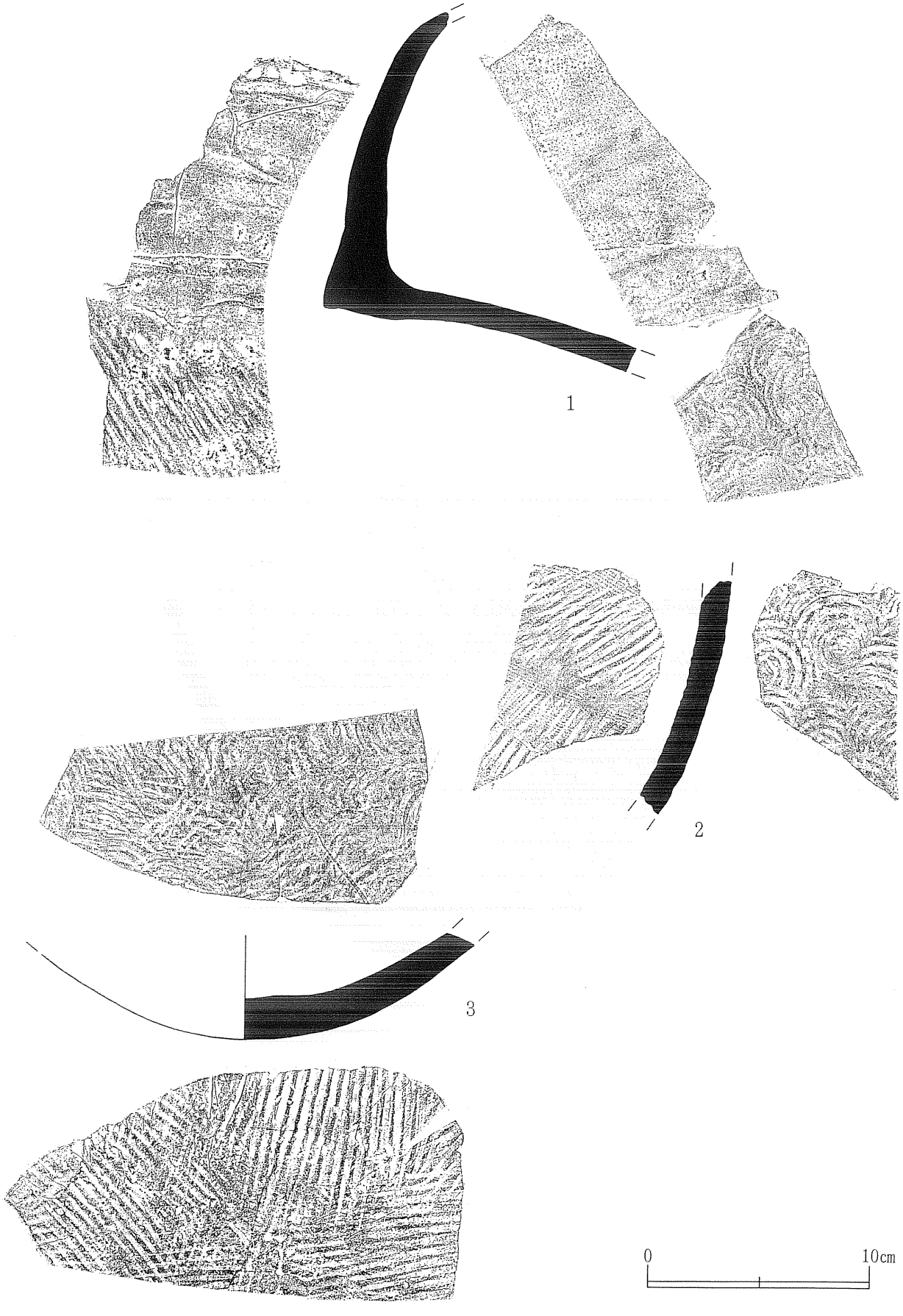
1



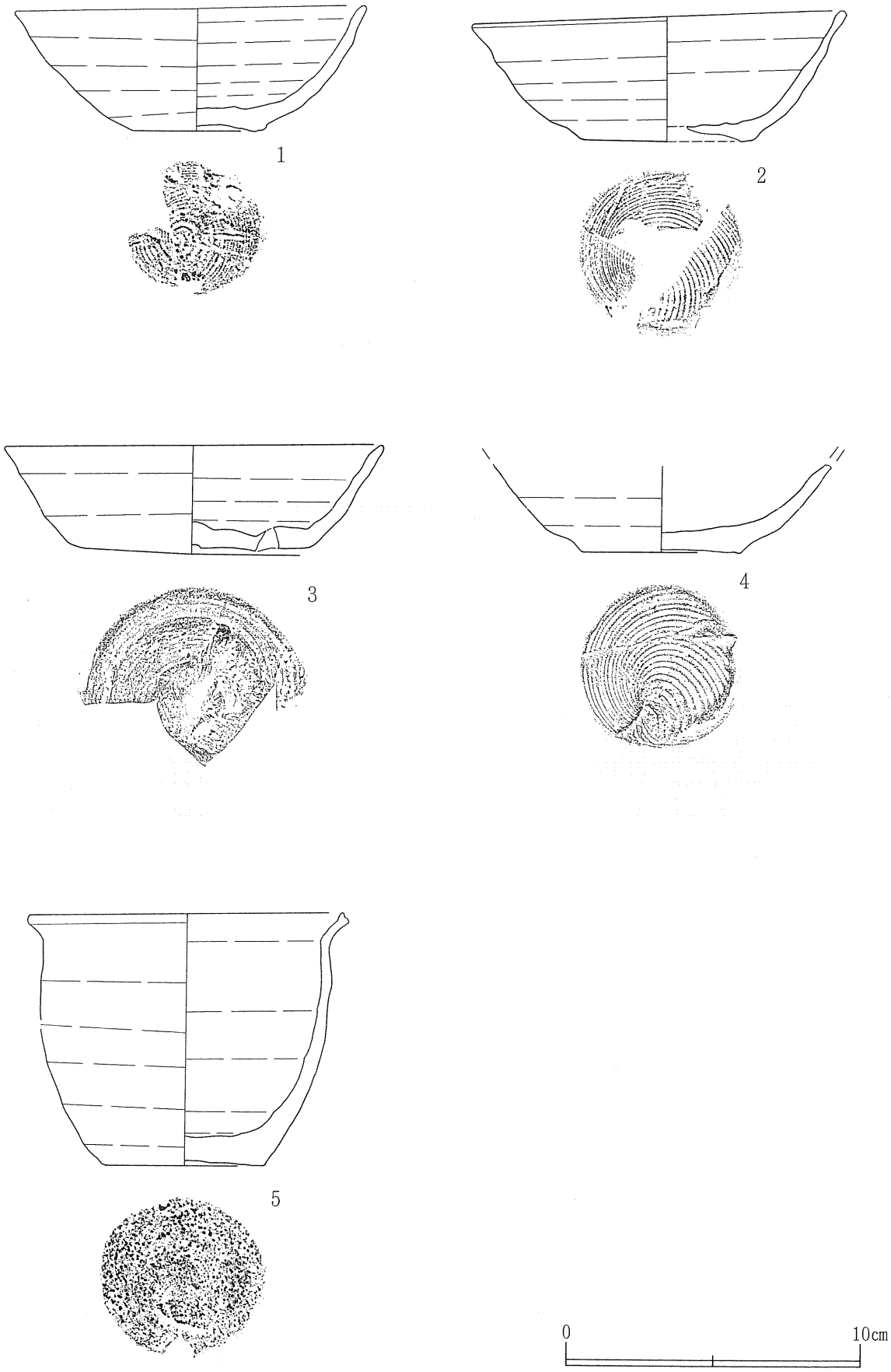
2

0　10cm

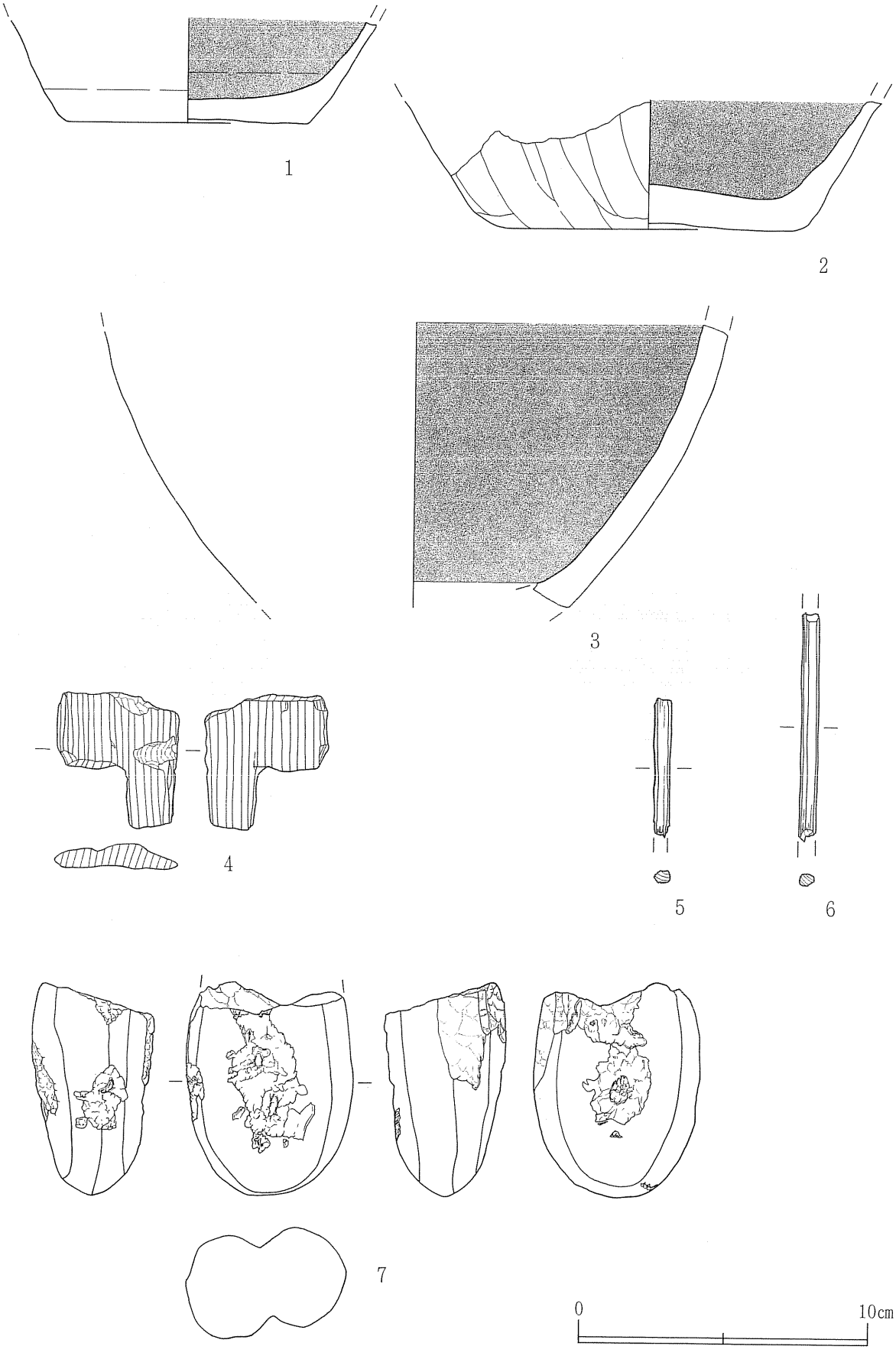
第40図　SX15出土遺物（７）



第41図　SX15出土遺物（８）

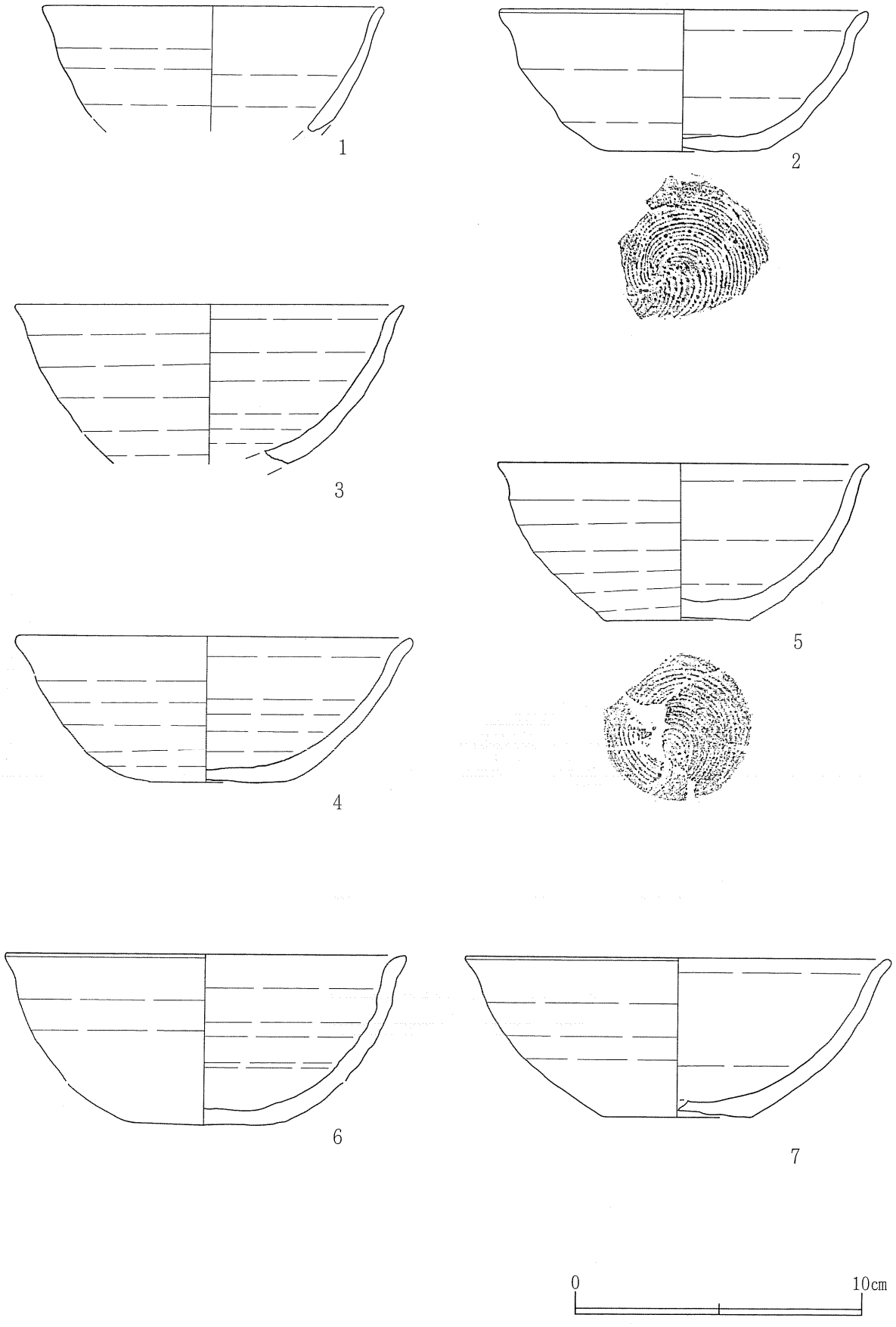


第42図　SX15出土遺物（９）

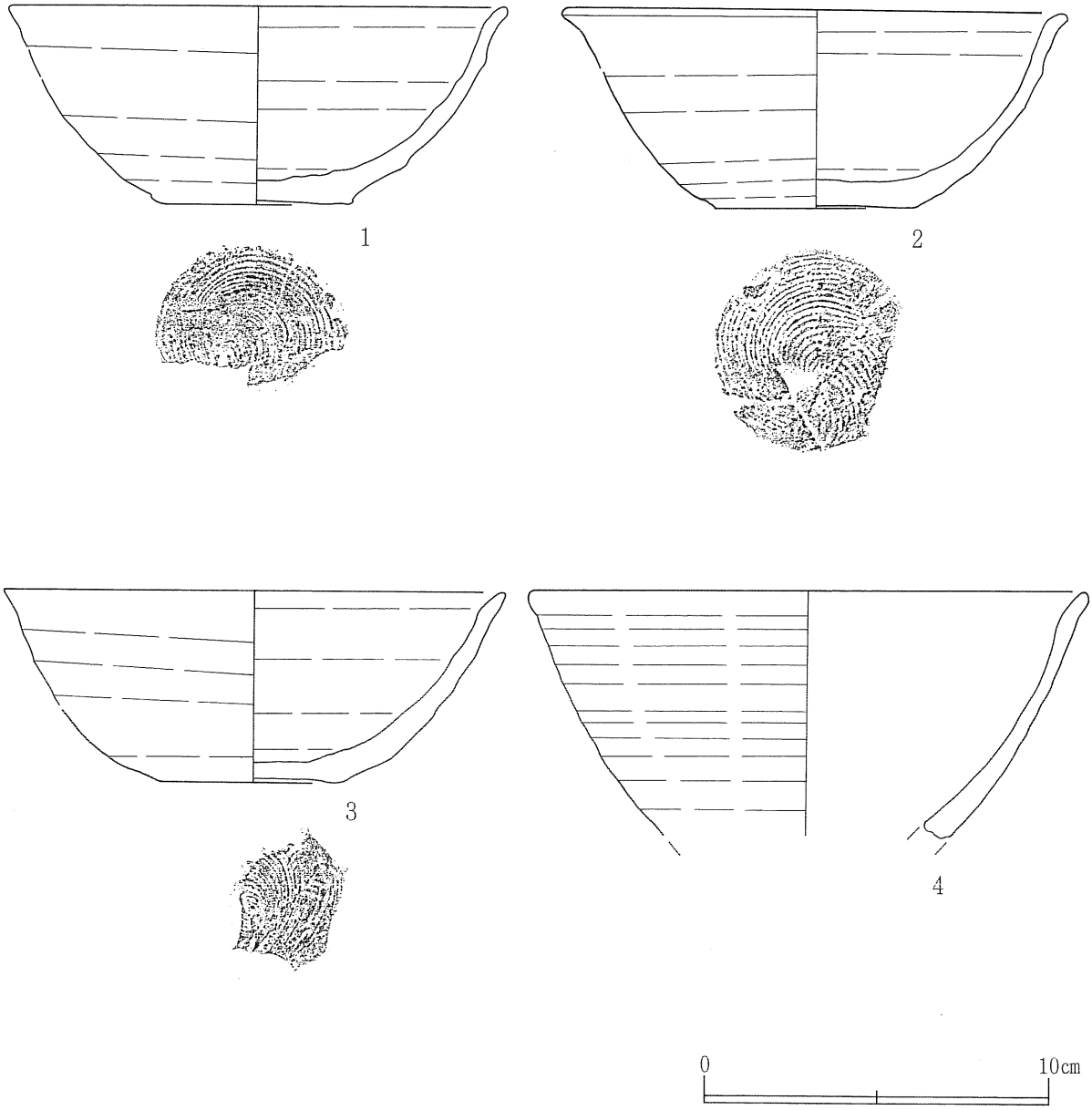


第43図　SX15出土遺物（10）

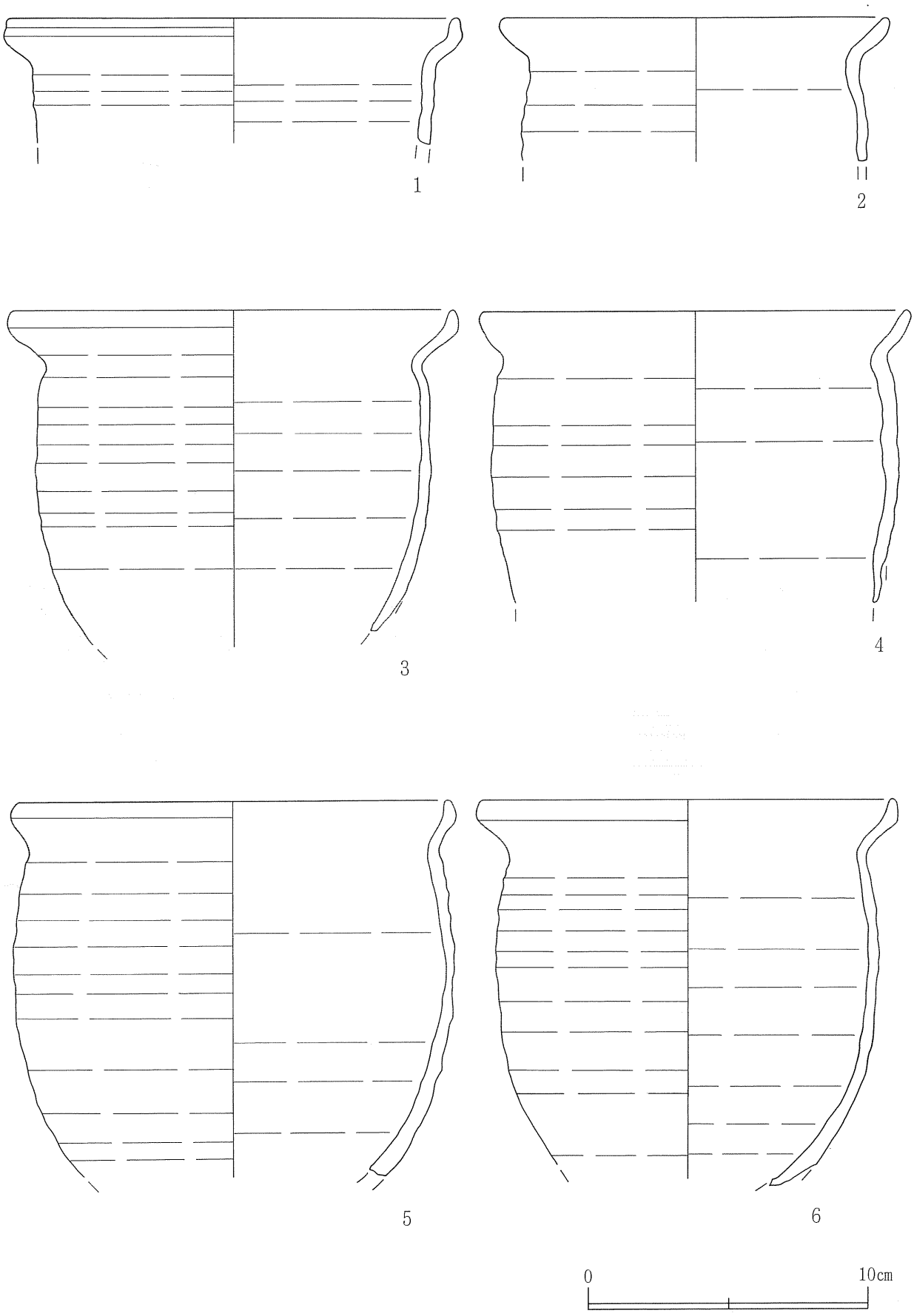
第44図　SX15出土遺物（11）



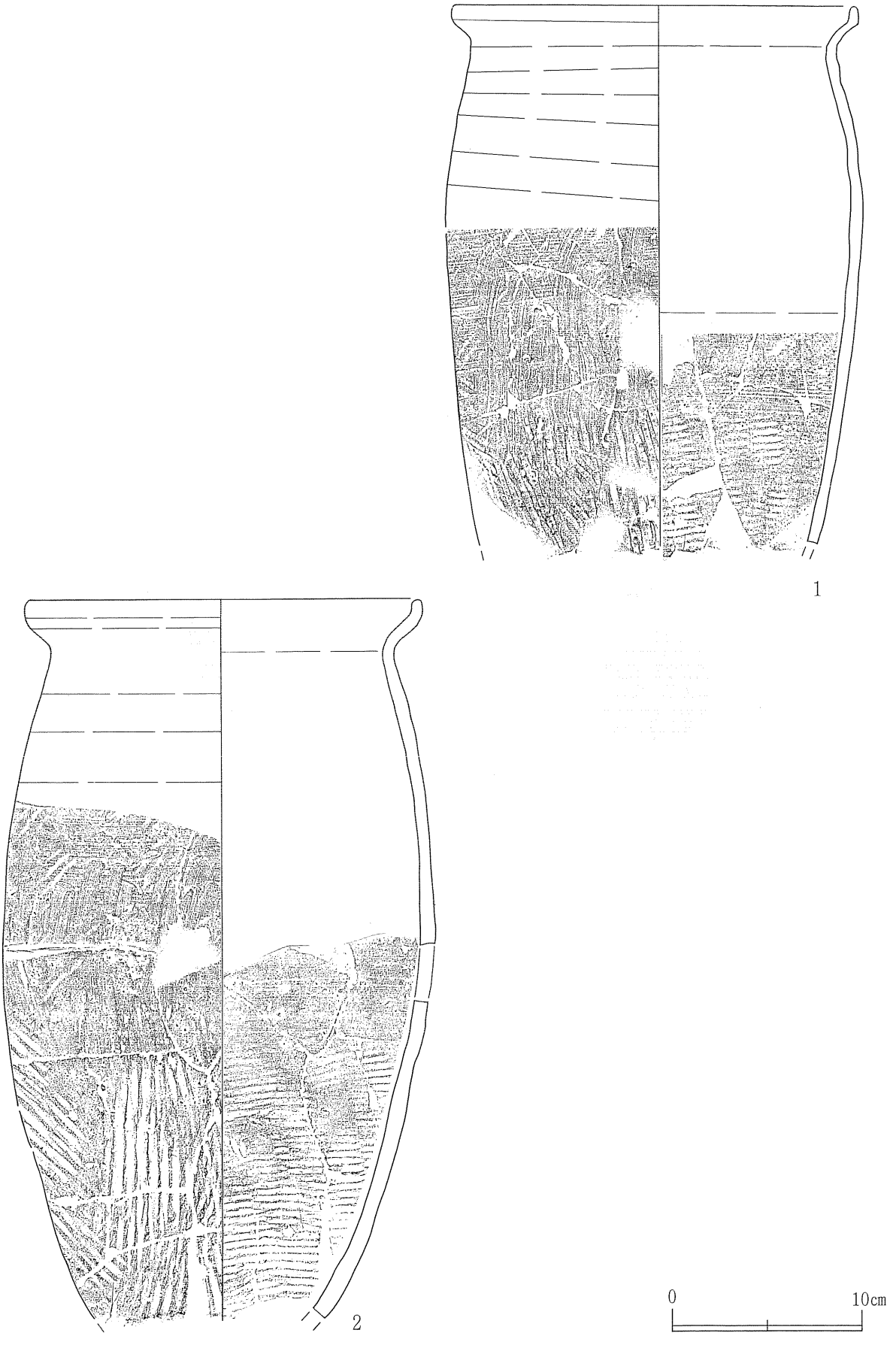
第45図　SJ18出土遺物（１）



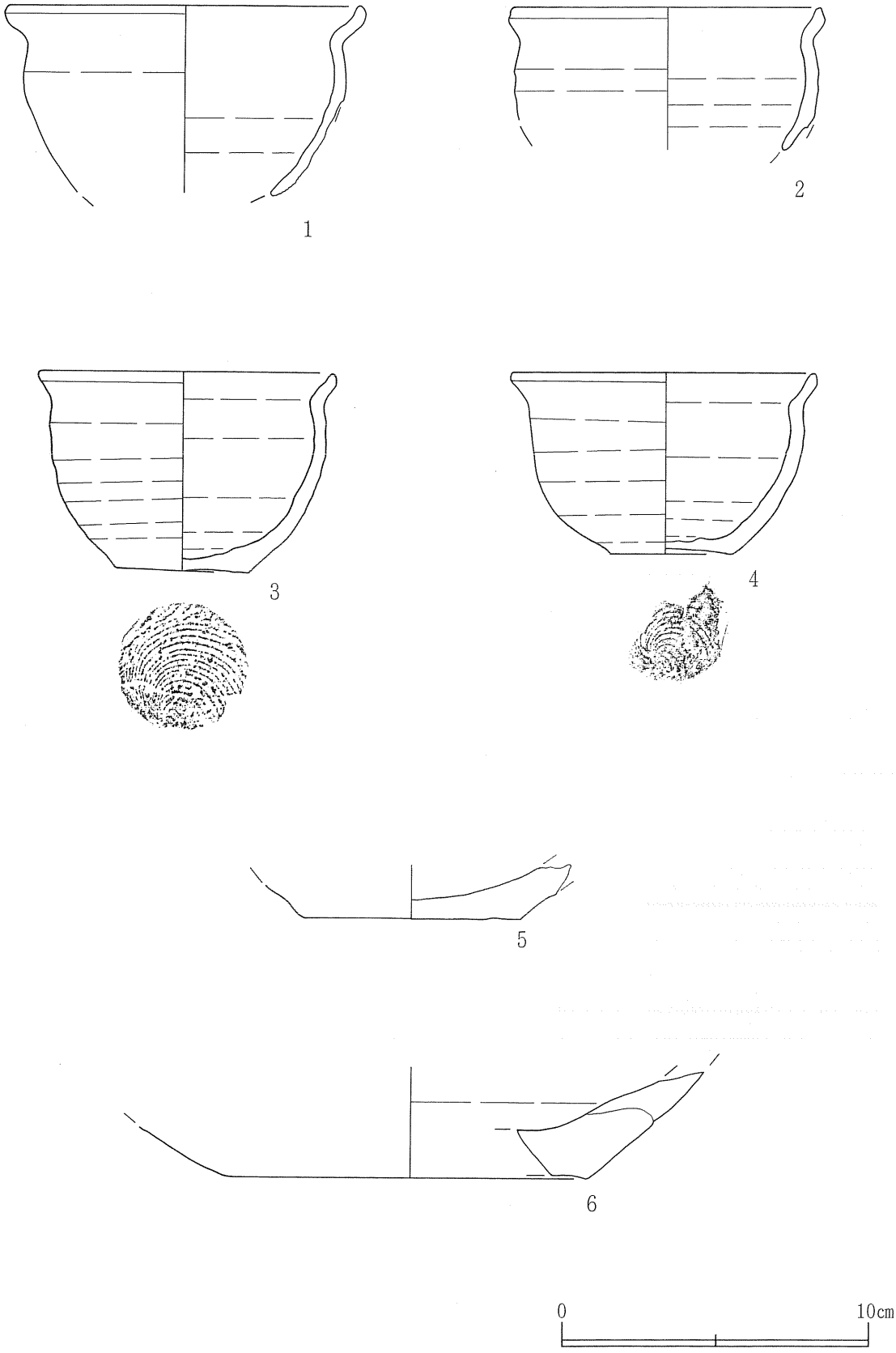
第46図　SJ18出土遺物（２）



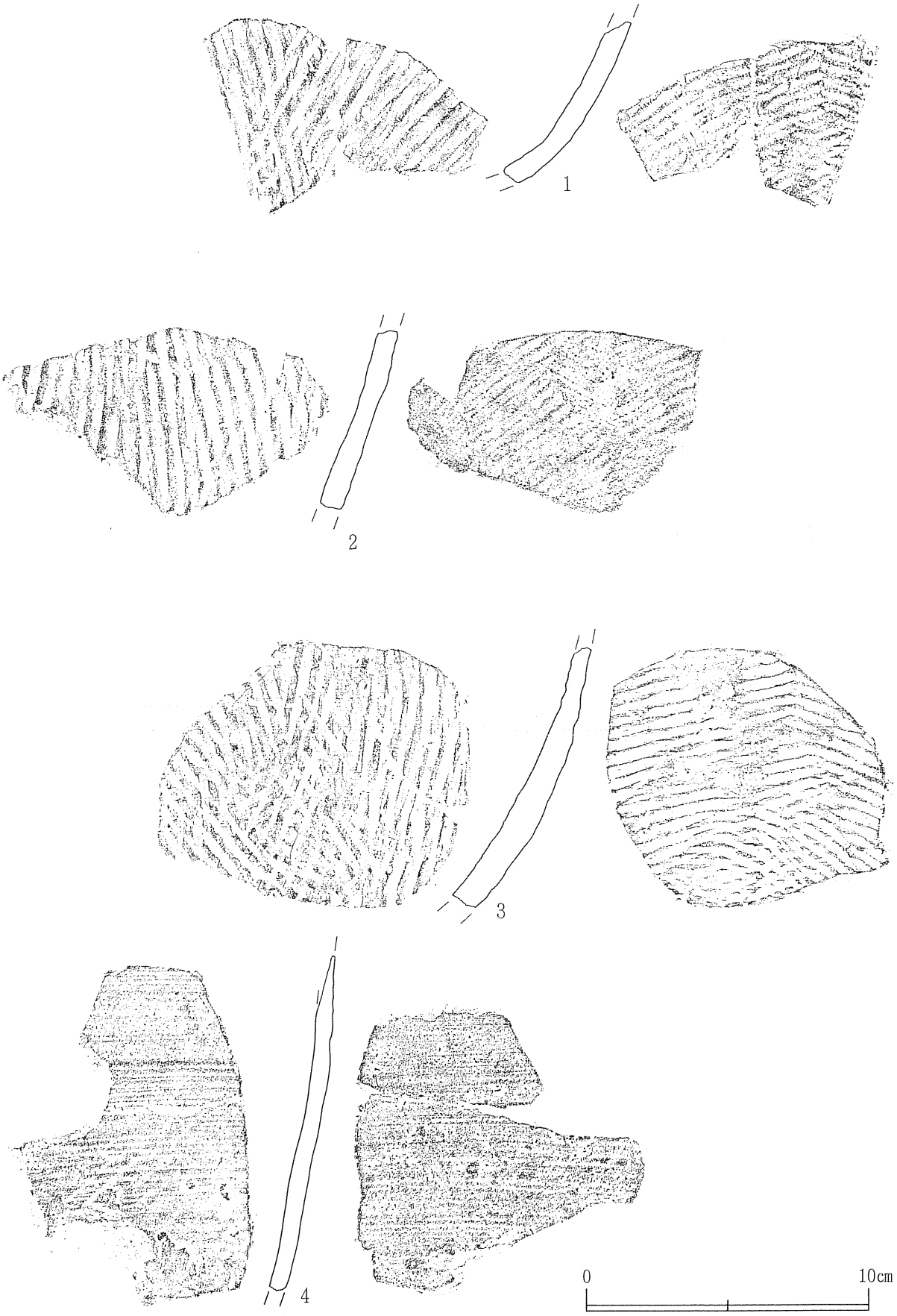
第47図　SJ18出土遺物（３）



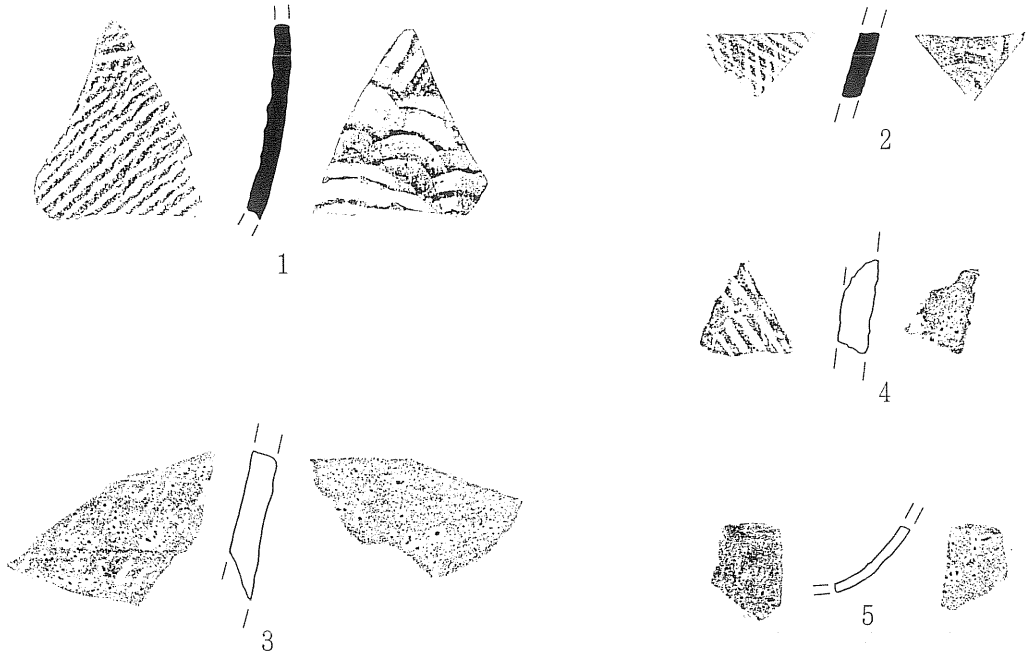
第48図　SJ18出土遺物（４）



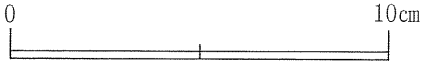
第49図　SJ18出土遺物（５）



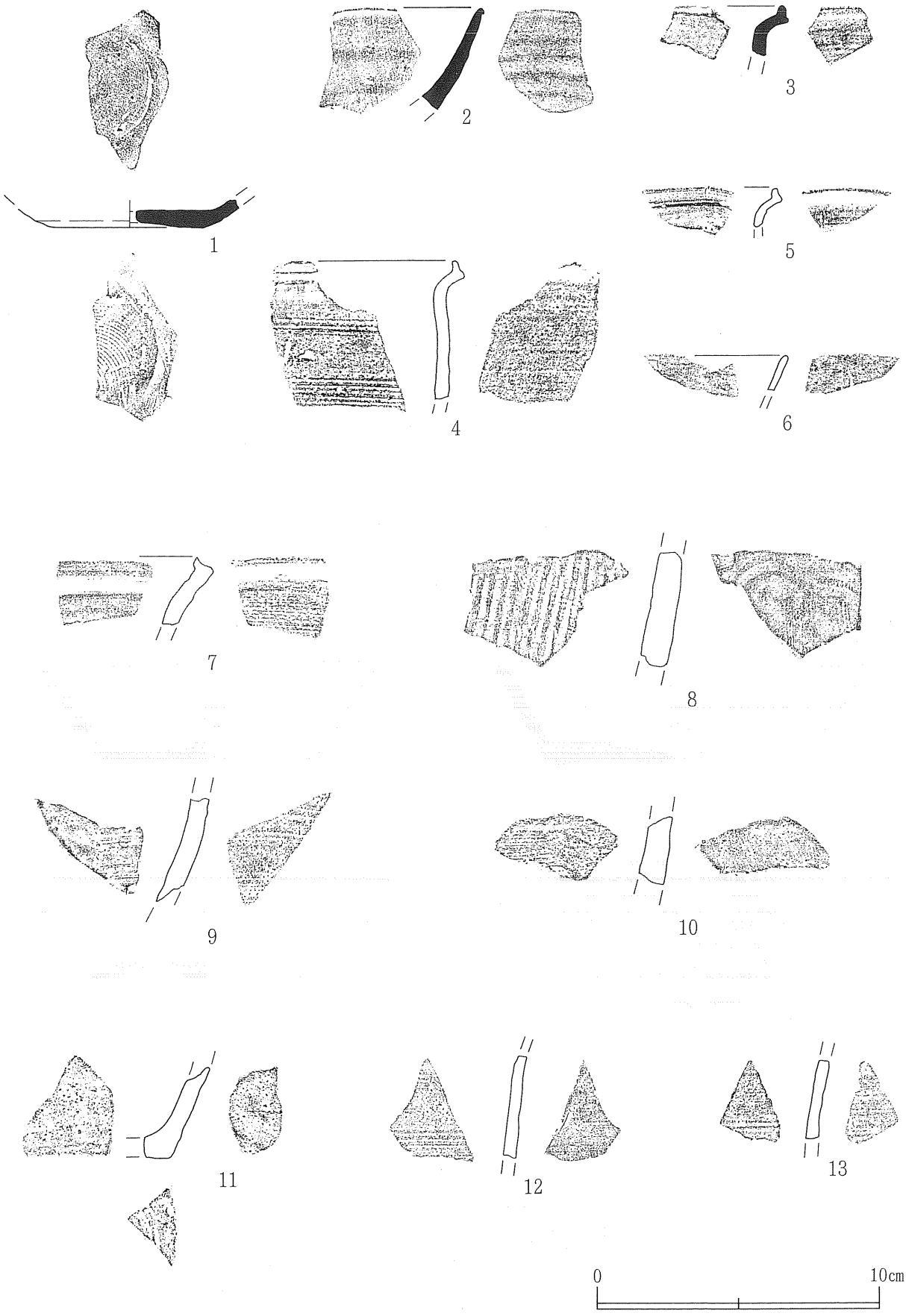
第50図　SJ18出土遺物（６）



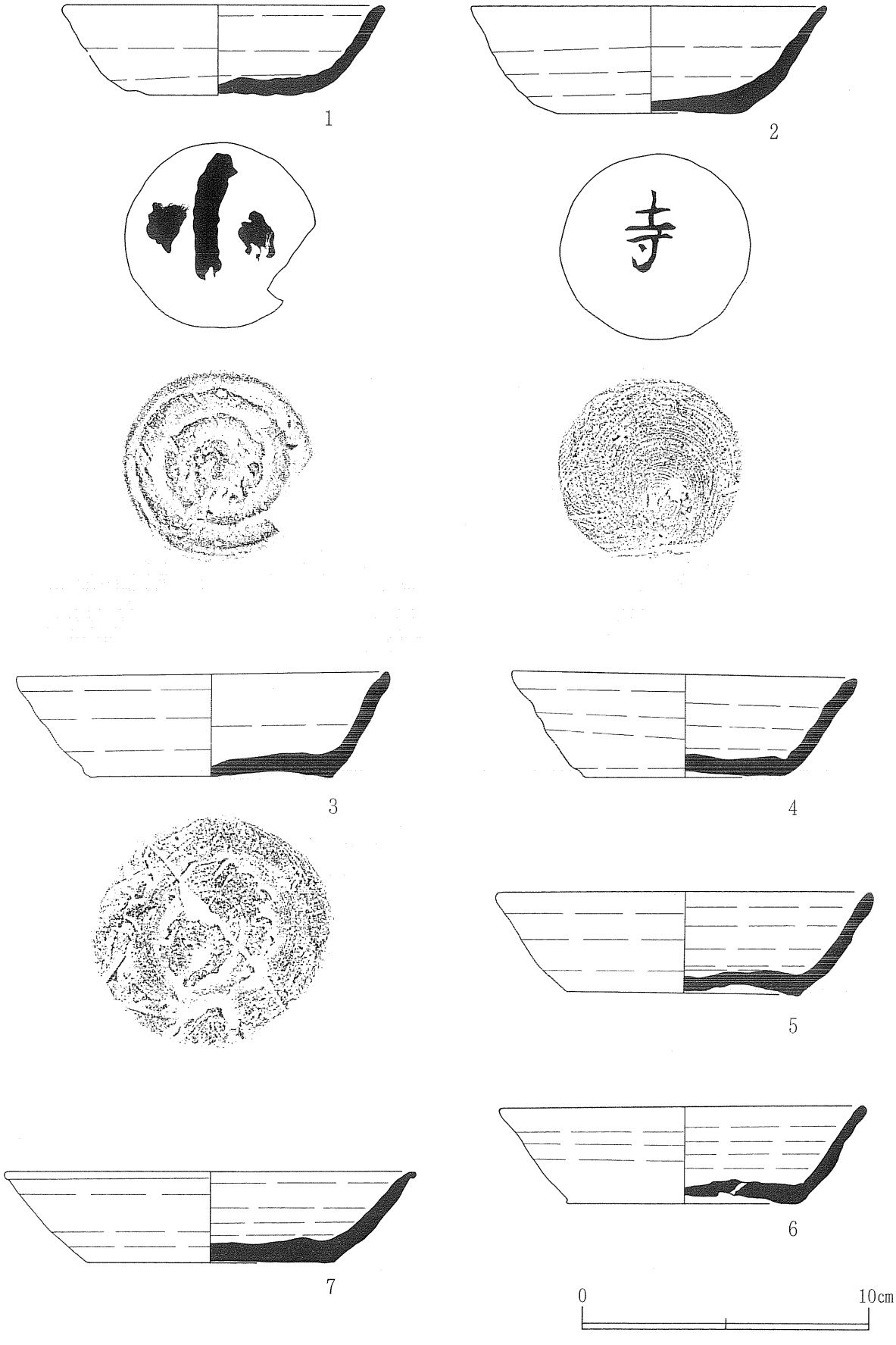
1・2・4・5：SA46P5
3：SKP24



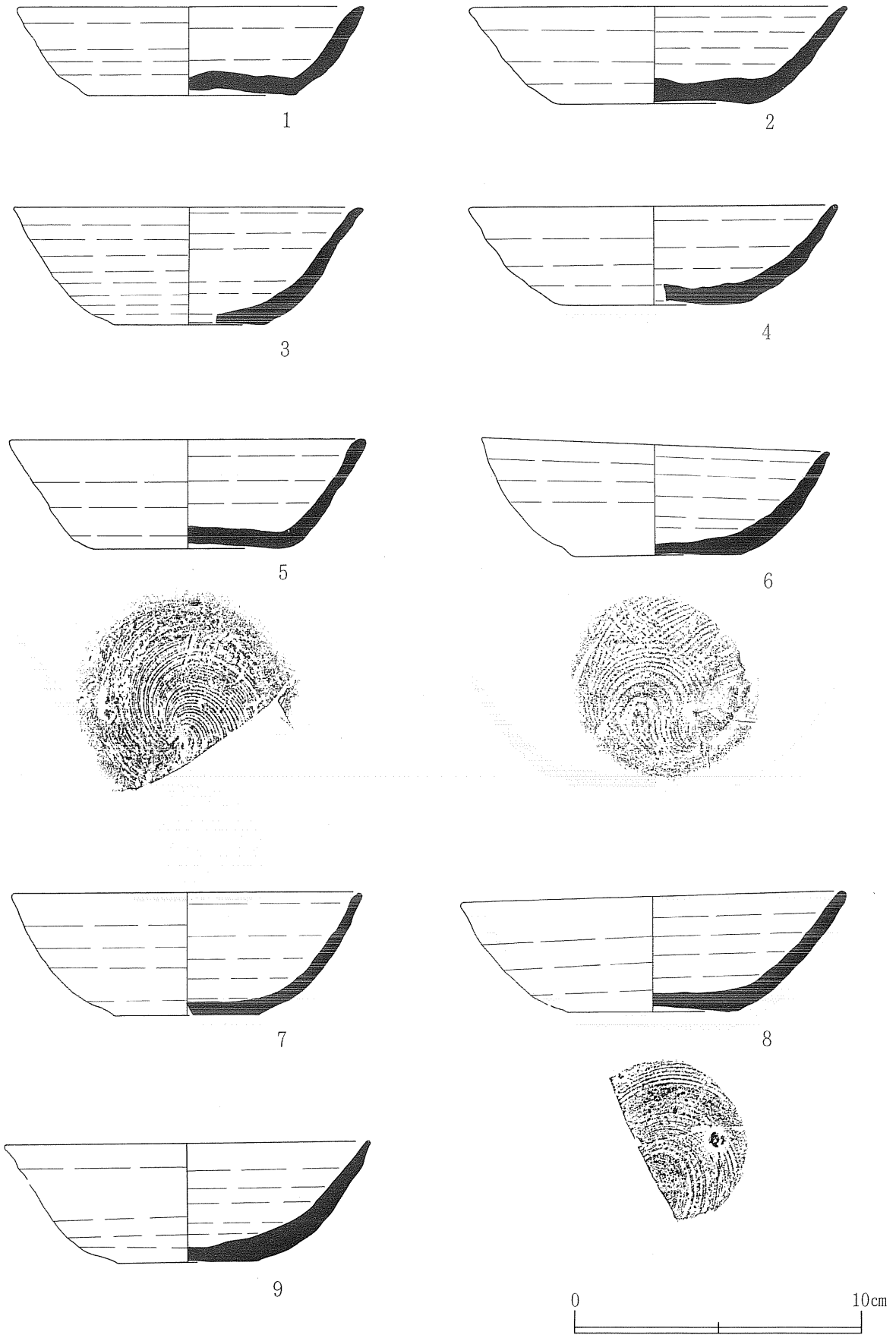
第51図　SKP24・SA46P５出土遺物



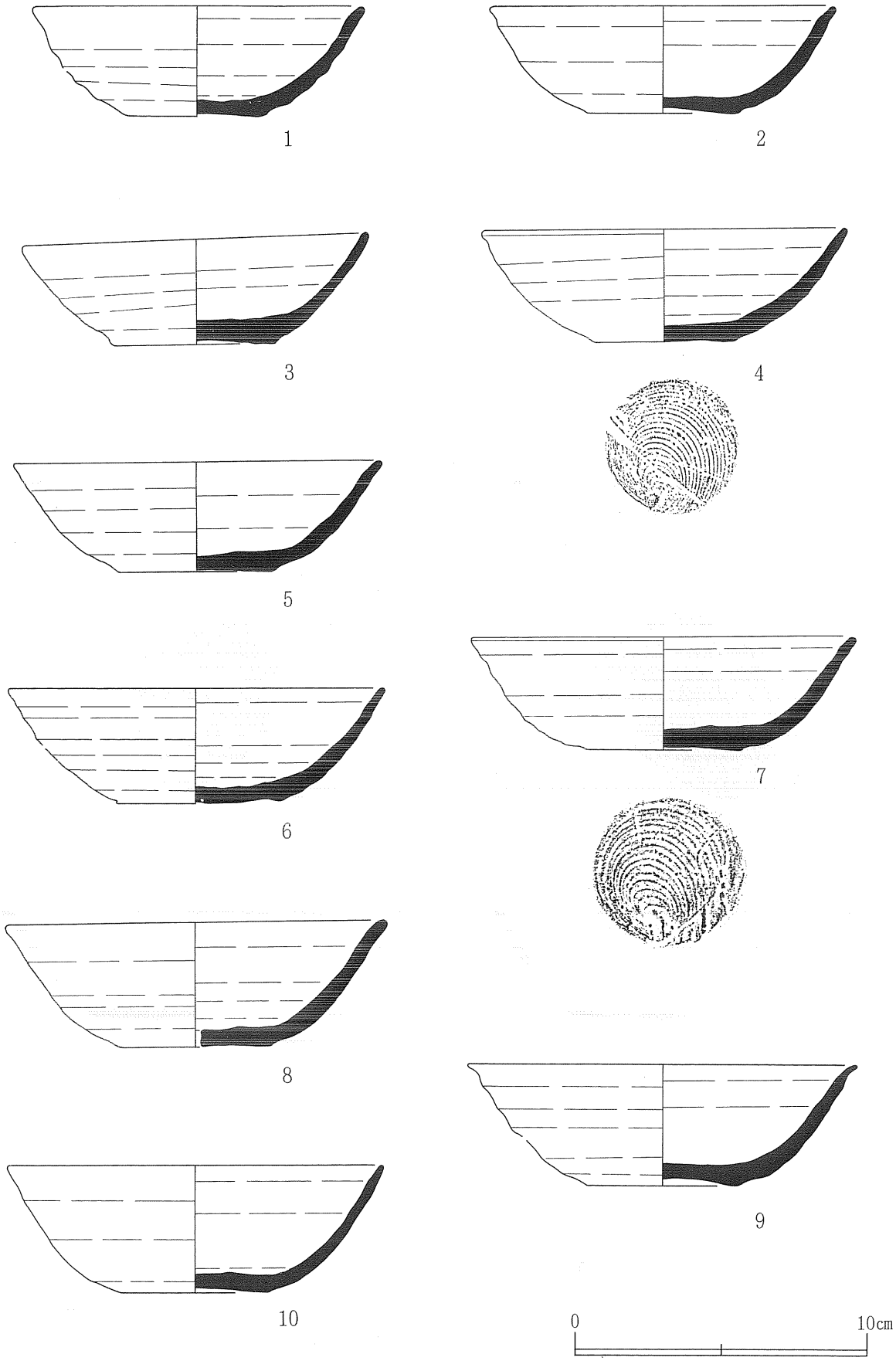
第52図　SKP35出土遺物



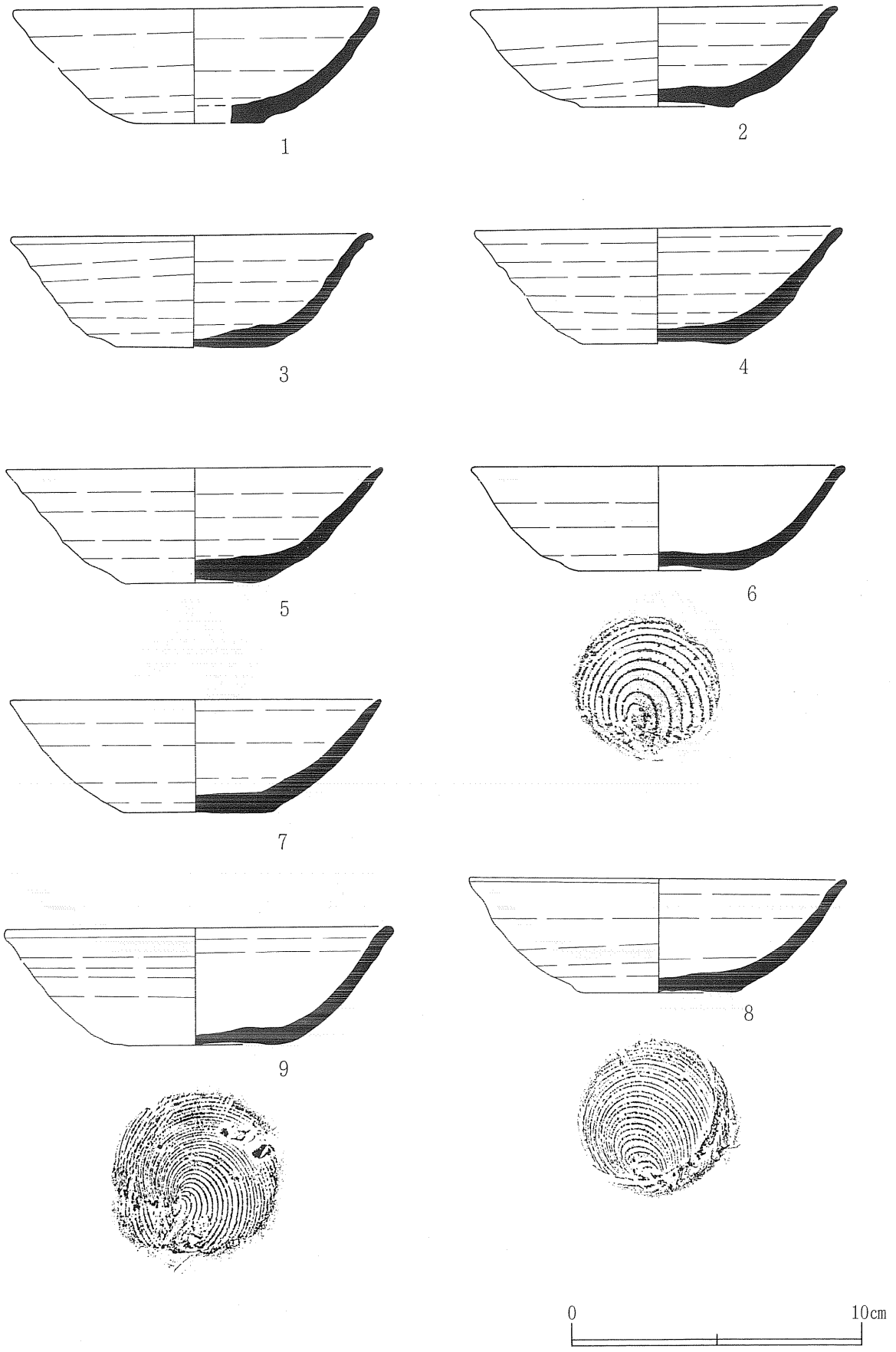
第53図　遺構外出土遺物（１）



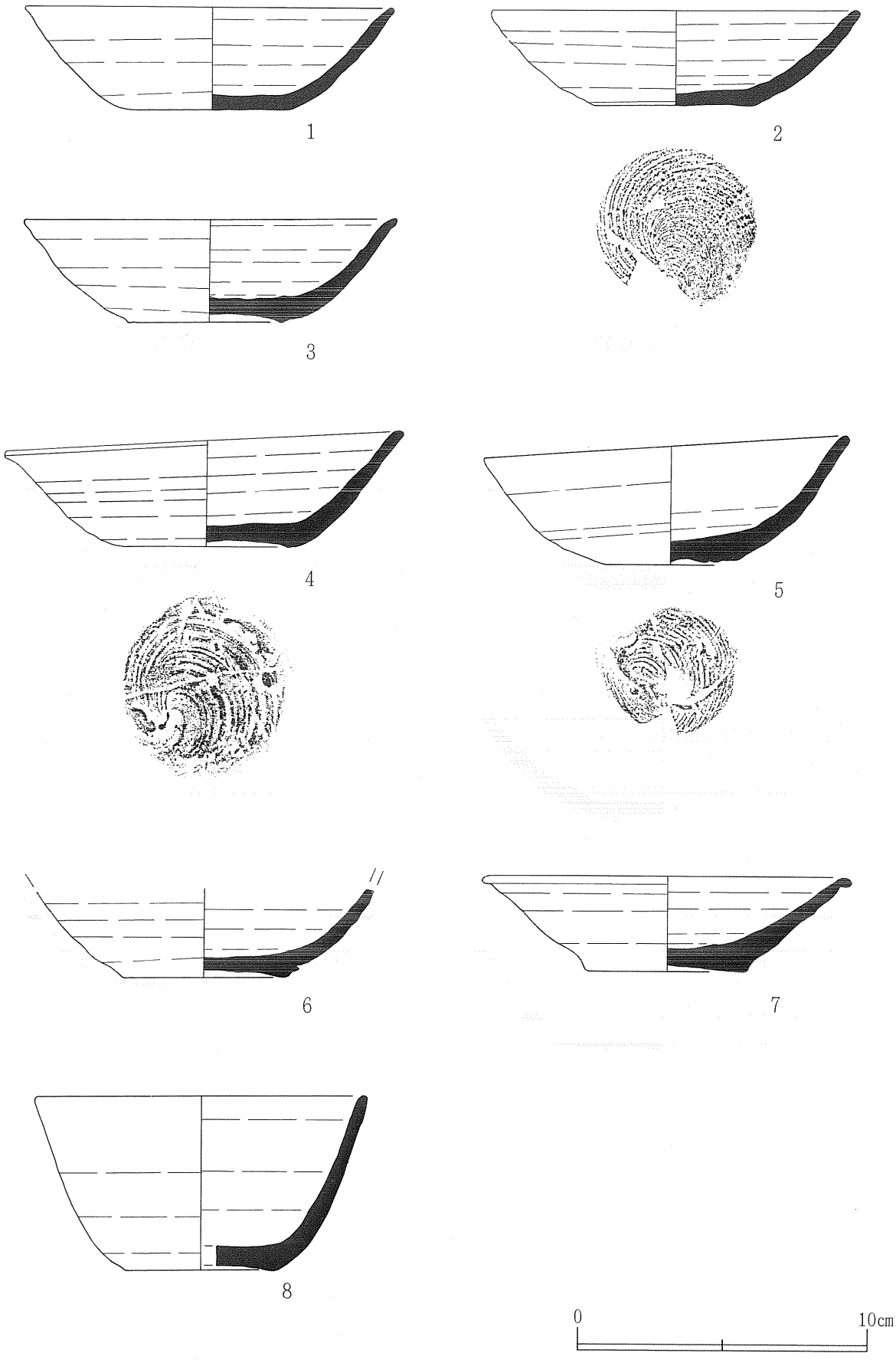
第54図　遺構外出土遺物（２）



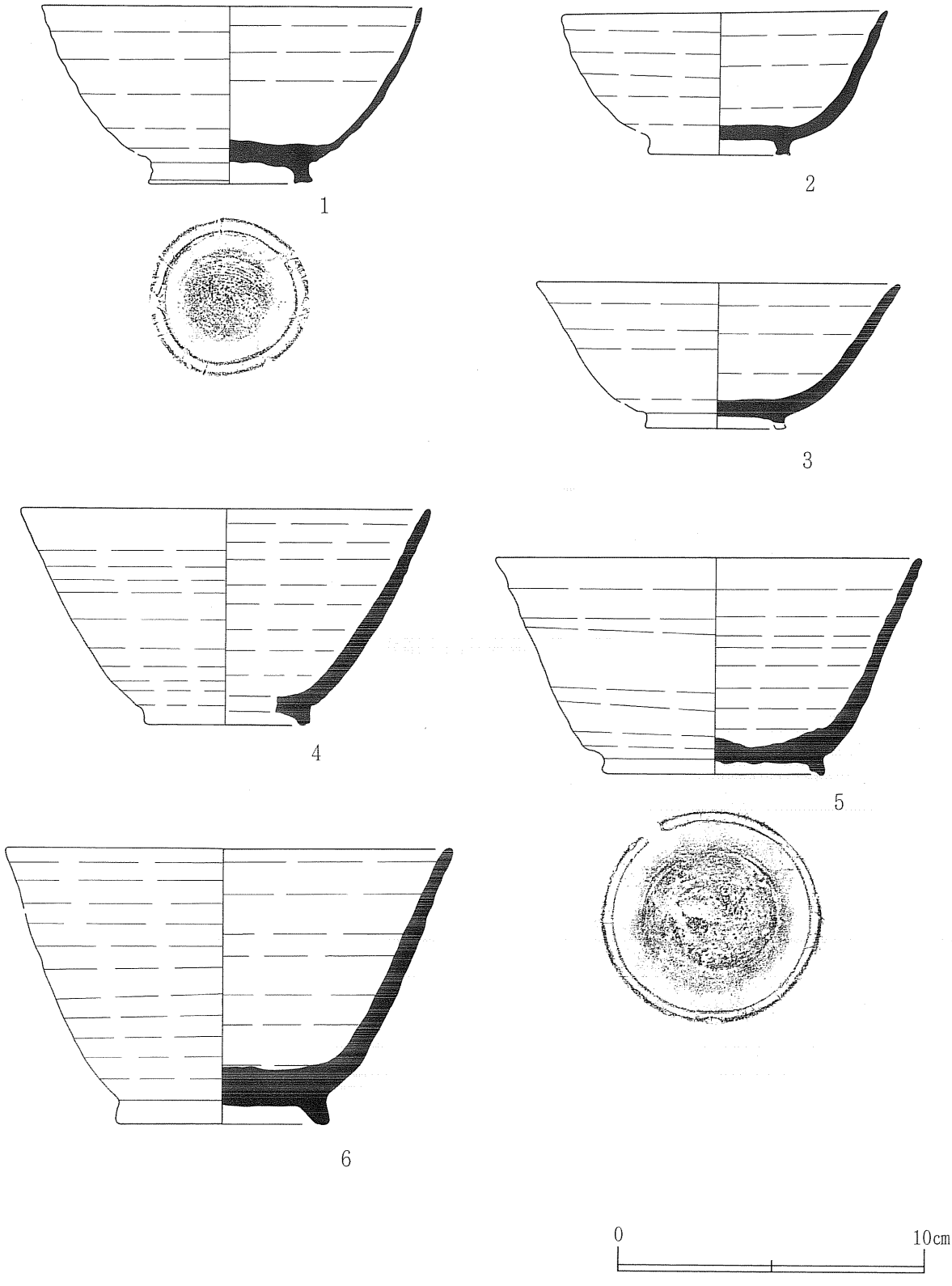
第55図　遺構外出土遺物（３）



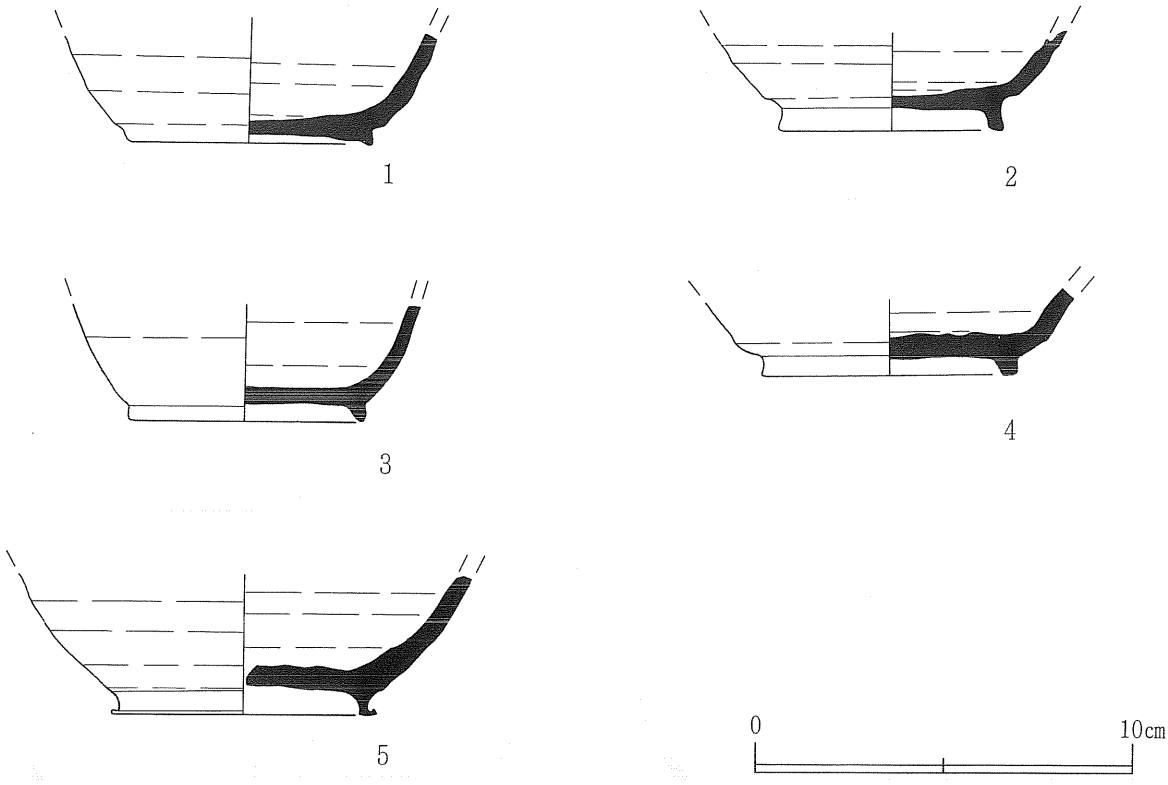
第56図　遺構外出土遺物（４）



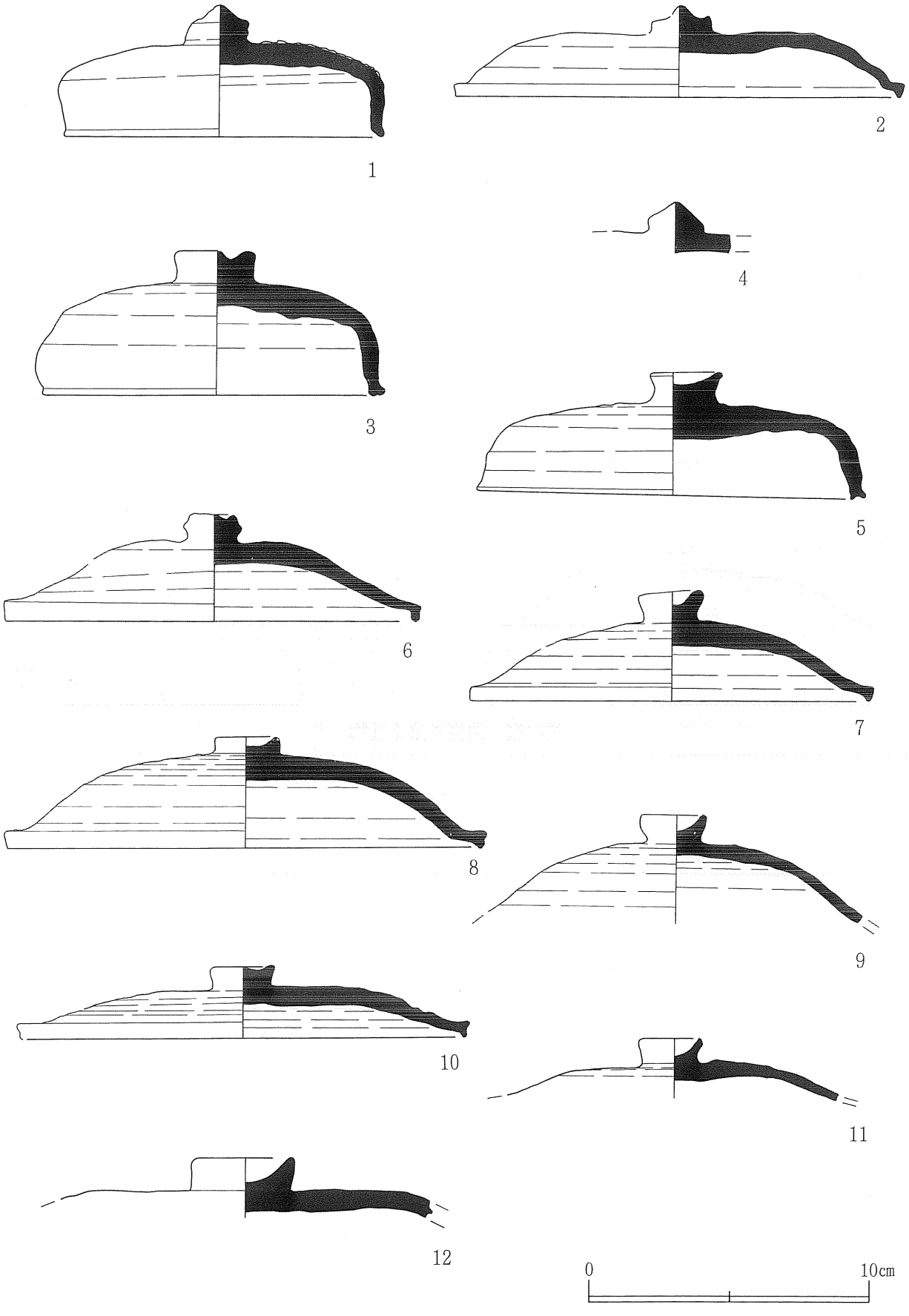
第57図　遺構外出土遺物（５）



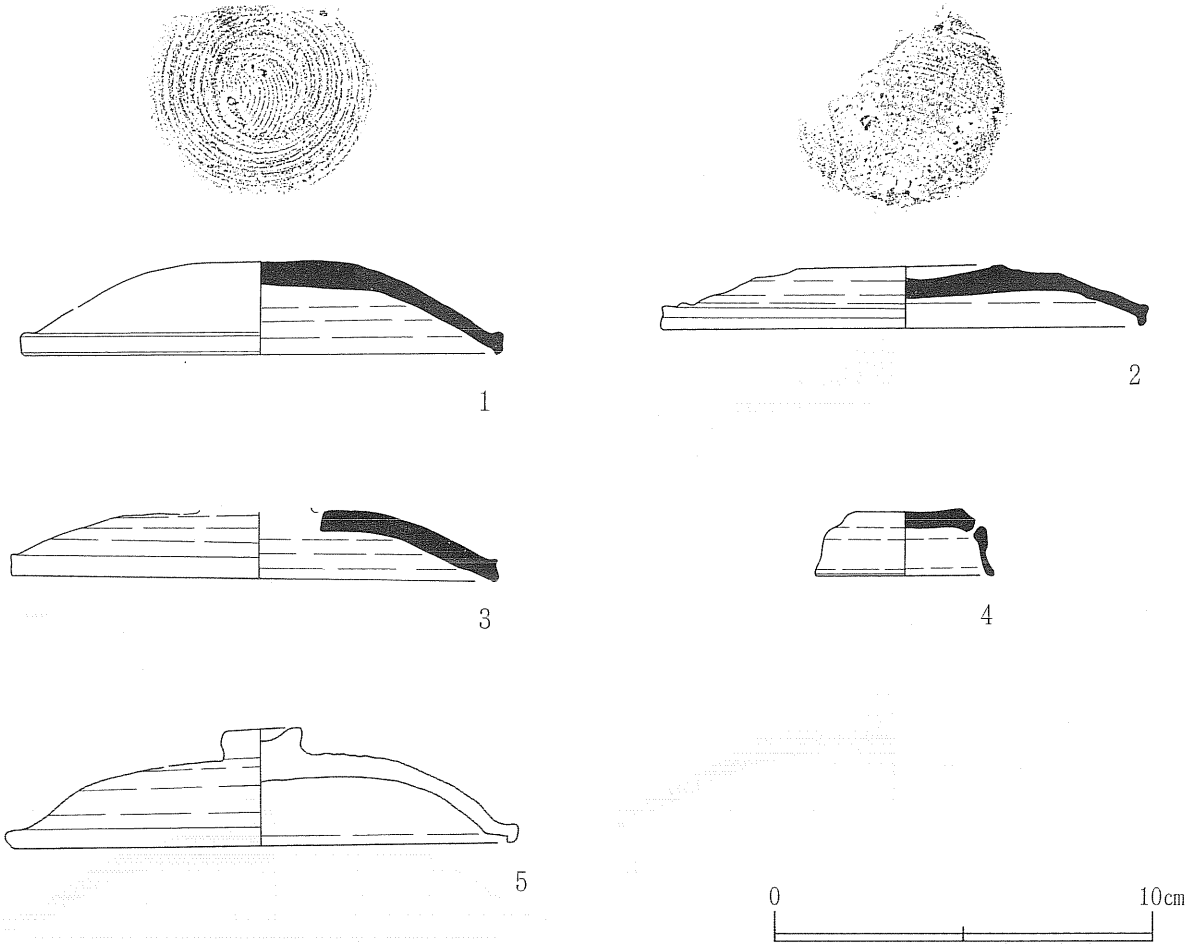
第58図　遺構外出土遺物（６）



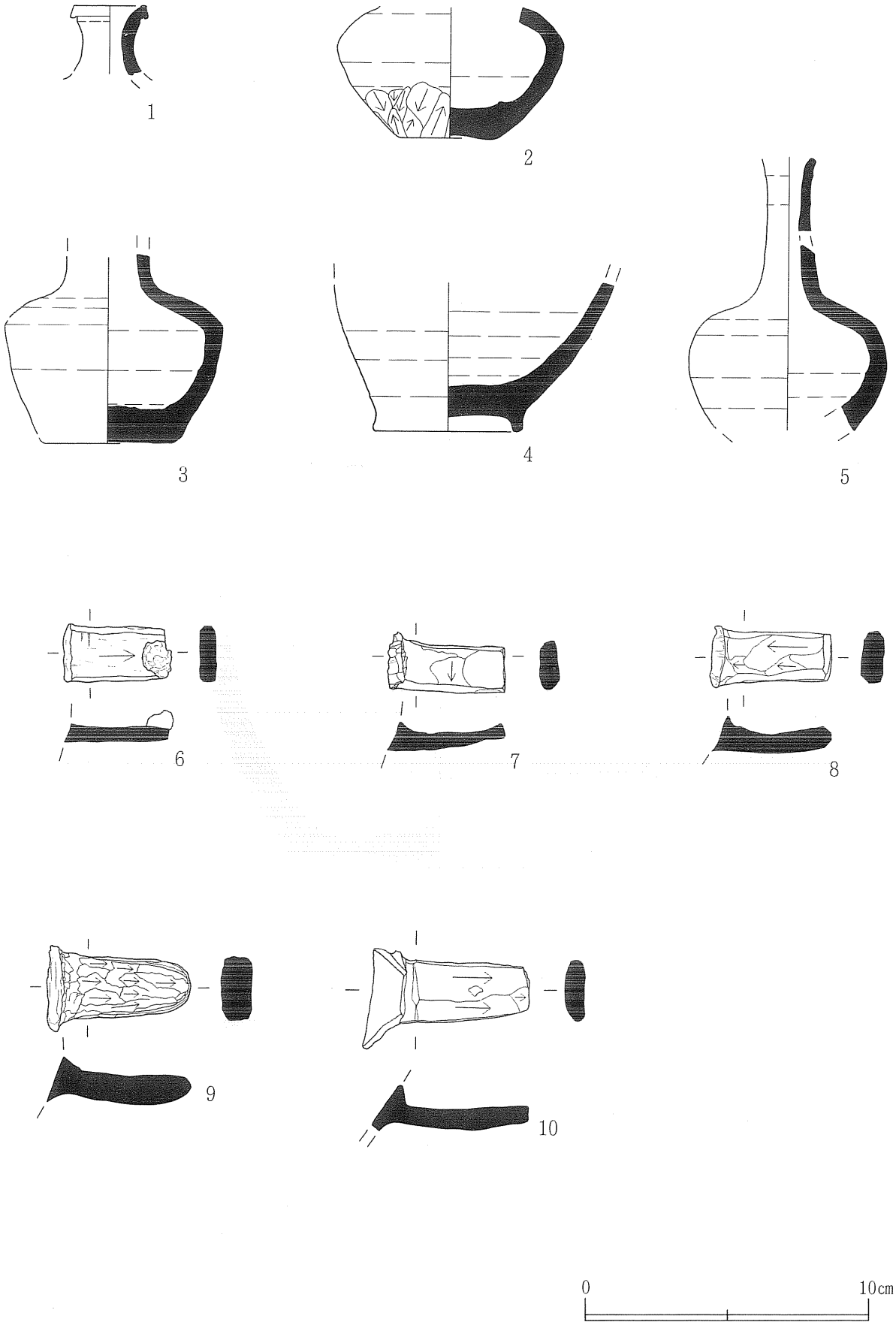
第59図　遺構外出土遺物（７）



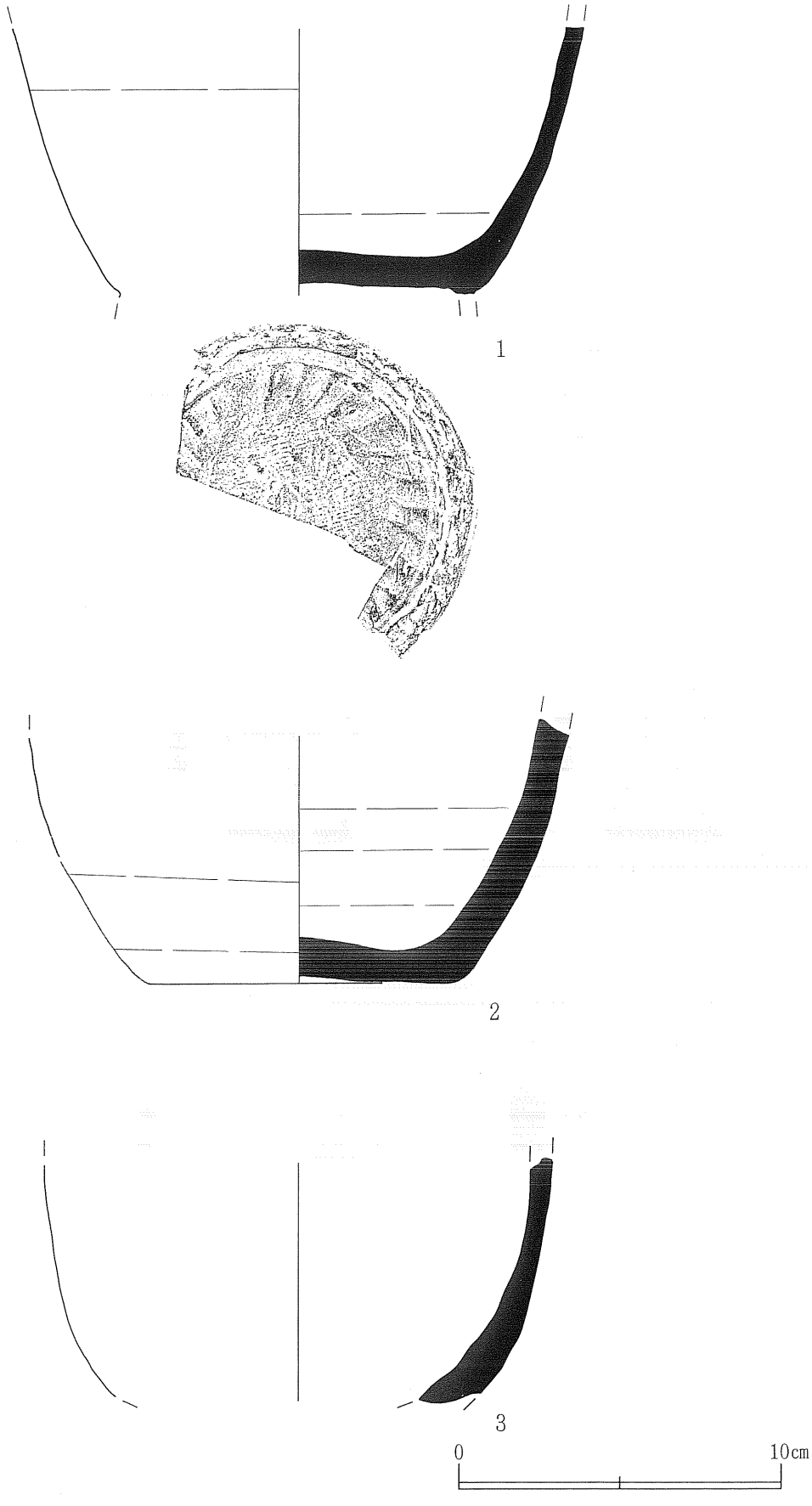
第60図　遺構外出土遺物（８）



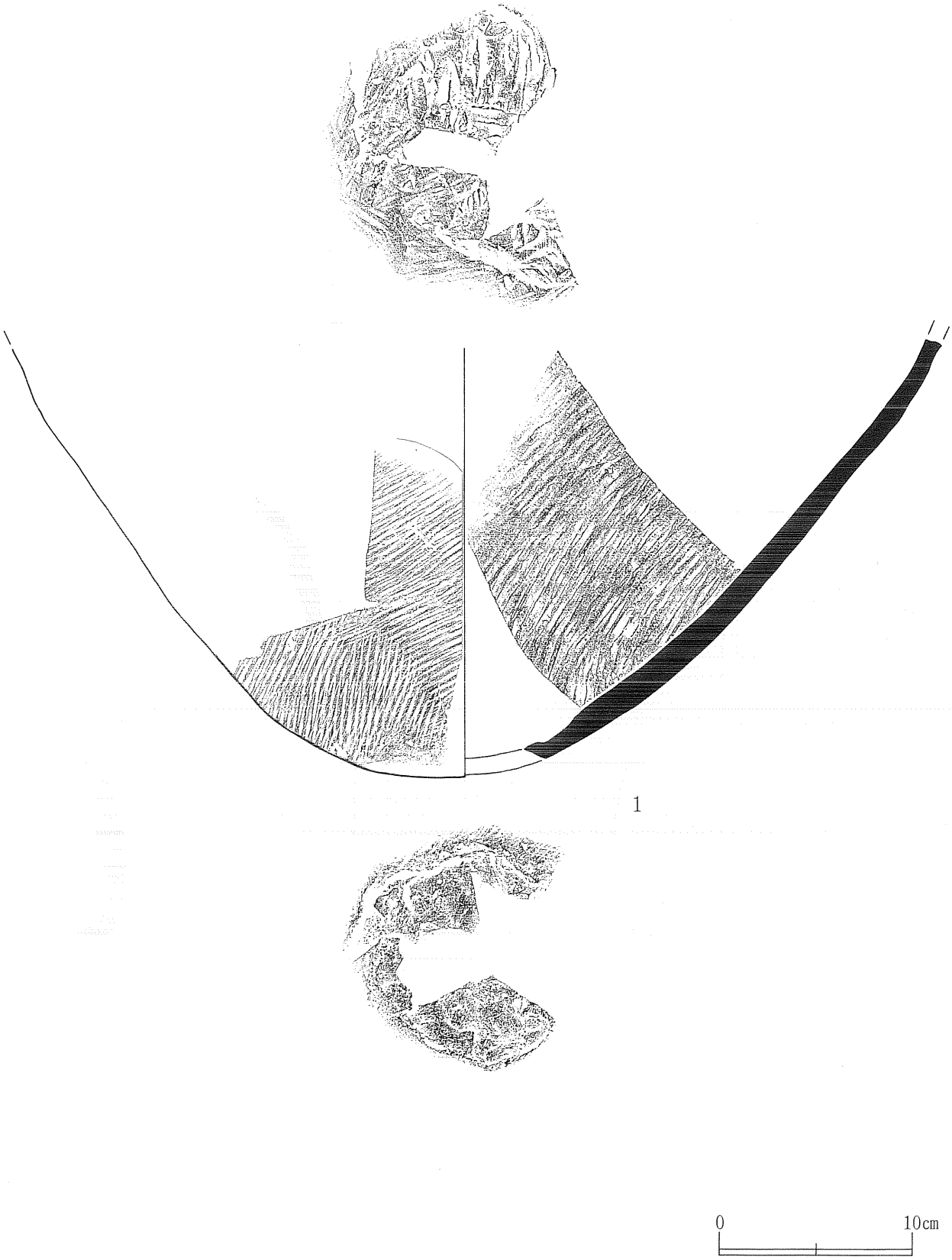
第61図　遺構外出土遺物（９）



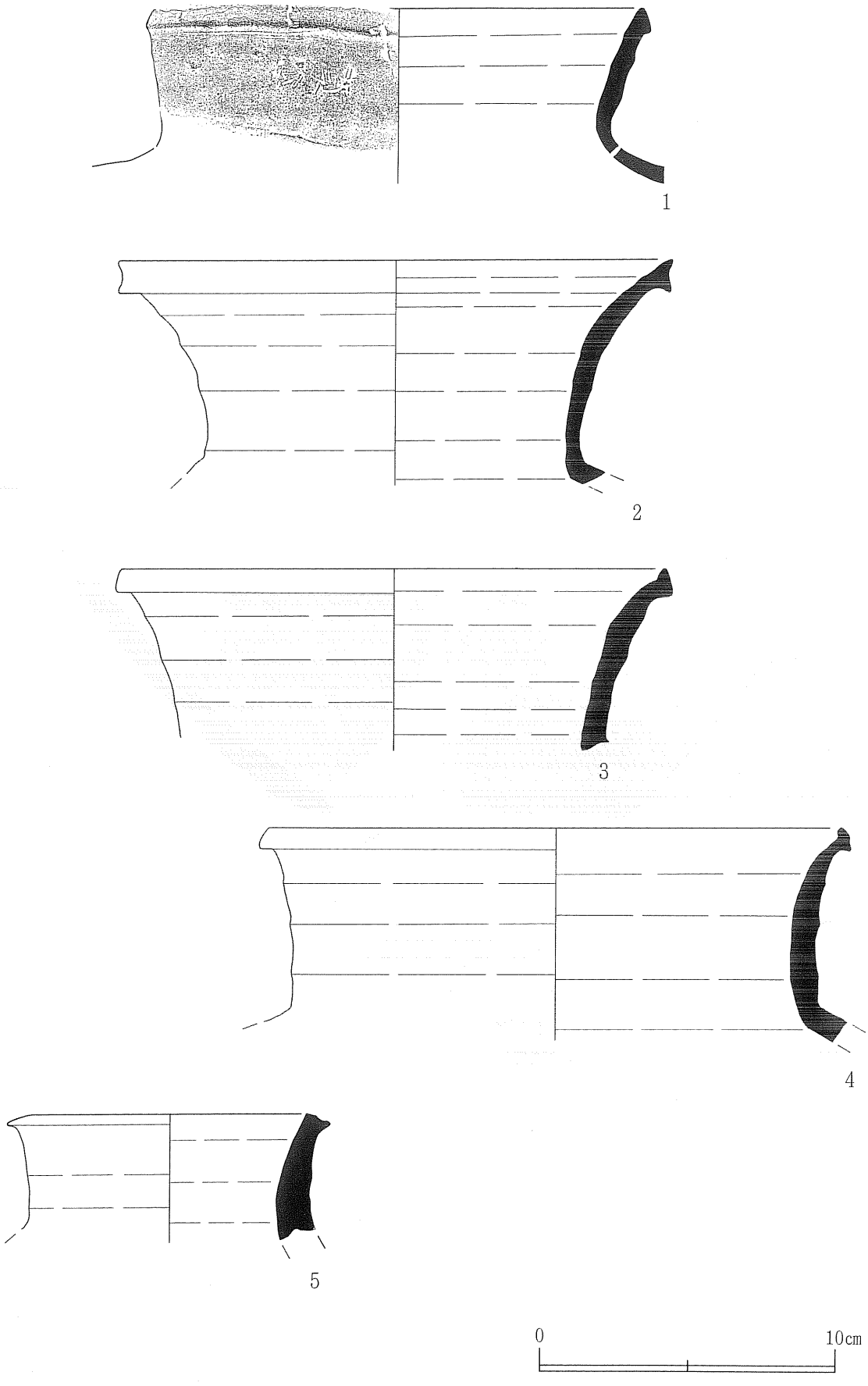
第62図　遺構外出土遺物（10）



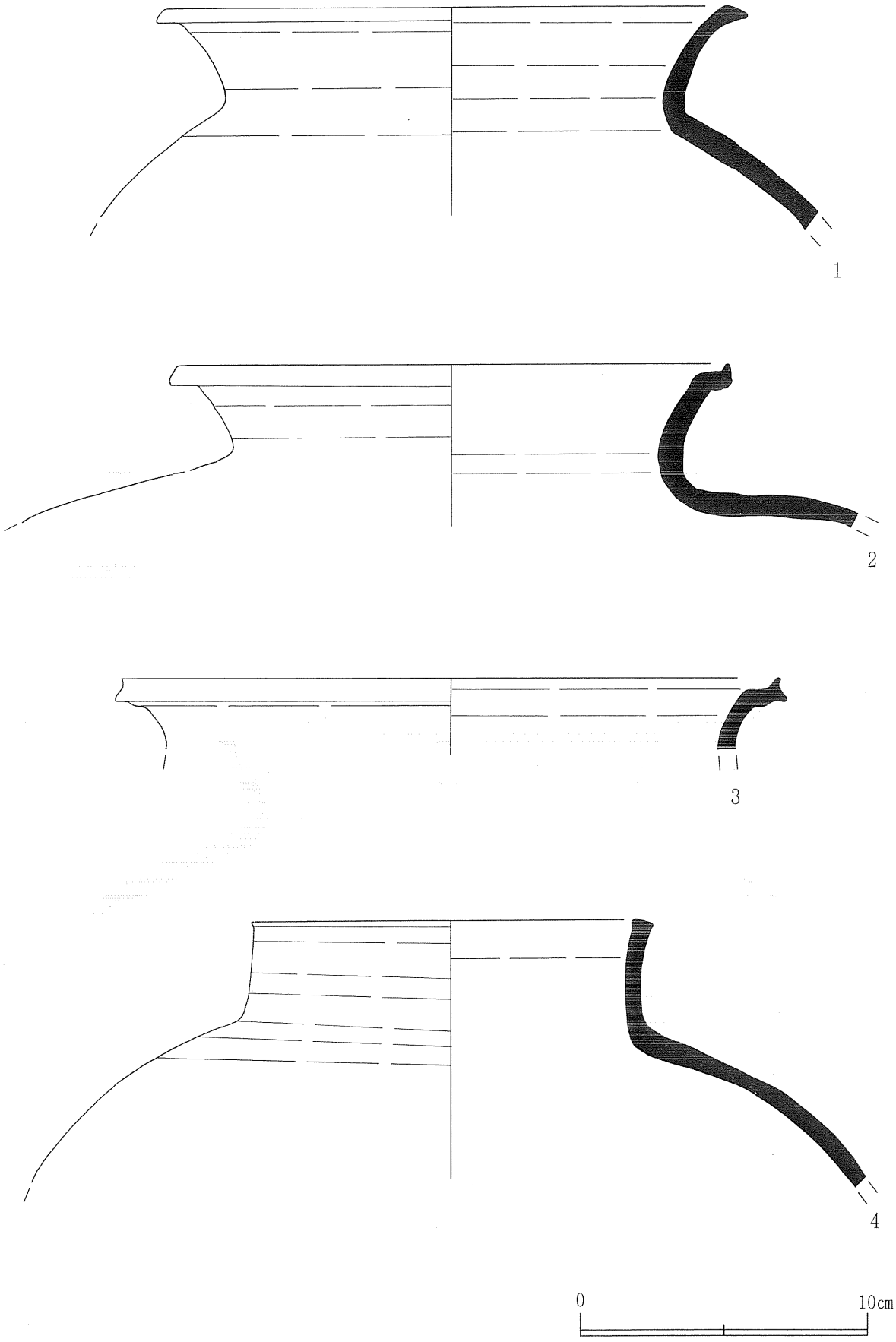
第63図　遺構外出土遺物（11）



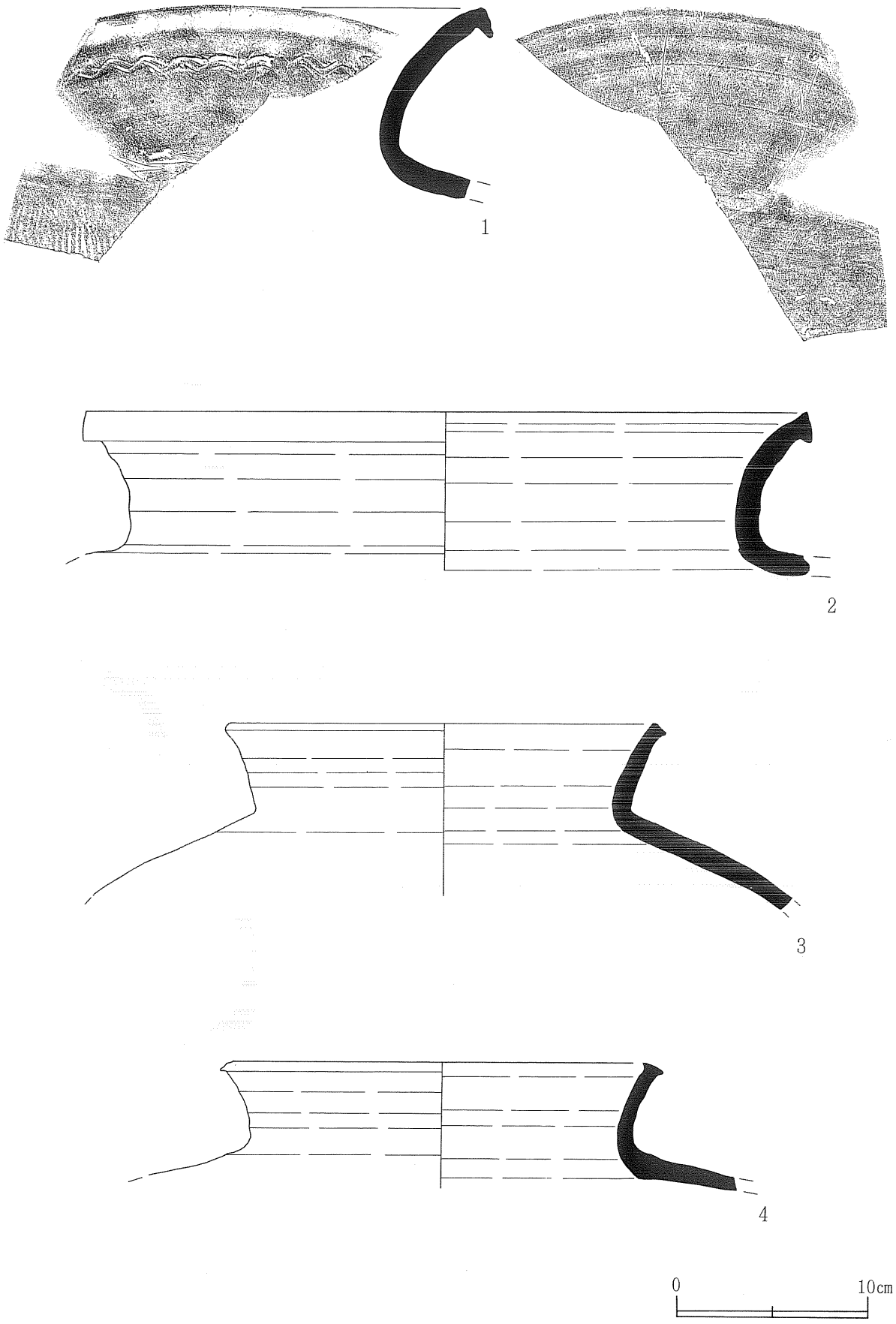
第64図　遺構外出土遺物（12）



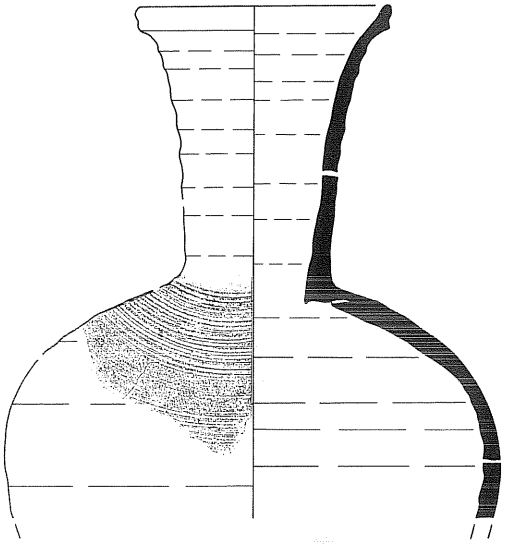
第65図　遺構外出土遺物（13）



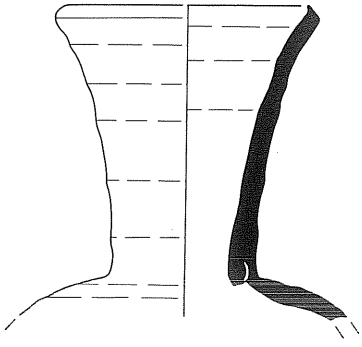
第66図　遺構外出土遺物（14）



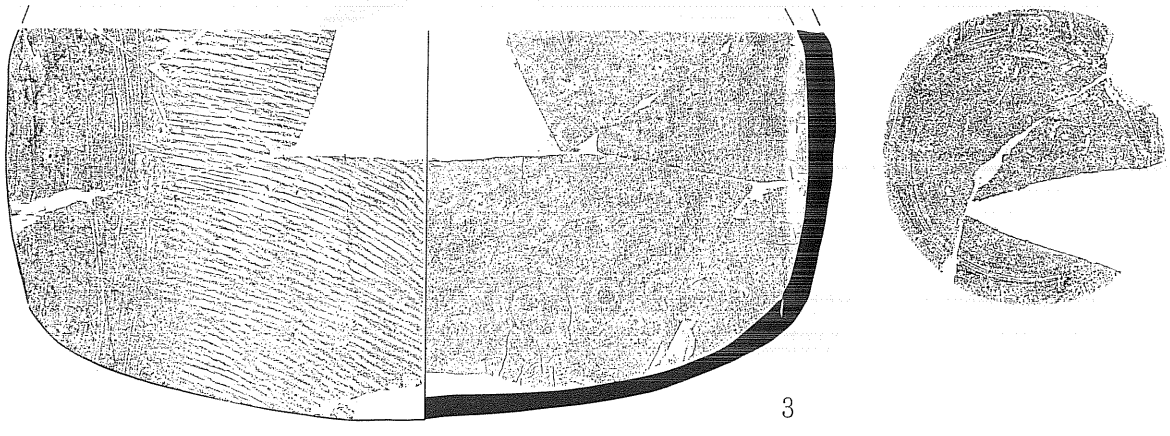
第67図　遺構外出土遺物（15）



1



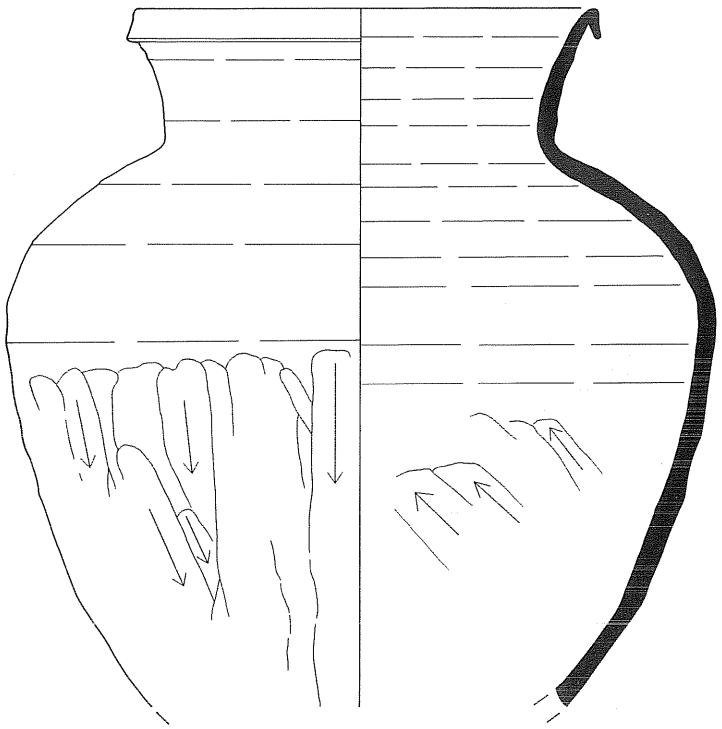
2



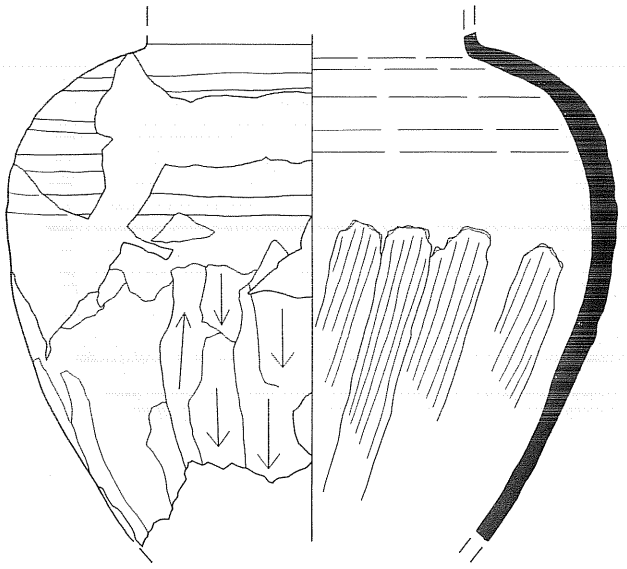
3

0　10cm

第68図　遺構外出土遺物（16）



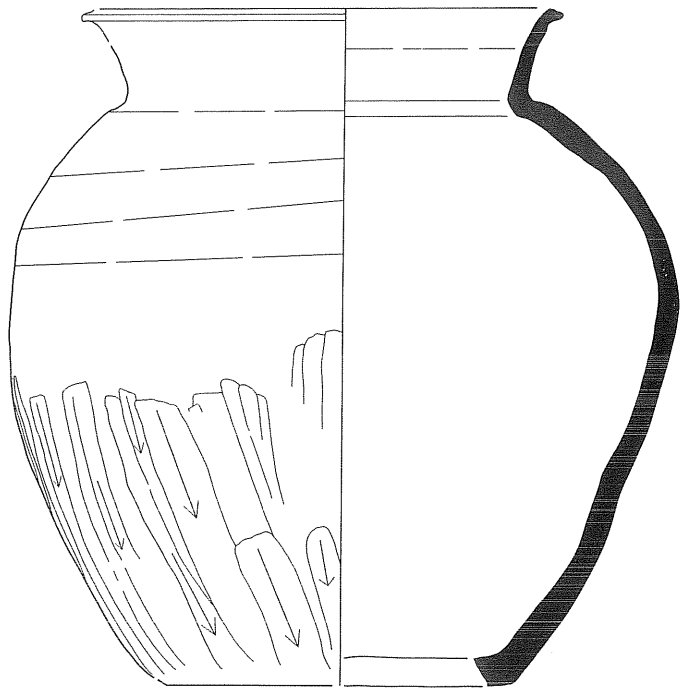
1



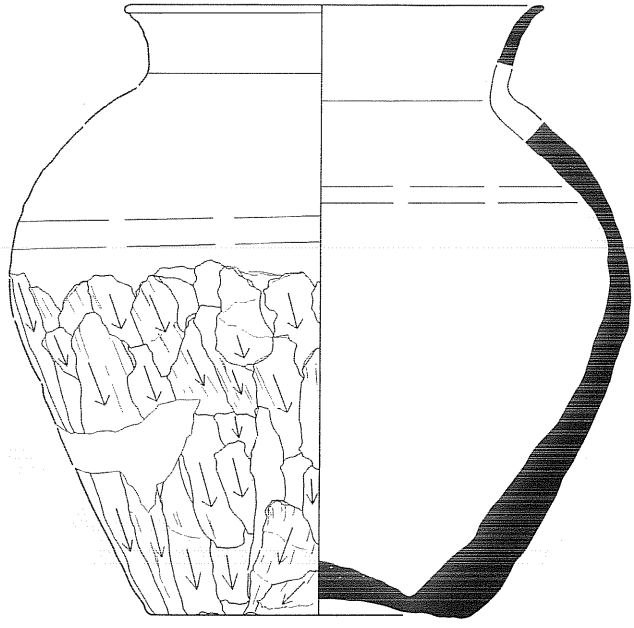
2

0　10cm

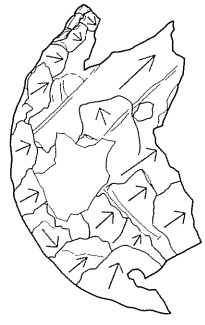
第69図　遺構外出土遺物（17）

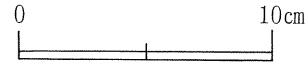


1

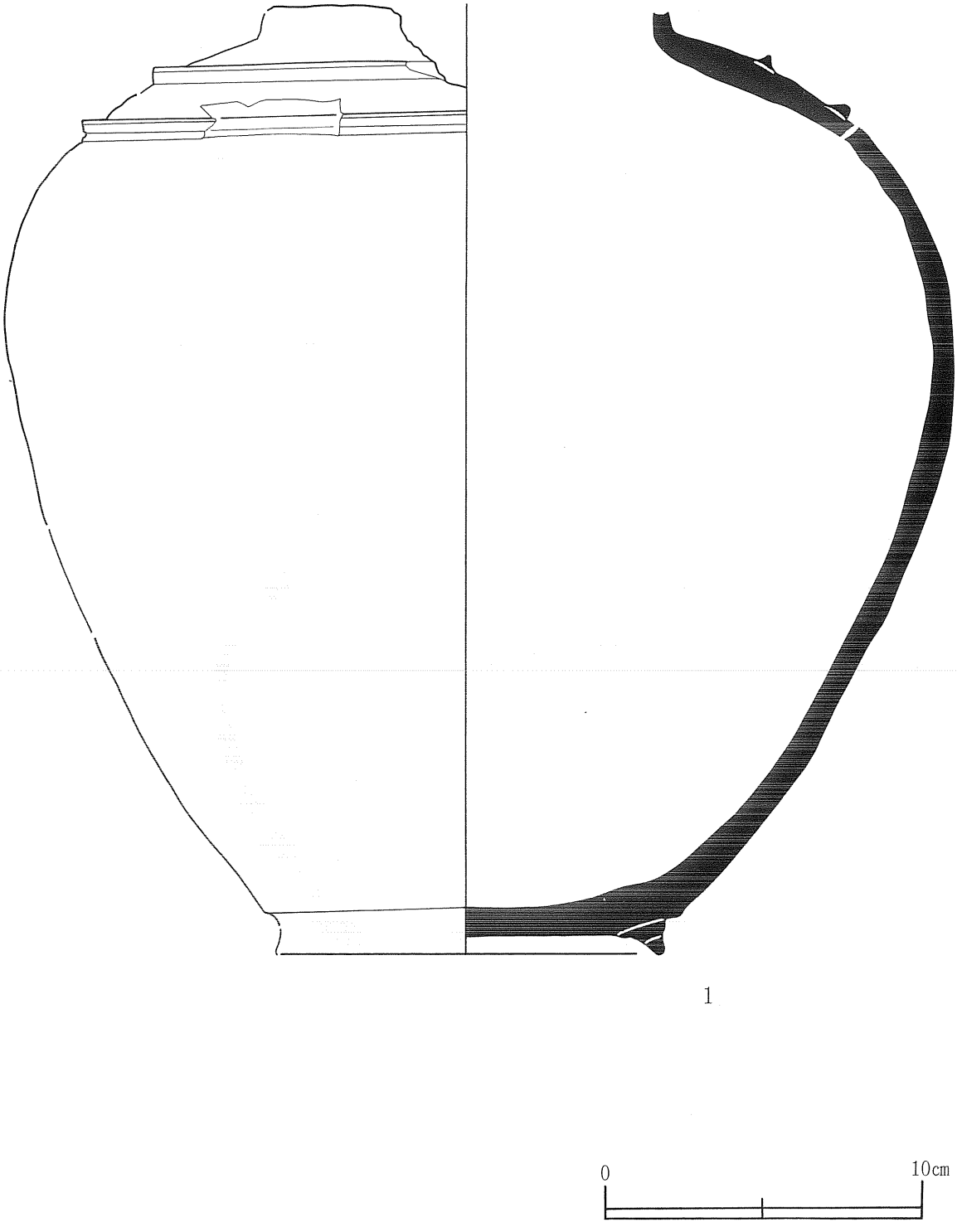


2

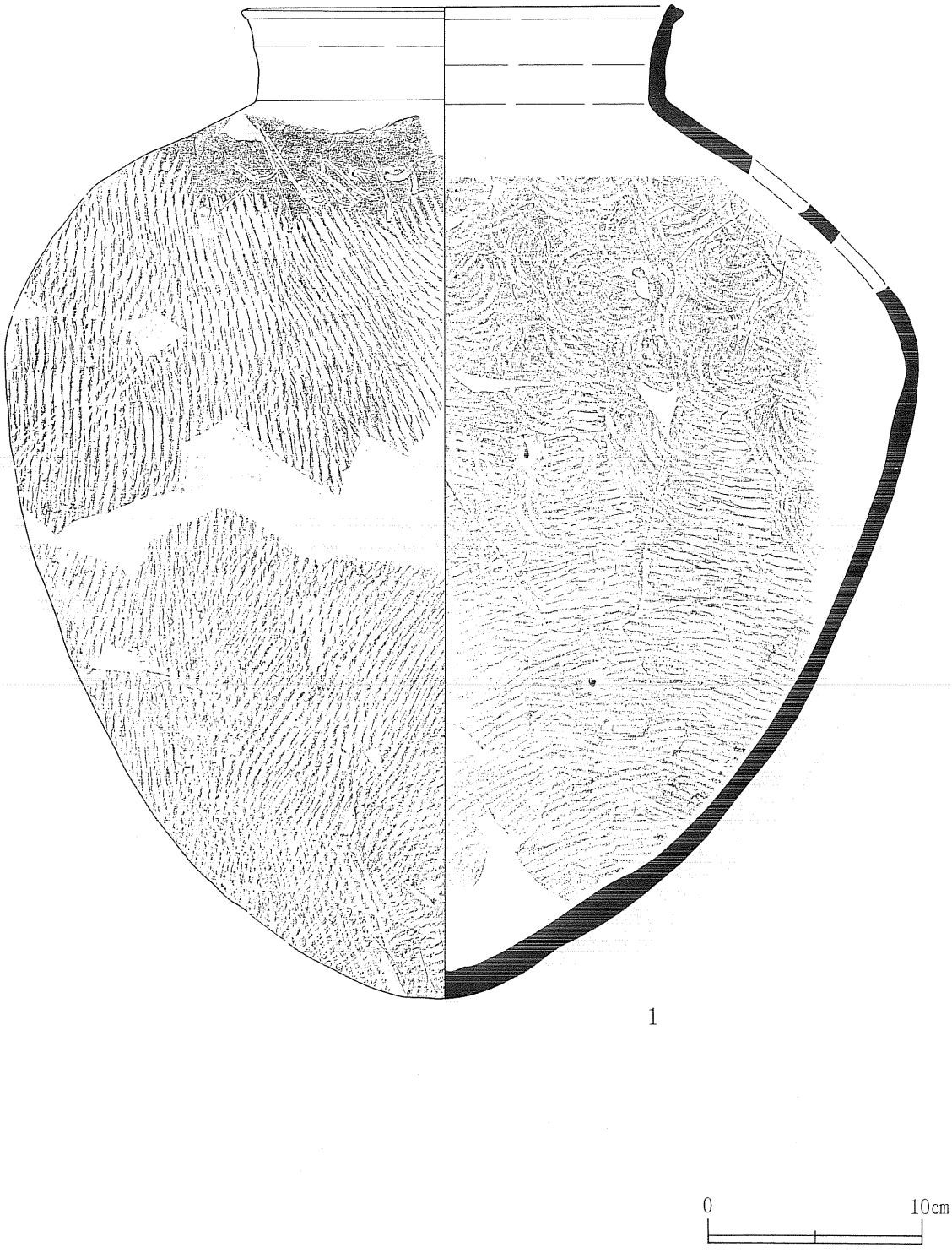




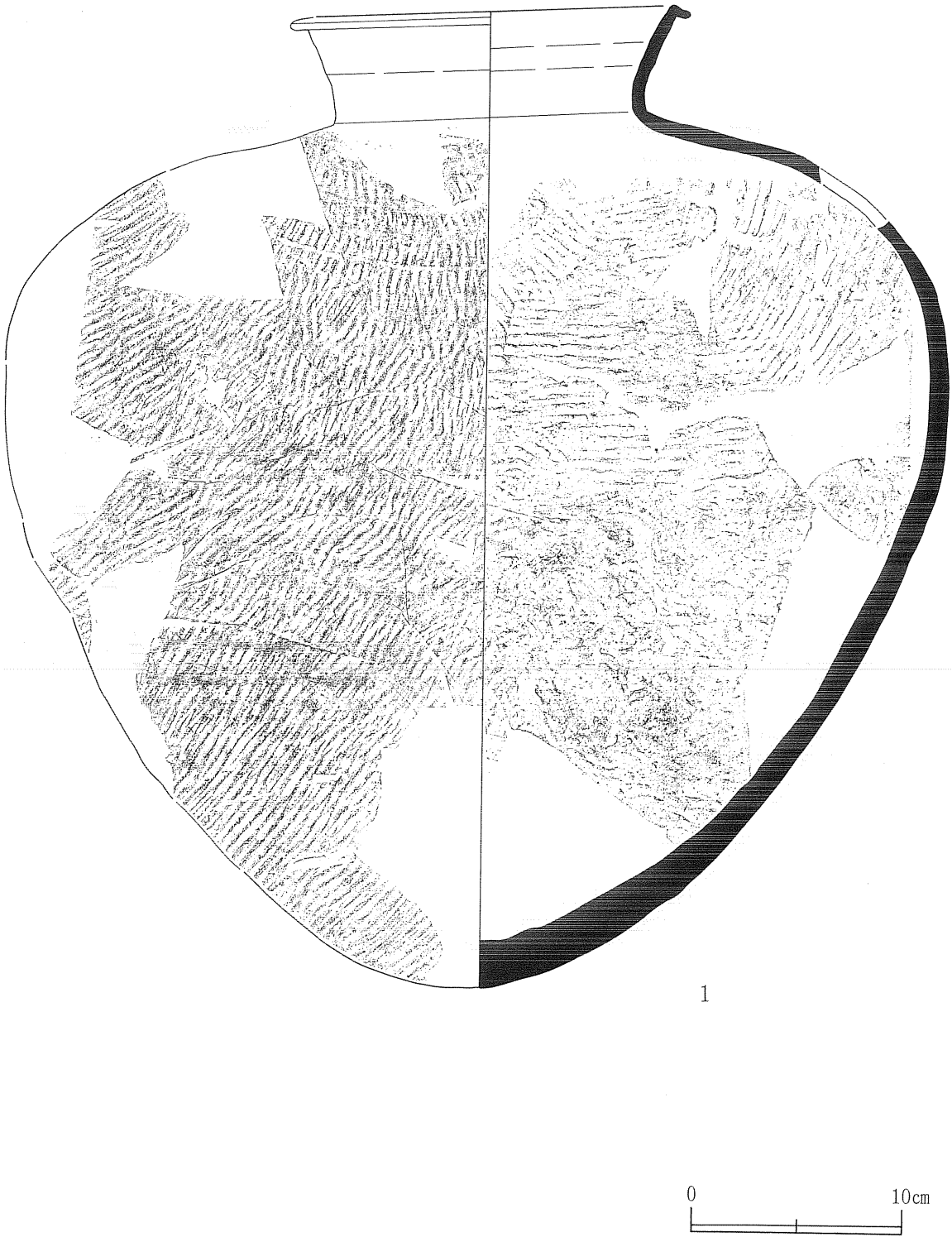
第70図　遺構外出土遺物（18）



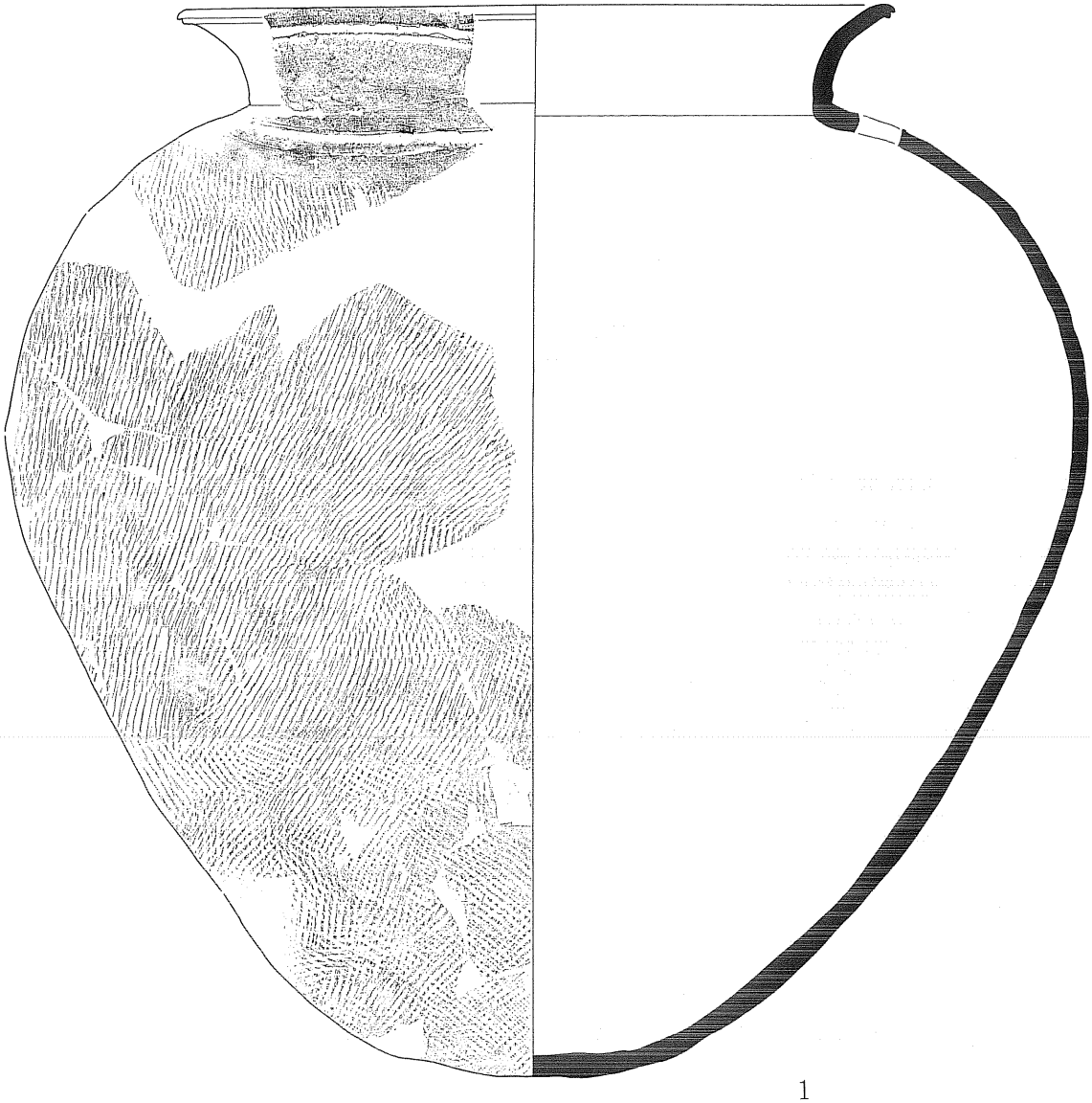
第71図　遺構外出土遺物（19）

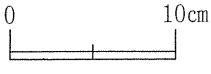


第72図　遺構外出土遺物（20）

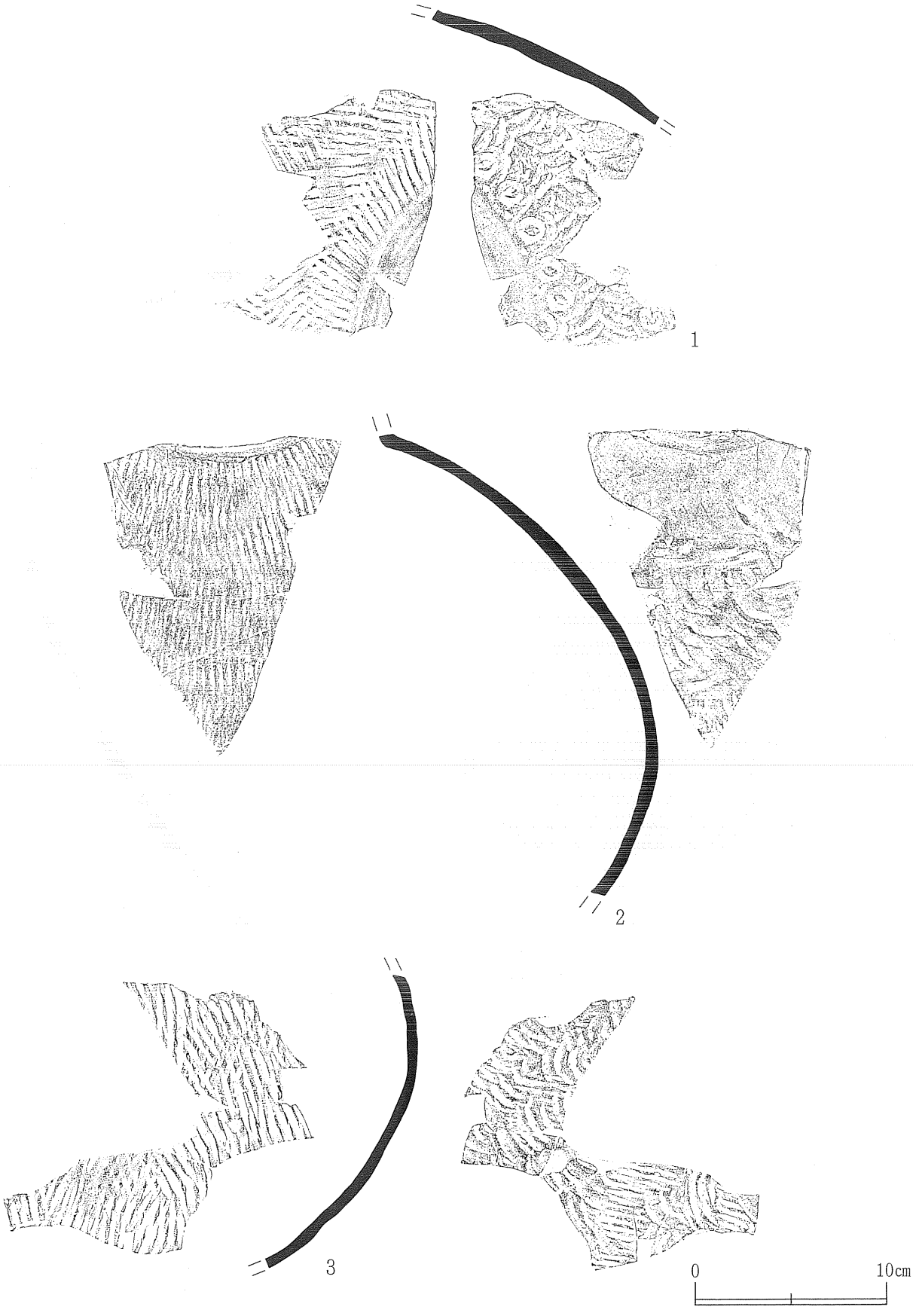


第73図　遺構外出土遺物（21）

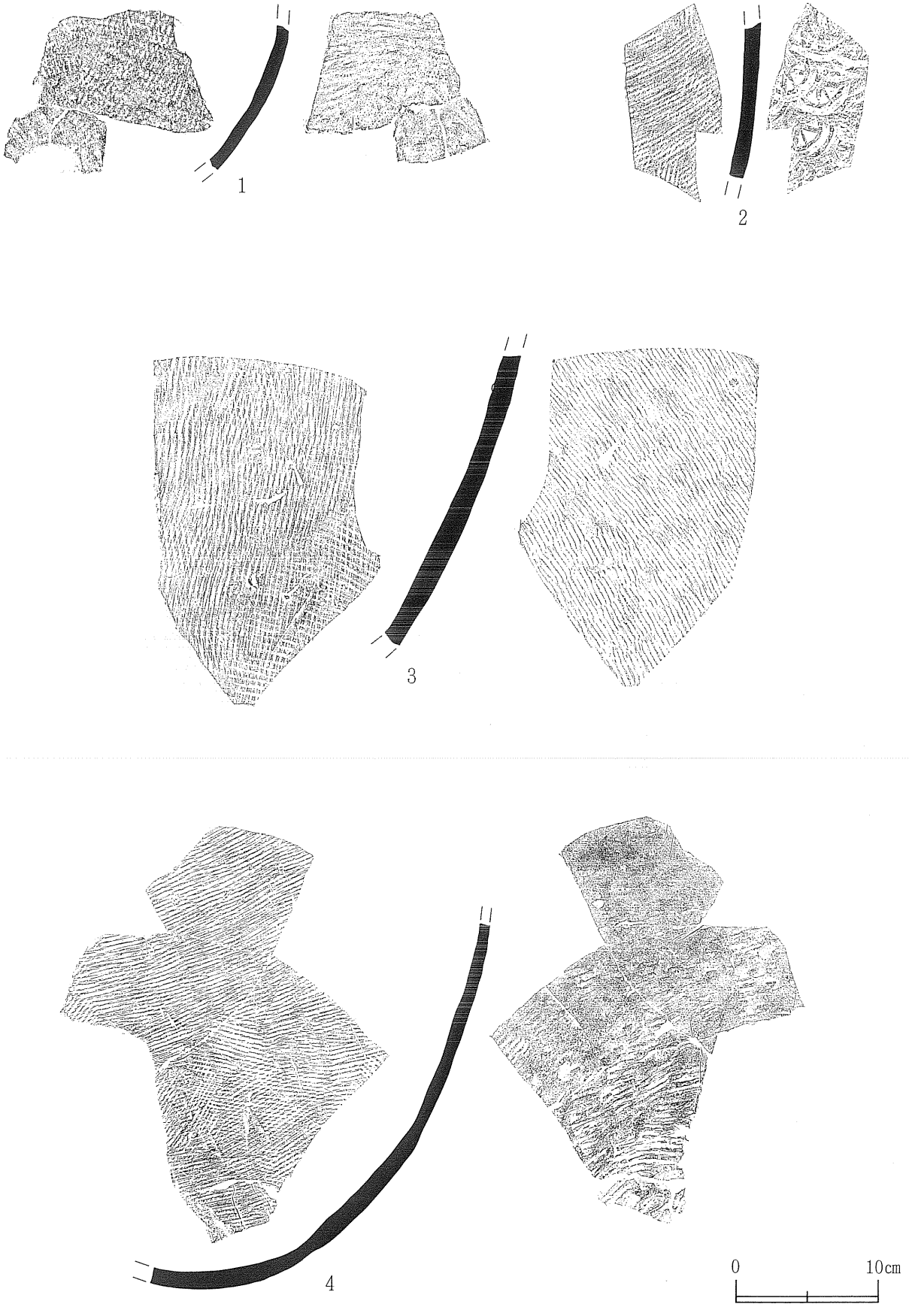




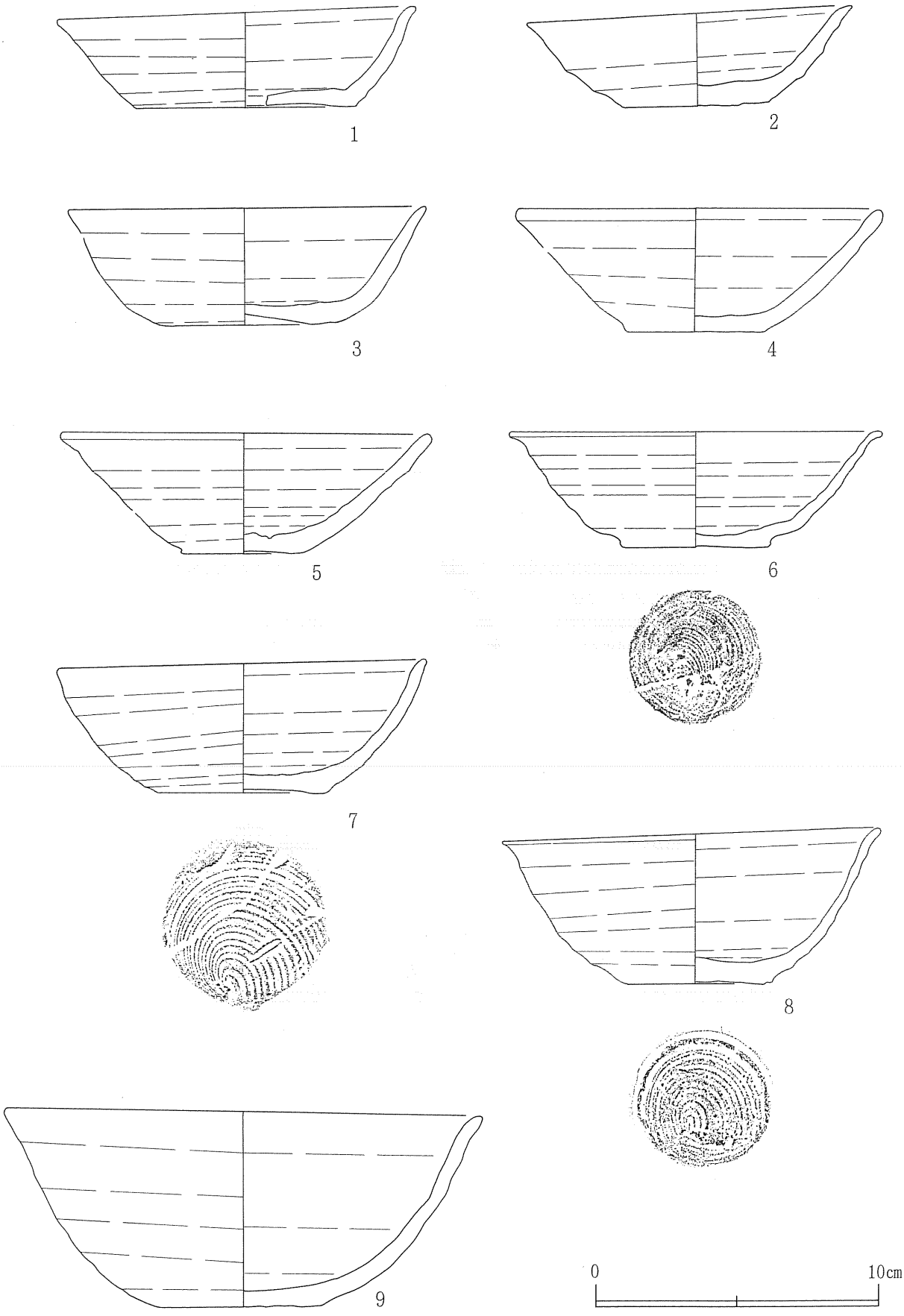
第74図　遺構外出土遺物（22）



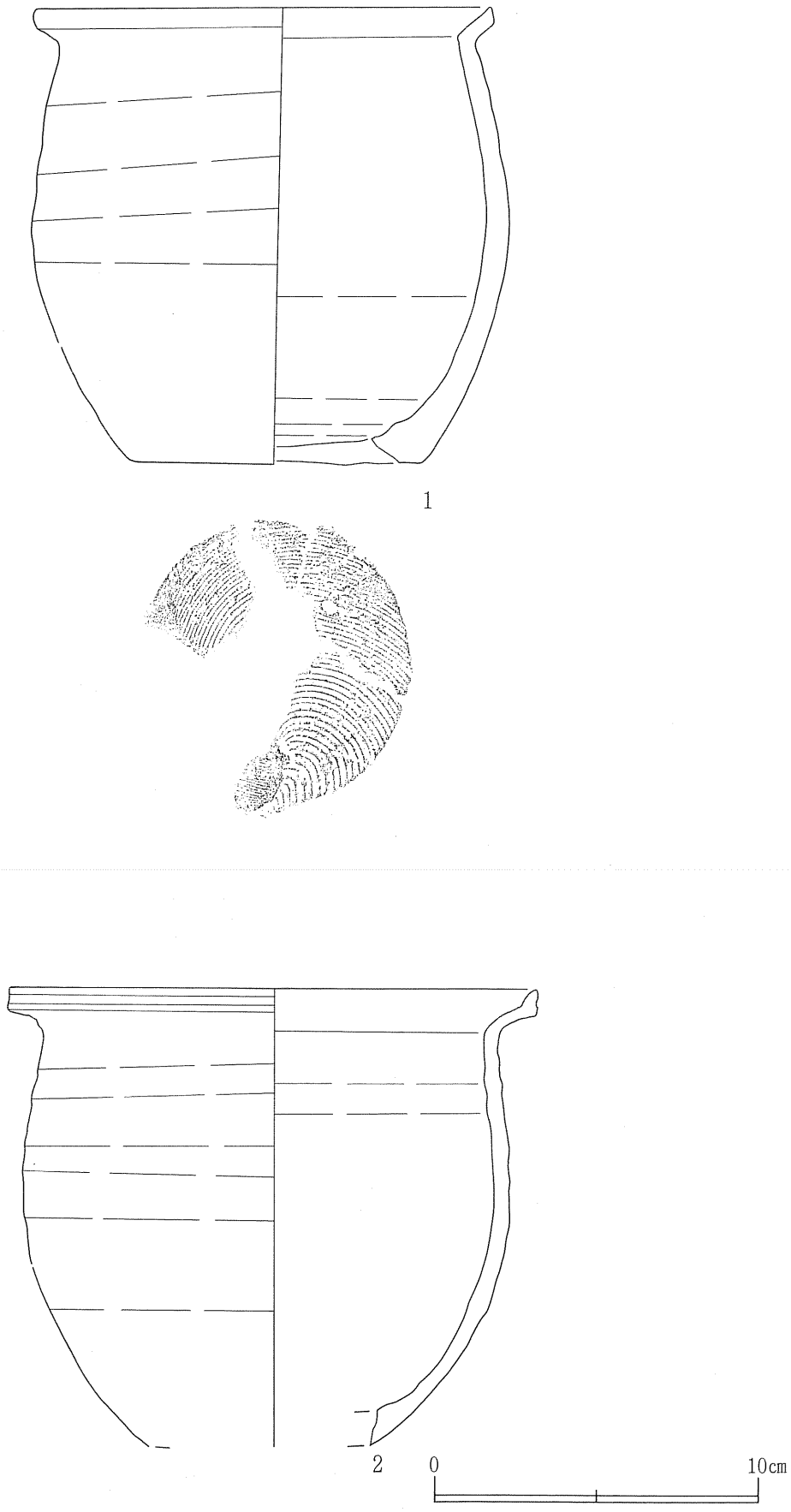
第75図　遺構外出土遺物（23）



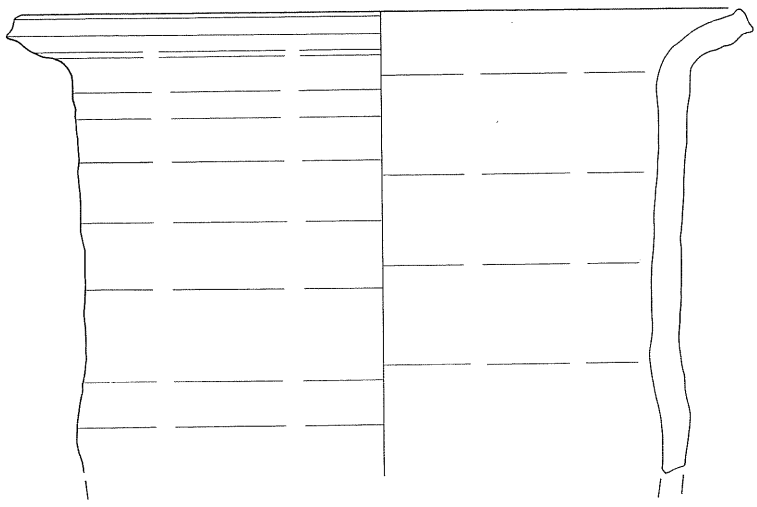
第76図　遺構外出土遺物（24）



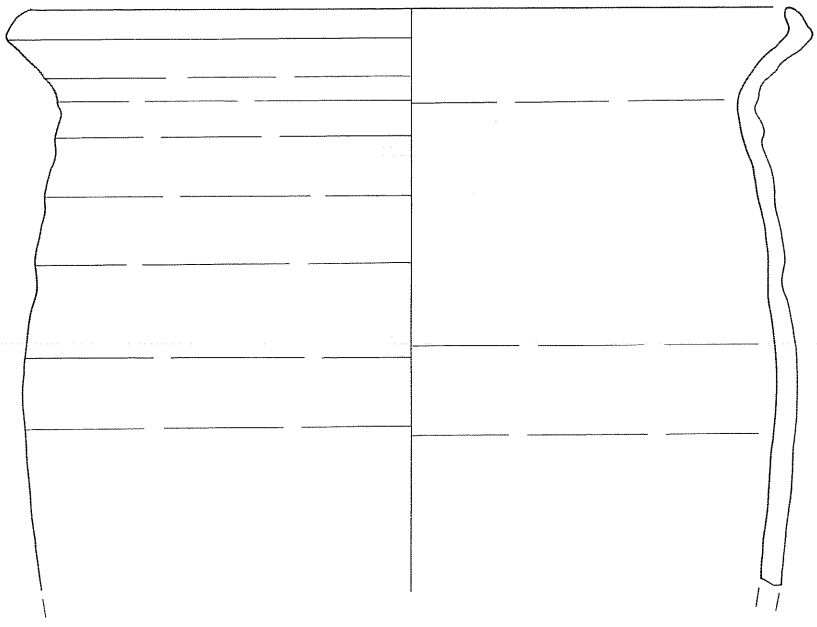
第77図　遺構外出土遺物（25）



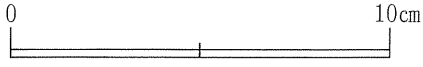
第78図　遺構外出土遺物（26）



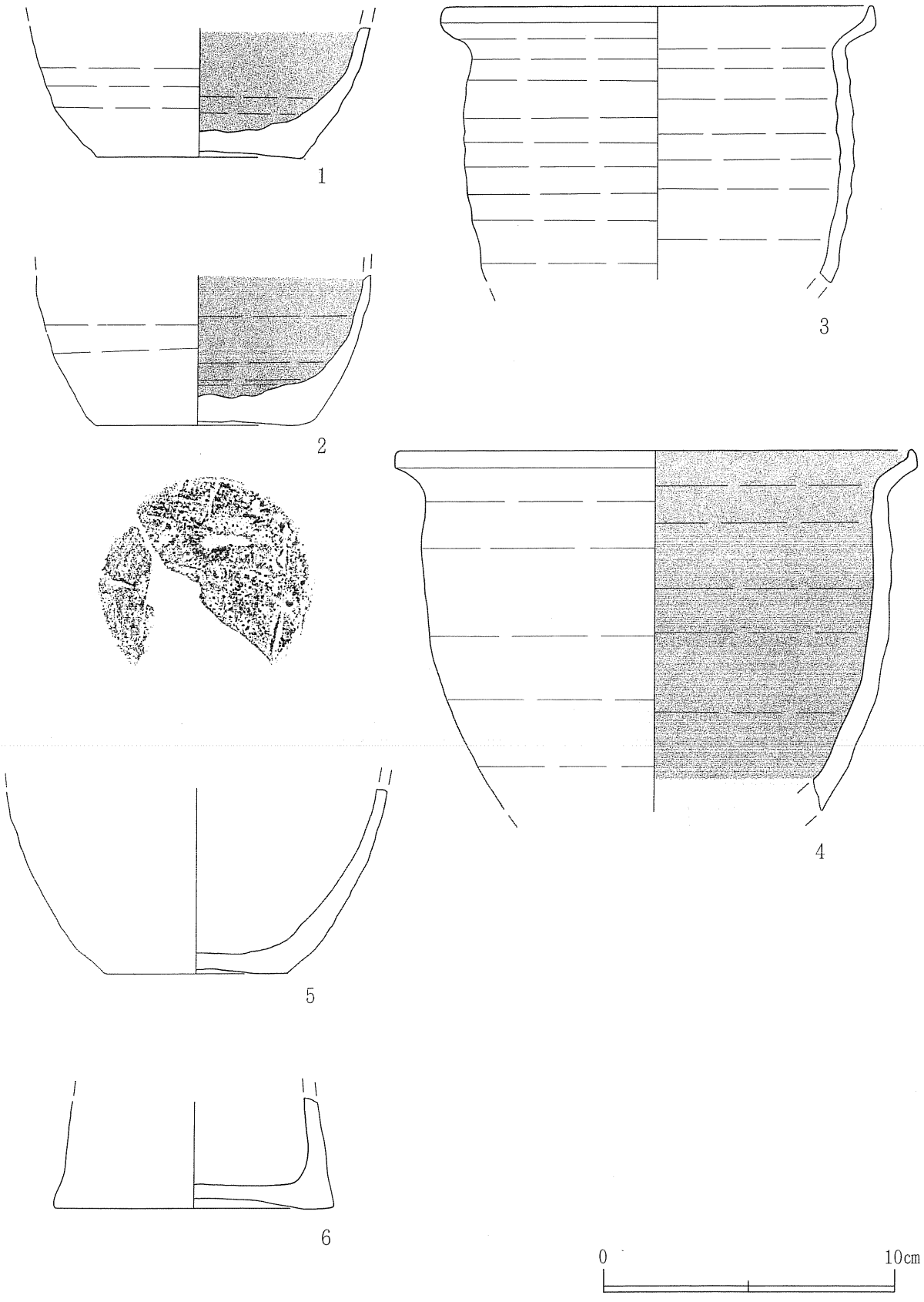
1



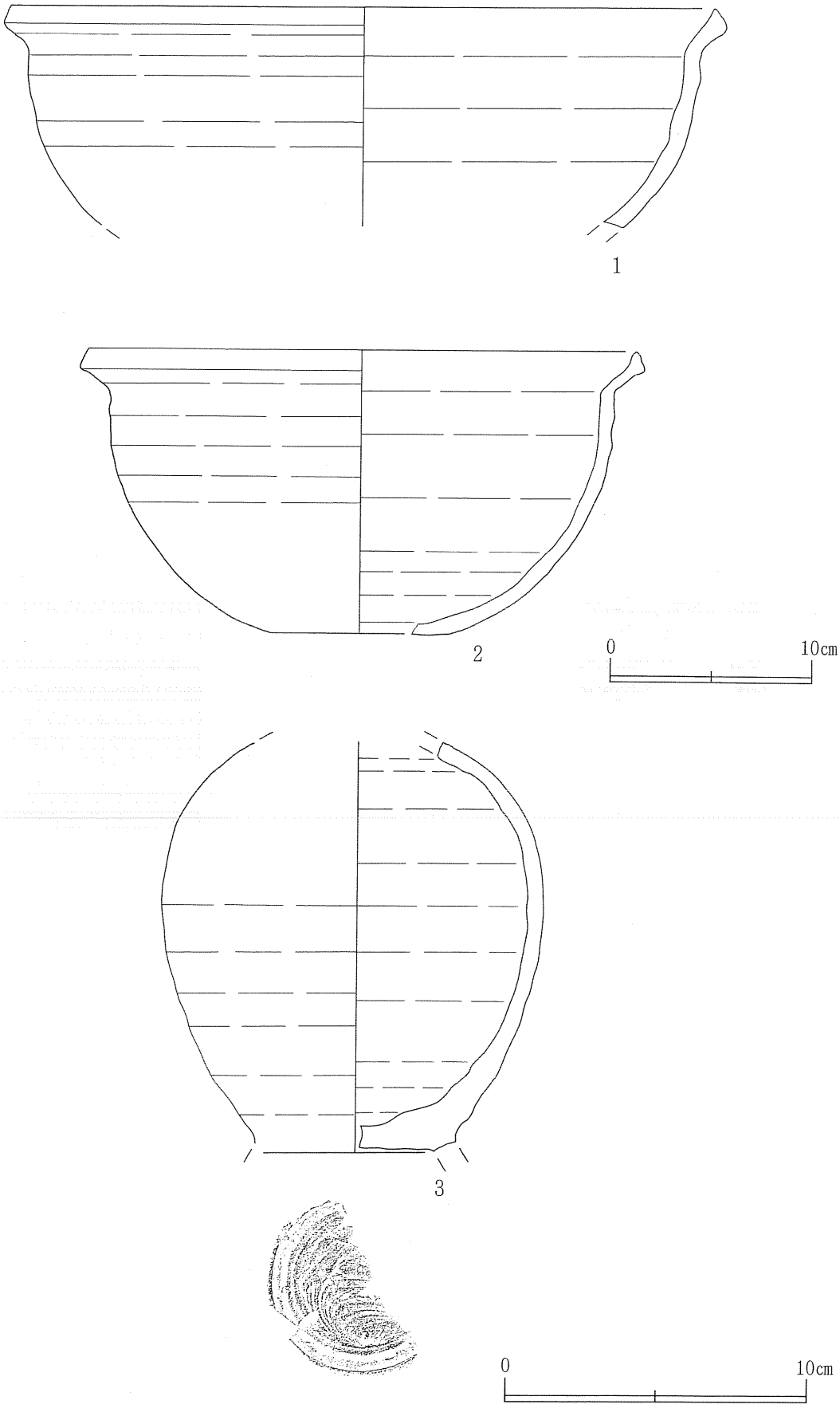
2



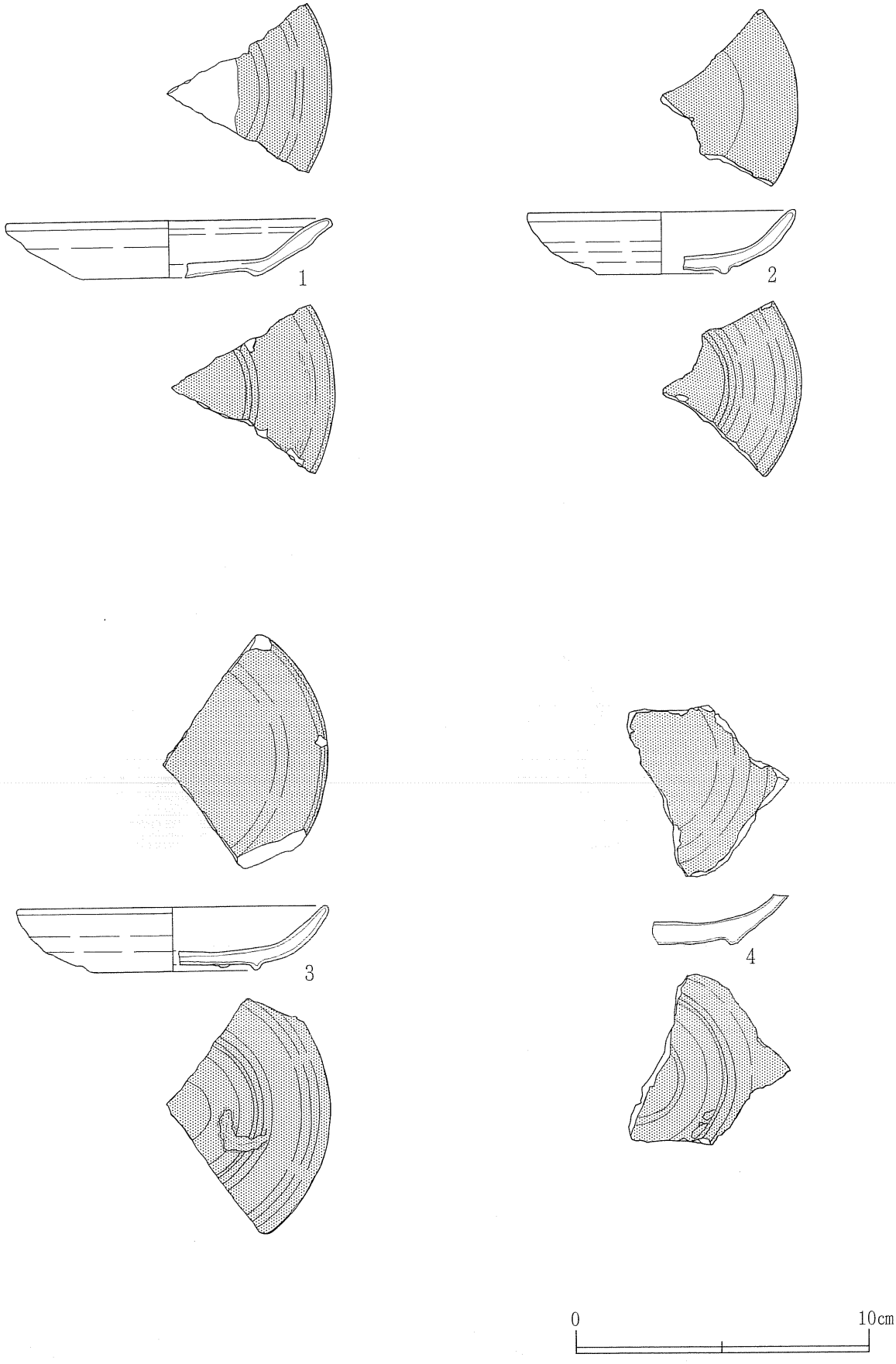
第79図　遺構外出土遺物（27）



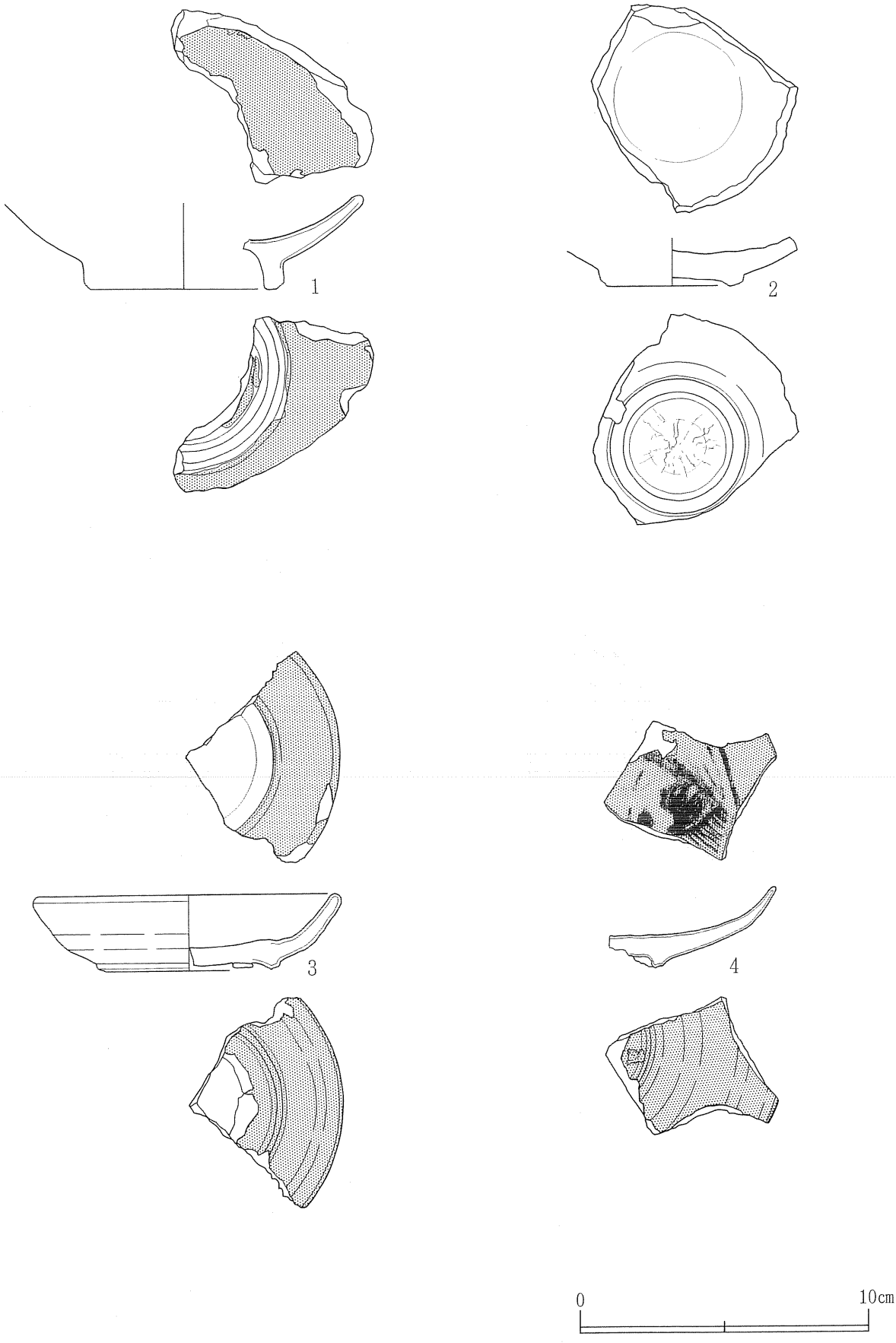
第80図　遺構外出土遺物（28）



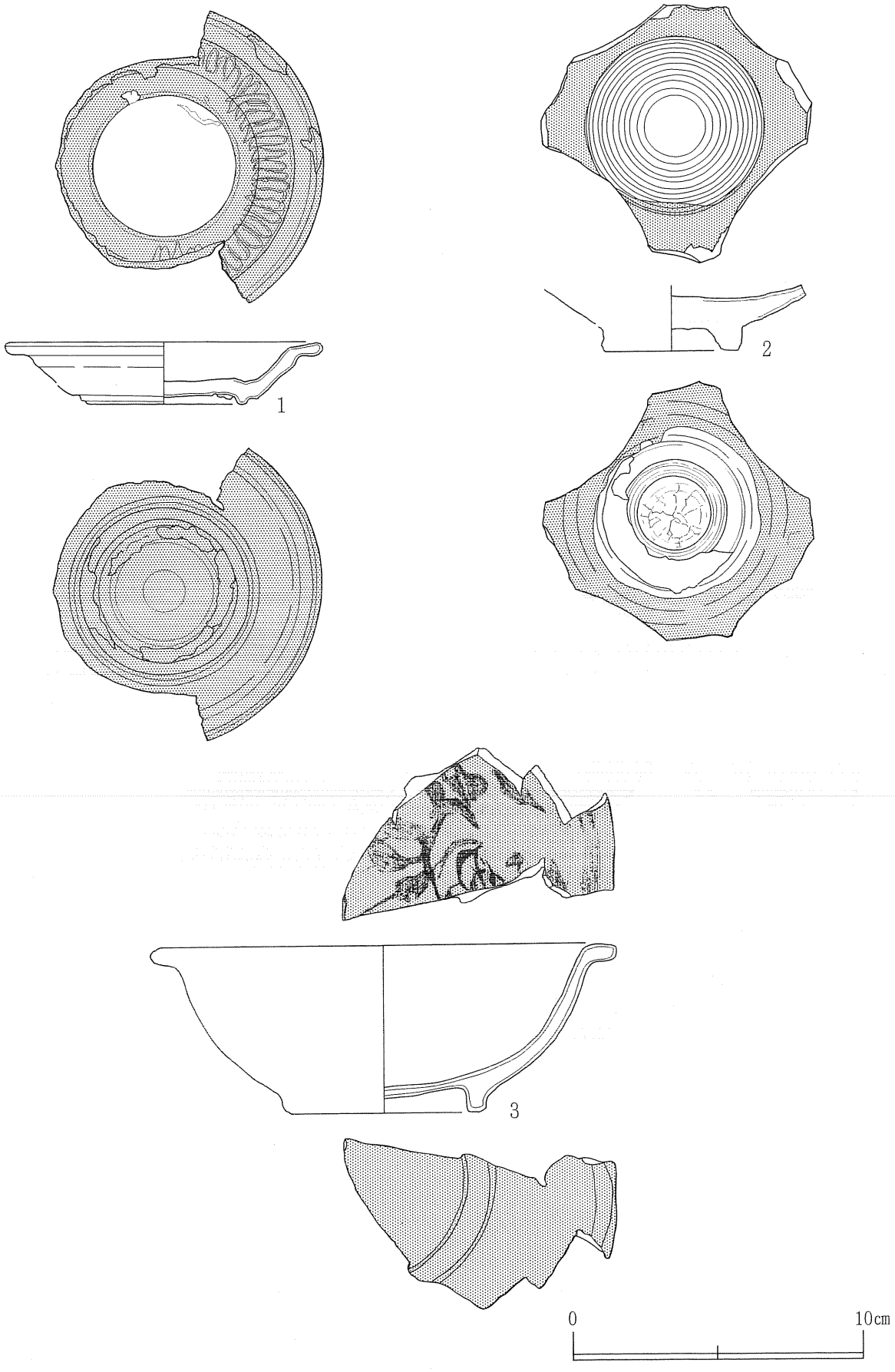
第81図　遺構外出土遺物（29）



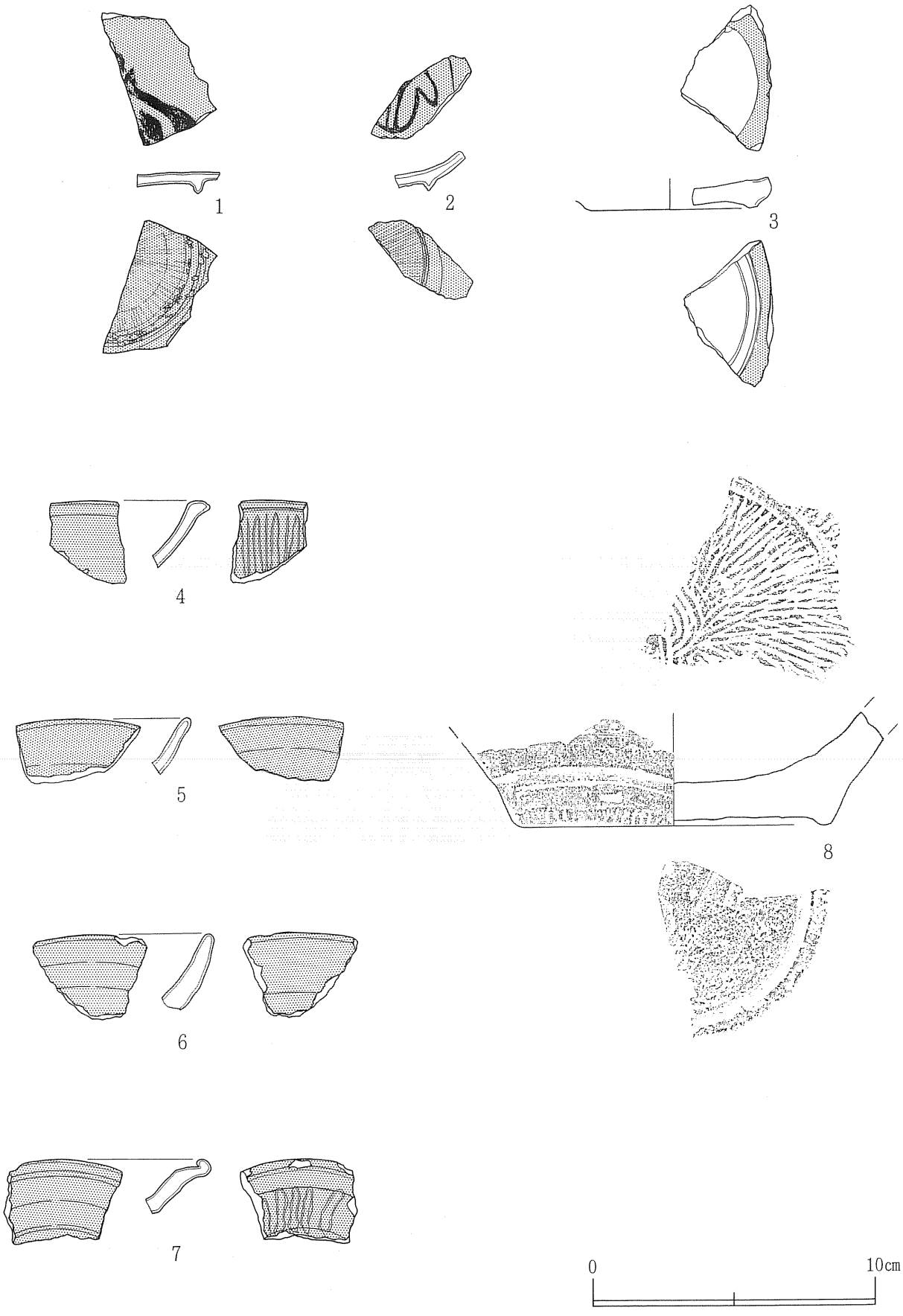
第82図　遺構外出土遺物（30）



第83図　遺構外出土遺物（31）

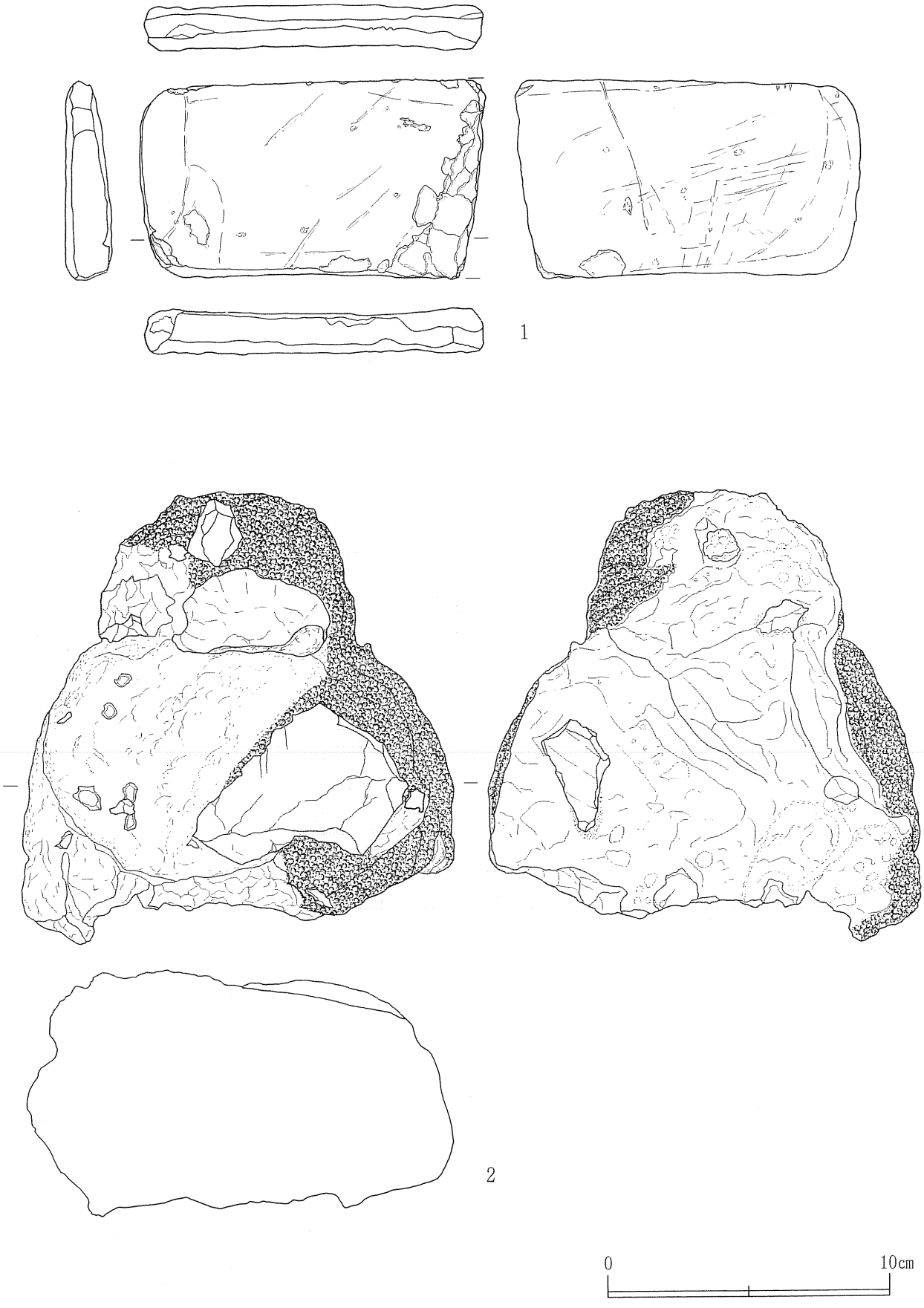


第84図　遺構外出土遺物（32）

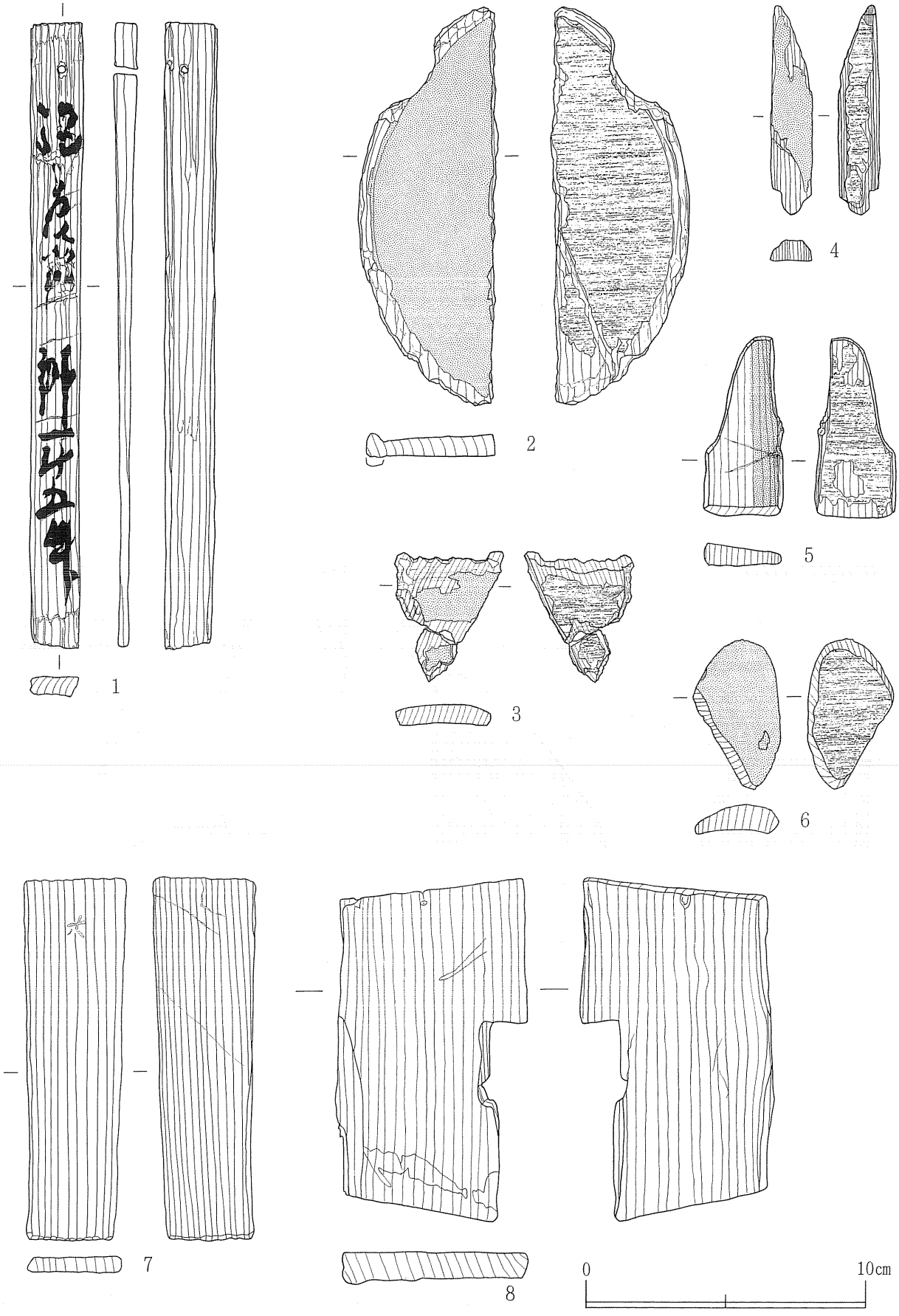


第85図　遺構外出土遺物（33）

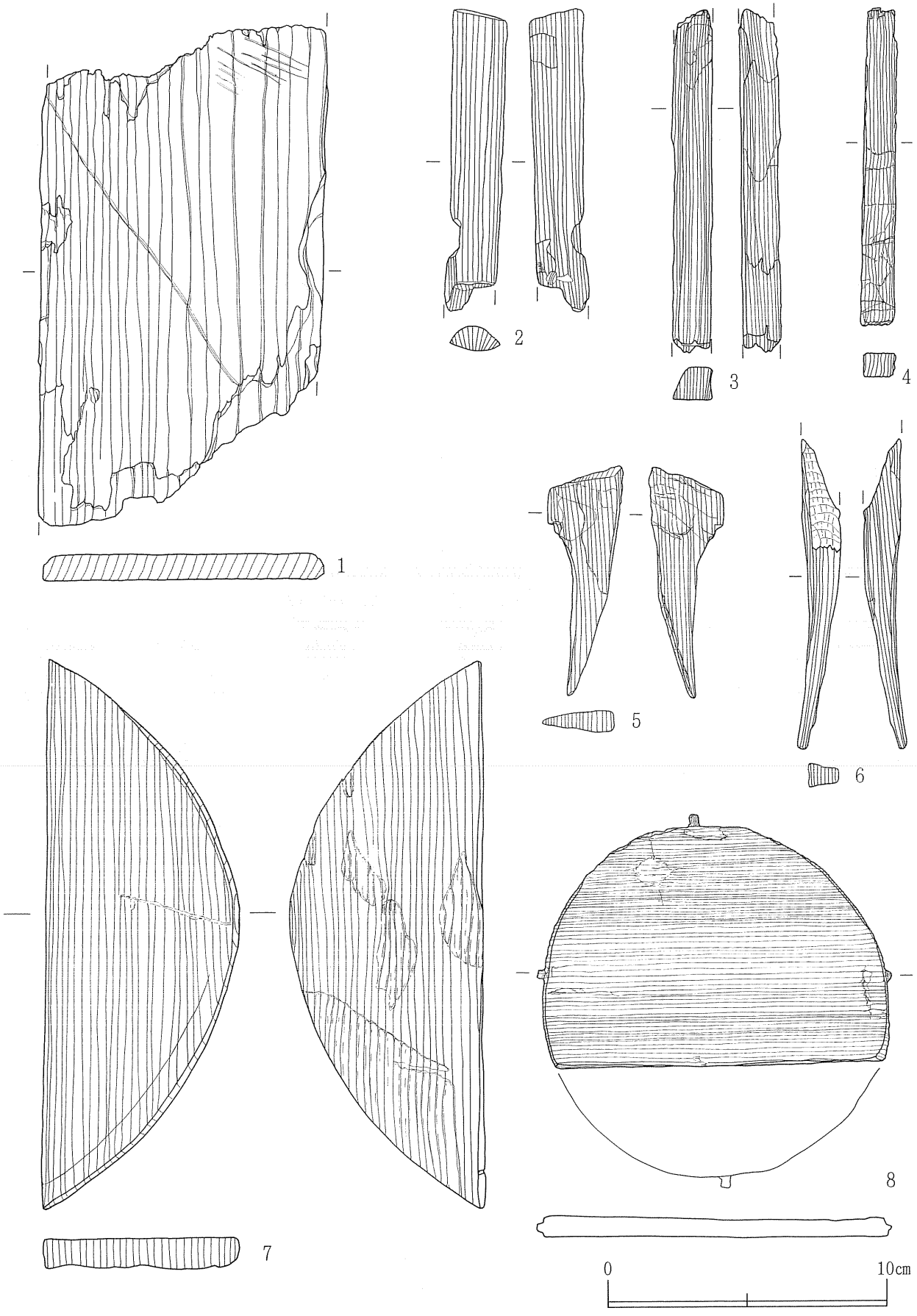
第86図　遺構外出土遺物（34）



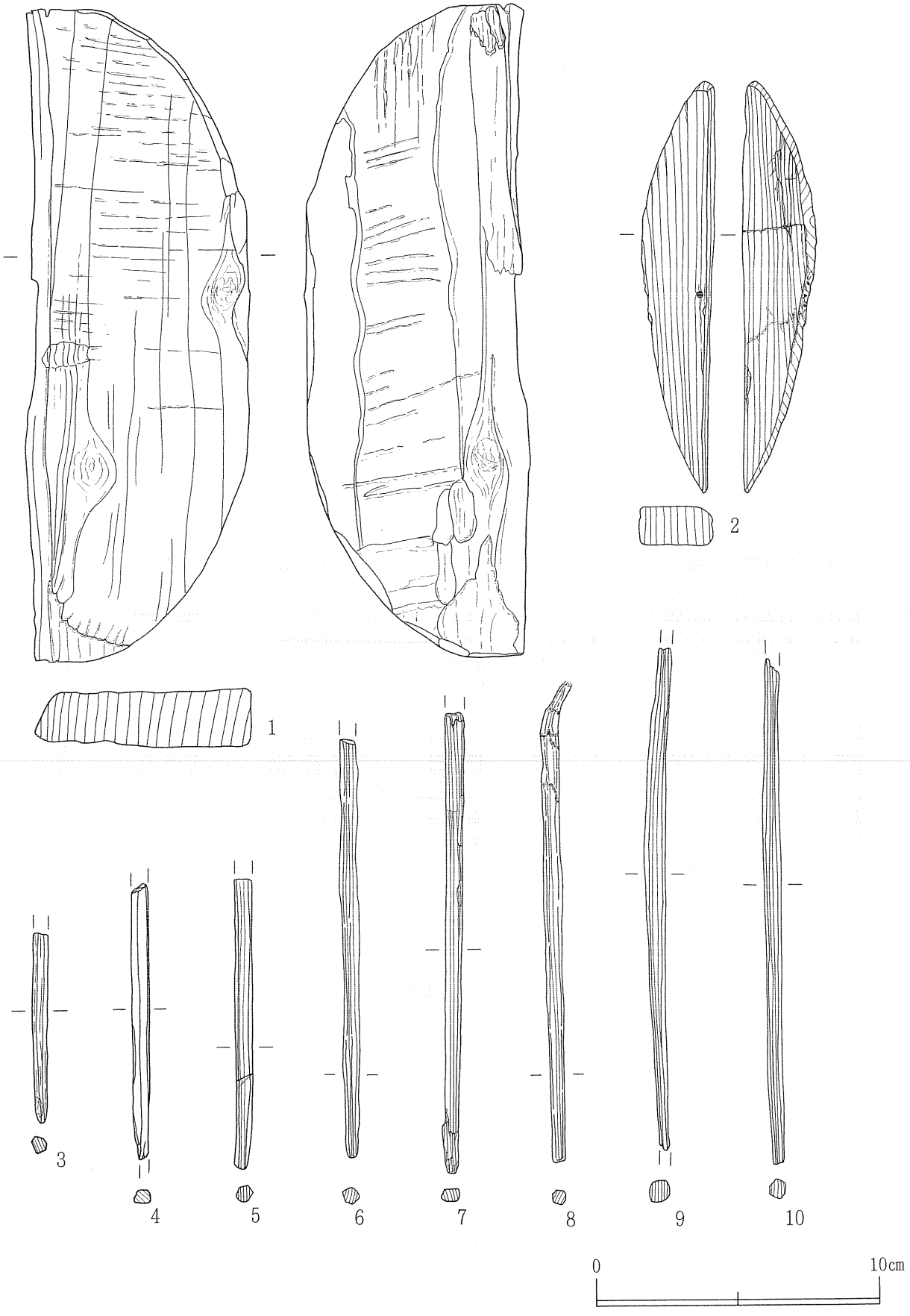
第87図　遺構外出土遺物（35）



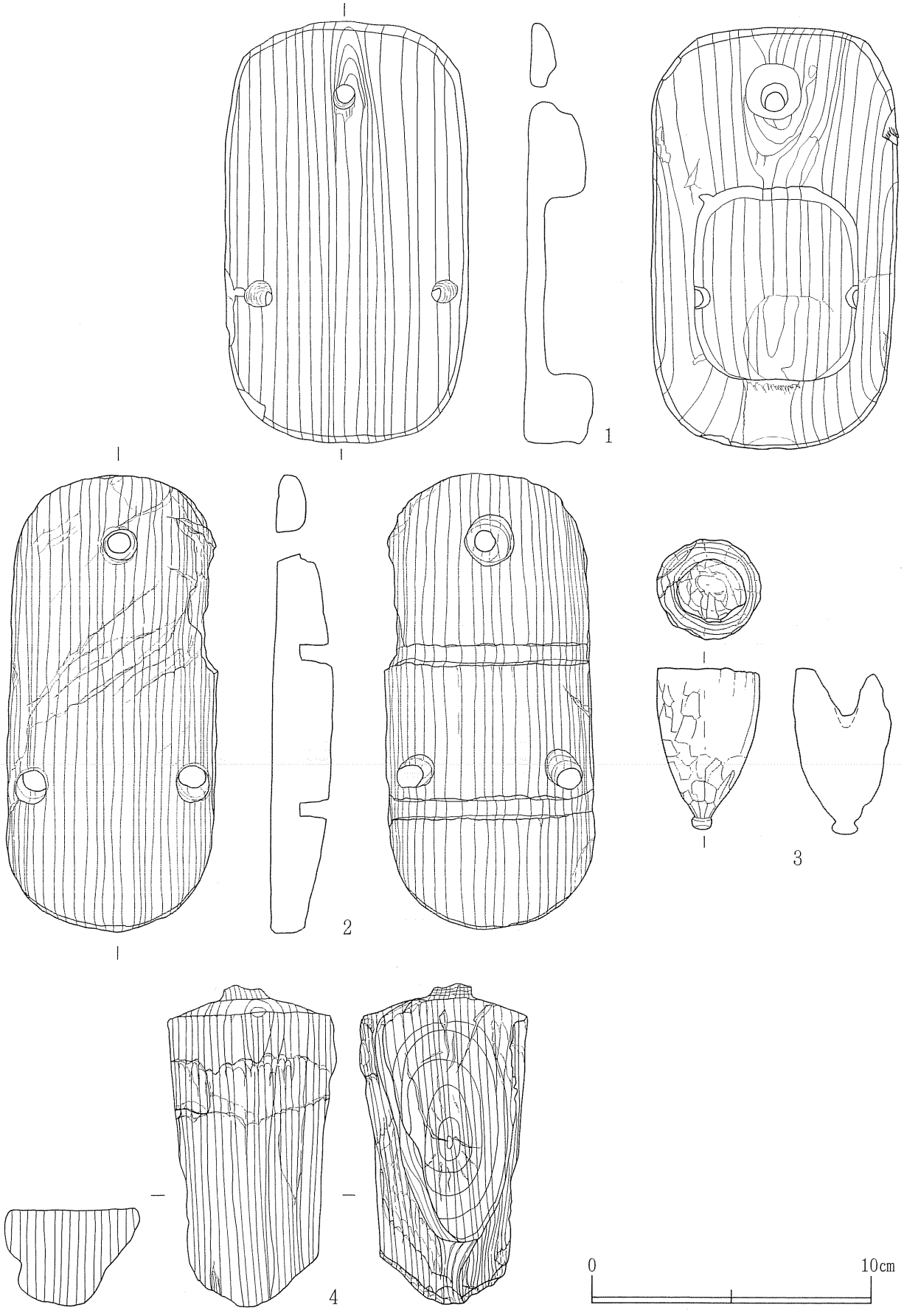
第88図　遺構外出土遺物（36）



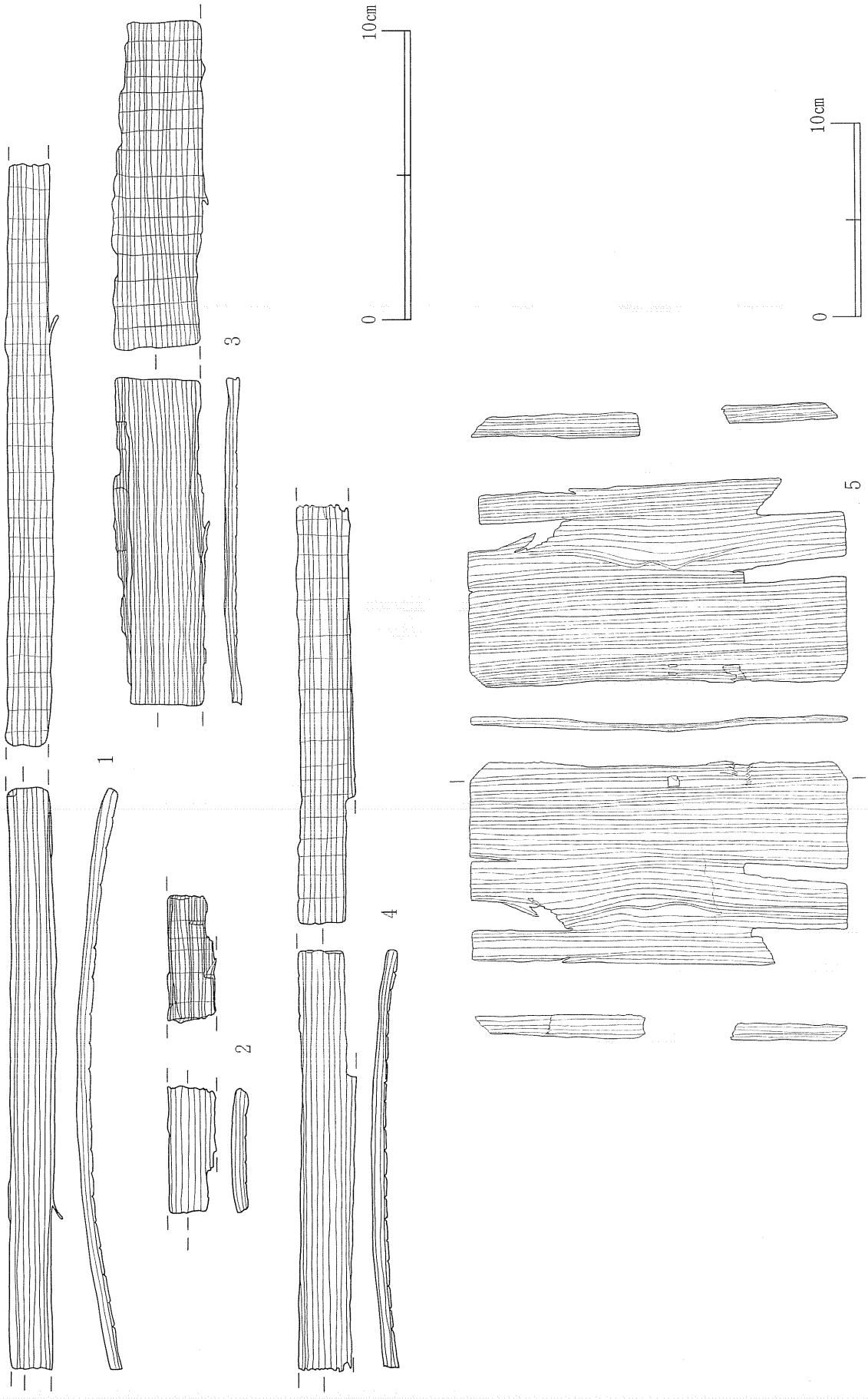
第89図　遺構外出土遺物（37）



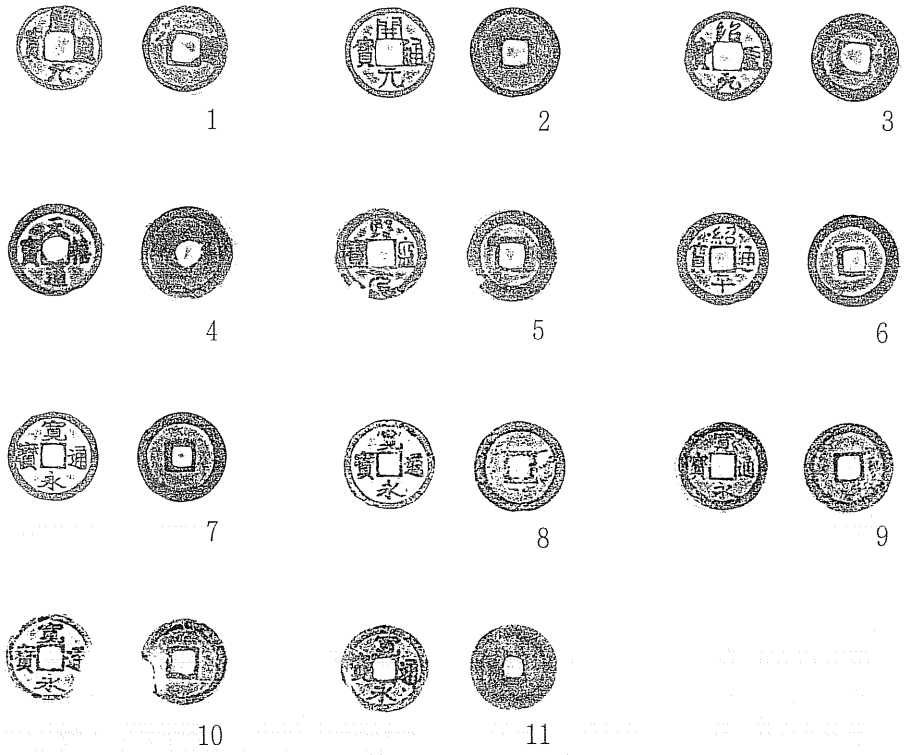
第90図　遺構外出土遺物（38）

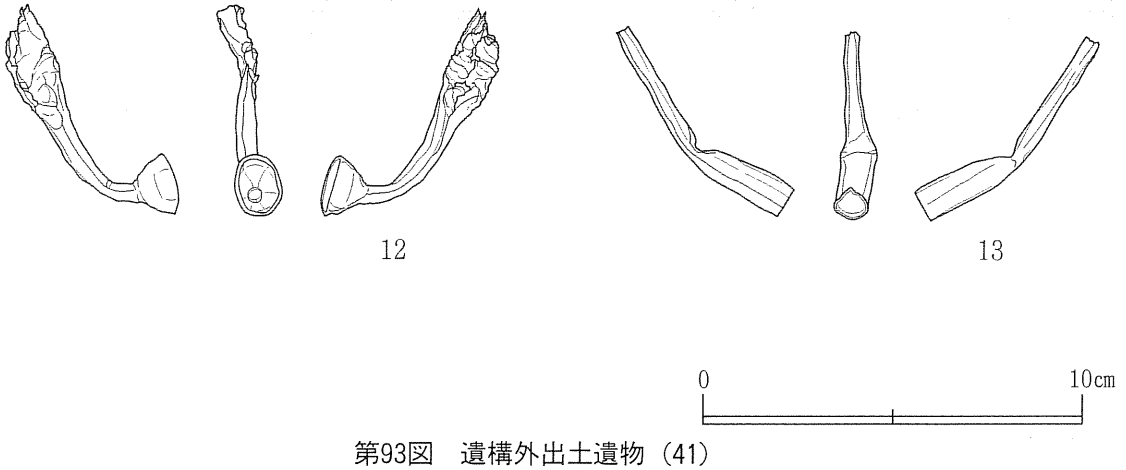


第91図　遺構外出土遺物（39）

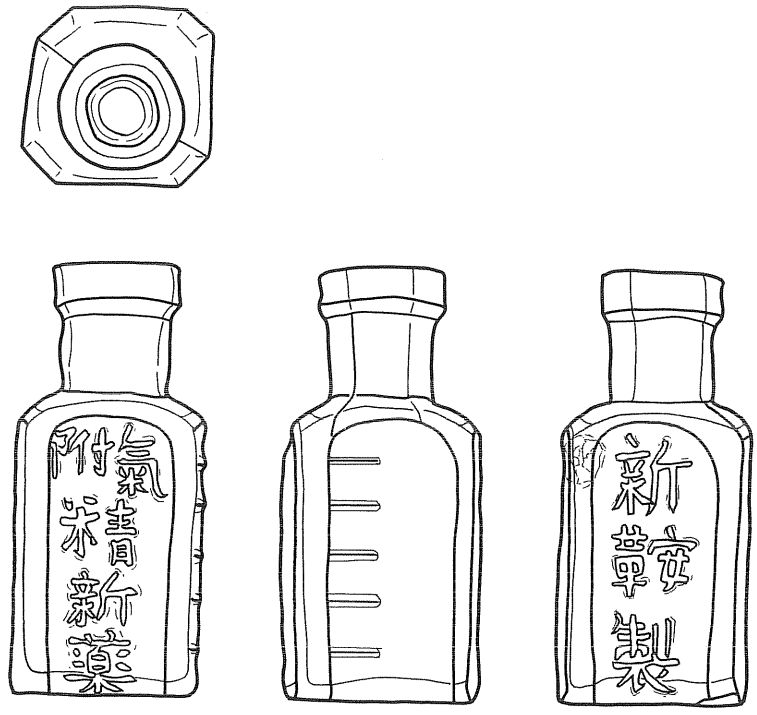


第92図　遺構外出土遺物（40）





第93図　遺構外出土遺物（41）



1

2

0　5cm

第94図　遺構外出土遺物（42）

第５章　自然科学的分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

十二牲Ｂ遺跡の位置する横手盆地中部付近の東縁には、奥羽山脈から盆地に流れ込む河川によって扇状地が形成されこれらが山脈の西縁部にそって南北方向に配列し複合扇状地が発達している（経済企画庁，1972)。十二牲Ｂ遺跡付近では、金沢本町の市街地をほぼ扇頂とする金沢の小扇状地が形成されており、遺跡の位置はこの扇状地の扇央のやや南よりに相当する。また、この付近には大森山、鞍掛山、飯詰山などの小丘陵が分布するが、これらは新第三系中新統上部～鮮新統の堆積岩からなる残丘である。

十二牲Ｂ遺跡の発掘調査では、平安時代の遺構や遺物が検出されている。本報告では、これらに関連する試料について年代測定、テフラの同定、花粉分析および樹種同定を行うことにより、十二牲Ｂ遺跡における過去の環境および生業に関する資料を作成する。

１．試料

試料は、試料番号1～7までの7点である。各試料の内訳は次の通りである。試料番号1はSKI02覆土（4層）火山灰サンプル、試料番号2はSKI02覆土（3層）土壌サンプル、試料番号3はSKI02覆土（5層）土壌サンプル、試料番号4はSK32覆土（中心部）土壌サンプル、試料番号5はSKP14出土木材サンプル、試料番号6はSKP20出土木材サンプル、試料番号7はSKP14出土木材サンプルである。

これらの試料のうち、年代測定には試料番号5の1点、テフラ分析には試料番号1の1点、花粉分析には試料番号2～4までの3点、樹種同定には試料番号6、7の2点がそれぞれの分析に供される。なお、試料番号2～4のうち、花粉が検出されない試料については植物珪酸体分析を行う。

２．分析方法

(1)　放射性炭素年代測定（ＡＭＳ法）

年代測定は、加速器質量分析計による質量分析（ＡＭＳ）法による放射性炭素年代測定を行った。なお測定に際しては（株）地球科学研究所の協力を得た。

(2)　テフラ分析

試料を適量蒸発皿に取り水を加え、小型超音波洗浄装置により分散、泥水を流し去る。この操作を繰り返すことにより、泥分を除去する。得られた砂分を実体鏡下で観察し、スコリア、火山ガラス、軽石の産状および特徴を調べる。

なお、後述するように今回はテフラの識別のために火山ガラスの屈折率測定の概査も行った。測定は、古澤（1995）の温度変化型屈折率測定装置（ＭＡＩＯＴ）を用いた。

(3)　花粉分析

試料を湿重で約5ｇ秤量し、傾斜法、水酸化カリウム処理、篩別（250μｍ)、重液分離（臭化亜鉛，比重2.3)、フッ化水素酸処理、アセトリシス処理（無水酢酸：濃硫酸＝9：1）の順に物理・化

学的な処理を施して花粉・胞子化石を分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数を行う。

結果は同定・計数結果の一覧表および主要花粉化石群集の層位的分布図として表示する。図中の各種類の出現率は、木本花粉が木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子が総数より不明花粉を除いた数をそれぞれ基数とした百分率で算出する。なお、図表中で複数の種類をハイフォン（－）で結んだものは種類間の区別が困難なものを示す。

(4) 植物珪酸体分析

今回の調査では、SK32内に植物珪酸体を含む珪化組織が残留していることが予想された。植物珪酸体は植物体の葉や茎にあって列などの組織構造を呈している。植物体が土壌中に取り込まれた後は、ほとんどが土壌化や撹乱などの影響によって分離し単体となるが、組織片の状態で残留する場合もある。組織片の出現は、燃料材や住居構築材を検討する際に有効な情報を提供する（例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社，1993）。今回も、組織片の産状に着目する。以下に、方法を述べる。

試料を湿重で約5ｇ秤量し、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W，250KHz，1分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を含む組織片について、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。

(5) 材同定

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

3．結果

(1) 放射性炭素年代測定（ＡＭＳ法）

測定年代値は、1430±50yBPである。また、δ13Ｃの測定による補正年代値は、1370±50yBPである。この年代は、およそ6世紀末～7世紀初頭頃に相当する。

(2) テフラ分析

多量の軽石および火山ガラスが検出された。軽石は、径約1㎜程度であり粒径の淘汰度は非常に良好である。軽石の色調は全て白色であり、どれもスポンジ状に細かく発泡している。火山ガラスは、細砂～極細砂径であり、無色透明の細かく発泡した軽石型が多く、これに無色透明の薄手平板状のバブル型が少量混在する。軽石型火山ガラスの中には引き伸ばされた発泡により繊維束状を呈するものもある。後述するＴｏ-ａの火山ガラスはn1.496～1.504、Ｂ-Ｔｍの火山ガラス

はn1.511～1.522という値を示す（町田・新井，1992）。今回の試料では、屈折率測定の概査により軽石型火山ガラスとバブル型火山ガラスともに上記Ｂ-Ｔｍの値の範囲に入る屈折率のものが４割程度混在していることが確認された。

(3)　花粉分析

結果を表１・図１に示す。SKI02覆土の３層と５層から採取された２点では、花粉化石が比較的良好に検出される。SK32覆土（中心部）は、花粉化石が全く検出されず、無化石である。SKI02覆土から採取された２点から得られる花粉化石群集は類似している。木本花粉では、スギ属が最も高率に出現し、次いでマツ属・サワグルミ属－クルミ属・ブナ属・コナラ属コナラ亜属・クリ属・トチノキ属などを伴う。ただし、両試料とも総花粉・胞子に対して木本花粉の占める割合が低率である。

草本花粉の出現傾向は、５層と３層で若干異なる。５層では、ヨモギ属が多産し、イネ科・カヤツリグサ科・クワ科などを伴う。これに対して３層になると、引き続き同様な種類が検出されるが、クワ科が多産する。このクワ属は、しばしば花粉塊として検出される。この他、出現率が低いが、サジオモダカ属・オモダカ属・ミズアオイ属と水生植物に由来する花粉化石が検出される。

(4)　植物珪酸体分析

結果を表２に示す。試料からは、珪化組織片は全く認められない。なお、単体の植物珪酸体としてタケ亜科やウシクサ族（ススキ属を含む）がわずかに認められるに過ぎない。これら僅かに検出される植物珪酸体は保存状態が悪い。

(5)　材同定

SKP20出土木材はカエデ属に、SKP14出土木材はオニグルミに同定された。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・オニグルミ（Juglans mandshurica Maxim. subsp. sieboldiana（Maxim.）Kitamura）

クルミ科クルミ属

散孔材で年輪界付近でやや急に管径を減少させる。管孔は単独および2～4個が複合、横断面では楕円形、管壁は薄い。道管の穿孔は単一、壁孔は密に交互状に配列する。放射組織は同性～異性Ⅲ型、1～4細胞幅、1～40細胞高。

・カエデ属（Acer）　　カエデ科

散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および2～3個が複合、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管の穿孔は単一、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～5細胞幅、1～40細胞高。木口面で帯状の不規則な紋様が認められる。

４．考察

(1)　検出されたテフラについて

試料が採取された層位と遺跡の地理的位置から、試料から検出されたテフラは、十和田ａテフラ（Ｔｏ-ａ）または白頭山苫小牧テフラ（Ｂ-Ｔｍ）のいずれかに対比される。町田ほか（1981）

の記載に従えば、軽石を含むことと軽石型火山ガラスに富むことから、試料が採取された堆積物の主体はＴｏ-ａであると考えられる。Ｔｏ-ａは、十和田カルデラを給源とし、考古資料および文献資料などから平安時代のA.D.915年に噴出したと考えられている（町田ほか，1984）。なお、上述のように火山ガラスの中には、B-Ｔｍに由来する火山ガラスも混入している。B-Ｔｍは、中国と北朝鮮の国境にある白頭山を給源とし、Ｔｏ-ａの噴火より数十年後に噴出したと考えられている（町田・新井，1992）。

両テフラの降灰年代が近接していることとどちらのテフラも細粒であること、さらに人為の及ぶ時代と場所であったことなどから、Ｔｏ-ａ堆積物にB-Ｔｍに由来する火山ガラスが混入したと考えられる。

(2) 遺跡周辺の古環境

5層および3層の花粉化石群集は類似している。このことから、Ｔｏ-ａ降灰前後の遺跡周辺の森林植生は、Ｔｏ-ａの降灰による壊滅的な被害を受けることなく、スギを中心としてブナ属・コナラ亜属・クリ属といった落葉広葉樹や針葉樹のマツ属などが混じる植生が続いていたと考えられる。また、花粉化石で検出されるサワグルミ属－クルミ属・ハンノキ属・ニレ属－ケヤキ属・トチノキ属・トネリコ属などは、渓谷林や河畔林を構成する要素を含むことから、これらの種類が河川の周辺に生育していたと思われる。ところで、辻（1981）は、完新世後半以降になると、秋田県日本海沿岸部ではコナラ亜属－ブナ属帯、スギ属－ブナ属－コナラ亜属帯、マツ属帯の3地域花粉帯が設定できるとし、また山地部では常にブナ属が優占してスギ属やマツ属の拡大が山地深部まで及んでおらず、これらの増加・拡大が低地やその周縁地域を中心に起こったとしている。今回の調査結果は変遷様式を捉えることができないが、辻（1981）が設定した3地域花粉帯でスギ属－ブナ属－コナラ亜属帯と類似した組成を示す。しかし、今回調査地が横手盆地の縁辺部に位置し、日本海沿岸部と地理的に離れた場所であることから、必ずしも同様な植生であったと断定できず、今後とも資料を蓄積する必要がある。

一方、草本花粉の出現傾向をみると、総数に対して草本花粉の占める割合が高い。特にヨモギ属が高率に出現し、イネ科・カヤツリグサ科・クワ科などを伴う。これより、周辺の低地は、先に示した草本類が生育する開けた草地のような状態であったとみられる。なお、3層では、クワ科の花粉化石が多産するが、しばしば塊状で検出されることから、調査地の近傍にクワ科が生育していたと思われる。また、3層になると、サジオモダカ属・オモダカ属・ミズアオイ属などが検出される。これらの種類は、水生植物であることから、周辺には先に示した水生植物が生育する水湿地が存在していたと考えられる。

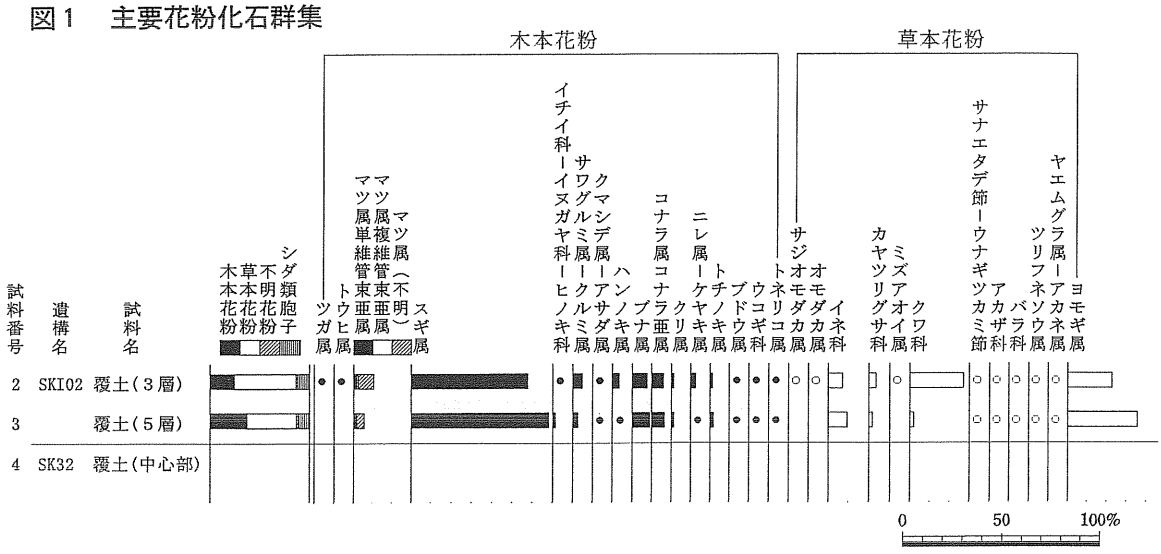
(3) SK32に関する検討

SK32覆土（中心部）からは、花粉化石が全く検出されない。これは、何らかの要因により花粉化石が分解・消失した可能性がある。一方、植物遺体の包含を示唆する珪化組織片も全く認められない。そのため、SK32内にイネ科草本類が混入していることは考えにくい。植物遺体が混入しているとすれば、樹木に由来するものと思われる。なお、わずかに検出されたタケ亜科やウシクサ族（ススキ属を含む）は保存状態が悪く、植物遺体に由来するものとは考えにくい。おそらく、周辺の土壌と共に混入したものと思われる。

表1　花粉分析結果

種　　類	試料番号	2	3	4
	遺構名	SKI02	SKI02	SK32
	試料名	覆土(3層)	覆土(5層)	覆土(中心部)
木本花粉				
ツガ属		1	-	-
トウヒ属		1	-	-
マツ属単維管束亜属		4	4	-
マツ属複維管束亜属		2	-	-
マツ属(不明)		19	9	-
スギ属		136	158	-
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科		2	3	-
サワグルミ属－クルミ属		11	6	-
クマシデ属－アサダ属		2	1	-
ハンノキ属		8	1	-
ブナ属		18	21	-
コナラ属コナラ亜属		14	15	-
クリ属		3	3	-
ニレ属－ケヤキ属		6	2	-
キハダ属		-	2	-
カエデ属		1	-	-
トチノキ属		3	4	-
ブドウ属		2	2	-
ノブドウ属		2	-	-
ウコギ科		1	1	-
トネリコ属		1	1	-
草本花粉				
サジオモダカ属		3	-	-
オモダカ属		1	-	-
イネ科		67	57	-
カヤツリグサ科		31	10	-
ミズアオイ属		2	-	-
クワ科		263	12	-
サナエタデ節－ウナギツカミ節		9	4	-
アカザ科		2	2	-
ナデシコ科		3	-	-
キンポウゲ科		1	-	-
アブラナ科		2	-	-
バラ科		3	3	-
マメ科		-	1	-
ツリフネソウ属		4	3	-
セリ科		-	1	-
ヤエムグラ属－アカネ属		1	2	-
ヨモギ属		223	222	-
キク亜科		-	1	-
タンポポ亜科		-	1	-
不明花粉		14	10	-
シダ類胞子				
シダ類胞子		121	74	-
合　　計				
木本花粉		237	233	0
草本花粉		615	319	0
不明花粉		14	10	0
シダ類胞子		121	74	0
総　　計(不明を除く)		973	626	0

図1　主要花粉化石群集



出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、○●は1％未満の試料について検出した種類を示す。

表2　植物珪酸体分析結果

種　　類	試料番号	4
	遺構名	SK32
	試料名	覆土（中心部）
イネ科葉部短細胞珪酸体		
タケ亜科		1
ウシクサ族ススキ属		1
不明キビ型		1
不明ダンチク型		1
イネ科葉身機動細胞珪酸体		
タケ亜科		5
不明		1
合　　計		
イネ科葉部短細胞珪酸体		4
イネ科葉身機動細胞珪酸体		6
総　　計		10

引用文献

1．古澤　明「火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別」『地質学雑誌』101　P.123-133　1995(平成7)年

2．経済企画庁総合開発局『土地分類図05　秋田県』1972(昭和47)年

3．近藤錬三・佐瀬　隆「植物珪酸体分析，その特性と応用」『第四紀研究』25　P.31-64　1986(昭和61)年

4．町田　洋・新井房夫『火山灰アトラス』P.276　東京大学出版会　1992(平成4)年

5．町田　洋・新井房夫・森脇　広「日本海を渡ってきたテフラ」『科学』51　P.562-569　1981(昭和56)年

6．町田　洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦「テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－」渡辺直経編『古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』P.865-928　1984(昭和59)年

7．パリノ・サーヴェイ株式会社「自然科学分析からみた人々の生活(1)」慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室編『湘南藤沢キャンパス内遺跡』第1巻　総論　慶應義塾　P.347-370　1993(平成5)年

8．辻　誠一郎「秋田県の低地における完新世後半の花粉群集」『東北地理』33　P.81-88　1981(昭和56)年

第6章　まとめ

十二牲B遺跡の調査では、平安時代（9～10世紀）を中心に多様な遺物（主に須恵器・土師器・木製品）が出土したものの、遺構の検出数が少なく、遺跡の性格を明確に捉えることができなかった。本遺跡の調査結果から得られた成果と課題について述べてみたい。

遺跡の核心部と思われる区域の中心的な位置に掘立柱建物跡1棟（SB45）と土師器焼成遺構1基（SJ18）及び轆轤穴様ピット1基（SK32）が、覆土や出土遺物の特徴からほぼ同時期に存在していたと考えられる。本遺跡の近傍では、須恵器窯跡数基の分布が既に確認されており、このことから類推して上記3遺構は、この地にあって土器生産に携わっていた工人たちの施設として機能していたものと考える。

土師器焼成遺構（SJ18）についての考察を列記してその特徴を検証すると、①焼土の色が淡くやや脆いが、被熱痕跡の証となる焼土の分布が底面のほぼ全体に確認できる。②焼土の色調が被熱度合いの弱さあるいは頻度の低さを示している。③平面形が円形を基調とし、直線的な面を形成していない。④土坑の掘り込みが浅く、底面が比較的広い。⑤規模が小型の部類に属する。⑥土坑底面付近に主燃料である薪を並べて土器を焼成したと思われる炭化物の集中分布が見られる。⑦焼成時の膨潤作用によって発生した変形土器や土師器の破裂小剥片等の焼成遺物が出土している。⑧遺構の廃絶後あまり長い時間を経ないで堆積したと思われる火山灰（To－a）の検出によって、推定廃絶期が10世紀初頭である。⑨轆轤土師器が多数出土している。⑩出土した土師器の器種や器形が、一般的に土師器焼成坑で生産されていたものと一致する。

以上のことから、SJ18は窯跡研究会編『古代の土師器生産と焼成遺構』で分類するB類焼成坑Ⅱ類のタイプに属する土師器焼成坑であると考える。

また、現在のところ東北地方において出土例がない突帯付須恵器壺については、出土例が豊富で研究も進んでいる長野県の報告例と比較してみると次のようなことが判明した。①長野県内の出土例に、胴部上半部に1条の断面台形の「突帯」が付けられ、退化したような把手状の「耳」が4ヵ所に対称的に付けられているが、本遺跡出土の壺は「耳」を持たず、肩部に2条の平行に巡る「突帯」が付けられている。（長野では非常に稀である。）②本遺跡出土の壺には、長野県内の出土例では非常に稀な「高台」が付けられており、胴部にタタキが施されていない点も長野県内出土例とは異なる特徴である。

以上のことから、本遺跡で出土した突帯付須恵器壺は、長野県で特有の突帯付四耳壺とは別系統の可能性があり、この遺物の生産・伝播及び主たる用途等についての検証は、今後の重要な検討課題としたい。

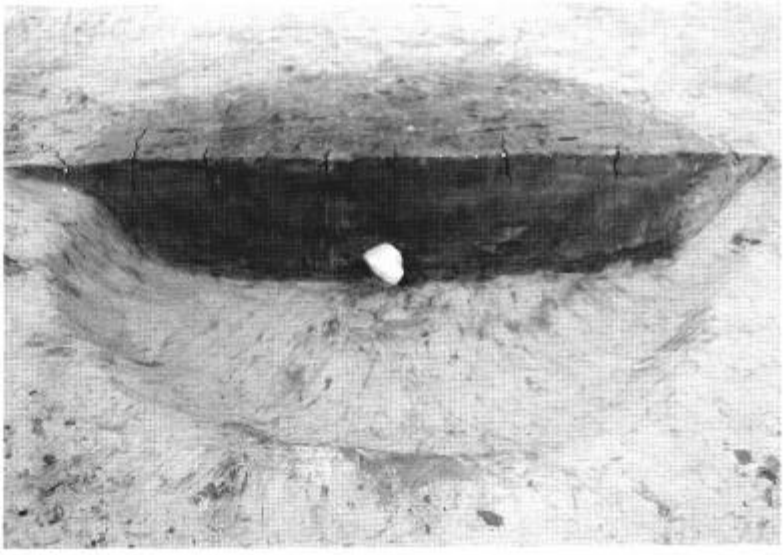
1．遺跡遠景
（金沢公園から眺望）

2．作業風景（南東から）
SD03 掘り下げ

3．作業風景（南東から）
SJ18 掘り下げ

図版2

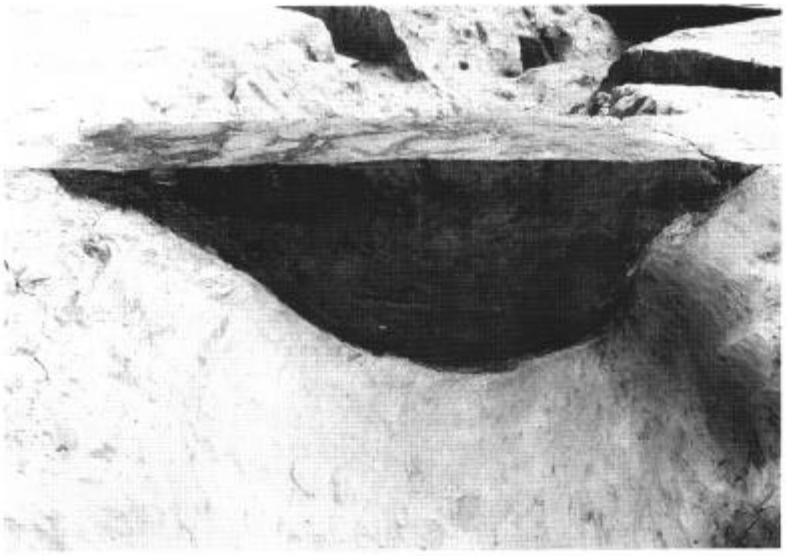
1．基本土層 E－F（北東から）



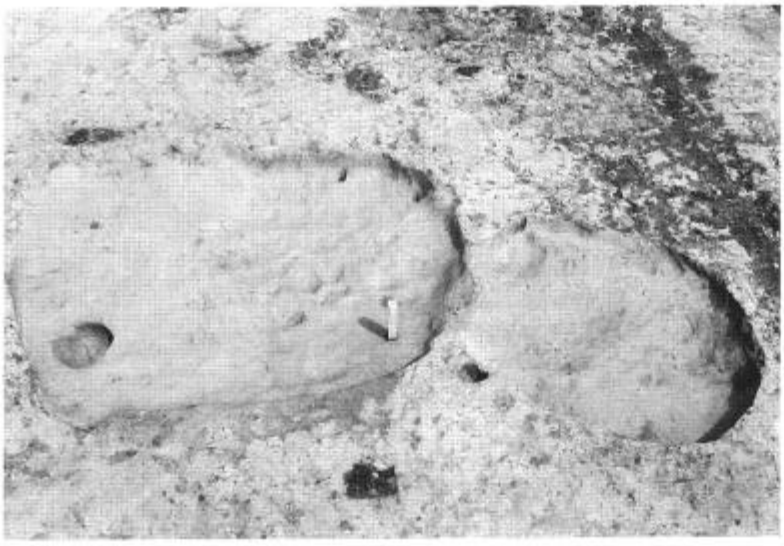
2．SK01 土層断面（南西から）

3．SKI02 土層断面（北東から）

1．SD03 完掘状態（北西から）



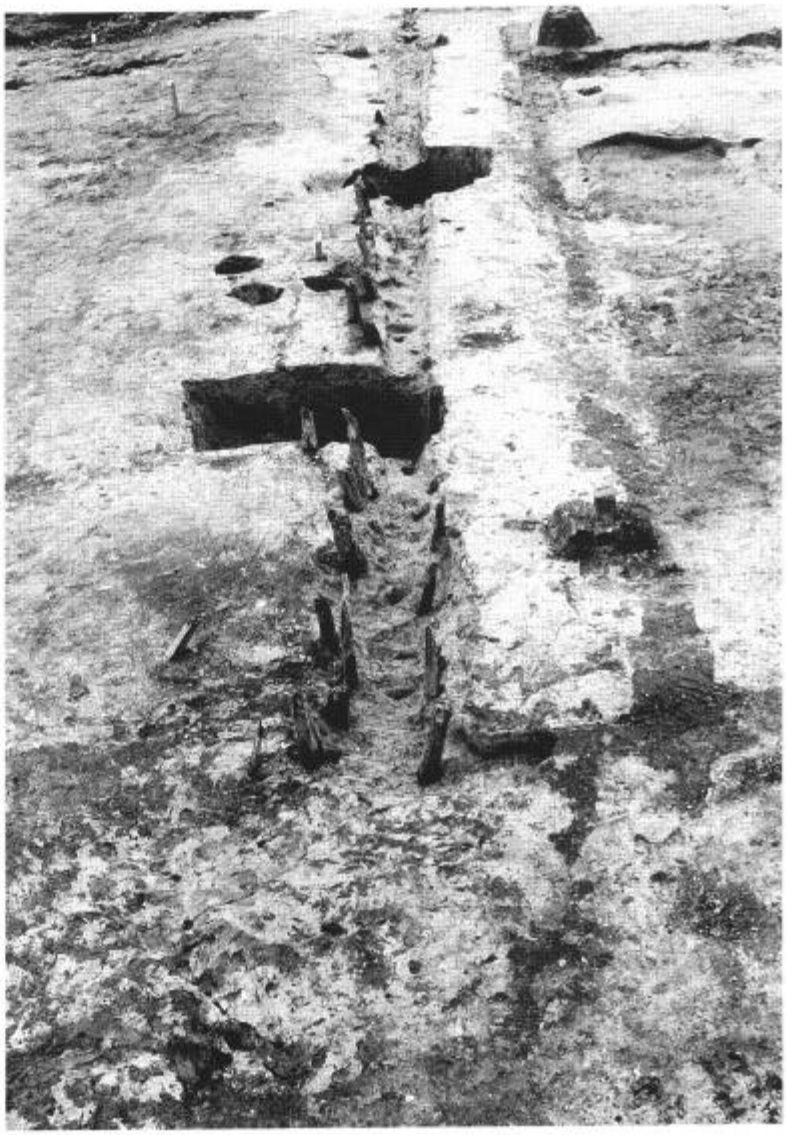
2．SD07 土層断面（西から）



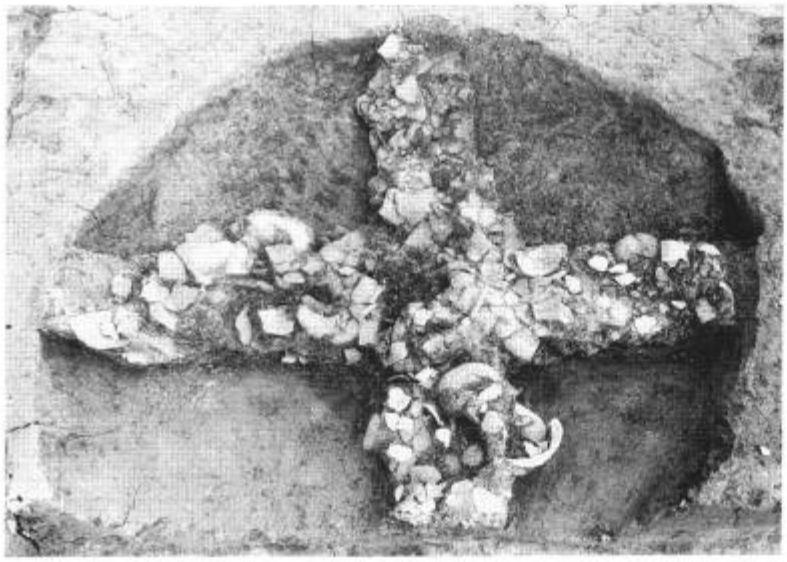
3．SKI09・SK10 完掘状態（西から）

図版4

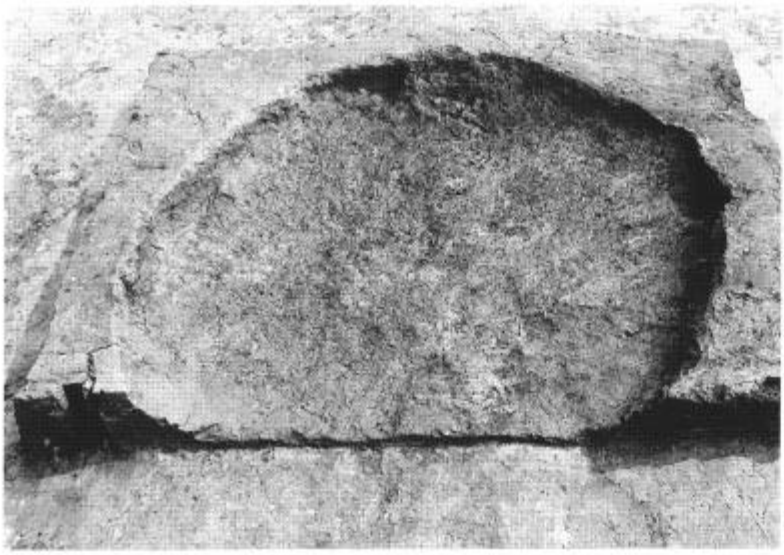
1．SX15 木材出土状況（南東から）



2．SD17 完掘状態（南から）

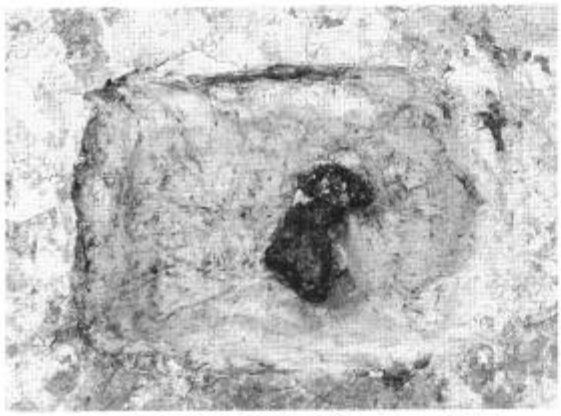


1．SJ18 遺物出土状況（西から）

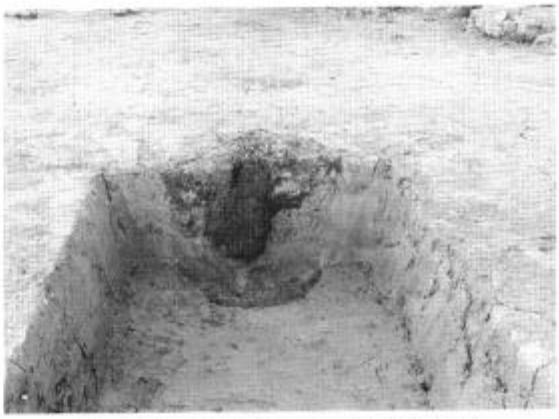


2．SJ18 完掘状態（西から）

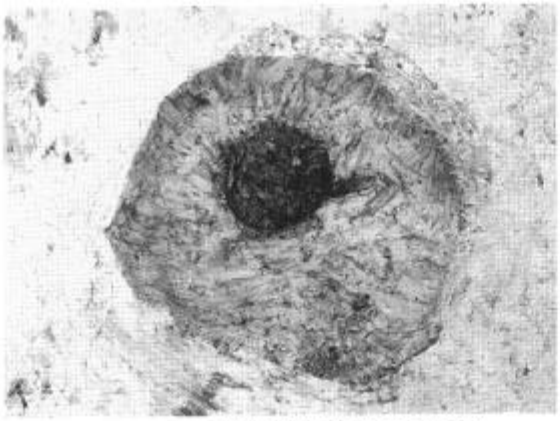
3．SK32 半截状況（南から）



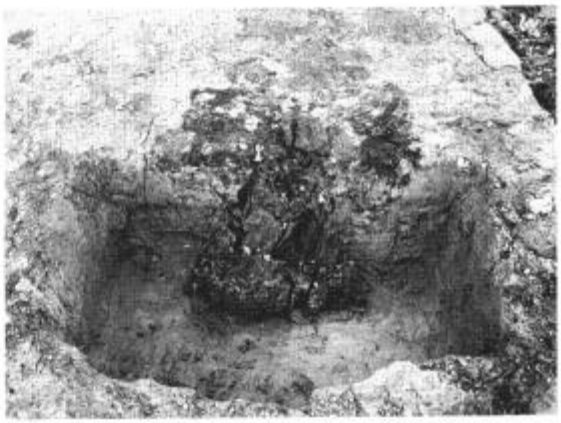
1．SB45P1 柱材出土状況（南東から）



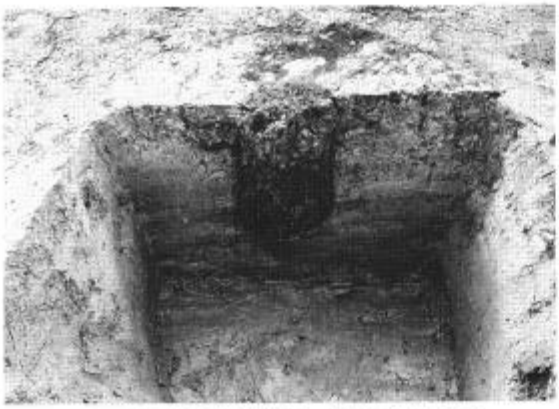
2．SB45P2 柱材出土状況（南から）



3．SB45P3 柱材出土状況（南から）



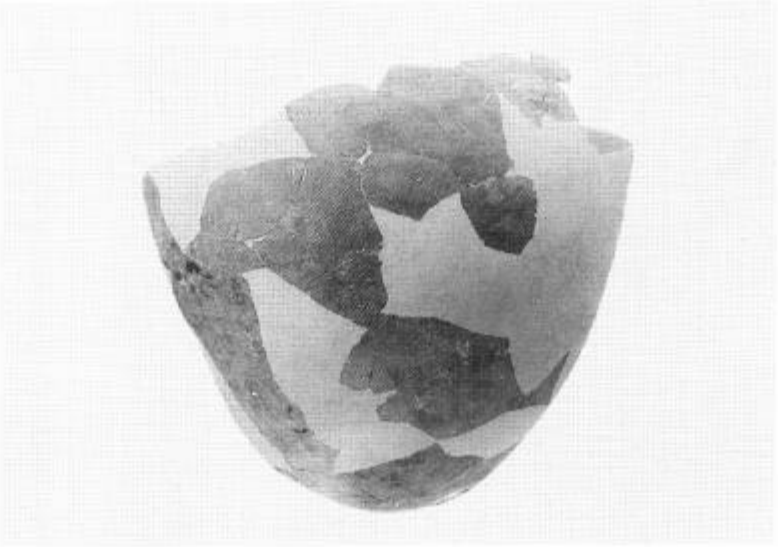
4．SB45P4 柱材出土状況（南西から）



5．SB45P5 柱材出土状況（南から）

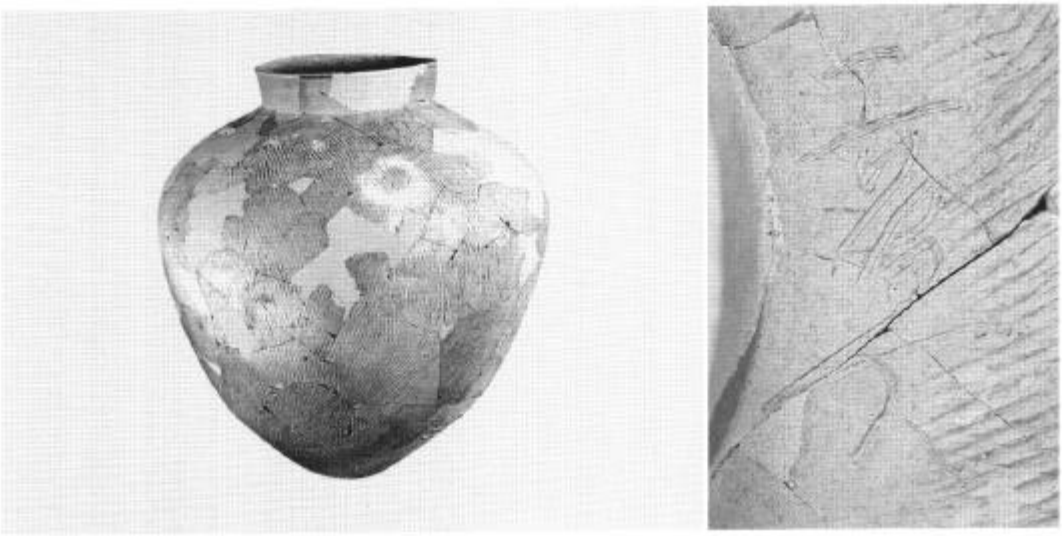
6．須恵器出土状況（SB45 付近、真上から）

1

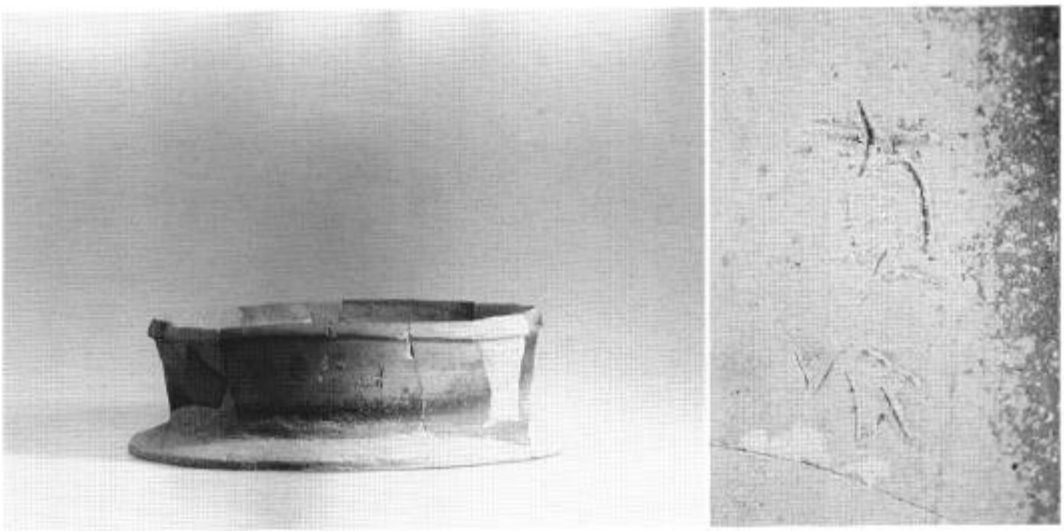


2

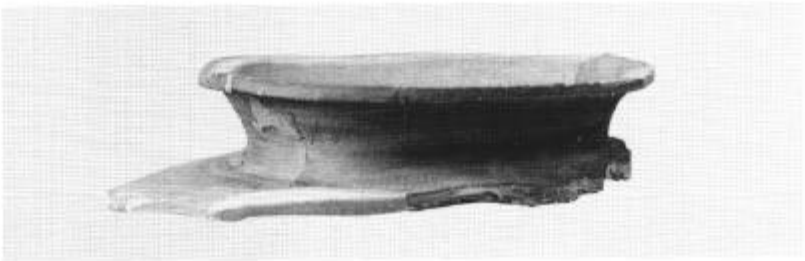
3



1．須恵器甕と肩部刻書拡大



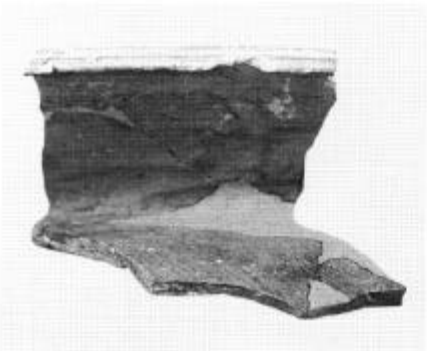
2．須恵器甕（口頸部）と頸部刻書「真公」拡大



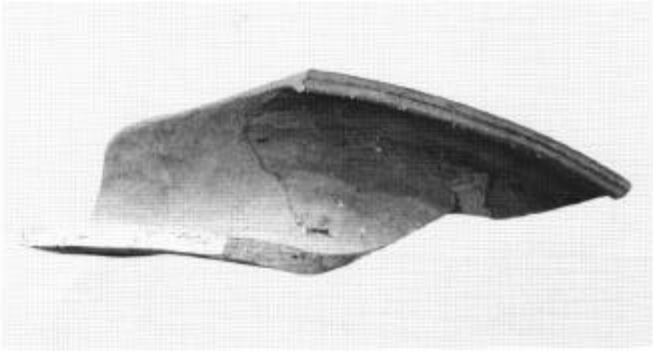
3．須恵器甕（口頸部）の頸部に波状文

1．須恵器坏と外底面の墨書「寺」

2．須恵器坏と外底面の墨書「小」



3．須恵器甕（口頸部）の頸部に波状文



4．須恵器甕（口頸部）の頸部に波状文

図版10

1

2

3

1

2

3

4

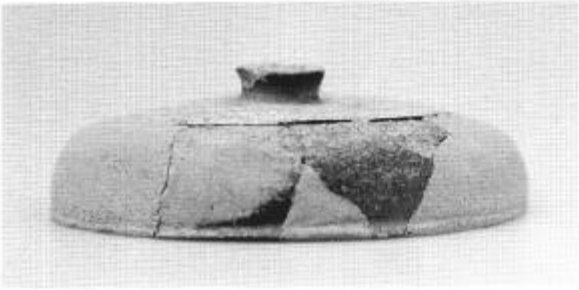
5

6

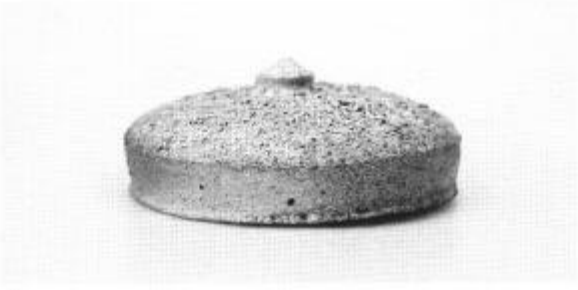
7

8

図版12



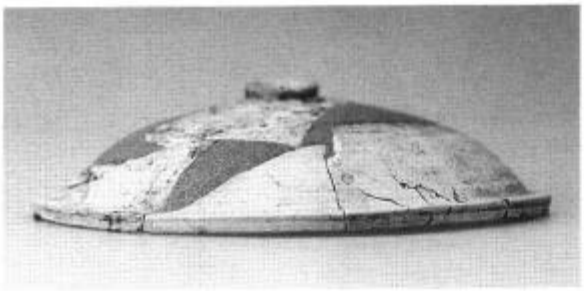
1



2

3

4

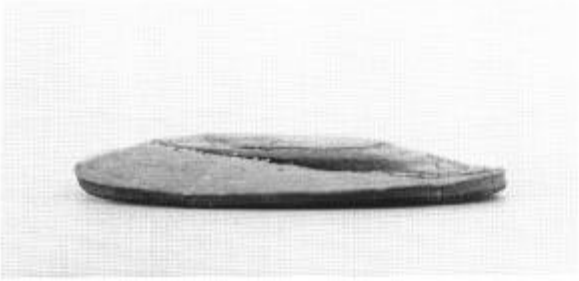


5

6

7

8



9

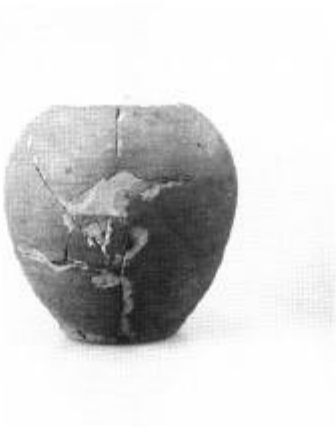
10

1

2

3

4



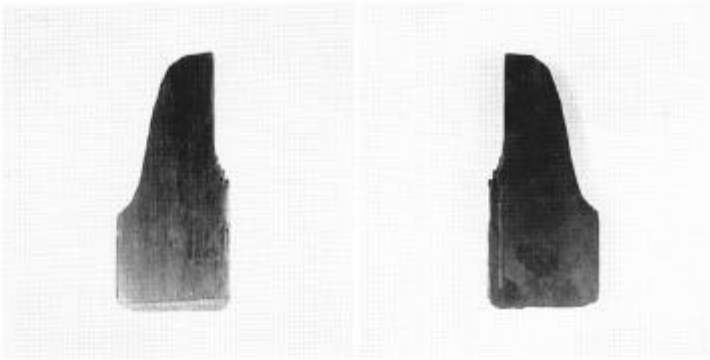
5

6

7

8

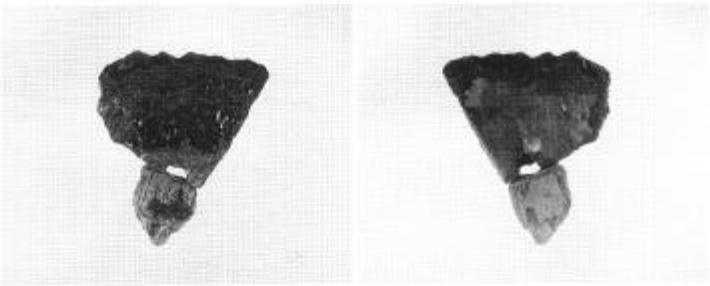
9



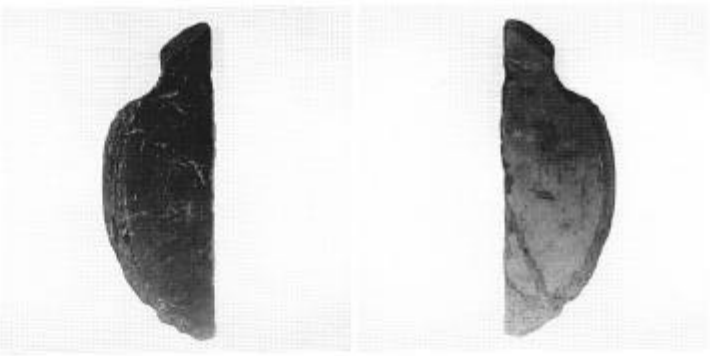
1．漆器　黒（左）・朱（右）

2．漆器　黒（左）・朱（右）

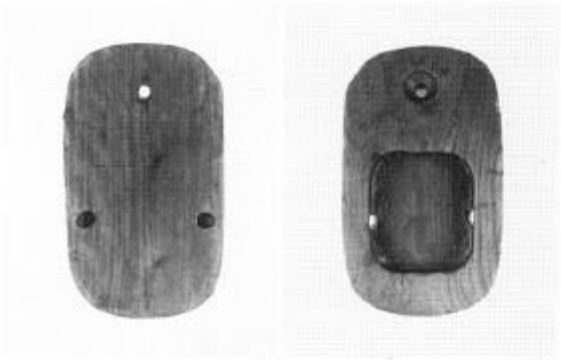
3．漆器　黒（左）・朱（右）



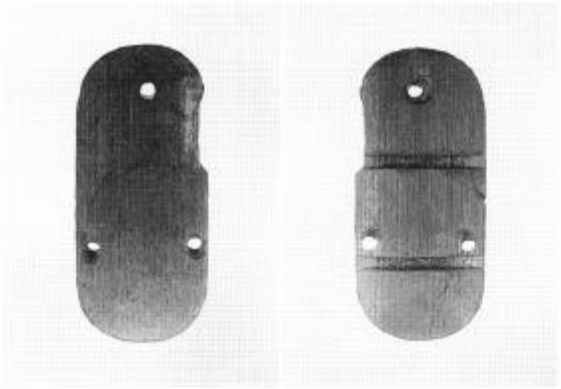
4．漆器　黒（左）・朱（右）



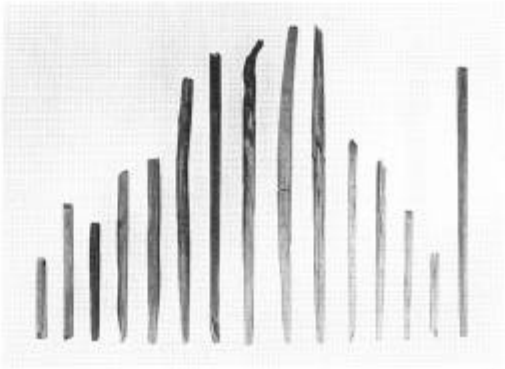
5．漆器　黒（左）・朱（右）



1－表　1－裏

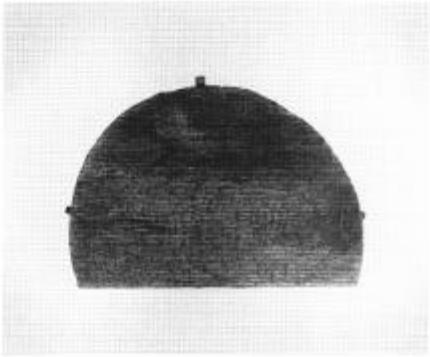


2－表　2－裏

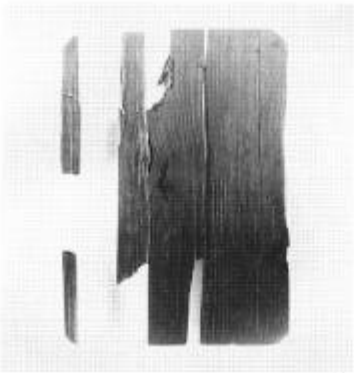


3

4



5

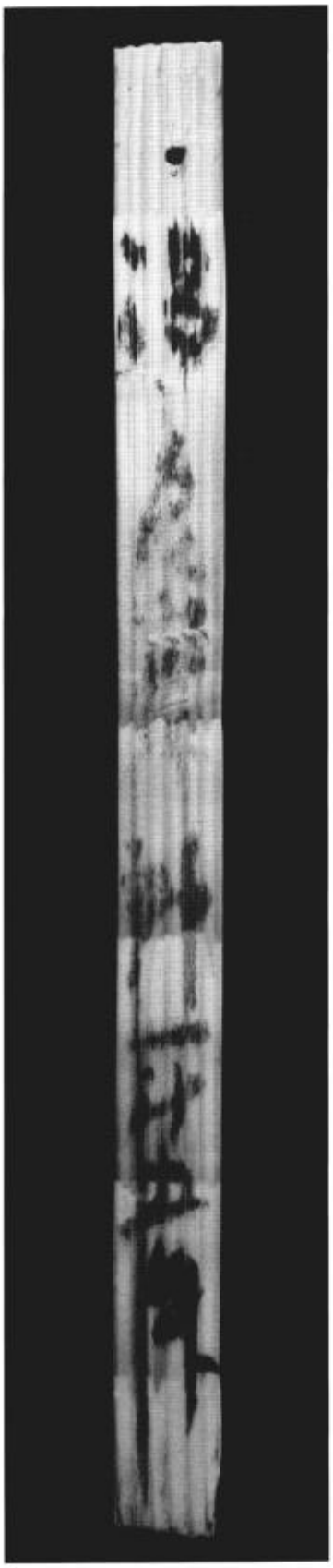


6

7

8

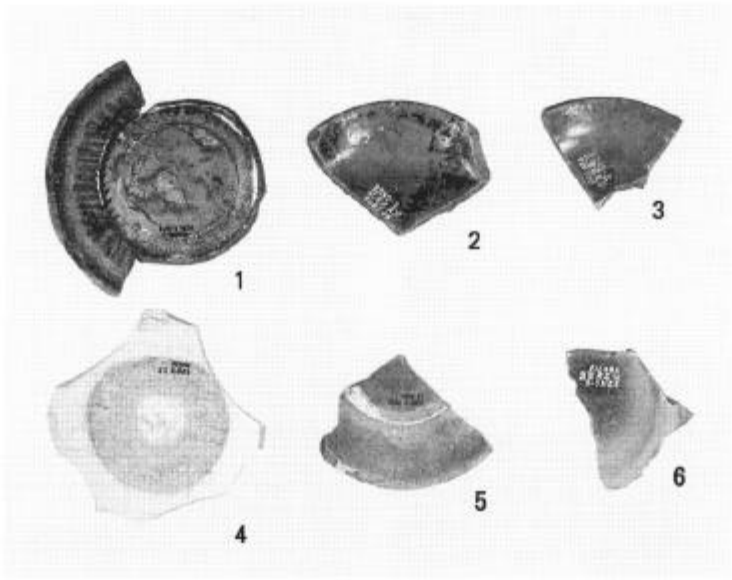
図版16

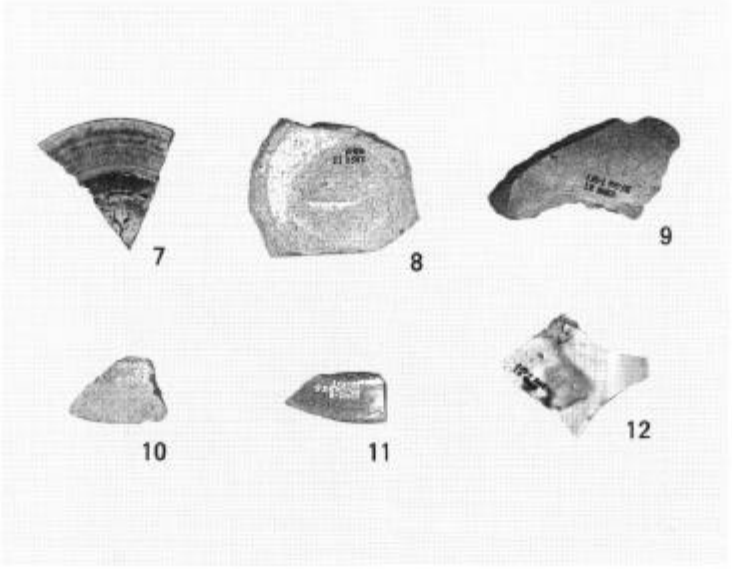


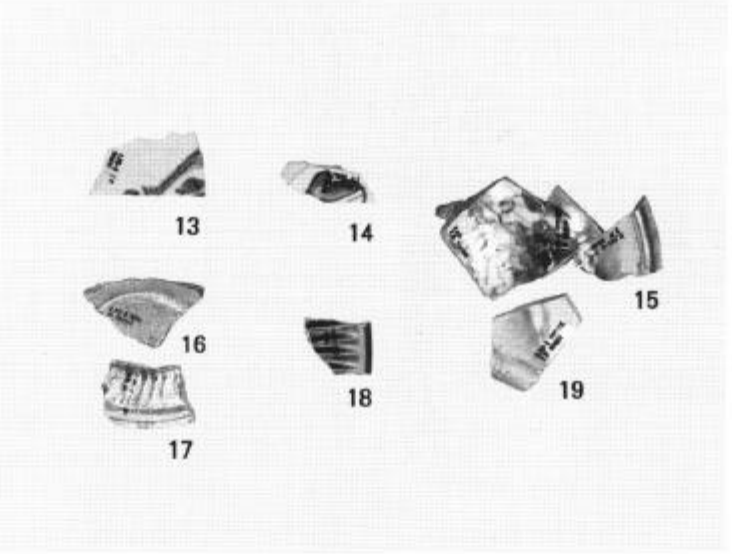
1．木簡（赤外線写真）

「□□山□□一斗五升」

225×19×8　○一一


1
2
3
4
5
6


7
8
9
10
11
12

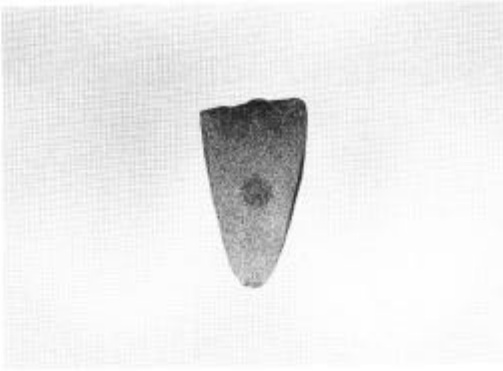

13
14
15
16
17
18
19

図版18

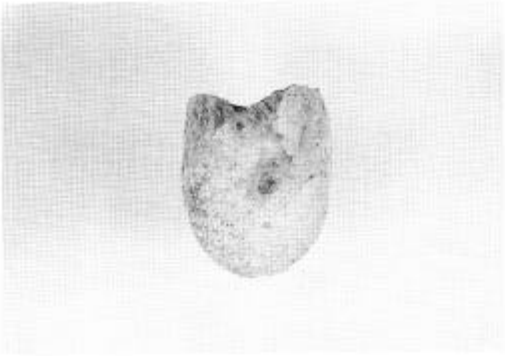
1

2

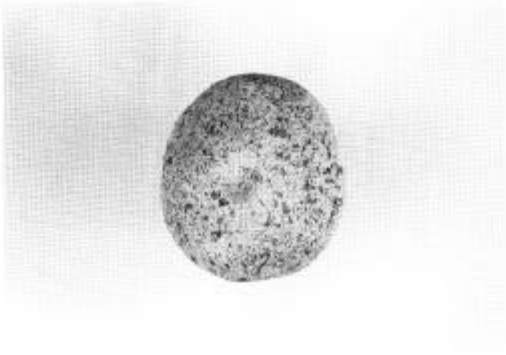
3



4

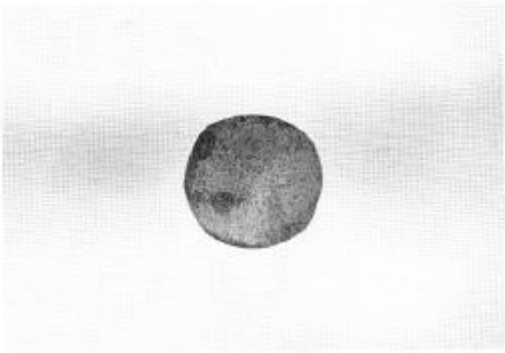


5



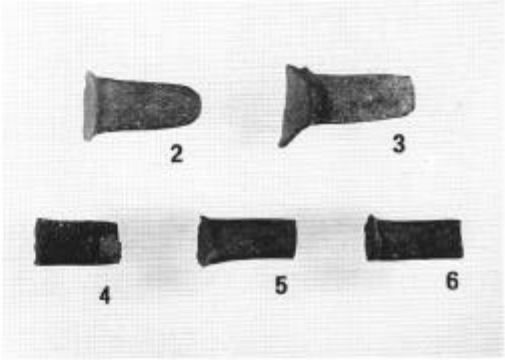
6

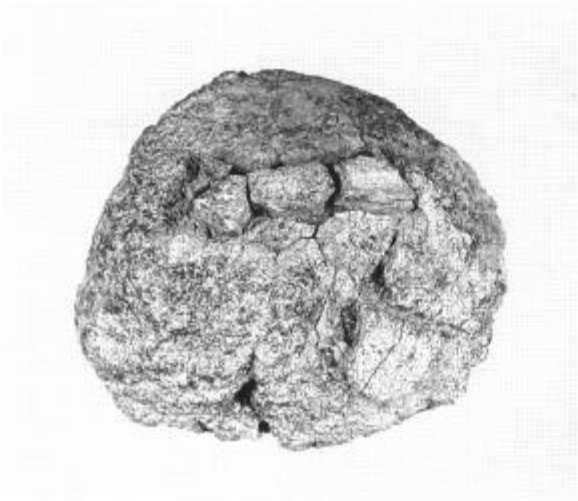
7



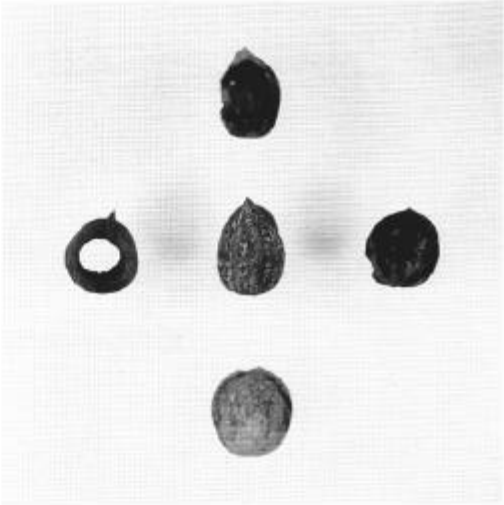
8

1

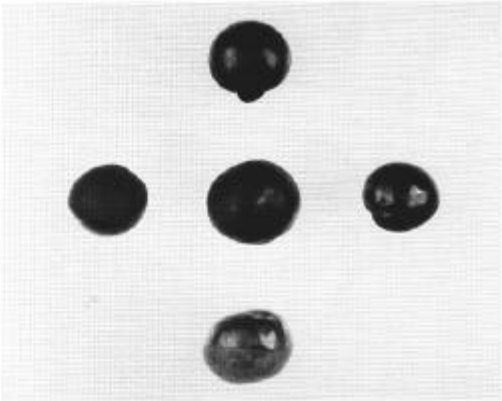




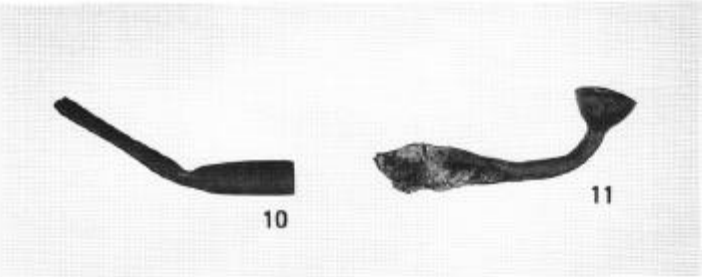
7

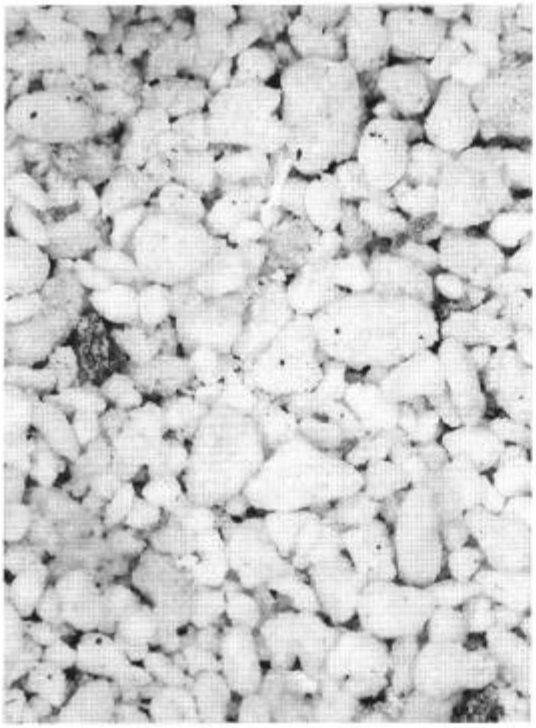


8



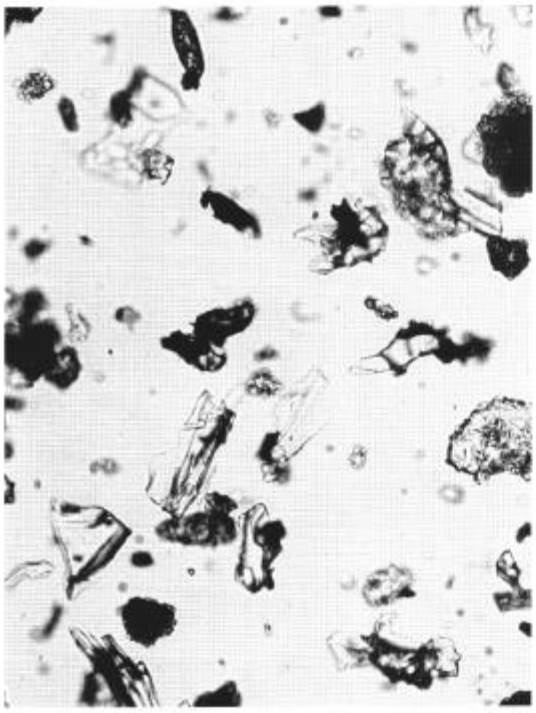
9





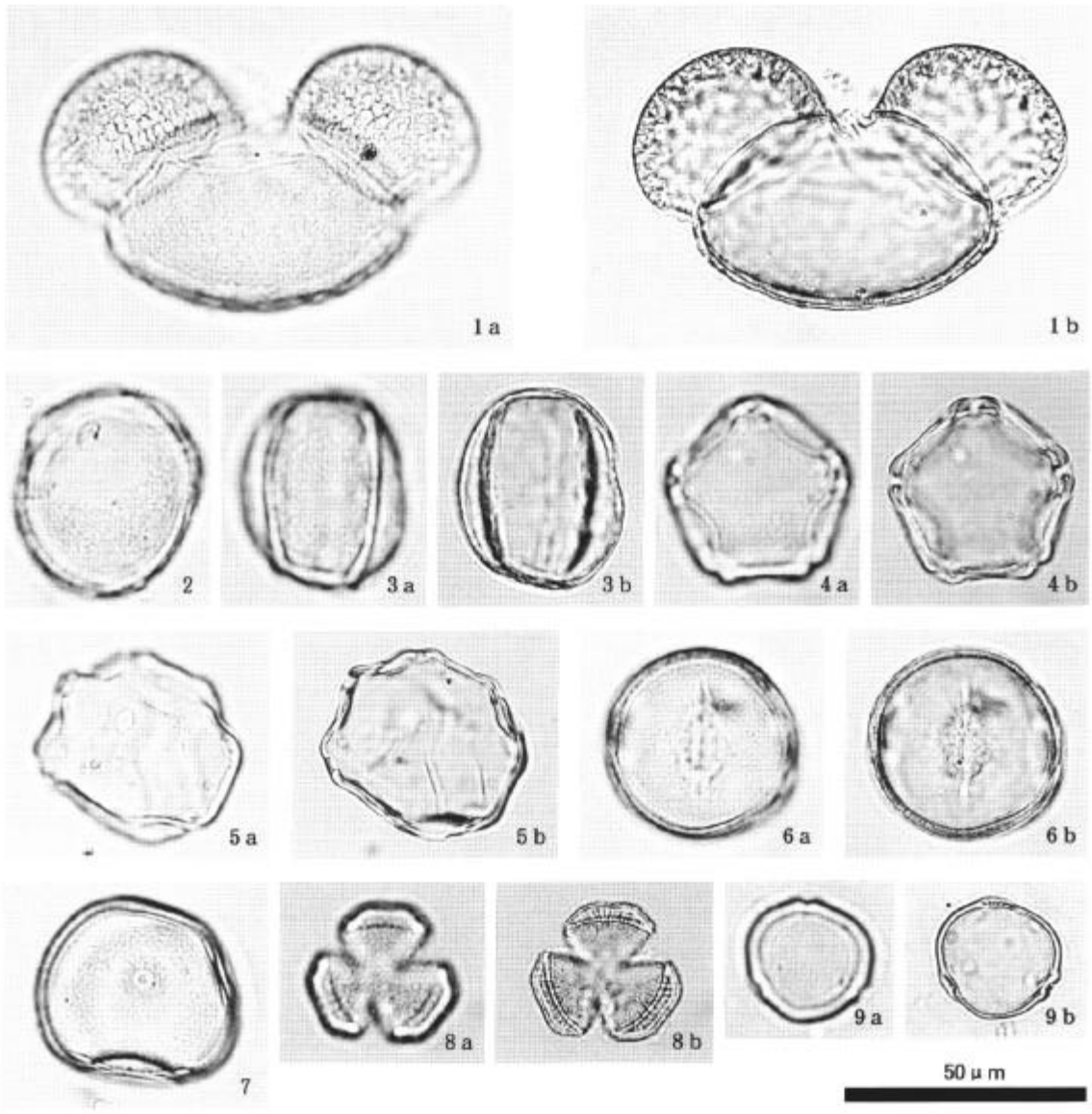
1．To-a の軽石　0.5mm

2．To-a の火山ガラス(B-Tmも混在)　0.5mm



3．植物珪酸体プレパラート状況
（SK32 覆土中心部）　50μm

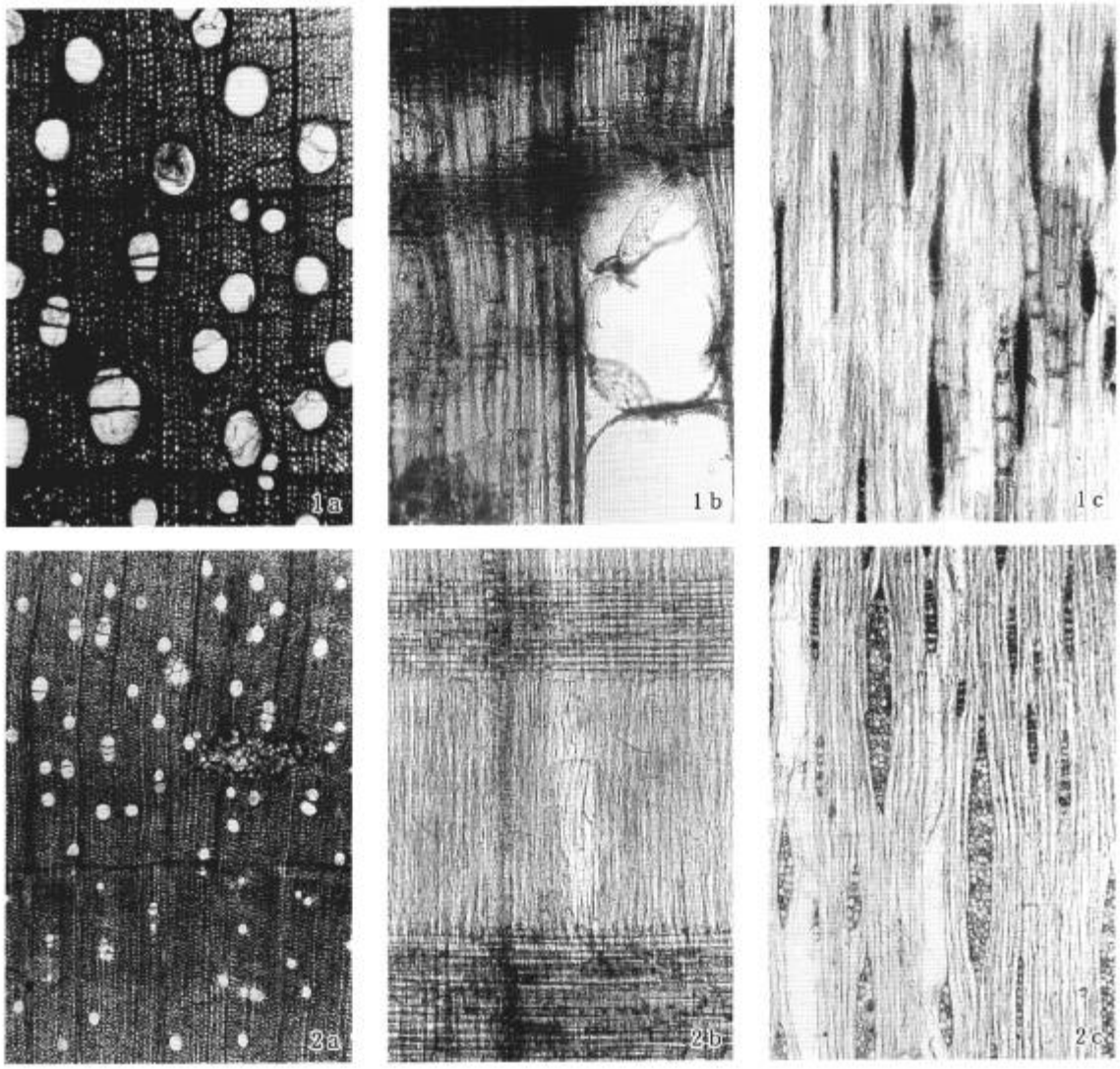
テフラ（1, 2）・植物珪酸体（3）



1．マツ属（3;SKI02 覆土：5 層）
2．スギ属（3;SKI02 覆土：5 層）
3．ケナラ属コナラ亜属（3;SKI02 覆土：5 層）
4．ハンノキ属（3;SKI02 覆土：5 層）
5．クルミ属（3;SKI02 覆土：5 層）
6．ブナ属（3;SKI02 覆土：5 層）
7．イネ科（3;SKI02 覆土：5 層）
8．ヨモギ属（3;SKI02 覆土：5 層）
9．クワ科（3;SKI02 覆土：5 層）

花粉化石

図版22



1．オニグルミ（試料番号7）
2．カエデ属（試料番号6）
　a：木口、b：柾目、c：板目

200μm：a
200μm：b, c

木材断面

報告書抄録

ふりがな	じゅうにしょうBいせき
書名	十二牲B遺跡
副書名	県営ほ場整備事業（金沢地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第304集
編著者名	小林芳行　照井洋子　山中　徹　佐々木政任
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014－0802　秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20　TEL0187－69－3331
発行年月日	西暦2000年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
十二牲B遺跡 （じゅうにしょう いせき）	秋田県横手市 （あきたけんよこてし） 金沢中野 （かねざわなかの） 字十二牲1 （あざじゅうにしょう） 外 （ほか）	05203	3－6	39° 22′ 15″	140° 33′ 26″	19980526 ～ 19981006	7,580 ㎡	県営ほ場整備事業(金沢地区)に係る事前発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
十二牲B遺跡	生産遺跡 遺物包含地	平安時代 中世 近世	土師器焼成遺構　1基 轆轤穴様ピット　1基 掘立柱建物跡　1棟 柱列　1条 柱穴様ピット　13基 竪穴状遺構　2基 溝跡　4条 土坑　4基 河道跡　1本 性格不明遺構　1基	土師器・須恵器 木製品・木簡 植物遺存体 陶磁器・銭貨 木製品・石製品	東北地方ではまだ出土例が報告されていない突帯付須恵器短頸壺が出土。長野県で突帯付須恵器四耳壺の出土例が豊富であるが、器形的に相違点が少なからず認められ、直結しない。本県及び近隣各県の今後の出土例にそのルーツ解明を期待する。

あ と が き

発掘調査の準備から実際の調査、そして報告書の作成から刊行に至るまで、実に多くの方々からご協力とご指導を賜り、また、支えていただきました。その全ての方々に厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

最後になりましたが、発掘調査及び整理作業に携わり、ご尽力くださいました皆様に、お名前を記して深甚なる感謝の意を表します。（五十音順、敬称略）

（調査参加者）石塚　タエ　石塚ユリ子　泉谷　智子　伊藤　カヨ　伊藤トキ子　伊藤　リツ
小田島悦子　木村チサ子　熊谷ミサ子　久米　セイ　佐藤　文子　高橋イチ子
高橋　成子　高橋　照子　高橋　　憲　照井　栄子　照井　誠子　富田　睦子
外山　優子　中川原サツ　中村　葉子　半田　ミネ　藤井キヨ子　藤井　　律
藤田恵利子　三浦　誠子　村田　恭子　山口ミヨノ　山田ユキ子　伊藤　彰悦
伊藤　正人　大御堂高雄　鎌田　辰雄　久米　誠晃　佐々木俊一　佐藤　勇孝
東海林　進　高橋　慶光　高橋　理一　竹原　竜一　谷川　満郎　照井　幸一
中川原光蔵　萩原昭治郎　半田　　新　三浦　順一　森本　　功　山口　繁治
（整理参加者）伊藤百合子　樫尾智恵子　木元　俊子　佐々木多恵子　清水川千春　高橋ノブ子
高橋　文子　高橋八重子　竹村　和子　戸沢　明花　中島　広美　藤田　睦子
本間美紀子　森川　宏美

秋田県文化財調査報告書第304集

十二牲B遺跡

―県営ほ場整備事業（金沢地区）に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書―

印刷・発行　平成12年3月
編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802　仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地
電話 0187(69)3331 FAX 0187(69)3330
発　　行　秋田県教育委員会
〒010-0850　秋田市山王三丁目1番1号
電話 018(860)3193
印　　刷　株式会社三戸印刷所